松山市文化財調査報告書155

# 南久米沖台B遺跡
# 鷹子新畑遺跡
# 中ノ子Ⅰ遺跡
# 下苅屋遺跡

国庫補助市内遺跡発掘調査報告書

2012

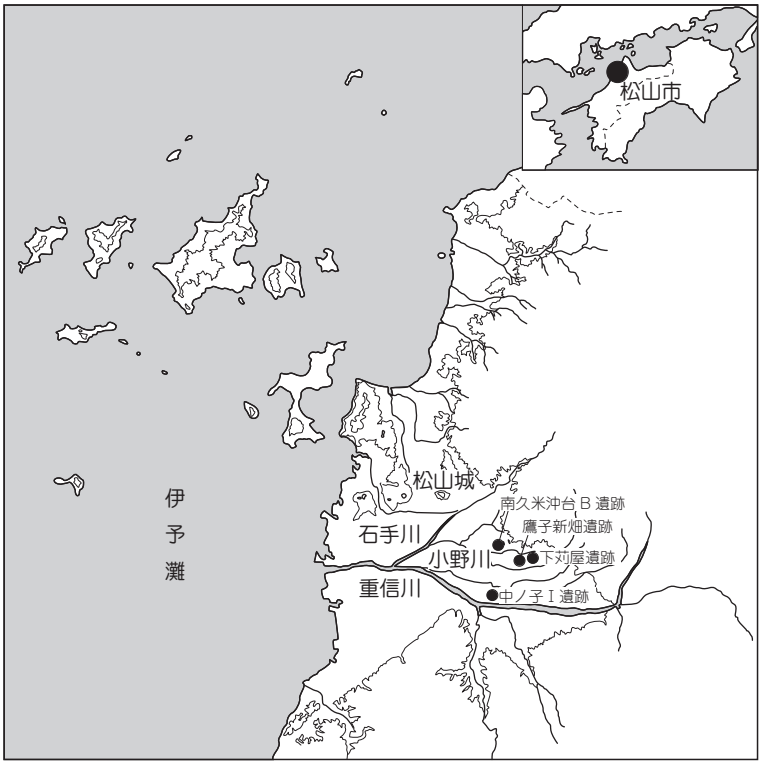
松山市教育委員会

財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

埋蔵文化財センター

# 南久米沖台Ｂ遺跡（みなみくめおきだい）
# 鷹子新畑遺跡（たかのこしんばた）
# 中ノ子Ⅰ遺跡（なかのこ）
# 下苅屋遺跡（しもかりや）

国庫補助市内遺跡発掘調査報告書




２０１２

松山市教育委員会

財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

埋蔵文化財センター

# 序　言

本書は、松山市東部の来住・久米地区と平井地区で平成元年と同７年に実施した個人住宅建設に伴う国庫補助事業による発掘調査報告書です。

２地区とも全国的に知られている重要な遺跡が存在する地域で、来住・久米地区には国史跡「久米官衙遺跡群　久米官衙跡　来住廃寺跡」、平井地区には平成23年に国史跡に指定された「葉佐池古墳」があります。

今回報告します来住・久米地区にある南久米沖台Ｂ遺跡では、古代の建物跡が検出され、久米官衙遺跡群の北方地域の集落構造を解明する貴重な資料を得ることができました。また、平井地区にある下苅屋遺跡では、古墳時代後期の竪穴建物を９棟検出し、焼け歪んだ土器が多数出土したことから、窯業生産地の中継地点と推定されるなど、新しい知見を得ることができました。

このような成果を上げることができましたのは、関係各位の埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力の賜物と心より感謝申しあげる次第です。

本書が、松山市民をはじめ多くの方々の埋蔵文化財保護意識の向上と埋蔵文化財調査の一助となり、考古学研究等にご活用いただければ幸いに存じます。

平成24年３月

松山市教育長
山内　泰

# 例　　言

1．本書は、松山市教育委員会が平成元年と平成７年に松山市南久米町、鷹子町、南土居町、平井町内で実施した４遺跡についての発掘調査報告書である。

2．整理作業及び報告書作成作業は､財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター(埋文センター）が松山市教育委員会から委託を受けて行った。

3．遺構の略号は、竪穴建物：ＳＢ、土坑：ＳＫ、溝：ＳＤ、柱穴：ＳＰ、性格不明遺構：ＳＸ、掘立柱建物：掘立とし、遺跡ごとに通し番号を１から付記した。

4．遺構の測量は、調査担当者の指示のもと補助員、作業員が実施した。

5．遺物の実測及び掲載図の製図は、髙尾和長、河野史知、宮内慎一の指示のもと、田﨑真理、矢野久子、多知川富美子、仙波千秋、猪野美喜子が行った。

6．掲載の遺構図、遺物図は、スケール下に縮尺を表記した。

7．掲載の遺構図の北は磁北を示す。

8．写真図版は、遺構撮影は調査担当者が、遺物の撮影は大西朋子が担当し、図版作成は髙尾と協議のうえ大西朋子が行った。

9．本報告書に関する資料は、松山市立埋蔵文化財センターが保管・収蔵している。

10．本書の執筆、編集は髙尾和長が行った。

11．報告書抄録は巻末に掲載している。

# 目　　次


**第Ⅰ章　はじめに …… 1**

第１節　調査に至る経緯

第２節　調査・刊行組織

第３節　立地・環境

**第Ⅱ章　南久米沖台Ｂ遺跡 …… 7**

第１節　調査の経過

第２節　層位

第３節　遺構と遺物　（１）古代　（２）近現代（３）その他の遺構と遺物

第４節　小結

**第Ⅲ章　鷹子新畑遺跡……21**

第１節　調査の経過

第２節　層位

第３節　遺構と遺物（１）古墳時代　（２）地点不明出土遺物

第４節　小結

**第Ⅳ章　中ノ子Ⅰ遺跡……35**

第１節　調査の経過

第２節　層位

第３節　遺構と遺物（１）弥生時代（２）古墳時代（３）近世

（４）時期不明遺構と遺物

第４節　小結

**第Ⅴ章　下苅屋遺跡……55**

第１節　調査の経過

第２節　層位

第３節　遺構と遺物（１）古墳時代　（２）その他の遺構と遺物

第４節　小結

**第Ⅵ章　成果と課題 ……111**

# 挿　図　目　次

**第Ⅰ章　はじめに**

第 1 図　調査地周辺遺跡分布図（縮尺 1/25,000）……5

**第Ⅱ章　南久米沖台Ｂ遺跡**

第 2 図　周辺調査地位置図（縮尺 1/2,000）……10
第 3 図　調査地位置図（縮尺 1/1,000）……11
第 4 図　遺構配置図・北壁・南壁土層図（縮尺 1/100）……12
第 5 図　掘立１測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/40）……14
第 6 図　ＳＤ４測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/40）……15
第 7 図　ＳＤ１・ＳＤ２・ＳＤ３・ＳＸ２測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/2、1/3、1/40）……16
第 8 図　ＳＸ１測量図（縮尺 1/40）……16
第 9 図　ＳＰ出土遺物・地点不明出土遺物実測図（縮尺 1/3）……18

**第Ⅲ章　鷹子新畑遺跡**

第 10 図　調査地位置図（縮尺 1/1,000）……23
第 11 図　周辺調査地位置図（縮尺１/4,000）……24
第 12 図　遺構配置図・土層図（縮尺 1/80）……26
第 13 図　ＳＢ１測量図（縮尺 1/40）……27
第 14 図　ＳＢ１出土遺物実測図（縮尺 1/3）……28
第 15 図　ＳＤ１・ＳＤ２測量図（縮尺 1/40）……29
第 16 図　ＳＤ３測量図（縮尺 1/40）……30
第 17 図　ＳＰ１・ＳＰ２測量図・ＳＰ１出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/40）……30
第 18 図　地点不明出土遺物実測図（縮尺 1/2、1/3、1/4）……31

**第Ⅳ章　中ノ子Ⅰ遺跡**

第 19 図　周辺調査地位置図（縮尺 1/4,000）……38
第 20 図　遺構配置図（縮尺 1/120）……39
第 21 図　北壁土層図（縮尺 1/40）……40
第 22 図　ＳＢ１測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/4、1/40）……41
第 23 図　ＳＫ１・ＳＫ２・ＳＫ３測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/4、1/20）……42
第 24 図　掘立１測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/4、1/80）……44
第 25 図　掘立２測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/80）……44
第 26 図　掘立３測量図（縮尺 1/80）……45
第 27 図　掘立４測量図（縮尺 1/80）……46
第 28 図　ＳＤ７出土遺物実測図（縮尺１/3、1/4）……46
第 29 図　ＳＤ７測量図（縮尺 1/80）……47

第 30 図　ＳＤ１測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/4、1/80）……48
第 31 図　ＳＤ２測量図（縮尺 1/80）……49
第 32 図　ＳＤ３測量図（縮尺 1/80）……49
第 33 図　ＳＤ４測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/4、1/80）……50
第 34 図　ＳＤ５測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/80）……50
第 35 図　掘立５測量図（縮尺 1/80）……50
第 36 図　地点不明出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/4）……51

**第Ⅴ章　下苅屋遺跡**

第 37 図　周辺調査地位置図（縮尺 1/6,000）……58
第 38 図　調査地位置図（縮尺１/1,500）……59
第 39 図　区割図（縮尺 1/400）……59
第 40 図　遺構配置図（縮尺 1/200）……60
第 41 図　ＳＢ１測量図（縮尺 1/50）……61
第 42 図　ＳＢ１出土遺物実測図（縮尺 1/3）……62
第 43 図　ＳＢ２測量図（縮尺 1/50）……63
第 44 図　ＳＢ２カマド測量図（縮尺 1/20）……64
第 45 図　ＳＢ２出土遺物実測図①（縮尺 1/3）……64
第 46 図　ＳＢ２出土遺物実測図②（縮尺 1/2、1/3、1/4）……65
第 47 図　ＳＢ３測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/50）……66
第 48 図　ＳＢ４測量図（縮尺 1/50）……67
第 49 図　ＳＢ５①～④測量図（縮尺 1/50）……68
第 50 図　ＳＢ５①測量図（縮尺 1/50）……69
第 51 図　ＳＢ５②測量図・遺物出土状況図（縮尺 1/6、1/12、1/50）……70
第 52 図　ＳＢ５②出土遺物実測図（縮尺 1/3）……70
第 53 図　ＳＢ５③測量図・遺物出土状況図（縮尺 1/6、1/50）……71
第 54 図　ＳＢ５③炉①・炉②測量図（縮尺 1/20）……72
第 55 図　ＳＢ５③出土遺物実測図（縮尺 1/3）……72
第 56 図　ＳＢ５④測量図・遺物出土状況図（縮尺 1/6、1/12、1/50）……73
第 57 図　ＳＢ５④炉①測量図（縮尺 1/20）……74
第 58 図　ＳＢ５④出土遺物実測図（縮尺 1/3）……74
第 59 図　ＳＢ５一括出土遺物実測図①（縮尺 1/3）……75
第 60 図　ＳＢ５一括出土遺物実測図②（縮尺 1/2）……76
第 61 図　ＳＢ６測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/50）……77
第 62 図　ＳＫ１測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/2、1/3、1/50）……78
第 63 図　ＳＫ２測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/50）……80
第 64 図　ＳＫ３測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/50）……81
第 65 図　ＳＫ４測量図（縮尺 1/50）……81

第 66 図　ＳＫ４出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/4）……82
第 67 図　ＳＫ５測量図（縮尺 1/50）……82
第 68 図　ＳＤ１測量図（縮尺 1/50）……83
第 69 図　ＳＤ１出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/4）……84
第 70 図　ＳＤ２測量図（縮尺 1/50）……85
第 71 図　ＳＤ２遺物出土状況図（縮尺 1/6、1/50）……86
第 72 図　ＳＤ２出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/4）……87
第 73 図　ＳＤ３測量図（縮尺 1/50）……88
第 74 図　ＳＤ４測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/50）……88
第 75 図　石組遺構測量図（縮尺 1/50）……89
第 76 図　石組遺構出土遺物実測図（縮尺 1/3、1/4）……90
第 77 図　ＳＸ１測量図（縮尺１/50）……91
第 78 図　ＳＸ１出土遺物実測図①（縮尺１/3）……92
第 79 図　ＳＸ１出土遺物実測図②（縮尺 1/2、１/3）……93
第 80 図　ＳＰ出土遺物実測図①（縮尺１/3、1/4）……94
第 81 図　ＳＰ出土遺物実測図②（縮尺 1/2）……95
第 82 図　グリッド出土遺物実測図（縮尺１/3）……95
第 83 図　包含層出土遺物実測図（縮尺 1/3）……96
第 84 図　地点不明出土遺物実測図（縮尺 1/1、１/3）……97

# 表　目　次


**第Ⅰ章　はじめに**

表 1　調査地一覧……4

**第Ⅱ章　南久米沖台Ｂ遺跡**

表 2　掘立柱建物一覧 ……19
表 3　溝一覧
表 4　性格不明遺構一覧
表 5　掘立１出土遺物観察表　土製品
表 6　ＳＤ４出土遺物観察表　土製品 ……20
表 7　ＳＤ２出土遺物観察表　石製品
表 8　ＳＤ３出土遺物観察表　土製品
表 9　ＳＰ出土遺物観察表　土製品
表 10　地点不明出土遺物観察表　土製品

**第Ⅲ章　鷹子新畑遺跡**

表 11　竪穴建物一覧 ……33
表 12　溝一覧
表 13　ＳＢ１出土遺物観察表　土製品
表 14　ＳＰ出土遺物観察表　土製品
表 15　地点不明出土遺物観察表　土製品 ……34
表 16　地点不明出土遺物観察表　石製品

**第Ⅳ章　中ノ子Ⅰ遺跡**

表 17　竪穴建物一覧 ……52
表 18　掘立柱建物一覧
表 19　土坑一覧
表 20　溝一覧
表 21　ＳＢ１出土遺物観察表　土製品 ……53
表 22　ＳＫ１出土遺物観察表　土製品
表 23　ＳＫ２出土遺物観察表　土製品
表 24　ＳＫ３出土遺物観察表　土製品
表 25　掘立１出土遺物観察表　土製品
表 26　掘立２出土遺物観察表　土製品
表 27　ＳＤ７出土遺物観察表　土製品 ……54
表 28　ＳＤ７出土遺物観察表　石製品
表 29　ＳＤ１出土遺物観察表　土製品
表 30　ＳＤ４出土遺物観察表　土製品
表 31　ＳＤ５出土遺物観察表　土製品
表 32　地点不明出土遺物観察表　土製品

**第Ⅴ章　下苅屋遺跡**

表 33　竪穴建物一覧 ……99
表 34　土坑一覧
表 35　溝一覧 ……100
表 36　石組遺構一覧
表 37　性格不明遺構一覧
表 38　ＳＢ１出土遺物観察表　土製品
表 39　ＳＢ２出土遺物観察表　土製品 ……101
表 40　ＳＢ２出土遺物観察表　石製品
表 41　ＳＢ３出土遺物観察表　土製品
表 42　ＳＢ５②出土遺物観察表　土製品
表 43　ＳＢ５③出土遺物観察表　土製品 ……102
表 44　ＳＢ５④出土遺物観察表　土製品
表 45　ＳＢ５一括出土遺物観察表　土製品
表 46　ＳＢ５一括出土遺物観察表　石製品 …103
表 47　ＳＢ６出土遺物観察表　土製品
表 48　ＳＫ１出土遺物観察表　土製品
表 49　ＳＫ１出土遺物観察表　石製品
表 50　ＳＫ２出土遺物観察表　土製品
表 51　ＳＫ３出土遺物観察表　土製品 ……104
表 52　ＳＫ４出土遺物観察表　土製品
表 53　ＳＤ１出土遺物観察表　土製品
表 54　ＳＤ２出土遺物観察表　土製品 ……105
表 55　ＳＤ４出土遺物観察表　土製品 ……106
表 56　石組遺構出土遺物観察表　土製品
表 57　ＳＸ１出土遺物観察表　土製品 ……107
表 58　ＳＸ１出土遺物観察表　石製品 ……108
表 59　ＳＰ出土遺物観察表　土製品
表 60　ＳＰ出土遺物観察表　石製品
表 61　グリッド出土遺物観察表　土製品 ……109
表 62　包含層出土遺物観察表　土製品
表 63　地点不明出土遺物観察表　土製品 ……110
表 64　地点不明出土遺物観察表　鉄製品

# 写真図版目次


**第Ⅱ章　南久米沖台Ｂ遺跡**

写真図版１　１．掘立１検出状況(東より)
写真図版２　１．ＳＤ１・ＳＤ２・ＳＤ３・ＳＸ２検出状況（北より）
　　２．ＳＤ４遺物出土状況①(北より)
写真図版３　１．ＳＤ４遺物出土状況②(北東より)
　　２．ＳＤ４土層堆積状況(北東より)
写真図版４　１．調査風景(西より)
　　２．出土遺物

**第Ⅲ章　鷹子新畑遺跡**

写真図版５　１．調査地遠景(南より)
　　２．重機による掘削状況(南より)
写真図版６　１．北壁土層(南より)
写真図版７　１．遺構検出状況(東より)
写真図版８　１．ＳＢ１検出状況(西より)
　　２．ＳＢ１遺物出土状況①(西より)
　　３．ＳＢ１遺物出土状況②(東より)
写真図版９　１．ＳＢ１完掘状況(東より)
　　２．遺構完掘状況(西より)
写真図版 10　１．作業風景(東より)
　　２．出土遺物

**第Ⅳ章　中ノ子Ⅰ遺跡**

写真図版 11　１．遺構検出状況(西より)
　　２．ＳＤ１・ＳＤ２・ＳＤ３完掘状況(南西より)
写真図版 12　１．掘立１・掘立２完掘状況①(北より)
　　２．掘立１・掘立２完掘状況②(南西より)
写真図版 13　１．掘立３・掘立４・ＳＤ４・ＳＤ５・ＳＤ７完掘状況(北東より)
　　２．ＳＫ１・ＳＫ２・ＳＫ３完掘状況(西より)
写真図版 14　１．調査区より久米中学校を望む(南より)
　　２．出土遺物

**第Ⅴ章　下苅屋遺跡**

写真図版 15　１．重機による掘削状況(北より)
　　２．遺構検出状況(北より)
写真図版 16　１．ＳＢ１検出状況(北東より)
　　２．ＳＢ２検出状況(北より)
写真図版 17　１．ＳＢ３・ＳＢ４検出状況(北東より)
　　２．ＳＢ３･ＳＢ４完掘状況(南より)
写真図版 18　１．ＳＢ２カマド検出状況
　　（上：南より、下：東より）
写真図版 19　１．ＳＢ２カマド完掘状況
　　（上：南より、下：西より）
写真図版 20　１．ＳＢ５③炉①検出状況(北東より)
　　２．ＳＤ２遺物出土状況(北より)
写真図版 21　１．石組遺構検出状況(南より)
　　２．現地説明会
写真図版 22　１．遺構完掘状況①(南より)
　　２．遺構完掘状況②(南西より)
写真図版 23　１．出土遺物
写真図版 24　１．出土遺物
写真図版 25　１．出土遺物
写真図版 26　１．出土遺物

# 第Ⅰ章　はじめに

## 第１節　調査に至る経緯

平成元年～平成７年の間に、松山市南久米町４３８番２、鷹子町５８２番２、南土居町３０４番３、平井町２３８９番外の４ヶ所について、埋蔵文化財の確認願いが開発関係者より、松山市教育委員会文化教育課に提出された。確認願いが申請された南久米町４３８番２は松山市が指定する『№１２６高畑遺物包含地』、鷹子町５８２番２は『№１２９ 鷹子遺物包含地２』、南土居町３０４番３は『№１３２ 中ノ子廃寺・遺物包含地』、平井町２３８９番外は『№１５２ 平井遺物包含地』内にあり周知の遺跡地として知られており、各申請地周辺では、現在までに数々の発掘調査が行われている。

文化教育課では、確認申請が提出された４地点について埋蔵文化財の有無と遺跡の範囲や性格を確認するため、順次試掘調査と書類審査を実施した。調査の結果、申請地内には遺構や遺物が検出され、遺跡の存在が想定される状況にあった。

書類審査と試掘の結果より、文化教育課と申請者及び関係者は発掘調査について協議を行い、弥生時代から古代の集落域やその構造を明らかにすることを目的とした調査を実施することとした。

発掘調査は、文化教育課及び松山市立埋蔵文化財センターが主体になり、申請者及び関係者の協議のもと、国庫補助を受け平成元年と平成７年に実施した。

## 第２節　調査・刊行組織

調査組織（平成元年４月１日時点）

| | | |
|---|---|---|
| 松山市教育委員会 | 教育長 | 平井　亀雄 |
| | 参事 | 井出　治己 |
| | 次長 | 古本　　克 |
| | 次長 | 井上　量公 |
| 教育委員会文化教育課 | 課長 | 渡部　忠平 |
| | 係長 | 西　　伸二 |
| 松山市立埋蔵文化財センター | 所長 | 森脇　　將 |
| | 係長 | 西尾　幸則 |
| | 主事 | 栗田　正芳（調査担当） |
| | 調査員 | 松村　　淳（調査担当） |
| | 調査員補 | 水本　完児 |
| | | 髙尾　和長 |

調査組織（平成７年４月１日時点）

| | | |
|---|---|---|
| 松山市教育委員会 | 教育長 | 池田　尚郷 |
| 生涯教育部 | 部長 | 渡辺　和彦 |
| | 次長 | 杉本　　博 |
| | 次長 | 三好　俊彦 |
| 教育委員会文化教育課 | 課長 | 松平　泰定 |
| | 係長 | 西尾　幸則 |
| | 主任 | 重松　佳久（調査担当） |

整理組織（平成２２年１０月１日現在）

整理委託　松山市教育委員会

| | | |
|---|---|---|
| 松山市教育委員会 | 教育長 | 山内　　泰 |
| 事務局 | 局長 | 藤田　　仁 |
| | 企画官 | 勝谷　雄三 |
| | 企画官 | 青木　　茂 |
| 文化財課 | 課長 | 駒澤　正憲 |
| | 主幹 | 森　　正経 |
| | 副主幹 | 三好　博文 |

整理組織　財団法人文化・スポーツ振興財団

| | | |
|---|---|---|
| 文化・スポーツ振興財団 | 理事長 | 一色　哲昭 |
| 事務局 | 局長 | 松澤　史夫 |
| | 次長 | 砂野　元昭 |
| | 総務部長 | 中野　　忠 |
| | 施設利用推進部長 | 中越　敏彰 |
| 埋蔵文化財センター | 所長 | 重松　佳久 |
| | 主査 | 栗田　茂敏 |
| | 主任 | 髙尾　和長 |

刊行組織（平成２３年４月１日現在）
刊行主体　松山市教育委員会

| | | |
|---|---|---|
| 松山市教育委員会 | 教育長 | 山内　泰 |
| 事務局 | 局長 | 嶋　啓吾 |
| | 企画官 | 渡部　満重 |
| | 企画官 | 青木　茂 |
| 文化財課 | 課長 | 駒澤　正憲 |
| | 主幹 | 森　正経 |
| | 主査 | 竹内　明男 |

編集組織　財団法人文化・スポーツ振興財団

| | | |
|---|---|---|
| 文化・スポーツ振興財団 | 理事長 | 一色　哲昭 |
| 事務局 | 局長 | 松澤　史夫 |
| | 次長 | 近藤　正 |
| | 総務部長 | 中野　忠 |
| | 施設利用推進部長 | 中越　敏彰 |
| 埋蔵文化財センター | 所長 | 田城　武志 |
| | 主査 | 栗田　茂敏 |
| | 主任 | 髙尾　和長 |
| | 調査員 | 大西　朋子（写真担当） |

## 第３節　立地・環境（第１図）

### （１）立地

道後平野には高縄山系に源を発し、北東から南西に流れる石手川と、四国山脈東三方が森に水源を持ち、西流する重信川の２大河川がある。この２河川はいくつかの支流を集めながら西流し、海岸から約４㎞で合流し、伊予灘に注いでいる。報告を行う４遺跡は松山平野の南東部にあり、重信川、石手川の支流の小野川、堀越川、内川により形成された扇状地上に位置する。

### （２）環境

ここでは４遺跡がある来住・久米地区を中心とした遺跡について、時代別に概要を説明する。

**旧石器時代**

鷹子新畑遺跡の北部の丘陵上にある五郎兵衛谷古墳の調査に伴って、サヌカイト製の角錐状石器が出土している。平井町の山田池では、ナイフ形石器が表面採集されている。

**縄文時代**

久米窪田森元遺跡からは、土坑内から後期後葉の一括資料である貴重な土器片が40点余り出土している。晩期では、久米高畑遺跡36次調査より円形竪穴式住居址、久米高畑遺跡26次調査と同35次調査からは、土坑が確認されている。

**弥生時代**

弥生時代の遺跡は前期から後期まで、集落関連の遺構と遺物の検出例が急増する。特に注目されるのは、前期から中期初頭の大型の溝を複数検出した久米高畑遺跡 23 次調査、25 次調査、28 次調査、29 次調査があり、環濠集落の存在が明らかになりつつある。また土坑も 120 基以上検出され、その中には断面形態より貯蔵穴と考えられるものがある。

中期では来住廃寺 15 次調査の包含層中から、凹線文期の土器片が多数出土している。久米窪田古屋敷Ｃ遺跡からは、Ｌ字状に折れ曲がる大型の溝から該期の土器が出土している。

後期では久米高畑遺跡 35 次調査、50 次調査、59 次調査、61 次調査、65 次調査で竪穴住居が検出されている。65 次調査検出の竪穴住居には、ベッド状遺構が付設されている。床面には焼土と炭化物が確認できることから、火災により焼失したか住居廃絶時の祭祀行為として火が放たれたことを示すものと考えられる。

**古墳時代**

古墳時代の遺構は、来住町遺跡 8 次調査、久米高畑遺跡 10 次調査、26 次調査、35 次調査、60 次調査、64 次調査において竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝が検出されている。中ノ子遺跡の東にある開遺跡では方形住居、掘立柱建物が検出され、出土遺物から 6 世紀初頭から後半までの住居の変遷が検討されている。平井遺跡５次調査、６次調査、下苅屋３次調査、古市遺跡１次調査、２次調査、五楽遺跡２次調査では竪穴住居、掘立柱建物、土坑などの集落関連遺構が多数検出されている。出土した遺物には生焼けや焼け歪みのある須恵器が含まれており、これらの遺跡や周辺地域は松山平野東部古窯址群からの須恵器運搬に伴う中継地点あるいは集積地として機能していた可能性が高いと考えられる。古墳では平野部にタンチ山古墳、前方後円墳の二つ塚古墳と波賀部神社古墳、丘陵部に五郎兵衛谷古墳がある。

**古代**

来住台地上には、松山市の国指定史跡久米官衙遺跡群がある。史跡内の調査は現在までに 120 ヶ所以上の調査が行われ、古代の回廊状遺構、評庁院、正倉院が発見され地方官衙の様相が明らかとなりつつある。

**中世**

中世では鷹子新畑遺跡３次調査、北久米遺跡７次調査、来住町遺跡１４次調査において掘立柱建物や井戸などの集落関連遺構を検出している。一方、来住町遺跡６次調査からは水田耕作に伴う鋤址などの生産関連遺構を検出している。

**表１　調査地一覧**

| No. | 遺跡名 | 所　在 | 調査担当 | 申請面積㎡ | 調査期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 南久米沖台Ｂ遺跡 | 南久米町 438 番 2 | 松村　淳 | 230.48 | H 1 . 8. 2 〜　9. 6 |
| 2 | 鷹子新畑遺跡 | 鷹子町 582 番 2 | 栗田正芳 | 330.60 | H 1 .10. 4 〜 10.16 |
| 3 | 中ノ子Ｉ遺跡 | 南土居町 304 番 3 | 松村　淳 | 426.58 | H 1 .10. 4 〜 10.26 |
| 4 | 下苅屋遺跡 | 平井町甲 2389 番・甲 2390 番・甲 2391 番 | 重松佳久 | 1,896.00 | H 7 . 6.19 〜　9.27 |

(S=1:25,000)

❶ 南久米沖台 B 遺跡　❷ 鷹子新畑遺跡　❸ 中ノ子 I 遺跡　❹ 下苅屋遺跡　❺ 下苅屋遺跡 3 次調査　❻ 古市遺跡 1 次調査
❼ 古市遺跡 2 次調査　❽ 五楽遺跡 2 次調査　❾ 五郎兵衛谷古墳　❿ 鷹子新畑遺跡 3 次調査　⓫ タンチ山古墳　⓬ 久米窪田古屋敷 C 遺跡
⓭ 平井遺跡 5 次調査　⓮ 平井遺跡 6 次調査　⓯ 開遺跡　⓰ 波賀部神社古墳　⓱ 二つ塚古墳　⓲ 北久米遺跡 7 次調査
⓳ 来住町遺跡 6 次調査　⓴ 来住町遺跡 8 次調査　㉑ 来住町遺跡 14 次調査　㉒ 久米高畑遺跡 10 次調査　㉓ 久米高畑遺跡 23 次調査　㉔ 久米高畑遺跡 25 次調査
㉕ 久米高畑遺跡 26 次調査　㉖ 久米高畑遺跡 28 次調査　㉗ 久米高畑遺跡 29 次調査　㉘ 久米高畑遺跡 35 次調査　㉙ 久米高畑遺跡 50 次調査　㉚ 久米高畑遺跡 59 次調査
㉛ 久米高畑遺跡 60 次調査　㉜ 久米高畑遺跡 61 次調査　㉝ 久米高畑遺跡 64 次調査　㉞ 久米高畑遺跡 65 次調査　㉟ 来住廃寺遺跡 15 次調査　㊱ 久米窪田森元遺跡

第 1 図　　調査地周辺遺跡分布図

【文献】

重松佳久　1992「小野川水系における旧石器文化」『来住・久米地区の遺跡』
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
栗田茂敏　1989「久米窪田森元遺跡」松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ松山市教育委員会
2000「古市遺跡」「下苅屋遺跡」松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
相原秀仁　2001「五楽遺跡Ⅱ次調査」松山市埋蔵文化財調査年報 12
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
小笠原善治 1998「久米高畑遺跡 36 次調査」松山市埋蔵文化財調査年報Ⅹ
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
小玉亜紀子 1997「久米高畑遺跡 26 次調査」松山市埋蔵文化財調査年報Ⅸ
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
河野史知　2004「久米高畑遺跡 35 次調査」『来住・久米地区の遺跡Ⅴ』
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
橋本雄一　1995「久米高畑遺跡 23 次調査」松山市埋蔵文化財調査年報Ⅶ
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
髙尾和長　2000「久米高畑遺跡 25 次調査」松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
宮内慎一　1992「久米窪田古屋敷Ｃ遺跡」『来住・久米地区の遺跡』
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
2000「久米高畑遺跡 27 次調査」『来住・久米地区の遺跡Ⅴ』
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
相原秀仁　1999「来住廃寺 7 次調査」松山市埋蔵文化財調査年報 11
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
宮内慎一　1996「開遺跡 1 次調査」『小野川流域の遺跡』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
森光晴　1986「波賀部神社古墳」「二ツ塚」『愛媛県史　資料編　考古』愛媛県史編纂委員会
栗田茂敏　1996「駄馬姥ヶ懐窯址」『小野川流域の遺跡』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

第Ⅱ章

# 南久米沖台Ｂ遺跡

# 第Ⅱ章　南久米沖台Ｂ遺跡

## 第１節　調査の経過

### （１）調査に至る経緯（第２図）

平成元年６月６日、松山市南久米町４３８番２における個人住宅建設に先立って、当該地が松山市の周知の埋蔵文化財包蔵地「旧№１２６　高畑遺物包含地」内に位置することから、埋蔵文化財確認願及び文化財保護法第５７条の２第１項の届出書（以下､届出書という）が松山市教育委員会（以下、市教委という）に提出された。これを受け、市教委は平成元年６月21日に試掘調査を実施し、結果、古代の溝と柱穴を確認し、当該地の全域において遺跡が展開することを推測するに至った。その後、この結果と届出書を受けた愛媛県教育委員会より発掘調査の指示が下りたため、申請者及び関係者と協議し、発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、国庫補助を受け、市教委文化教育課及び松山市埋蔵文化財センターが主体となり、平成元年８月２日より着手した。

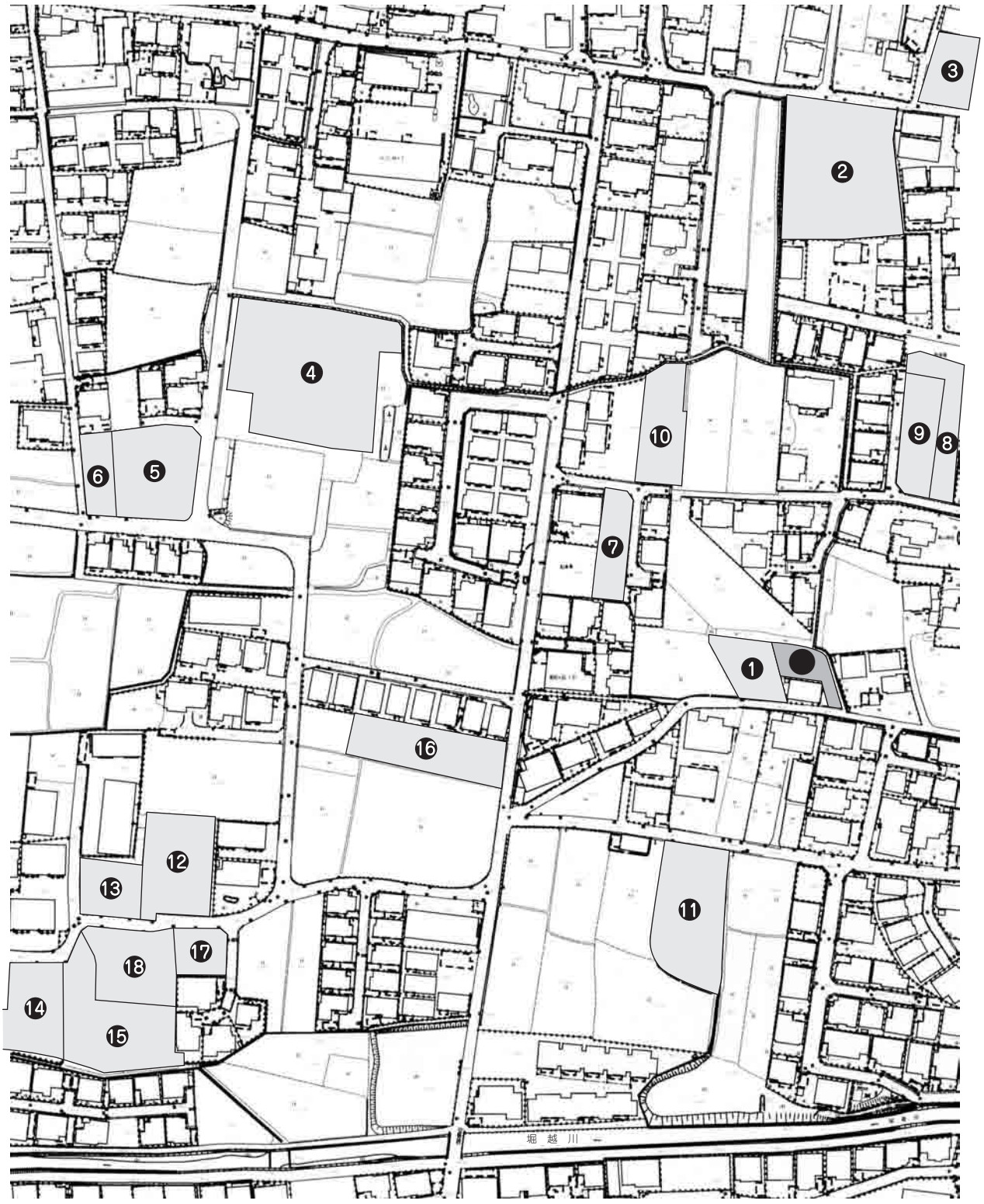
なお、調査地周辺では、これまでに縄文時代から古代にかけての数多くの調査が行われている。縄文時代から弥生時代の遺跡では、調査地の南西部に位置する久米才歩行遺跡４次調査から、縄文時代の土器片と弥生時代前期末の土器や石器が出土している。同２次調査からは、弥生時代前期末から中期初頭の竪穴建物が検出されている。古墳時代では久米才歩行遺跡２次調査と５次調査から、５世紀後半と６世紀前半の竪穴建物が検出されている。古代では、調査地の北側に位置する南久米遺跡から掘立柱建物が検出され、柱穴内から墨書土器が出土している。また、調査地南側の堀越川を隔てた来住台地上には、７世紀から８世紀にかけての松山平野の主要な遺跡である国指定史跡久米官衙遺跡群があり、数多くの調査が行われている。

### （２）調査の経緯（第３図）

調査は、はじめに調査区を設定し、西側より重機を使用して掘削を開始した。掘削土は、調査区の南側と北側を排土置き場とした。重機による掘削後に遺構検出作業を行い、溝、柱穴、掘立柱建物を検出した。遺構検出状況の写真撮影を行なった後、測量用の杭を3m 間隔で設置し、平板測量にて50分の１の遺構配置図の作成と、埋土の土色確認を行った。続いて、調査壁の測量を行なった。遺構の調査を西側の溝より開始し、溝と掘立柱建物の柱穴内から遺物が出土したため、測量と写真撮影を行った。すべての遺構を掘削後に、遺構完掘状況の測量を20分の１で行った。最後に写真撮影を行い、屋外調査を終了する。

## 第２節　層　位（第４図）

基本層位は、以下の４層である。なお、Ⅰ層は近現代の造成土、Ⅱ･Ⅲ層は農耕に伴う耕土である。Ⅰ層：造成土（真砂土）。調査区全域で厚さ50㎝を測る。Ⅱ層：耕作土。調査区全域で厚さ15～20㎝を測る。Ⅲ①層：黄褐色土（耕作土床土）。調査区全域で厚さ４～7㎝を測る。Ⅲ②層：茶褐色土（耕作土床土）。調査区の南東に厚さ４～8㎝を測る。Ⅲ③層：黄褐色土（黄色と黒色の粒混じり、耕作土床土）。調査区南東の一部で厚さ4㎝を測る。Ⅳ層：黄色土（地山）。Ⅳ層上面で遺構を検出した。検出した遺構の時期は出土遺物から２期に分かれ、Ⅰ期は古代、Ⅱ期は近現代である。




(S=1:2,000)

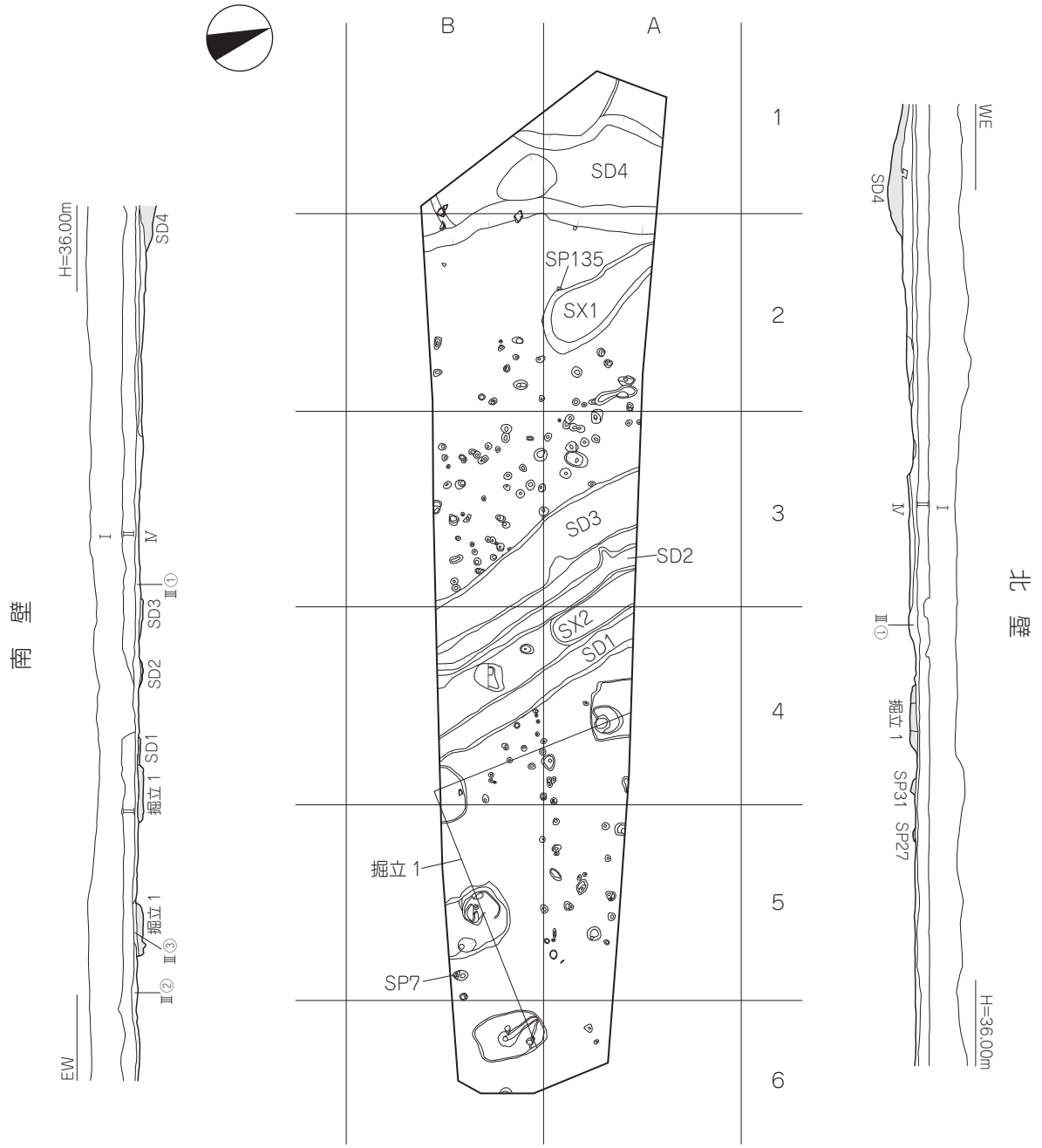
● 南久米沖台 B 遺跡

❶ 南久米沖台 A 遺跡　❷ 北野遺跡 1 次調査　❸ 北野遺跡 2 次調査　❹ 北久米遺跡 7 次調査　❺ 北久米町屋敷遺跡
❻ 北久米町屋敷遺跡 2 次調査　❼ 南久米町遺跡　❽ 南久米町遺跡 2 次調査　❾ 南久米町遺跡 3 次調査
❿ 南久米町遺跡 4 次調査　⓫ 南久米町遺跡 5 次調査　⓬ 南久米町遺跡 6 次調査　⓭ 久米才歩行遺跡 2 次調査
⓮ 久米才歩行遺跡 3 次調査　⓯ 久米才歩行遺跡 4 次調査　⓰ 久米才歩行遺跡 5 次調査　⓱ 久米才歩行遺跡 6 次調査
⓲ 久米才歩行遺跡 7 次調査

第 2 図　　周辺調査地位置図

南久米町遺跡２次調査
南久米町遺跡４次調査
南久米町遺跡３次調査
南久米町遺跡
調査地
南久米沖台Ａ遺跡
南久米町遺跡５次調査
(S=1:1,000)

第３図　　調査地位置図




Ⅰ層：造成土
Ⅱ層：耕作土
Ⅲ①層：黄褐色土（床土）
Ⅲ②層：茶褐色シルト
Ⅲ③層：黄褐色土（黄色・黒色の粒混じり）
Ⅳ層：黄色土（地山）

0　5m
（S＝1：100）

第４図　　遺構配置図・北壁・南壁土層図

# 第３節　遺構と遺物

## （１）古代

検出した遺構は掘立柱建物１棟、溝１条である。

１）掘立柱建物（掘立）

掘立１（第５図、写真図版１・４）

掘立１は、調査区東部のＡ４・Ｂ４～６区に位置する。１×２間以上の東西棟で、規模は南北検出長 2.7 ｍ、東西検出長４ｍを測り、柱穴４基を検出した。ＳＰ２～４は、調査区外に続く。柱穴の平面形態は長方形で、規模はＳＰ１が長径 1.03 ｍ、短径 0.7 ｍ、深さ 5.2 ～ 12.5㎝、ＳＰ２は検出長 1.05 ｍ、幅 0.88 ｍ、深さ 6.7 ～ 13.7㎝、ＳＰ３は南北検出長 0.38 ｍ、東西検出長 0.87 ｍ、深さ 4.2 ～ 5.3㎝、ＳＰ４は南北検出長 0.6 ｍ、東西長 0.88 ｍ、深さ 2.6 ～ 6.7㎝を測る。埋土は、黒褐色シルトである。柱痕はＳＰ１・２・４で検出され径 10 ～ 15㎝を測る。遺物は、ＳＰ４から須恵器片２点、ＳＰ１から長さ 10 ～ 15㎝の石２点、ＳＰ２から長さ 17 ～ 25cm の石が凹地周辺から３点、ＳＰ３から長さ 12cm の石が１点出土している。出土した石は、柱を固定する為のものと思われる。

**出土遺物**（1・2）

1・2 は、ＳＰ４から出土した須恵器である。1 は坏蓋。扁平な天井部で、口縁部は下方に屈曲し、端部は丸い。2 は甕の頸部片で、外反する頸部の外面に波状文を２段に施す。

**時期**：出土遺物から、掘立１の埋没時期は８世紀前半とする。

２）溝（ＳＤ）

ＳＤ４（第６図、写真図版２～４）

ＳＤ４は調査区西部のＡ・Ｂ１区に位置し、北側と南側は調査区外に続く。規模は検出長 3.57 ｍ、幅 1.20 ～ 1.75 ｍ、深さ 30㎝を測り、中央部が楕円形状に僅かに窪む。断面形態は、レンズ状を呈する。埋土は２層に分かれ、①層：黒褐色シルト、②層：灰色砂質土に黄色土が混入するものである。遺物は、溝南側①層より須恵器が出土した。調査中は、常時水が湧く状態であった。

**出土遺物**（3・4）

3 は高台の付く坏。「ハ」の字状に開く高台は太く、底体部境界より内側に付き、端部内面が接地する。4 は鉢で丸味を持つ平底風の底部を持つ。

**時期**：出土遺物から、ＳＤ４の埋没時期は７世紀後半とする。

## （２）近現代

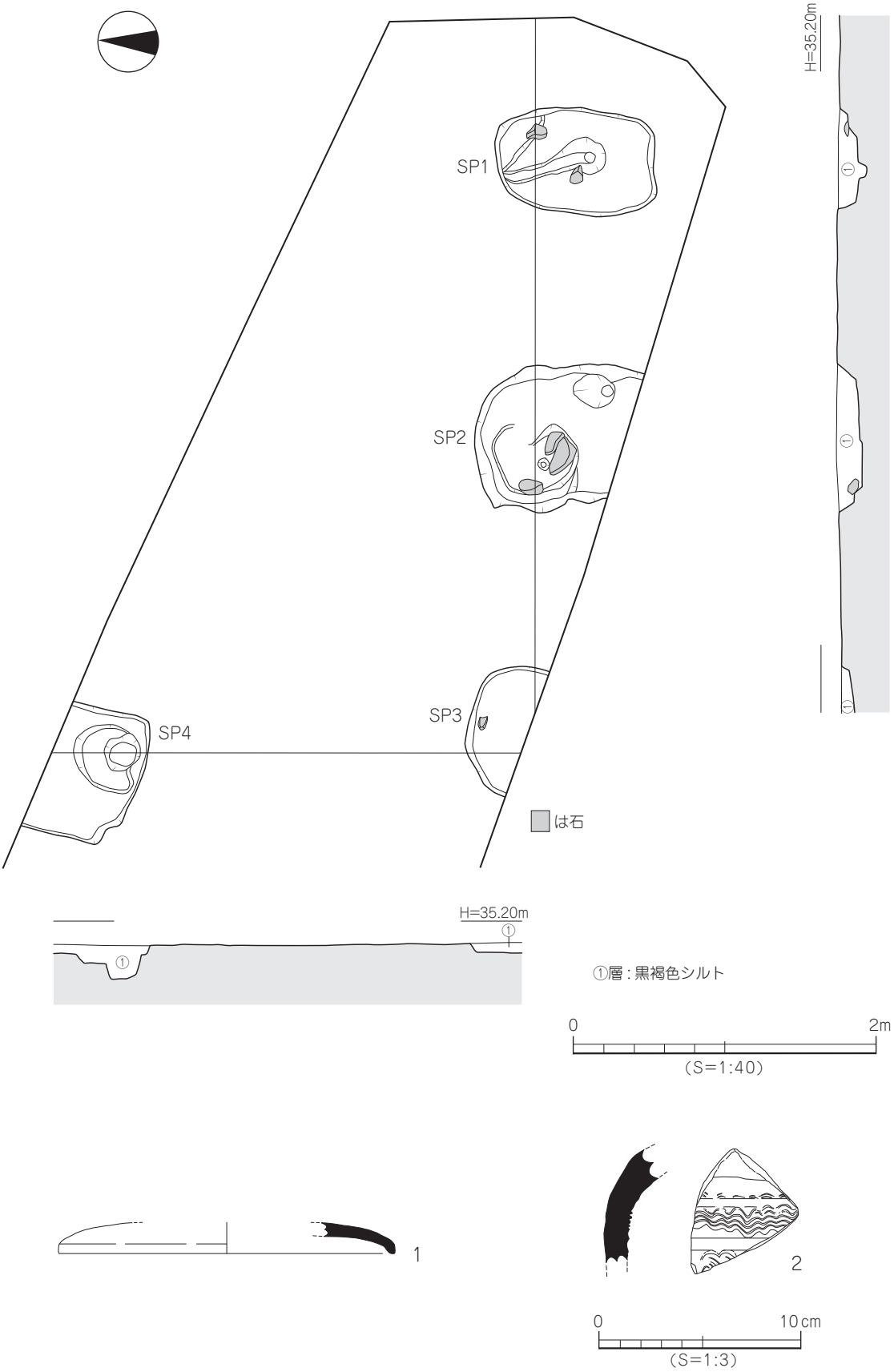
検出遺構は、溝３条、性格不明遺構２基、柱穴 135 基である。

１）溝（ＳＤ）

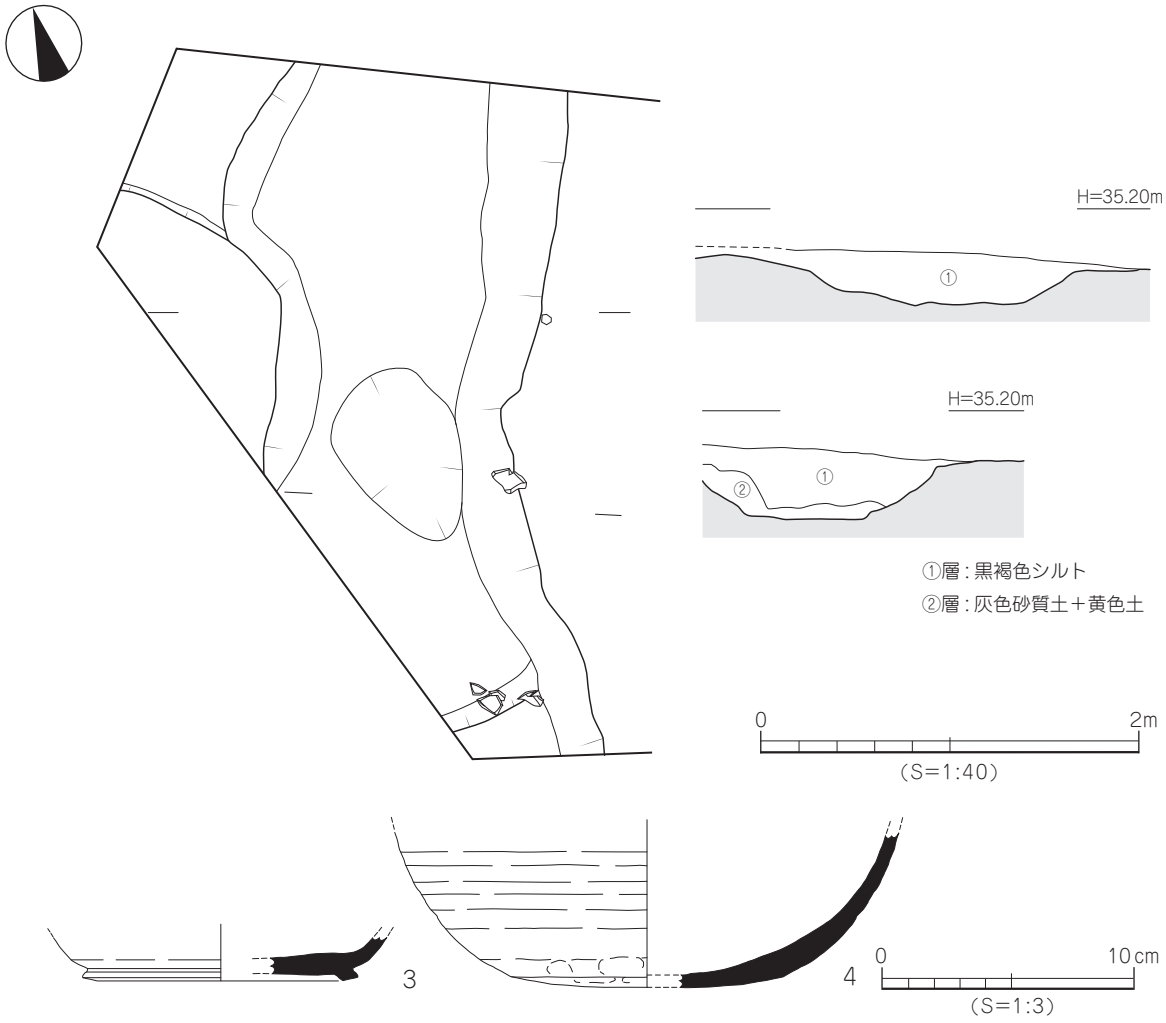
ＳＤ１（第７図、写真図版 2）

ＳＤ１は調査区中央部のＡ・Ｂ４区に位置し、北側と南側は調査区外に続く。規模は検出長 3.45m、幅 43 ～ 50㎝、深さ２～ 3㎝を測る。断面形態は皿状で、埋土は暗灰色砂質土の単層である。溝内からは、出土遺物はない。

**時期**：埋土から、ＳＤ１の埋没時期は近現代とする。




第５図　　掘立１測量図・出土遺物実測図




第６図　　ＳＤ４測量図・出土遺物実測図

ＳＤ２（第７図、写真図版２）

ＳＤ２は調査区中央部のＡ３～Ｂ４区に位置し、北側と南側は調査区外に続く。規模は検出長3.48m、幅20～28cm、深さ３～5cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は暗灰色砂質土の単層である。出土遺物は、石製品が１点ある。

**出土遺物**

５は、サヌカイトの剥片である。

**時期**：埋土から、ＳＤ２の埋没時期は近現代とする。

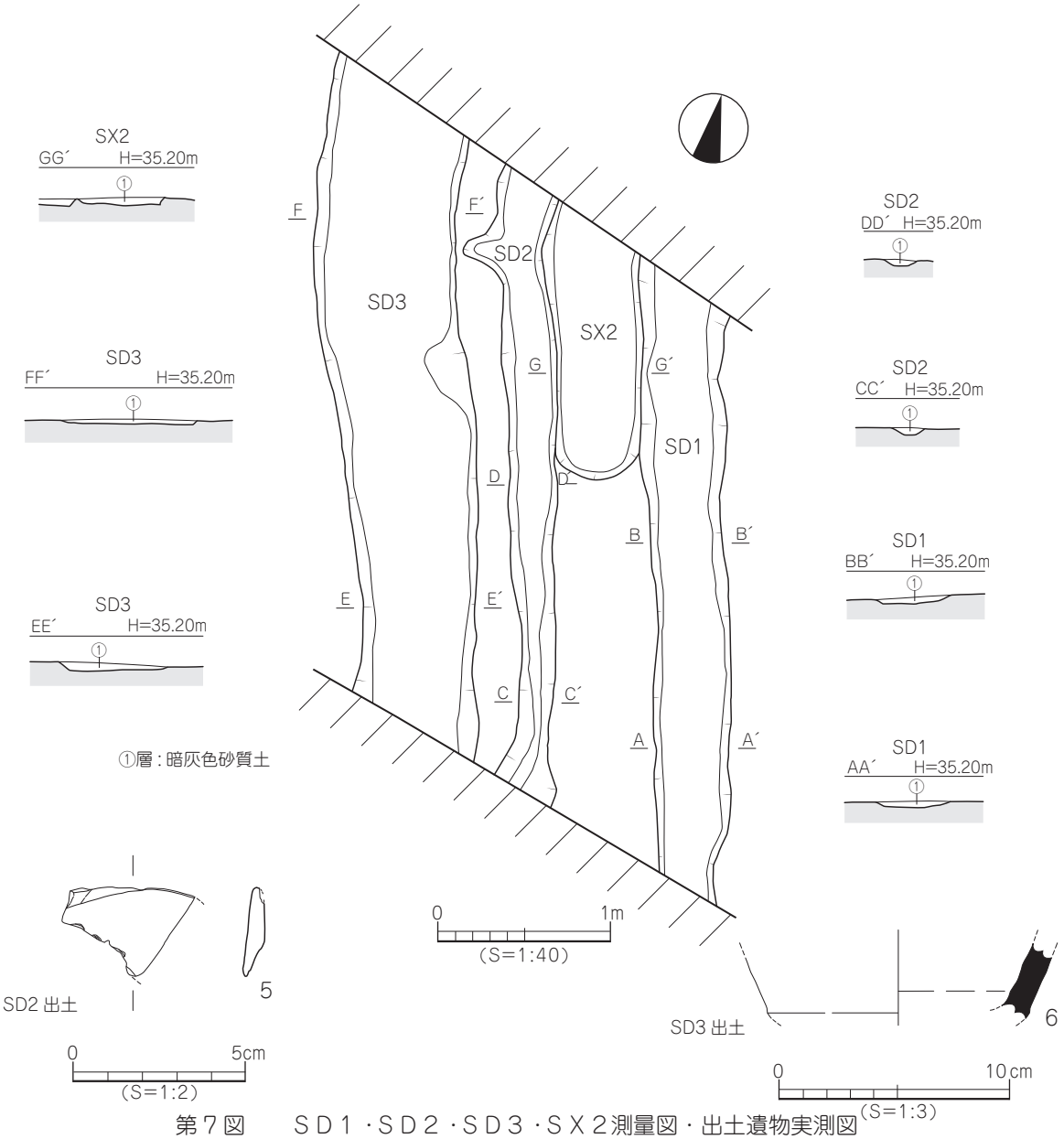
ＳＤ３（第７図、写真図版２）

ＳＤ３は調査区中央部のＡ３～Ｂ４区に位置し、北側と南側は調査区外に続く。規模は検出長3.55m、幅63～70cm、深さ２～4cm測る。断面形態は皿状で、埋土は暗灰色砂質土の単層である。出土遺物は須恵器片が１点ある。

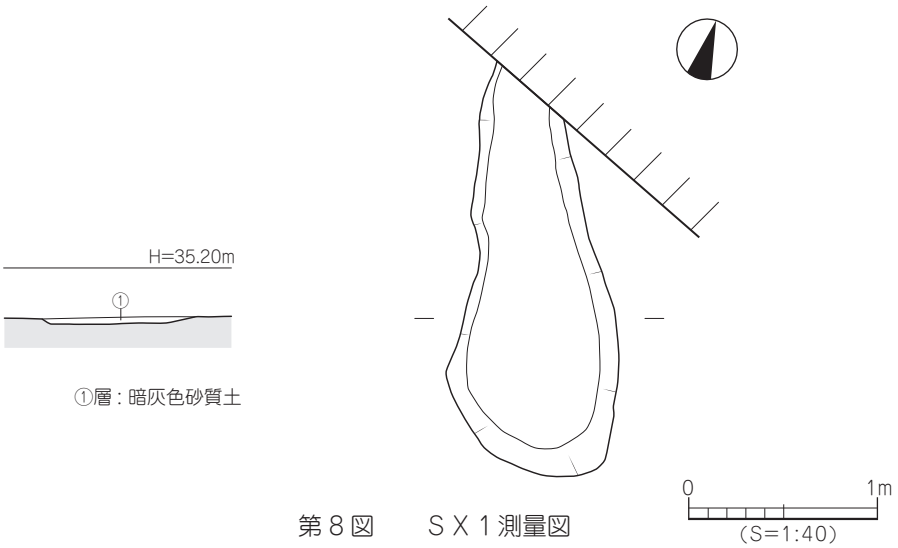
**出土遺物**

６は、須恵器壺の胴部片である。

**時期**：埋土から、ＳＤ３の埋没時期は近現代とする。




第７図　　ＳＤ１・ＳＤ２・ＳＤ３・ＳＸ２測量図・出土遺物実測図




第８図　　ＳＸ１測量図

２）性格不明遺構（ＳＸ）

ＳＸ１（第８図）

ＳＸ１は調査区西部のＡ２区に位置し、北側は調査区外に続く。平面形態は不定形状を呈し、規模は検出長2.1ｍ、幅45～90㎝、深さ３～5cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は暗灰色砂質土の単層である。ＳＸ１から、出土遺物はない。

**時期**：埋土から、ＳＸ１の埋没時期は近現代とする。

ＳＸ２（第７図、写真図版２）

ＳＸ２は調査区中央部のＡ３・４区に位置し、北側は調査区外に続く。平面形態は不定形状を呈し、規模は検出長1.25ｍ、幅50㎝、深さ３～4㎝を測る。断面形態は皿状で、埋土は暗灰色砂質土の単層である。ＳＸ２から、出土遺物はない。

**時期**：埋土から、ＳＸ２の埋没時期は近現代とする。

## （３）その他の遺構と遺物

１）柱穴（ＳＰ）（第９図、写真図版４）

柱穴は、135基を検出した。埋土により、黒褐色土と褐色砂質土の２つのグループに分類できる。黒褐色土の埋土を持つ柱穴は10基、褐色砂質土の埋土を持つ柱穴は125基である。平面形態は円形と楕円形があり、円形を呈するものがほとんどである。規模は径４～10cm、深さ２～15㎝を測り、ほとんどが10cm以下である。遺物は、ＳＰ７とＳＰ135から須恵器片が出土している。埋土から褐色砂質土の埋土を持つ柱穴は、近現代とする。黒褐色土の埋土を持つ柱穴は、掘立１と同じであるため８世紀代とする。

**出土遺物**（7・8）

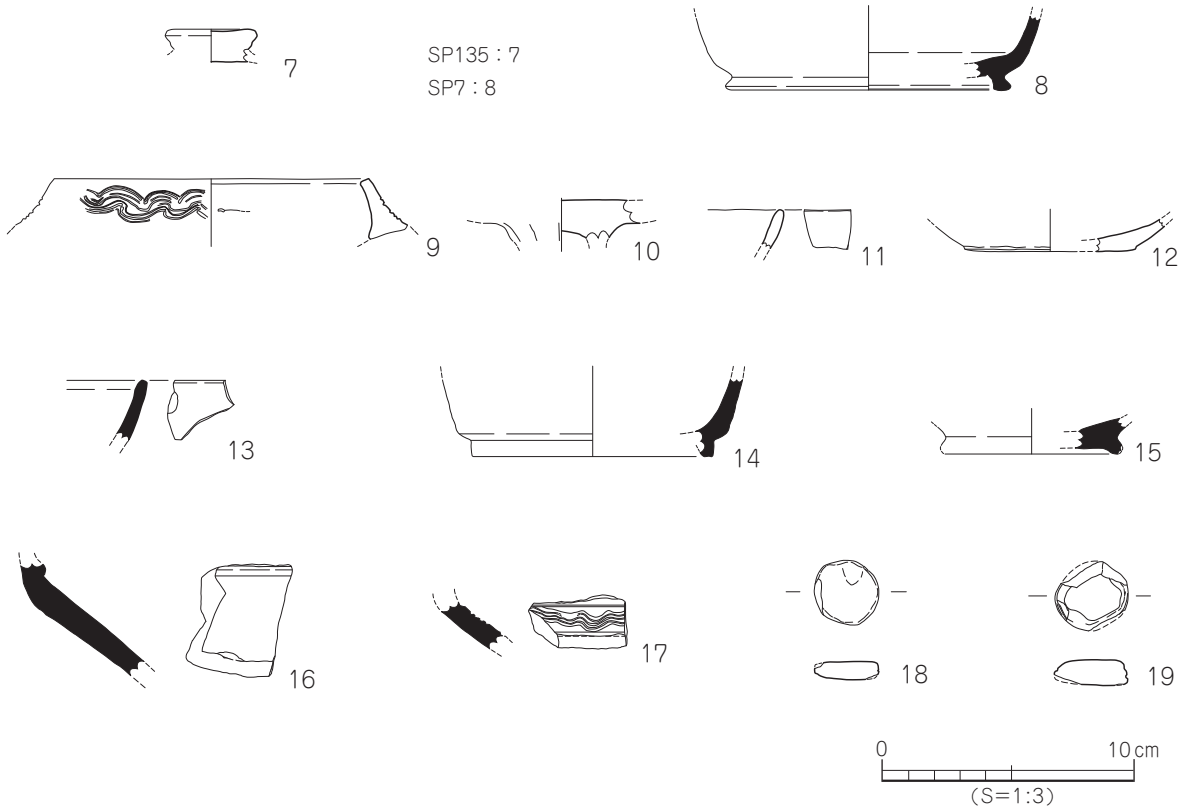
7は、ＳＰ135から出土した土師器坏蓋のつまみ部で、中央部が窪む。8は、ＳＰ７から出土した高台の付く坏である。高台は底体部境界より内側に付き「ハ」の字状に開く。

２）地点不明出土遺物（第９図、写真図版４）

出土地点不明遺物は遺構検出時に出土したもので、弥生土器、須恵器、土師器がある。

**出土遺物**（9～19）

9は弥生土器。複合口縁壺の口縁部で、内傾する口縁部の外面に波状文を施す。10は土師器の高坏形土器。坏部と柱部との接合部である。11は土師器坏の口縁部片である。12は土師器坏の底部片である。13～17は須恵器。13は坏の口縁部で、口縁端部は丸味を持つ。14・15は高台の付く坏で、14の高台端部は水平に接地し、15の高台は短く「ハ」の字状に開く。16・17は壺形土器。16は頸部に凸帯を施し、17は肩部に波状文と沈線文を施す。18・19は、扁平な円盤状の土製品である。




第９図　　ＳＰ出土遺物・地点不明出土遺物実測図

## 第４節　小　結

本調査では、古代の掘立柱建物１棟（掘立１）と溝１条（ＳＤ４）を検出した。掘立１は南北１間、東西２間分を検出した。柱穴は削平を受け、深さ５～ 6cmと遺存状態は悪いが、柱穴の規模は長さ１ｍ、幅 88cmと大きなもので、柱穴間が東西約２ｍ、南北約 3m を測ることから、大型の建物と考えられる。

ＳＤ４は、調査地西側に隣接する※南久米沖台Ａ遺跡の東側で溝を検出している。溝の方位は南北方向を示し、埋土は黒褐色土である。遺物はＳＤ４と同時期の須恵器が出土している。南久米沖台Ａ遺跡の溝とＳＤ４は、埋土と方向、出土遺物などから同一の溝と考えられ、溝幅は約 5m を測る広い溝となる。

掘立１とＳＤ４の検出では、集落と集落を区画する溝と考えられる。調査地周辺では、本調査以降に数多くの調査が行われており、調査地の北西に位置する南久米町遺跡からは掘立柱建物７棟が検出され、柱穴からは８世紀の墨書土器が出土している。調査地南側に位置する南久米町遺跡５次調査からは２間×３間規模の掘立柱建物を検出し、柱穴からは祭祀行為が行われたと思われる破砕した 10 世紀の土師器が出土し、表採資料として単弁十葉蓮華文軒丸瓦が出土している。この単弁十葉蓮華文軒丸瓦は、堀越川北部では初めての出土である。本調査と近年の調査成果を合わせると、調査地周辺の堀越川北側には、８～１０世紀の掘立柱建物が広がることが明らかになった。

【文献】

「南久米町遺跡」『来住・久米地区の遺跡Ⅲ』松山市文化財調査報告書７６

「南久米町遺跡５次調査」 松山市埋蔵文化財調査年報２０

※南久米沖台Ａ遺跡調査担当者栗田茂敏氏の助言（現在報告書整理中）。

## 遺構・遺物一覧　　－ 凡例 －

（1） 以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

（2） 遺物観察表の各掲載について

法量欄　　（ ）：推定復元値

調整欄　　土製品の各部名称を略記した。

例）底→底部、口端→口縁端部

胎土・焼成欄　胎土欄では混和剤を略記した。

例）石→石英、長→長石、密・精→精製土。

（ ）の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例）石・長（1 ～ 4）→「1 ～ 4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良。

表２　掘立柱建物一覧

| 掘立 | 地区 | 方位 | 規模（間） | 桁行長（m） | 梁行長（m） | 床面積（㎡） | 柱穴埋土 | 出土遺物 | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | A・B4～6 | 東西 | （1）×（2） | （2.7） | （4.0） | （10.8） | 黒褐色シルト | 須恵器<br>石 | 8世紀前半 | |

表３　溝一覧

| 溝（SD） | 地区 | 方向 | 断面形 | 規模<br>長さ×幅×深さ（m） | 埋土 | 出土遺物 | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | A・B4 | 南北 | 皿状 | 3.45×0.43~0.50×0.02~0.03 | 暗灰色砂質土 | | 近現代 | |
| 2 | A3～B4 | 南北 | 皿状 | 3.48×0.2~0.28×0.03~0.05 | 暗灰色砂質土 | 石製品 | 近現代 | |
| 3 | A3～B4 | 南北 | 皿状 | 3.55×0.63~0.70×0.02~0.04 | 暗灰色砂質土 | 須恵器 | 近現代 | |
| 4 | A・B1 | 南北 | レンズ状 | 3.57×1.20～1.75×0.30 | 黒褐色シルト<br>灰色砂質土に<br>黄色土混じり | 須恵器 | 7世紀後半 | |

表４　性格不明遺構一覧

| 性格不明遺構（SX） | 地区 | 平面形 | 断面形 | 規模<br>長さ×幅×深さ（m） | 埋土 | 出土遺物 | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | A2 | 不定形 | 皿状 | 2.10×0.45~0.9×0.03~0.05 | 暗灰色砂質土 | | 近現代 | |
| 2 | A3・4 | 不定形 | 皿状 | 1.25×0.50×0.03~0.04 | 暗灰色砂質土 | | 近現代 | |

表５　掘立１出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 | | 色調（外面）<br>（内面） | 胎土<br>焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外面 | 内面 | | | | |
| 1 | 坏蓋 | 口径（16.6）<br>残高　1.5 | 扁平な天井部。短く屈曲する口縁部。端部は丸い。 | 回転ナデ→ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰白色 | 密<br>◎ | SP4 | 4 |
| 2 | 甕 | 残高　6.2 | 外反する頸部の外面に２段の波状文と凹線を施す。 | 回転ナデ→施文 | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 長（1～2）<br>◎ | SP4 | 4 |

表６　　ＳＤ４出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 坏 | 底径　（9.8）<br>残高　1.7 | 「ハ」の字状に開く高台。端部は内面が接地する。 | ㊎ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | ㊎ ナデ<br>回転ナデ | 黄灰色<br>黄灰色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 4 | 鉢 | 底径　（10.8）<br>残高　6.1 | 平底風の底部。 | ㊎ ナデ（指頭痕）<br>ヨコナデ | マメツ | 黄灰色<br>灰黄色・黄灰色 | 長（1）<br>◎ | | 4 |

表７　　ＳＤ２出土遺物観察表　石製品

| 番号 | 器種 | 残存 | 材質 | 法量 長さ（cm） | 法量 幅（cm） | 法量 厚さ（cm） | 法量 重さ（g） | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 剥片 | 小片 | サヌカイト | 2.6 | 3.65 | 0.52 | 4.97 | | |

表８　　ＳＤ３出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 壺 | 残高　3.2 | 胴部片。 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 白色粒<br>◎ | | |

表９　　ＳＰ出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 坏蓋 | 残高　1.3 | つまみ部。扁平で中央部が凹む。 | マメツ | マメツ | 橙色<br>橙色 | 砂粒<br>◎ | SP135 | 4 |
| 8 | 坏 | 底径　（11.2）<br>残高　3.0 | 「ハ」の字状に開く高台。端部は水平に接地する。 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 砂粒<br>◎ | SP7 | 4 |

表 10　地点不明出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 壺 | 口径　（12.5）<br>残高　2.4 | 複合口縁壺の口縁部片。口縁部外面に波状文を施す。 | ナデ→施文 | 口端 ナデ<br>ヨコナデ | 橙色<br>橙色 | 石（1～2）<br>◎ | | 4 |
| 10 | 高坏 | 残高　1.6 | 坏部と柱部の接合部。 | 工具によるナデ | ナデ | 橙色<br>にぶい黄橙色 | 細砂粒<br>◎ | | 4 |
| 11 | 坏 | 残高　1.5 | 口縁部の小片。 | ナデ | ナデ | にぶい橙色<br>にぶい橙色 | 白色粒<br>◎ | | |
| 12 | 坏 | 底径　（6.8）<br>残高　1.3 | 底部片。 | 底 マメツ<br>ヨコナデ | マメツ | 橙色<br>橙色 | 密<br>◎ | | |
| 13 | 坏 | 残高　2.3 | 口縁部の小片。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 密<br>◎ | | |
| 14 | 坏身 | 底径　（9.4）<br>残高　3.1 | 高台端部は水平に接地する。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰色 | 砂粒<br>◎ | | |
| 15 | 坏身 | 底径　（7.2）<br>残高　1.4 | 高台端部は「ハ」の字状に開く。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 砂粒<br>◎ | | |
| 16 | 壺 | 残高　4.5 | 頸部に１条の凸帯を施す。 | 回転ナデ<br>マメツ | マメツ | 灰白色<br>灰白色 | 微砂粒<br>○ | | |
| 17 | 壺 | 残高　1.7 | 肩部に波状文１段と凹線２条を施す。 | 回転ナデ→施文 | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 白色粒<br>◎ | | |
| 18 | 円盤状土製品 | 径　2.5<br>厚　0.7 | 扁平。 | マメツ | マメツ | 橙色<br>橙色 | 密<br>◎ | | 4 |
| 19 | 円盤状土製品 | 径　3.0<br>厚　1.1 | 扁平。 | マメツ | マメツ | 橙色<br>橙色 | 密<br>◎ | | 4 |

第Ⅲ章

# 鷹子新畑遺跡

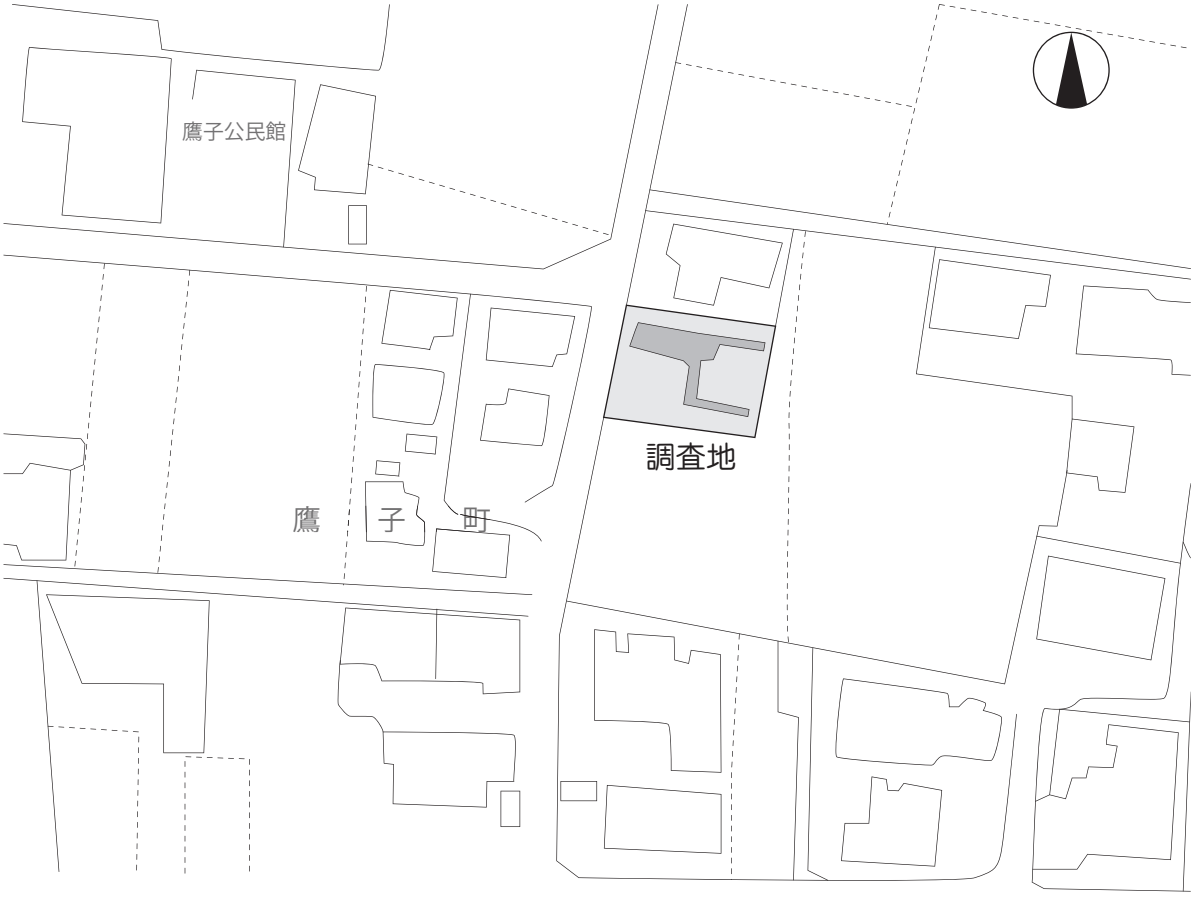
# 第Ⅲ章　鷹子新畑遺跡

## 第１節　調査の経過

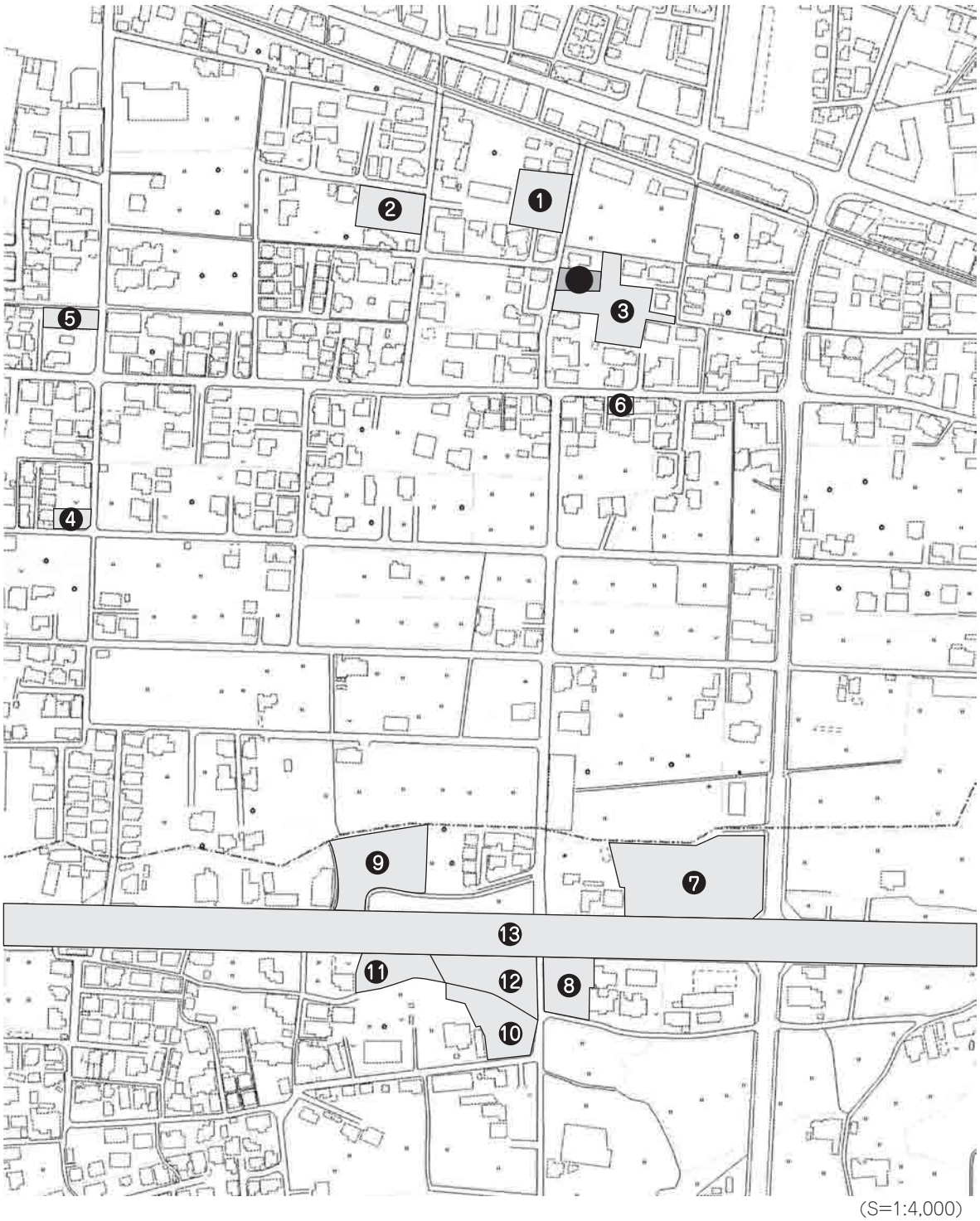
### （１）調査に至る経緯（第 10・11 図）

平成元年８月 19 日、松山市鷹子町５８２番における個人住宅建設に先立って、当該地が松山市の周知の埋蔵文化財包蔵地「№１２９　鷹ノ子遺物包含地２」内に位置することから、埋蔵文化財確認願い及び文化財保護法第 57 条の２第１項の届出書（以下､届出書という）が松山市教育委員会（以下、市教委という）に提出された。これを受け、市教委は資料と遺跡分布調査を実施し、結果、当該地において遺跡が展開することを推測するに至った。その後、この結果と届出書を受けた愛媛県教育委員会より発掘調査の指示が下りたため、申請者及び関係者と協議し、発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、国庫補助を受け、市教委文化教育課及び松山市埋蔵文化財センターが主体となり、平成元年 10 月４日より着手した。

なお、調査地周辺には、縄文時代から古代の遺跡がある。縄文時代では、後期の土坑を検出した久米窪田森元遺跡がある。弥生時代では、久米窪田古屋敷遺跡から弥生時代前期末から中期初頭の土坑と溝が検出されている。古墳時代の遺構は、久米窪田Ⅱ遺跡と久米窪田古屋敷遺跡から後期の掘立柱建物が検出されている。古代の遺構は、久米窪田古屋敷遺跡と久米窪田Ⅱ遺跡から掘立柱建物が多数検出されている。久米窪田Ⅱ遺跡からは木簡、硯、墨書土器の出土があり、７世紀～８世紀代の主要な遺跡である。




第 10 図　　調査地位置図　　(S=1:1,000)




(S=1:4,000)

● 鷹子新畑遺跡

❶ 鷹子新畑遺跡２次調査　❷ 鷹子新畑遺跡３次調査　❸ 鷹子新畑遺跡４次調査　❹ 鷹子遺跡１次調査

❺ 鷹子町遺跡２次調査　❻ タンチ山古墳　❼ 久米窪田古屋敷 A 遺跡　❽ 久米窪田古屋敷 C 遺跡

❾ 久米窪田森元遺跡　❿ 久米窪田森元遺跡２次調査　⓫ 久米窪田森元遺跡３次調査　⓬ 久米窪田森元遺跡４次調査

⓭ 久米窪田Ⅱ遺跡

第 11 図　　周辺調査地位置図

### （2）調査の経緯（第 12 図、写真図版 5）

調査範囲は、試掘調査の結果により幅３～４ｍ、長さ 11 ｍの範囲を調査区とした。掘削は、重機を使用し遺構検出面まで行った。掘削土は、調査区の南側と北側を排土置き場とした。重機による掘削後に遺構検出作業を行い、竪穴建物、溝、柱穴を検出した。遺構検出状況の写真撮影を行なった後、測量用の杭を設置し、平板測量にて 50 分の１の遺構配置図の作成と遺構埋土の土色確認を行った。続いて、調査壁の測量を行なった。遺構の掘削を竪穴建物より開始した。竪穴建物と溝から遺物が出土したため、測量と写真撮影を行った。竪穴建物、溝、柱穴の掘削終了後、遺構完掘状況の測量と写真撮影を行い屋外調査を終了する。

## 第２節　層　位（第 12 図、写真図版６）

基本層位は４層に分層し、各層は土色・土質の違いによりⅠ層は２層、Ⅱ層は９層、Ⅲ層は８層、Ⅳ層は２層に細分した。

Ⅰ層：近現代の造成土で、２層に分層した。

Ⅰ①層：造成土（真砂土）。調査区全域で厚さ 50㎝を測る。

Ⅰ②層：ブロック基礎。北壁西側の一部で幅 1.4m、厚み 74㎝を測る。

Ⅱ層：灰色を基本とした農耕に伴う客土で、僅かな土色の違いにより９層に分層した。

Ⅱ①層：灰色土（耕作土）。調査区全域で厚さ 18㎝を測る。

Ⅱ②層：灰色土＋暗灰色土（耕作土）。南壁の中央部から東で厚さ４～ 10㎝を測る。

Ⅱ③層：灰色土＋暗灰色土（茶褐色土混じり）（耕作土）。南壁の中央部と西側で厚さ 25cm を測る。

Ⅱ④層：灰色土（一部に茶褐色土混じり）。南壁の中央西側で厚さ 13㎝～ 23㎝を測る。

Ⅱ⑤層：褐色土で灰色土混じり。南壁を除く調査壁で厚さ３～ 6㎝を測る。

Ⅱ⑥層：灰色土（褐色土混じり）。北壁の中央より西側と東壁、西壁で厚さ 6㎝～ 10㎝を測る。

Ⅱ⑦層：灰褐色土。北壁の中央より西側に厚さ 5㎝～ 10㎝を測る。

Ⅱ⑧層：（Ⅱ⑤層＋Ⅱ⑥層）混合土。北壁中央部で厚さ 3㎝を測る。

Ⅱ⑨層：明灰色土（褐色土混じり）。北壁中央より東側で厚さ 8㎝～ 10㎝を測る。

Ⅲ層：暗灰色土を基本とした遺物包含層で、僅かな土色の違いにより８層に分層した。

Ⅲ①層：暗灰色土。東壁を除く調査壁で厚さ 10 ～ 28㎝を測る。

Ⅲ②層：暗灰色土よりやや明るい。南壁中央部より東側で厚さ 4cm ～ 15cm を測る。

Ⅲ③層：暗灰色土よりやや明るい（褐色土混じり）。東壁で厚さ 4㎝～８㎝を測る。

Ⅲ④層：暗灰茶褐色土（一部に黄色土混じり）。南壁東側で厚さ 28㎝を測る。

Ⅲ⑤層：暗灰色土（茶褐色土混じり）。南壁中央部で厚さ 18㎝を測る。

Ⅲ⑥層：暗灰色土（一部に黒色土混じり）。東壁で厚さ 5㎝～ 15㎝を測る。

Ⅲ⑦層：暗灰茶褐色土。西壁で厚さ 5㎝～ 16㎝を測る。

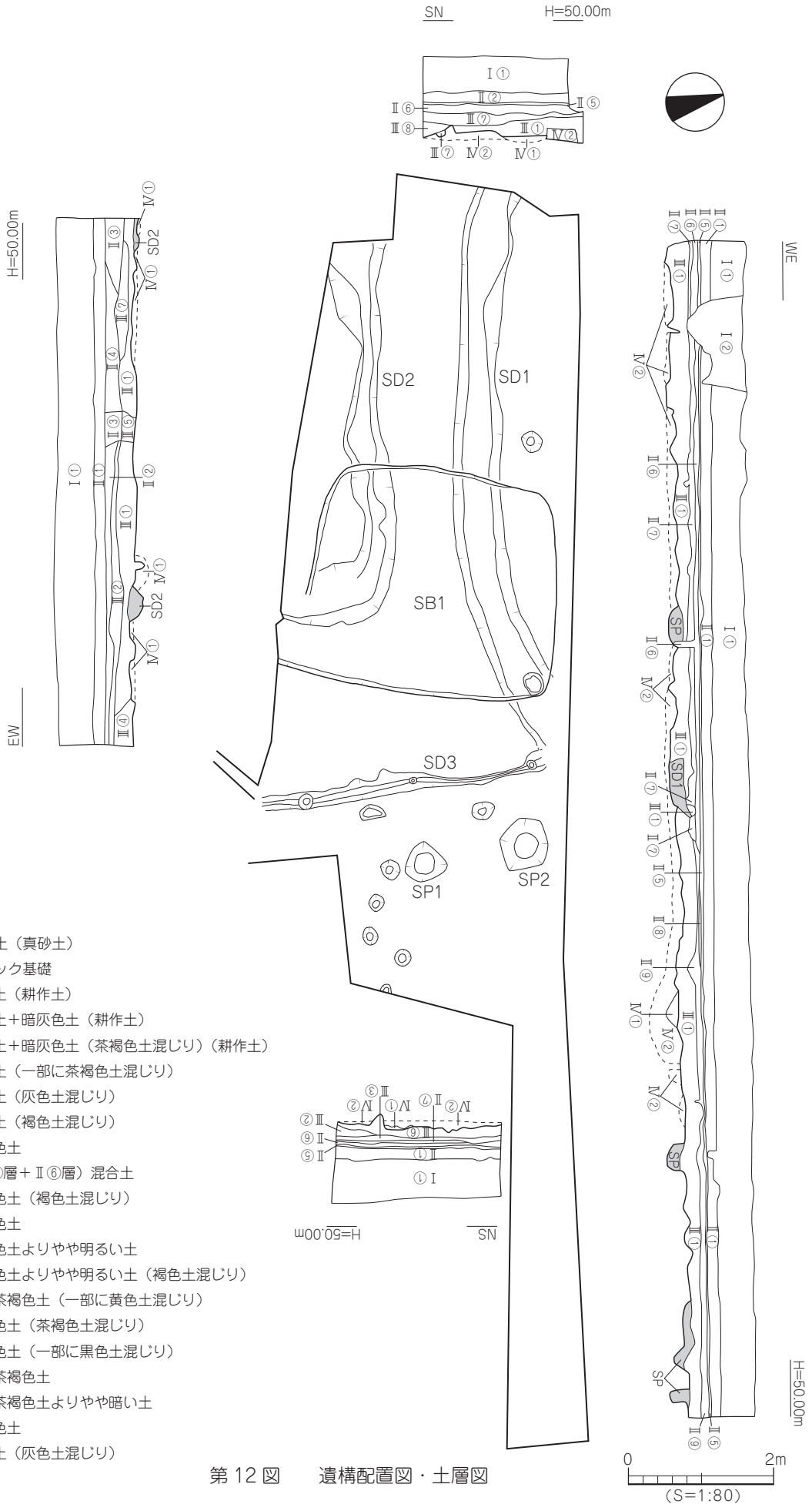
Ⅲ⑧層：暗灰茶褐色土よりやや暗い。西壁の南側で厚さ 20cm を測る。

Ⅳ層：地山である。土色の違いにより２層に分層した。なお、Ⅳ層上面が調査における遺構検出面である。

Ⅳ①層：灰黄色土。

Ⅳ②層：黄色土（灰色土混じり）。

遺構は竪穴建物、溝、柱穴を検出した。時期は古墳時代である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器が出土している。




Ⅰ①層：造成土（真砂土）
Ⅰ②層：ブロック基礎
Ⅱ①層：灰色土（耕作土）
Ⅱ②層：灰色土＋暗灰色土（耕作土）
Ⅱ③層：灰色土＋暗灰色土（茶褐色土混じり）（耕作土）
Ⅱ④層：灰色土（一部に茶褐色土混じり）
Ⅱ⑤層：褐色土（灰色土混じり）
Ⅱ⑥層：灰色土（褐色土混じり）
Ⅱ⑦層：灰褐色土
Ⅱ⑧層：（Ⅱ⑤層＋Ⅱ⑥層）混合土
Ⅱ⑨層：明灰色土（褐色土混じり）
Ⅲ①層：暗灰色土
Ⅲ②層：暗灰色土よりやや明るい土
Ⅲ③層：暗灰色土よりやや明るい土（褐色土混じり）
Ⅲ④層：暗灰茶褐色土（一部に黄色土混じり）
Ⅲ⑤層：暗灰色土（茶褐色土混じり）
Ⅲ⑥層：暗灰色土（一部に黒色土混じり）
Ⅲ⑦層：暗灰茶褐色土
Ⅲ⑧層：暗灰茶褐色土よりやや暗い土
Ⅳ①層：灰黄色土
Ⅳ②層：黄色土（灰色土混じり）

第 12 図　遺構配置図・土層図

# 第３節　遺構と遺物

## （１）古墳時代

検出した遺構は、竪穴建物１棟、溝３条である。

１）竪穴建物（ＳＢ）

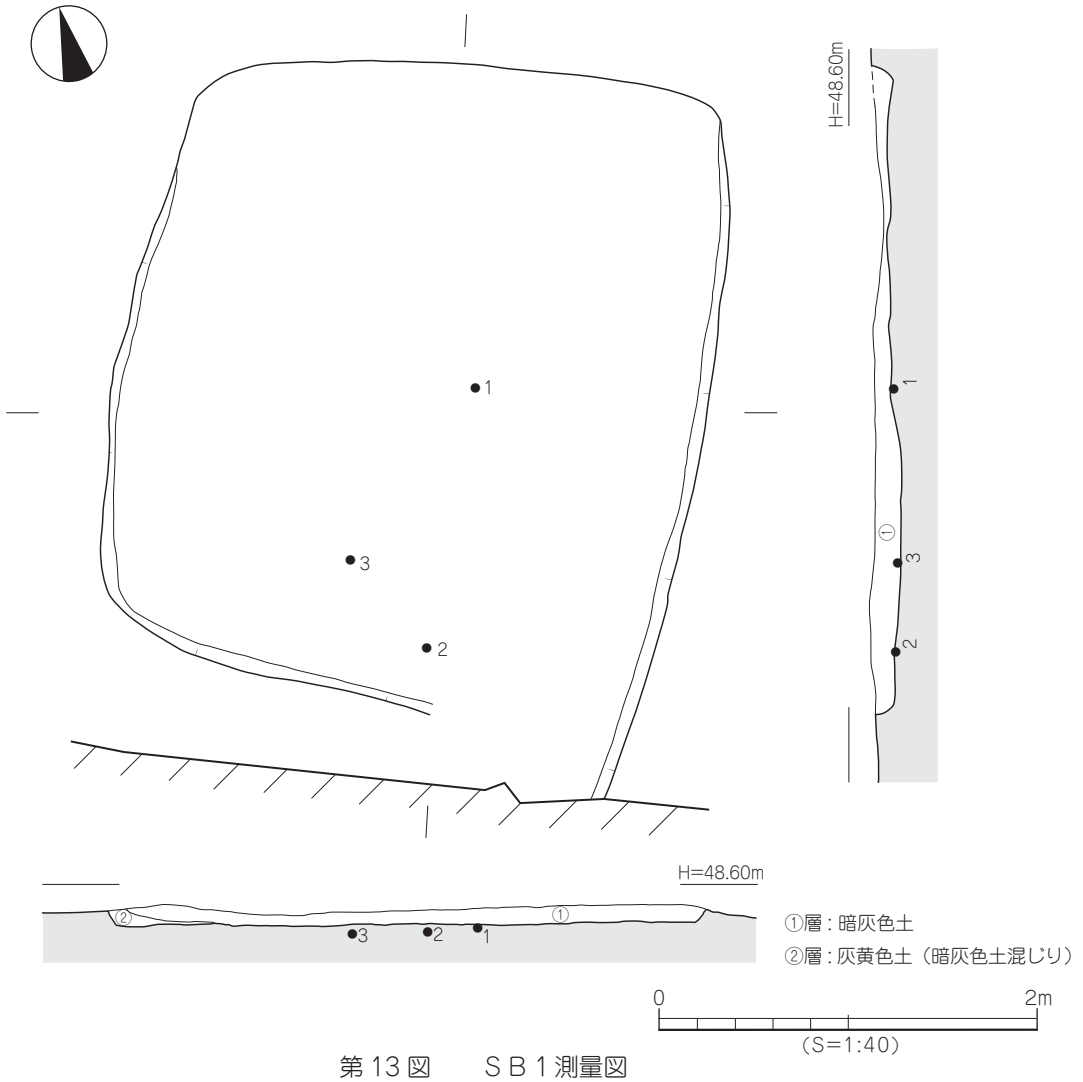
ＳＢ１（第 13・14 図、写真図版７～ 10）

ＳＢ１は調査区中央部に位置し、ＳＤ１とＳＤ２を切る。なお、住居南西の一部は明確でなく、調査区外に続く。平面形態は方形を呈し、規模は南北検出長 3.70m、東西長 3.10m、壁高 10㎝を測る。内部施設はない。埋土は２層に分層でき、①層：暗灰色土、②層：灰黄色土（暗灰色土混じり）である。出土遺物は、須恵器、土師器、弥生土器がある。

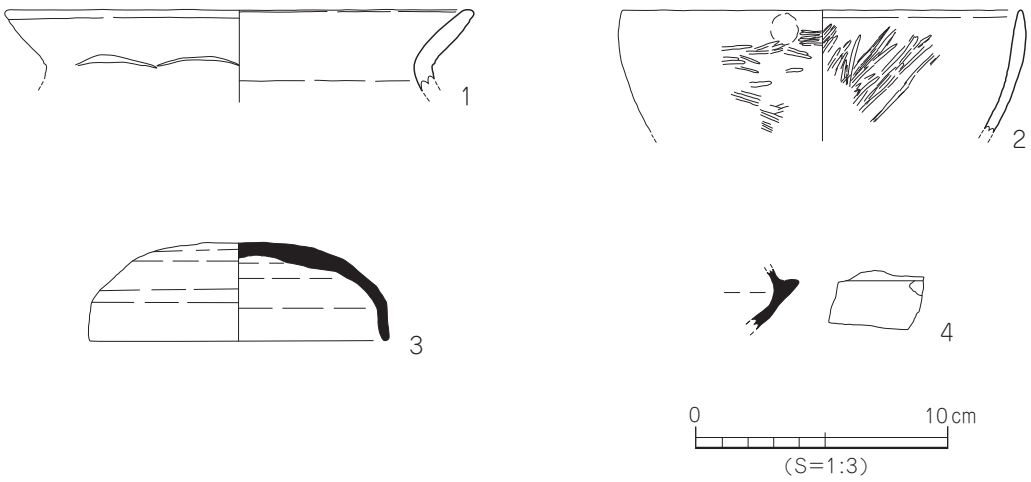
**出土遺物**（1 ～ 4）

1・2 は土師器。1 は甕形土器の口縁部片、2 は鉢形土器の口縁部片で、2 の内外面にはヘラミガキを施す。3・4 は須恵器。3 は坏蓋の完形品。天井部は丸味をもち、天井部と口縁部の境界は稜をなす。4 は坏身の小片である。

**時期**：出土した須恵器の形態より、ＳＢ１の廃棄・埋没時期は古墳時代後期中葉とする。




第 13 図　　ＳＢ１測量図




第 14 図　　ＳＢ１出土遺物実測図

２）溝（ＳＤ）

ＳＤ１（第 15 図、写真図版 7・9）

ＳＤ１は調査区北部に位置し、わずかに北側に湾曲する東西方向の溝である。東側の一部がＳＢ１に切られ、西側と北側は調査区外に続く。ＳＤ３と重複するが、先後関係は不明である。規模は検出長 7.63m、幅 0.65m、深さ 8㎝を測る。断面形態は皿状で、埋土は暗灰色土（黄色土混じり）の単層である。溝内から、遺物は出土していない。

**時期**：ＳＢ１に切られることより、ＳＤ１の埋没時期は古墳時代後期中葉以前とする。

ＳＤ２（第 15 図、写真図版 7・9）

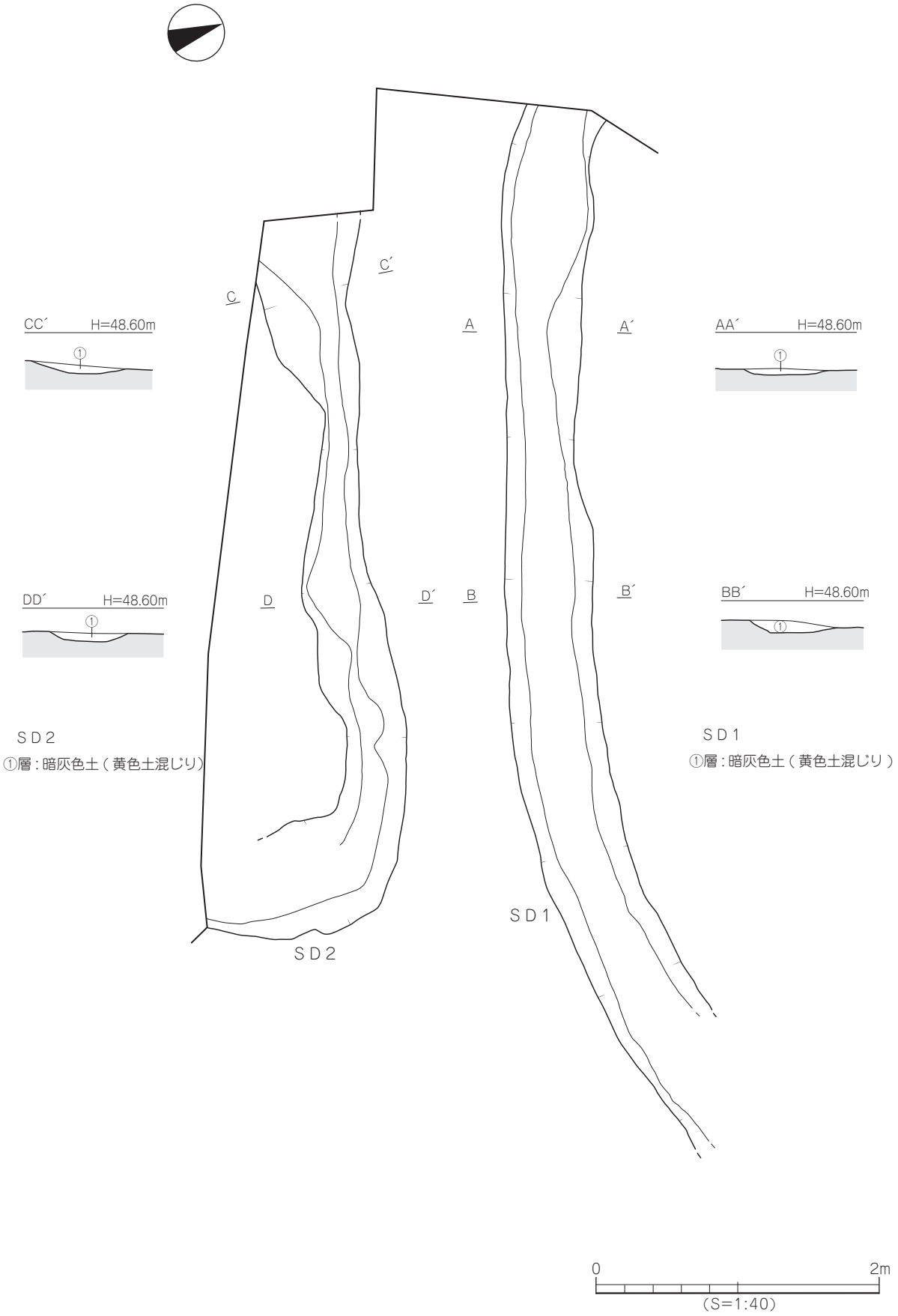
ＳＤ２は調査区南部に位置し、西から東方向に延び、南に折れ曲がる溝である。南東部の折れ曲がる部分がＳＢ１に切られ、西側と南側は調査区外に続く。規模は検出長 5.95m、幅 0.24 ～ 0.84m、深さ 9㎝を測る。断面形態は皿状で、埋土は暗灰色土（黄色土混じり）の単層である。遺物は、弥生土器の胴部片１点が出土している。

**時期**：ＳＢ１に切られることより、ＳＤ２の埋没時期は古墳時代後期中葉以前とする。

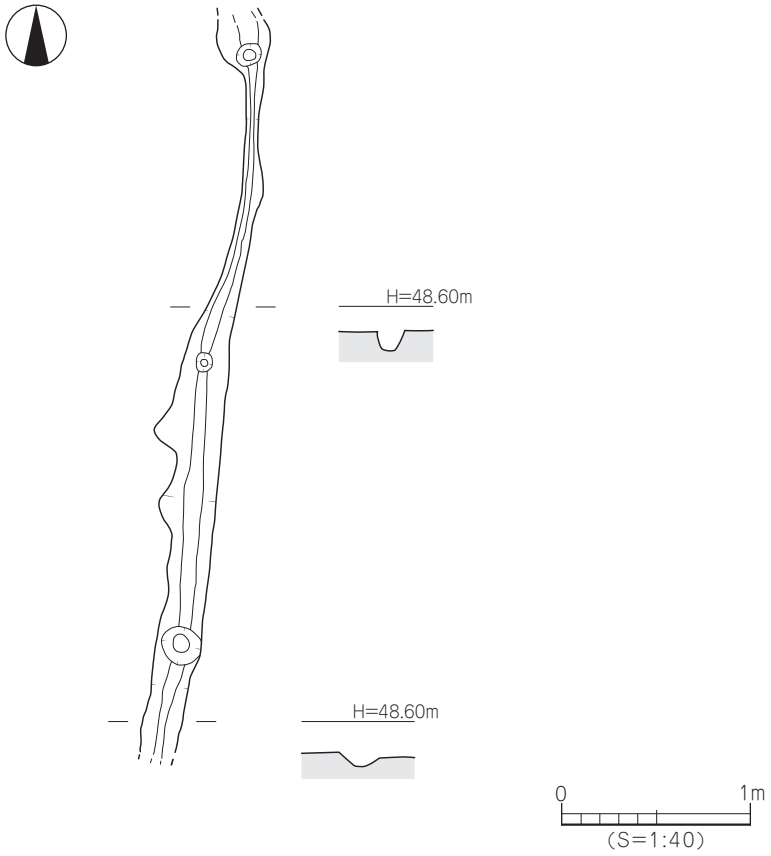
ＳＤ３（第 16 図、写真図版 7・9）

ＳＤ３は調査区東部に位置する南北方向の溝で、北側と南側は調査区外に続く。溝北側がＳＤ１と重複するが、先後関係は不明である。規模は検出長 4.0 m、幅 0.12 ～ 0.36 m、深さ 6 ～ 10㎝を測る。断面形態は、「Ｕ」字状である。埋土は不明である。遺物は、須恵器と土師器が出土している。

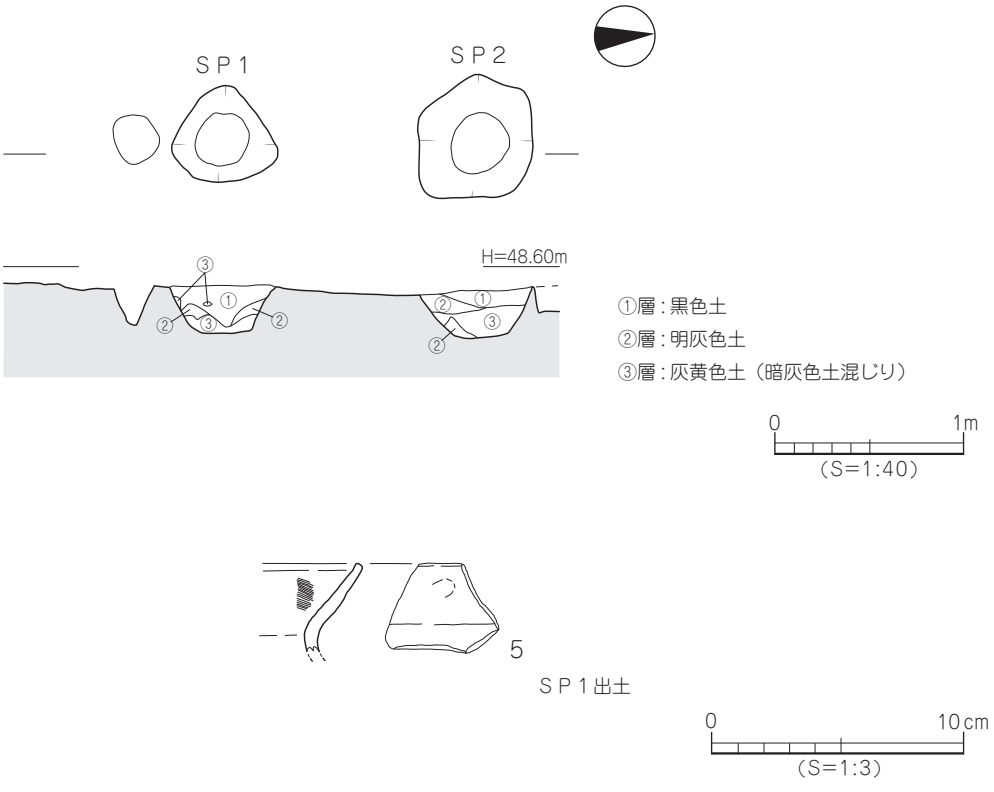
**時期**：出土遺物やＳＤ１と重複することから、ＳＤ３の埋没時期は古墳時代後期中葉としておく。




第15図　　SD1・SD2測量図




第16図　　ＳＤ３測量図




第17図　　ＳＰ１・ＳＰ２測量図・ＳＰ１出土遺物実測図

### ３）柱穴（ＳＰ）（第 17 図、写真図版 9）

柱穴は 12 基を検出した。ＳＰ１・ＳＰ２は調査区東部で、南北方向に 1.4m の間隔を測る。平面形態は不整形で、規模はＳＰ１が長径 55㎝、短径 51cm、深さ 25cm を測り、ＳＰ２は、長径 65cm、短径 60cm、深さ 25cm を測る。埋土は３層に分層でき①層 : 黒色土、②層 : 明灰色土、③層 : 灰黄色土（暗灰色土混じり）である。遺物は、ＳＰ１から甕形土器の口縁部片（5）が出土している。

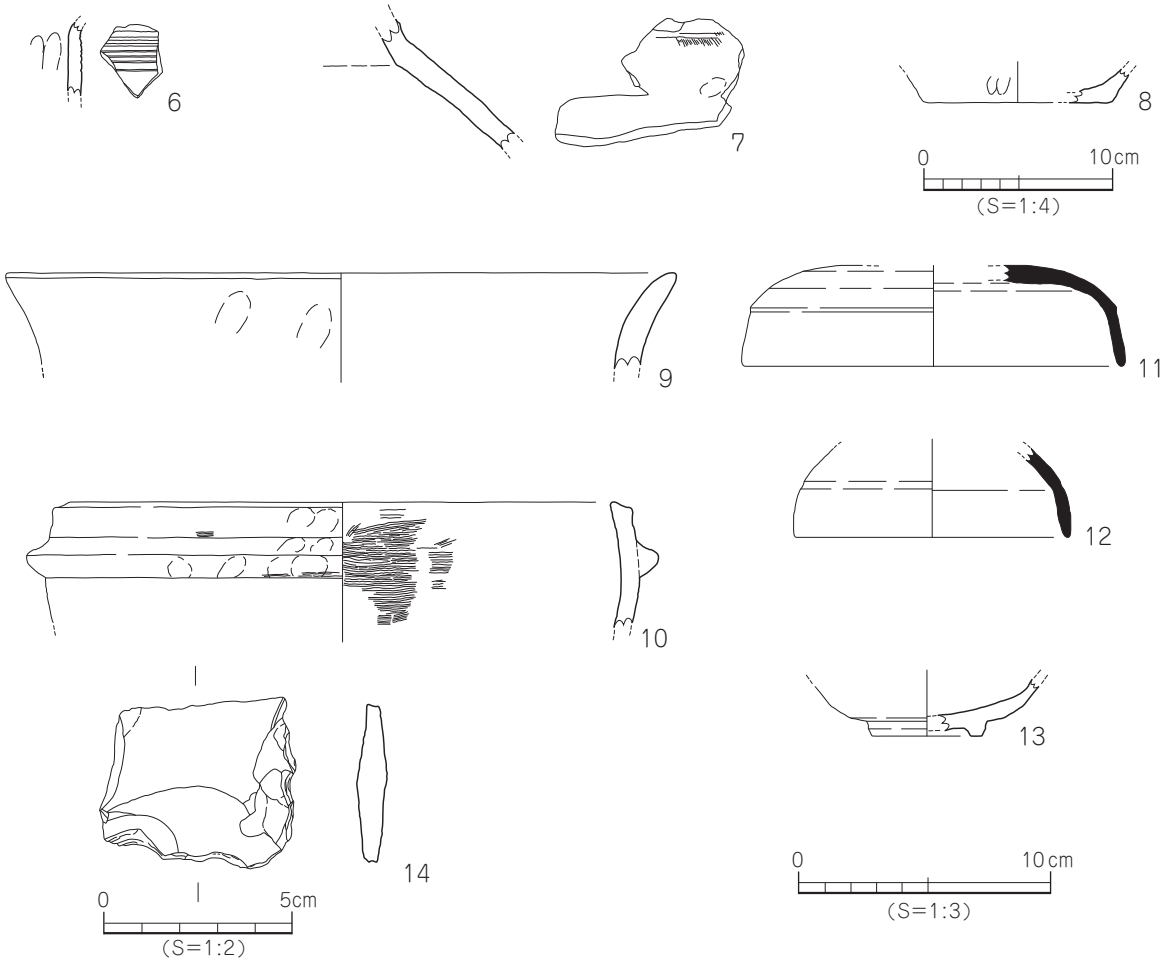
その他の 11 基の柱穴は、平面形態が円形を呈するものがほとんどである。規模は径 15 ～ 33cm、深さ 2.3 ～ 19.6㎝を測る。柱穴内から、遺物は出土していない。

**ＳＰ５出土遺物**

5 は土師器甕形土器の口縁部片で、口縁端部は僅かに上方へ肥厚する。

## （２）地点不明出土遺物（第 18 図、写真図版 10）

6 ～ 14 は、出土地点が不明な遺物である。6 ～ 8 は弥生土器。6 は甕形土器の頸部から胴部の小片で、外面に沈線文を施す。弥生前期。7･8 は壺形土器。7 は頸部片。8 は平底の底部の小片。9･10 は土師器。9 は甕の口縁部片で、口縁端部は尖り気味に丸い。10 は土釜の口縁部で、口縁端部は外傾する凹面をなす。11・12 は須恵器の坏蓋。13 は陶器の碗である。高台が付く。14 はサヌカイトの剥片である。




第 18 図　　地点不明出土遺物実測図

## 第４節　小　結

本調査からは、古墳時代後期の竪穴建物１棟、溝３条及び弥生土器や土師器、須恵器、陶器、石器を検出した。調査地周辺では、平成１８年までに鷹子新畑遺跡として４次の調査が行われ、弥生時代前期末から中世までの竪穴住居、溝、土坑、井戸を検出している。

**地形**　鷹子新畑遺跡内における４次の調査から検出した遺構面を検証すると、調査地周辺の地形は北東から南西に緩やかに傾斜していることが確認でき、集落を形成する環境に適していることが確認できた。

**弥生時代**　本調査からは弥生時代の遺構は検出されていないが、弥生時代前期末から中期初頭の遺物が包含層内から出土している。本調査の北側に位置する鷹子新畑遺跡２次調査からは、弥生時代前期末から中期初頭の溝と土坑を検出している。遺構内からは甕形土器や壺形土器の完形品が出土していることから、集落に関連する遺構が本調査地周辺にも展開すると思われる。

**古墳時代**　本調査からは、６世紀中葉の竪穴建物１棟と溝３条を検出した。調査地の北に位置する２次調査からは、古墳時代の竪穴建物４棟を検出し、その内の１棟は５世紀末の方形の竪穴建物でカマドが付設されている。調査地周辺には、５世紀後半から６世紀中葉にかけての集落が広がっていた事が確認できた。

【文献】

「鷹子新畑遺跡２次調査」　松山市埋蔵文化財調査年報Ⅴ
「鷹子新畑遺跡３次調査」　松山市埋蔵文化財調査年報Ⅶ
「鷹子新畑遺跡４次調査」　松山市埋蔵文化財調査年報１８

## 遺構・遺物一覧　－ 凡例 －

（1） 以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

（2） 遺物観察表の各掲載について

法量欄　（ ）：推定復元値

調整欄　土製品の各部名称を略記した。

例）口→口縁部、口端→口縁端部、頸→頸部、底→底部、天→天井部。

胎土・焼成欄　胎土欄では混和剤を略記した。

例）石→石英、長→長石、金→金ウンモ、密・精→精製土。

（ ）の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例）石・長（1 ～ 4）→「1 ～ 4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良。

表 11　竪穴建物一覧

| 竪穴（ＳＢ） | 地　区 | 平面形 | 規　模 長さ×幅×壁高（m） | 埋　土 | 内部施設 | 出土遺物 | 時　期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 方形 | 3.70 × 3.10 × 0.10 | 暗灰色土<br>灰黄色土<br>(暗灰色土混じり) | | 須恵器・土師器・弥生土器 | 古墳時代後期中葉 | ＳＤ１・２を切る。 |

表 12　溝一覧

| 溝（ＳＤ） | 地　区 | 方　向 | 断面形 | 規　模 長さ×幅×深さ（m） | 埋　土 | 出土遺物 | 時　期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 東西 | 皿状 | 7.63 × 0.65 × 0.08 | 暗灰色土<br>(黄色混じり) | | 古墳時代後期中葉以前 | ＳＢ１に切られる。 |
| 2 | | 西→東→南 | 皿状 | 5.95 × 0.24 ～ 0.84 × 0.09 | 暗灰色土<br>(黄色混じり) | 弥生土器 | 古墳時代後期中葉以前 | ＳＢ１に切られる。 |
| 3 | | 南北 | U字状 | 4.0 × 0.12 ～ 0.36 × 0.06 ～ 0.10 | | 須恵器<br>土師器 | 古墳時代後期中葉 | ＳＤ１と重複先後関係不明 |

表 13　ＳＢ１出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）<br>（内面） | 胎土<br>焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | 口径（18.4）<br>残高　3.2 | 外頃する短い口縁部。外面頸部に弧状の工具痕。 | ナデ | ナデ・ヨコナデ | にぶい赤褐色<br>にぶい赤褐色 | 石・長（1）金<br>◎ | | 10 |
| 2 | 鉢 | 口径（15.8）<br>残高　4.8 | 直立気味の口縁部。口縁端部は尖り気味である。内面に放射状暗文。 | (口端)ナデ<br>ヘラミガキ | ミガキ・ナデ | にぶい橙色<br>にぶい橙色 | 長（1 ～ 2）金<br>◎ | | 10 |
| 3 | 坏蓋 | 口径　11.8<br>残高　3.9 | 完形品。丸みを持つ天井部に、直立気味に接地する口縁部。口端縁部は丸い。 | (天) 回転ヘラケズリ<br>(口) 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石（1）<br>◎ | | 10 |
| 4 | 坏身 | 残高　2.4 | 短く水平に伸びる受部。端部は丸みを持つ。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 密<br>◎ | 自然釉 | |

表 14　ＳＰ出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）<br>（内面） | 胎土<br>焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 甕 | 残高　3.5 | 口縁端部は、わずかに上方へ肥厚する。 | ナデ | (口端)ナデ<br>ハケ・ケズリ | 橙色<br>橙色 | 石・長（1）金<br>◎ | ＳＰ１ | |

表 15　地点不明出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 | | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外面 | 内面 | | | | |
| 6 | 甕 | 残高　3.8 | 外面に6条のヘラ描き沈線文を施す。 | ナデ（指頭痕） | ナデ | にぶい黄橙色<br>にぶい黄橙色 | 石・長（1）金<br>◎ | | 10 |
| 7 | 壺 | 残高　7.0 | 厚みのある頸部片。 | ㊦ ハケ | マメツ | にぶい黄橙色<br>にぶい黄橙色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 8 | 壺 | 底径（9.8）<br>残高　1.7 | 平底の底部片。 | ナデ | ナデ | にぶい橙色<br>橙色 | 石（1）<br>◎ | | |
| 9 | 甕 | 口径（26.4）<br>残高　3.8 | 外反する口縁部。口縁端部は尖り気味に丸い。 | ナデ | ナデ（指頭痕） | にぶい赤褐色<br>橙色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 10 | 土釜 | 口径（21.4）<br>残高　4.9 | 口縁部端面の中央部が凹む。外面に断面三角形状の凸帯を巡らす。 | ナデ | ハケ（11本/cm） | にぶい黄橙色<br>にぶい黄橙色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 11 | 坏蓋 | 口径（15.0）<br>残高　4.0 | 天井部と口縁部を分ける稜は、わずかに段を持つ。口縁端部は丸みを持つ。 | ㊤ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 密<br>◎ | 自然釉 | 10 |
| 12 | 坏蓋 | 口径（11.0）<br>残高　3.5 | 口縁部片。端部は尖り気味に丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 密<br>◎ | 自然釉 | |
| 13 | 碗 | 底径（4.4）<br>残高　2.2 | 水平に接地する高台部。 | ㊦ ケズリ<br>施釉 | 施釉 | 灰白色<br>灰白色 | 密<br>◎ | | |

表 16　地点不明出土遺物観察表　石製品

| 番号 | 器種 | 残存 | 材質 | 法量 | | | | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | | |
| 14 | 剥片 | | サヌカイト | 4.5 | 5.1 | 0.75 | 25.77 | | 10 |

第Ⅳ章

# 中ノ子Ⅰ遺跡

# 第Ⅳ章　中ノ子Ⅰ遺跡

## 第１節　調査の経過

### （１）調査に至る経緯（第 19 図）

平成元年９月８日、松山市南土居町３０４番３における個人住宅建設に先立って、当該地が松山市の周知の埋蔵文化財包蔵地「№１３２　中ノ子廃寺遺物包含地」内に位置することから、埋蔵文化財確認願及び文化財保護法第５７条の２第１項の届出書(以下､届出書という)が松山市教育委員会(以下、市教委という）に提出された。これを受け、市教委は資料と遺跡分布調査を実施し、結果、遺跡が展開することを推測するに至った。その後、この結果と届出書を受けた愛媛県教育委員会より発掘調査の指示が下りたため、申請者及び関係者と協議し、発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、国庫補助を受け、市教委文化教育課及び松山市埋蔵文化財センターが主体となり、平成元年１０月４日より着手した。

なお、申請地周辺では、これまでに開遺跡が調査され、古墳時代の建物跡や、遺物が多数検出されている。

### （２）調査の経緯（第 20 図）

はじめに、調査区の設定を行った。調査区は、東西方向に幅約 6m、長さ約 23m、南北方向に幅約 9m､長さ約 16mの逆「L」字状の調査区を設定した。掘削は､重機を使用して地表下 20㎝まで行った。掘削土は、南西部を排土置き場とした。重機による掘削後、遺構検出を行い、掘立柱建物、溝、土坑、柱穴を検出した。遺構検出状況の写真撮影を行い、遺構測量用の測量杭を 3m グリッドで設置し、平板測量にて 50 分の１の遺構配置図の作成を行った。続いて、調査壁の測量を行ない、遺構埋土の土色確認を行った後、掘立柱建物より遺構の掘削を開始した。遺構からは遺物が出土したため、測量と写真撮影を行った。掘立柱建物、溝、柱穴など、すべての遺構掘削終了後に完掘状況の測量と写真撮影を行い、屋外調査を終了する。

## 第２節　層　位（第 21 図）

基本層位は土色の違いによりⅥ層に分層し、Ⅰ層は２層に細分した。

Ⅰ①層：耕作土①、調査区全域で厚さ 8㎝～ 17㎝を測る。

Ⅰ②層：耕作土②、灰褐色土、調査区北壁の東側と西側で厚さ２～ 8㎝を測る。

Ⅱ　層：床土①、調査区北壁で厚さ２～ 5㎝を測る。

Ⅲ　層：床土②、灰褐色土と褐色土の混じり、調査区北壁東側で厚さ 7㎝を測る。

Ⅳ　層：床土③、黄褐色土、調査区北壁中央部で厚さ 8㎝を測る。

Ⅴ　層：耕作土③、褐色土と黄色土混じり、調査区北壁中央部と西側で厚さ３～ 8㎝を測る。

Ⅵ　層：耕作土④、褐色土、調査区北壁で部分的に厚さ 6㎝を測る。

グリッドは、南北軸が北から南にＮ１、Ｎ２･･･Ｎ６、Ｎ７東西軸が東から西にＥ１、Ｅ２･･･Ｅ８、Ｅ９とした。北東角が N1E1 区、東から西に N1E2 区、N1E3 区と呼称する。

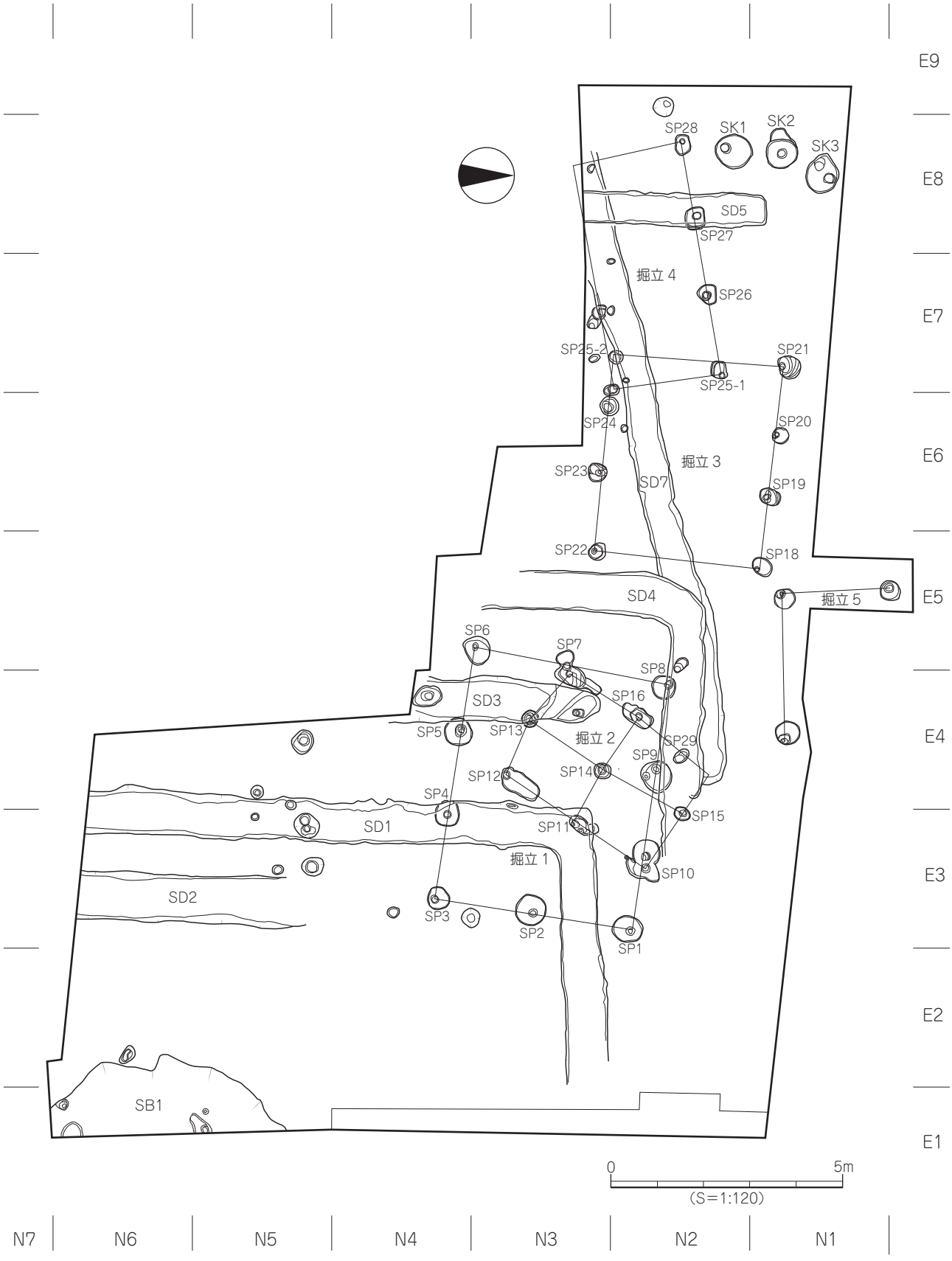
遺構は竪穴建物１棟、掘立柱建物５棟、土坑３基、溝６条、柱穴２１基を検出し、遺物は弥生土器、須恵器、陶磁器、石製品が出土した。

(S=1:4,000)

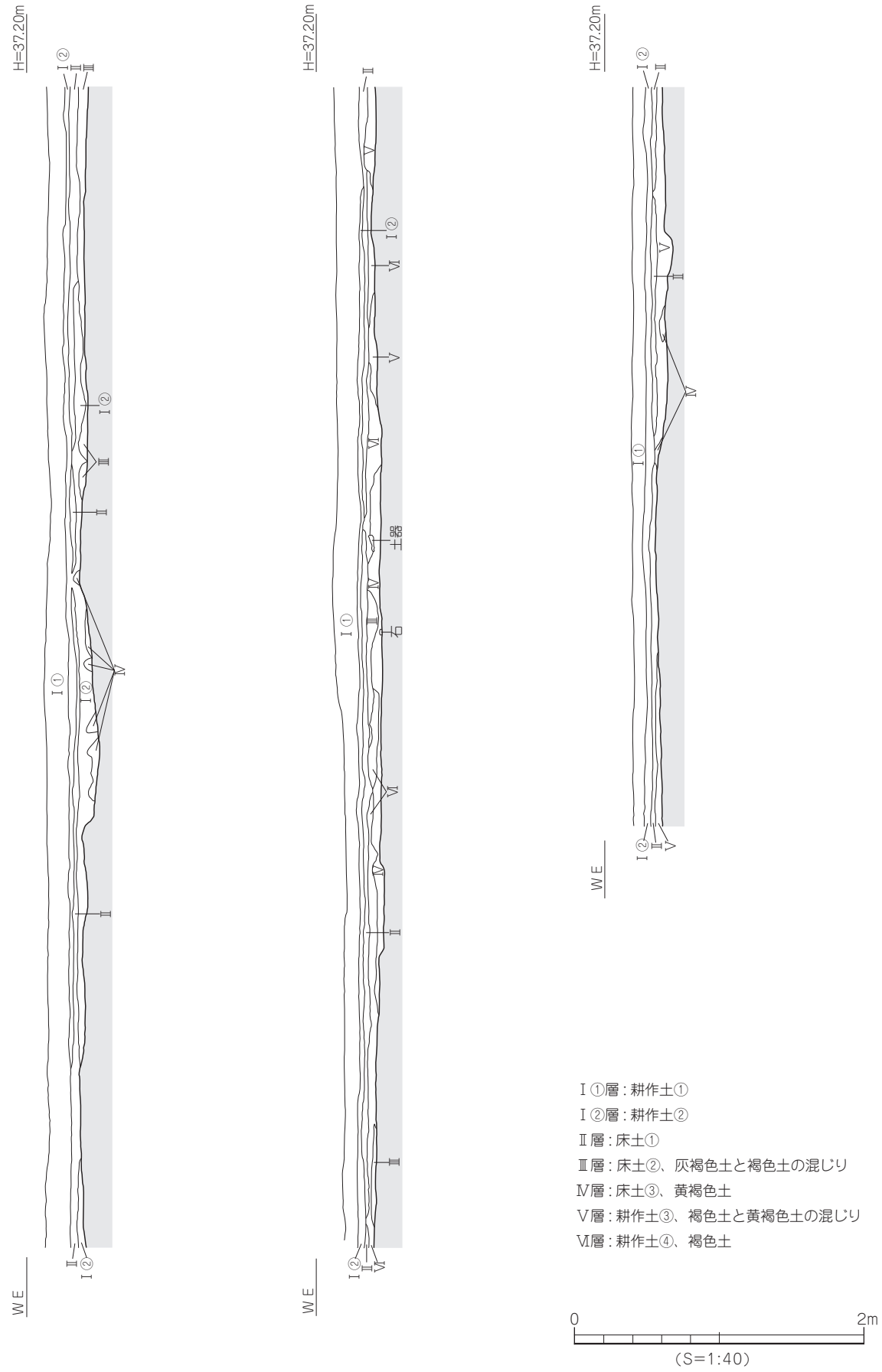
●中ノ子Ⅰ遺跡

❶開遺跡 1 次調査　❷開遺跡 2 次調査

第 19 図　周辺調査地位置図


E9
E8
E7
E6
E5
E4
E3
E2
E1
N7
N6
N5
N4
N3
N2
N1
SP28
SK1
SK2
SK3
SD5
SP27
掘立 4
SP26
SP25-2
SP21
SP25-1
SP24
SP20
掘立 3
SP23
SD7
SP19
SP22
SP18
SD4
掘立 5
SP6
SP7
SP8
SD3
SP16
SP5
SP13
掘立 2
SP29
SP9
SP12
SP14
SP4
SP15
SD1
SP11
掘立 1
SP10
SD2
SP3
SP2
SP1
SB1
0
5m
(S=1:120)

第 20 図　遺構配置図


H=37.20m
W E
土器
Ⅰ①層：耕作土①
Ⅰ②層：耕作土②
Ⅱ層：床土①
Ⅲ層：床土②、灰褐色土と褐色土の混じり
Ⅳ層：床土③、黄褐色土
Ⅴ層：耕作土③、褐色土と黄褐色土の混じり
Ⅵ層：耕作土④、褐色土
0
2m
（S=1:40）

第 21 図　　北壁土層図

# 第３節　遺構と遺物

## （１）弥生時代

検出した遺構は竪穴建物１棟、土坑３基である。

１）竪穴建物（ＳＢ）

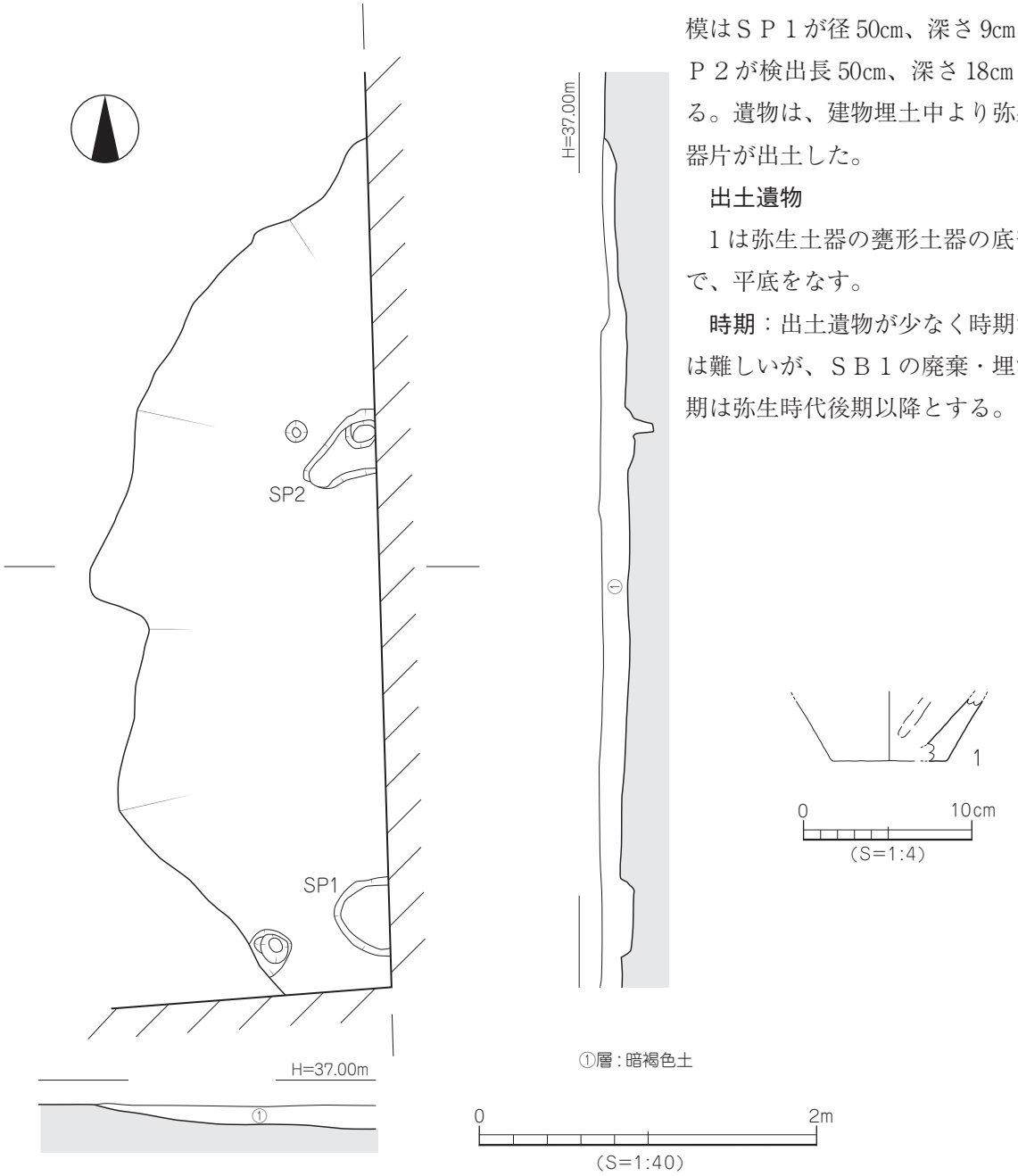
ＳＢ１（第 22 図、写真図版 11・14）

ＳＢ１は調査区南東の N5E1 区～ N6E1 区に位置し、東側と南側は調査区外に続く。平面形態は、不整形な円形状で、規模は南北検出長 5.06m、東西検出長 1.73 m、深さ 18cm を測る。断面形態は、レンズ状を呈し、壁面は緩やかに立ち上がる。埋土は、暗褐色土である。内部施設は、主柱穴を２基検出した。各柱穴の東側は調査区外に続くが、平面形態はＳＰ１が円形、ＳＰ２が楕円形である。規模はＳＰ１が径 50㎝、深さ 9㎝、ＳＰ２が検出長 50㎝、深さ 18㎝を測る。遺物は、建物埋土中より弥生土器片が出土した。

**出土遺物**

１は弥生土器の甕形土器の底部片で、平底をなす。

**時期**：出土遺物が少なく時期決定は難しいが、ＳＢ１の廃棄・埋没時期は弥生時代後期以降とする。




第 22 図　　ＳＢ１測量図・出土遺物実測図

２）土坑（ＳＫ）

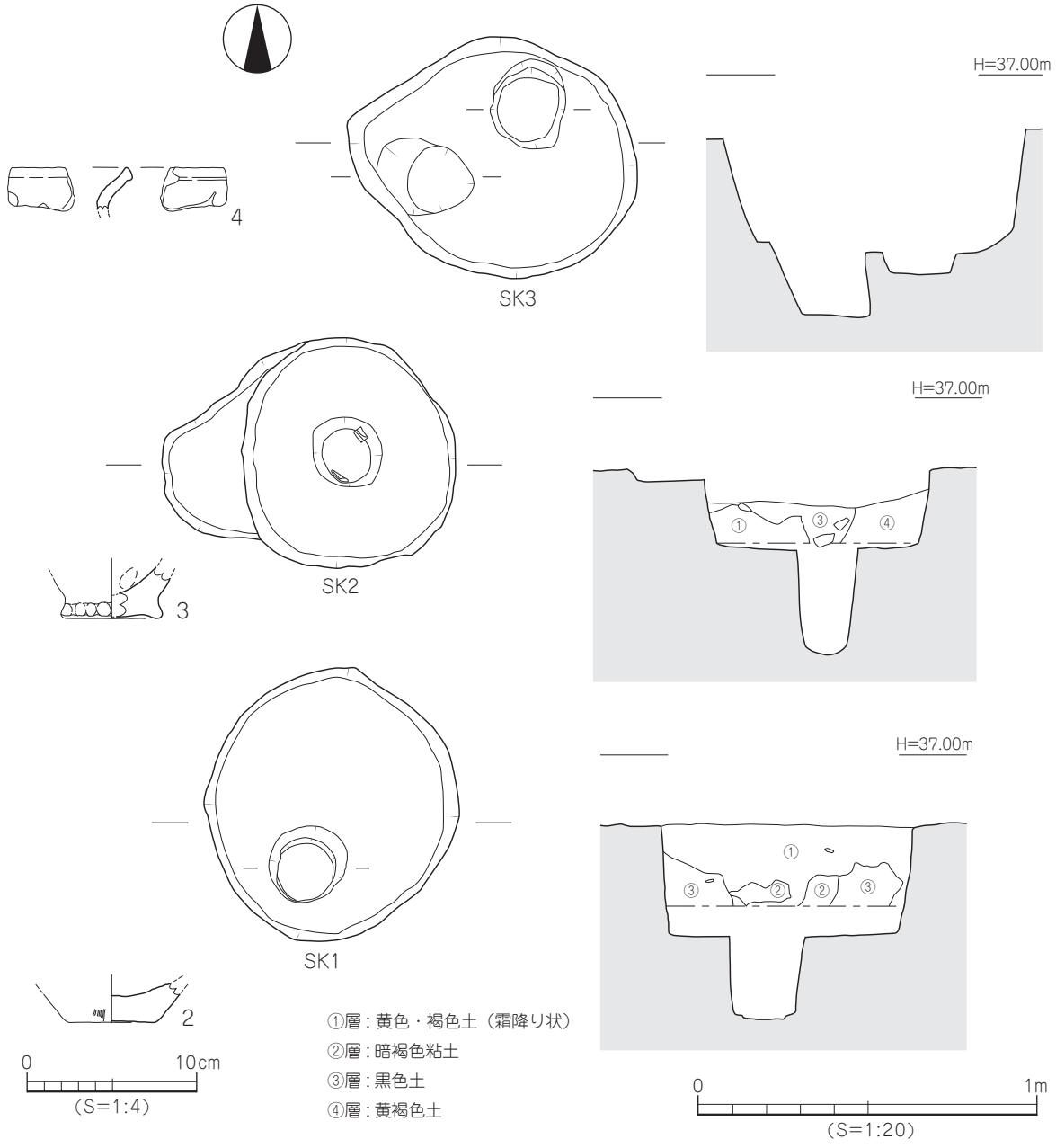
ＳＫ１（第 23 図、写真図版 11・13・14）

ＳＫ１は、調査区西部の N2E8 区に位置する。平面形態は円形で、規模は径 0.75m ～ 0.82m、深さ 33cmを測る。断面形態は、逆台形状である。土坑基底面にて、径 22cm、深さ 24cmのピットを検出した。埋土は３層に分層され、①層：黄色・褐色土（霜降り状）、②層：暗褐色粘土、③層：黒色土である。出土遺物は、弥生土器がある。

**出土遺物**

2 は弥生土器の壺形土器の底部片で、わずかに上げ底をなす。

**時期**：出土遺物から、ＳＫ１の埋没時期は弥生時代後期後半とする。




第 23 図　　ＳＫ１・ＳＫ２・ＳＫ３測量図・出土遺物実測図

ＳＫ２（第 23 図、写真図版 11・13・14）

ＳＫ２は、調査区西部の N1E8 区に位置する。平面形態は円形で、規模は径 0.63m ～ 0.67m、深さ 23cm を測る。断面形態は、逆台形状である。土坑基底面にて、径 17㎝、深さ 30㎝のピットを検出した。埋土は３層に分層され、①層 : 黄色・褐色土（霜降り状）、③層 : 黒色土、④層 : 黄褐色土である。出土遺物は、弥生土器がある。

**出土遺物**

3 は弥生土器の鉢形土器の底部片で、わずかに突出部を持つ上げ底をなす。

**時期**：出土遺物から、ＳＫ２の埋没時期は弥生時代後期後半とする。

ＳＫ３（第 23 図、写真図版 11・13・14）

ＳＫ３は、調査区西部の N1E8 区に位置する。平面形態は楕円形で、規模は長径 0.86m、短径 0.70m、深さ 36㎝を測る。断面形態は、逆台形状である。土坑基底面にて、径 25㎝、深さ 19㎝と径 21㎝、深さ 7㎝のピットを検出した。埋土は、不明である。出土遺物は、弥生土器がある。

**出土遺物**

4 は弥生土器の甕形土器の口縁部片で、「く」の字状を呈する。

**時期**：出土遺物から、ＳＫ３の埋没時期は弥生時代後期後半とする。

## （２）古墳時代

検出した遺構は掘立柱建物５棟、溝１条である。

１）掘立柱建物（掘立）

掘立１（第 24 図、写真図版 12・14）

掘立１は調査区中央部の N2E3 区～ N3E5 区に位置し、溝ＳＤ１・ＳＤ３・ＳＤ４に切られる。掘立２とは切り合うが、先後関係は不明である。２間×３間の東西棟で、建物規模は東西長 5.4m、南北長 4.3m を測る。柱穴は、10 基を検出した。平面形態は円形で、規模は径 50 ～ 70㎝、深さ 32 ～ 46cm 測る。柱痕は、全ての柱穴から検出した。平面形態は円形で、規模は径 18cm を測る。柱穴埋土は、不明である。出土遺物は、弥生土器と須恵器がある。

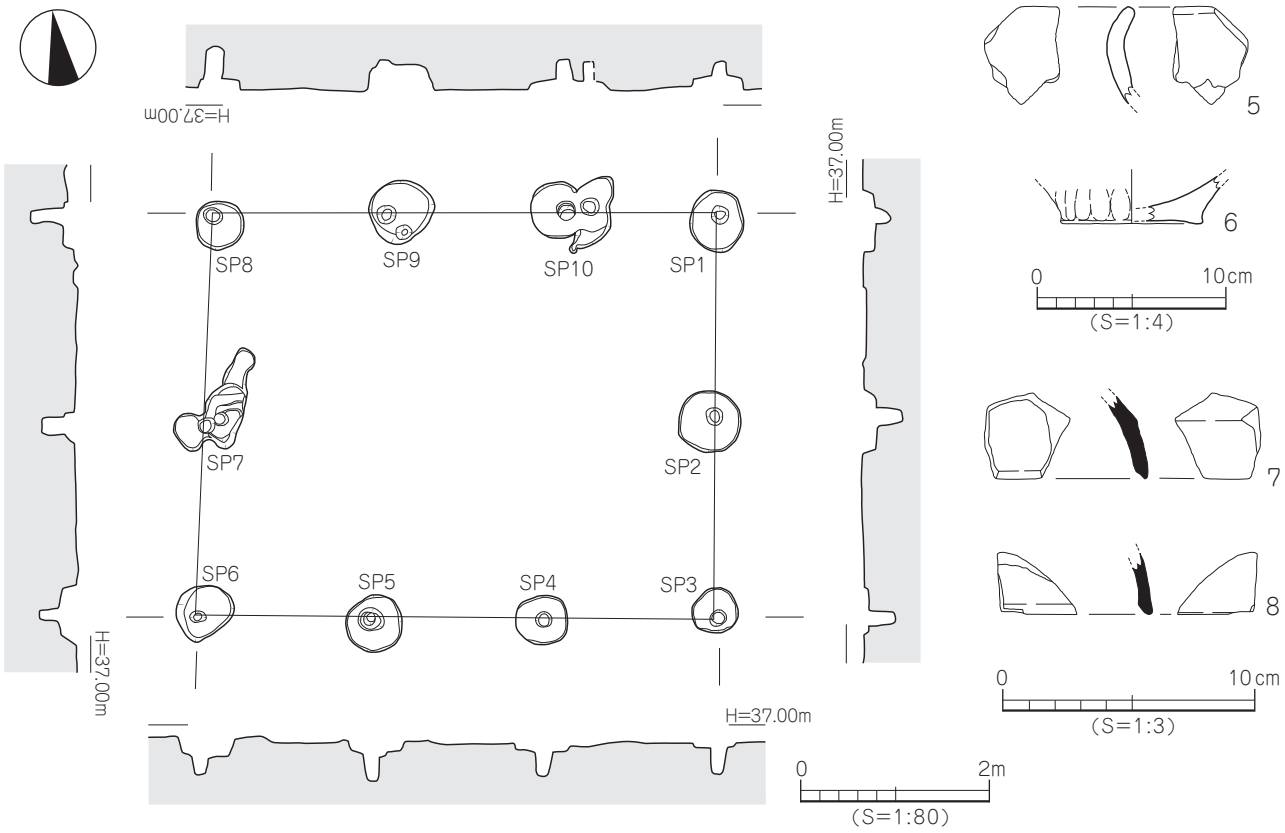
**出土遺物**（5 ～ 8）

5 は弥生土器の甕形土器の口縁部。6 は弥生土器の甕形土器の底部片。7・8 は須恵器の坏蓋片で、口縁端部は内傾する。

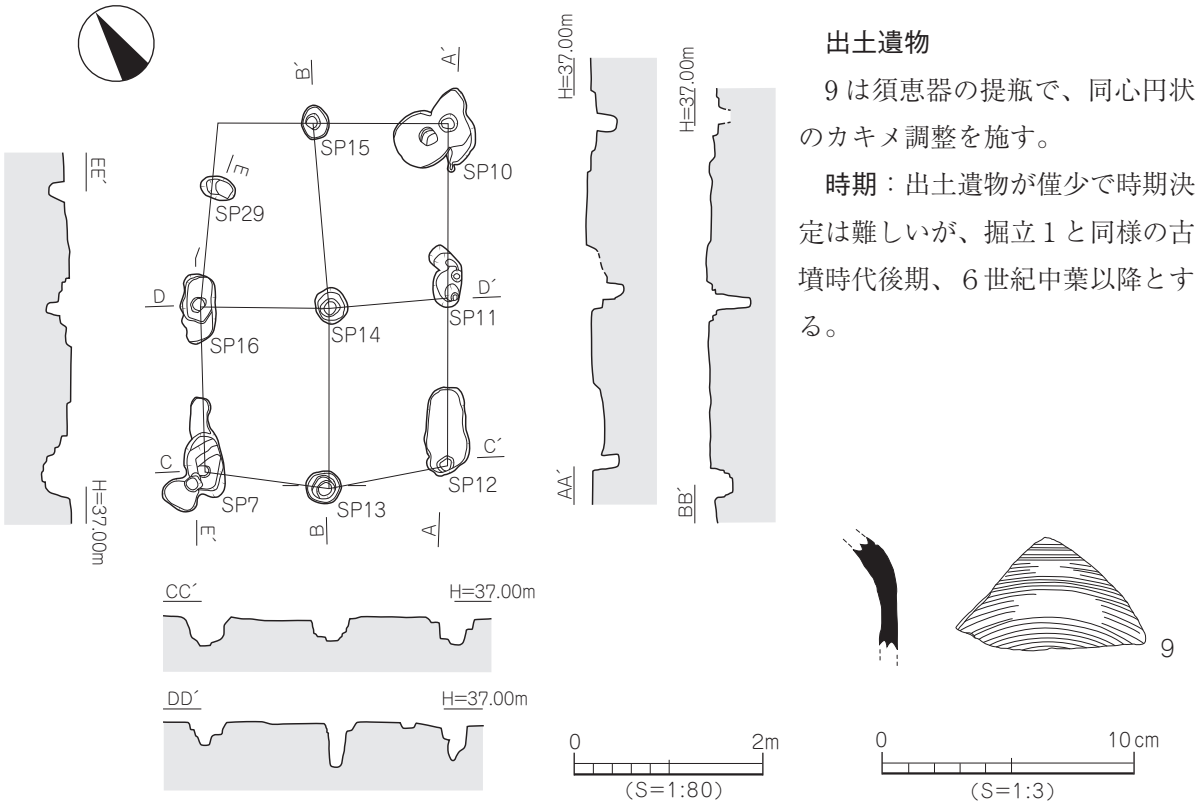
**時期**：出土した須恵器から、掘立１は古墳時代後期、６世紀中葉以降とする。

掘立２（第 25 図、写真図版 12・14）

掘立２は調査区中央部の N2E3 区～ N3E5 区に位置し、溝ＳＤ１・ＳＤ３・ＳＤ４に切られる。掘立１と切り合うが、先後関係は不明である。２間×２間の総柱で、建物方位は南西から北東に主軸を取り、東西長 3.9m、南北長 3.7m を測る。柱穴９基の平面形態は円形と楕円形で、規模は径 25 ～ 80㎝、深さ 18 ～ 46㎝を測る。柱穴埋土は、不明である。出土遺物は、須恵器がある。




第 24 図　　掘立 1 測量図・出土遺物実測図




第 25 図　　掘立 2 測量図・出土遺物実測図

**出土遺物**

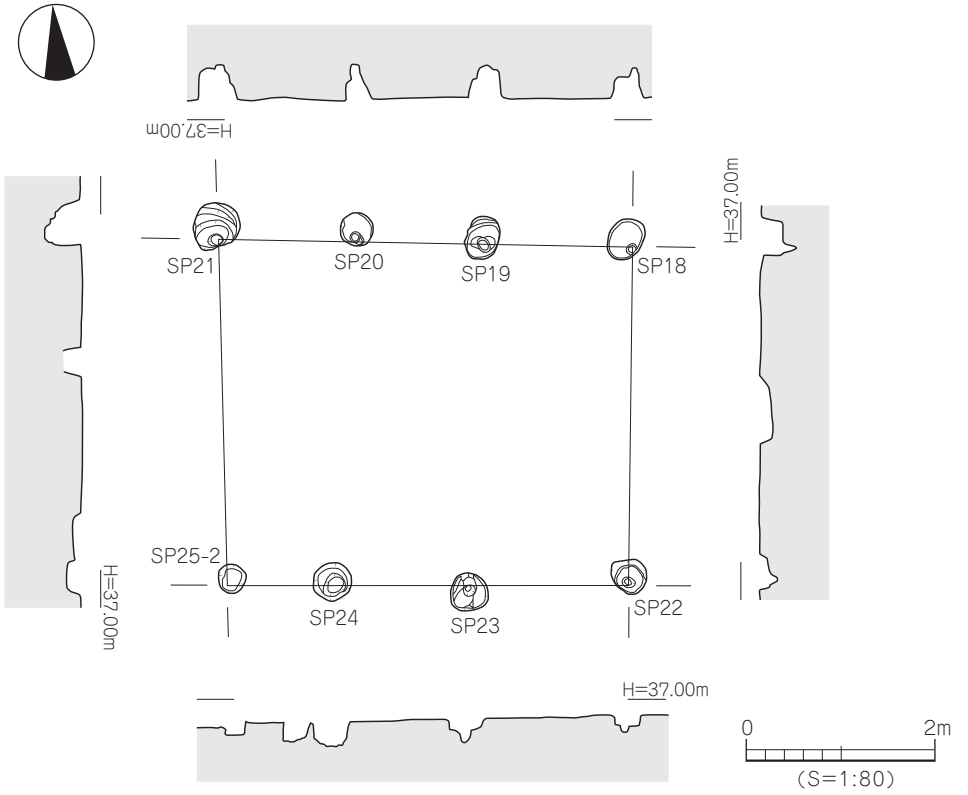
9 は須恵器の提瓶で、同心円状のカキメ調整を施す。

**時期**：出土遺物が僅少で時期決定は難しいが、掘立 1 と同様の古墳時代後期、6 世紀中葉以降とする。

掘立３（第 26 図、写真図版 13）

掘立３は調査区西部の N1E5 区～ N2E7 区に位置し、溝ＳＤ７（６世紀前半）を切っている。１間×３間の東西棟で、建物規模は東西長 4.4m、南北長 3.55m を測る。柱穴８基の平面形態は円形で、規模は径 30 ～ 52㎝、深さ 15 ～ 40㎝を測る。柱穴埋土は不明である。各柱穴から、出土遺物はない。

**時期**：出土遺物がないため時期決定は難しいが、ＳＤ７より後出することから、掘立３は概ね６世紀前半以降とする。




第 26 図　　掘立３測量図

掘立４（第 27 図、写真図版 13）

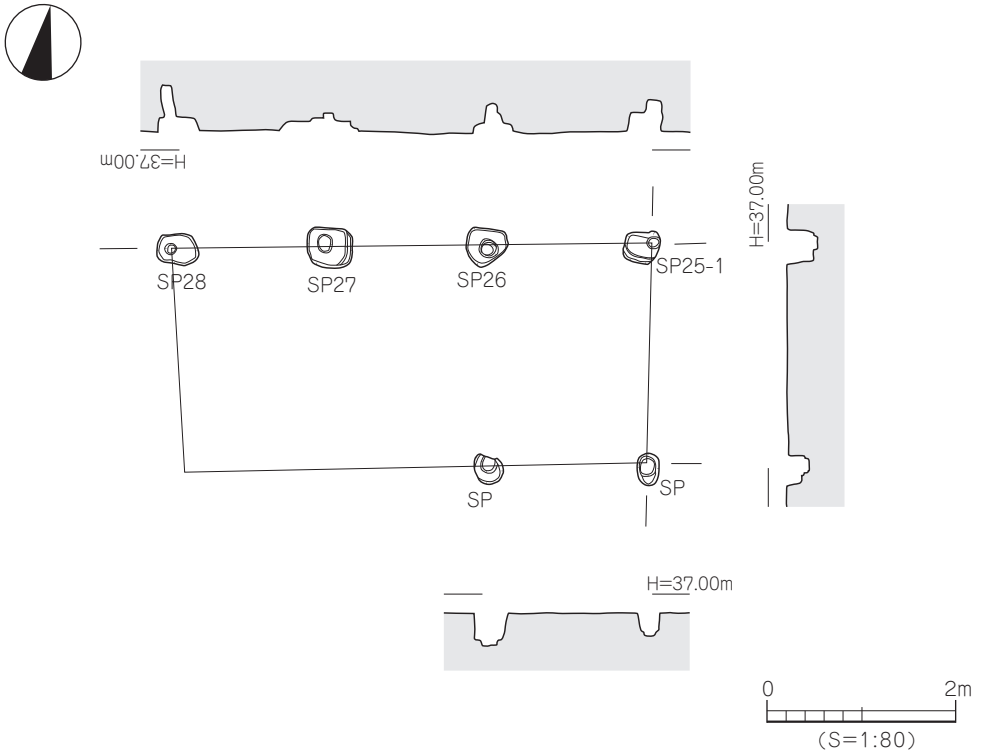
掘立４は調査区西部の N2E7 区～ N3E8 区に位置し、ＳＤ７を切りＳＤ５に切られている。１間×３間の東西棟で、建物規模は東西長 5.1m、南北長 2.4m を測る。柱穴６基の平面形は円形と楕円形で、規模は径 24 ～ 48㎝、深さ 20 ～ 50㎝を測る。柱穴埋土は、不明である。出土遺物は弥生土器片があるが、図化可能な遺物はない。

**時期**：時期決定しうる遺物はないが、ＳＤ７より後出することから、掘立４は概ね６世紀前半以降とする。

２）溝（ＳＤ）

ＳＤ７（第 28・29 図、写真図版 13・14）

ＳＤ７は調査区の西部から中央部の N2E4 区～ N3E8 区に位置し、南西側は調査区外に続く。ＳＤ４・ＳＤ５及び掘立３と掘立４に切られている。規模は検出長 13.83 m、幅 0.78 m、深さ 13cm を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は２層に分層され、①層：暗褐色粘質土、②層：薄褐色粘性土、③層：暗褐色粘性土である。出土遺物は、弥生土器と須恵器、石製品がある。

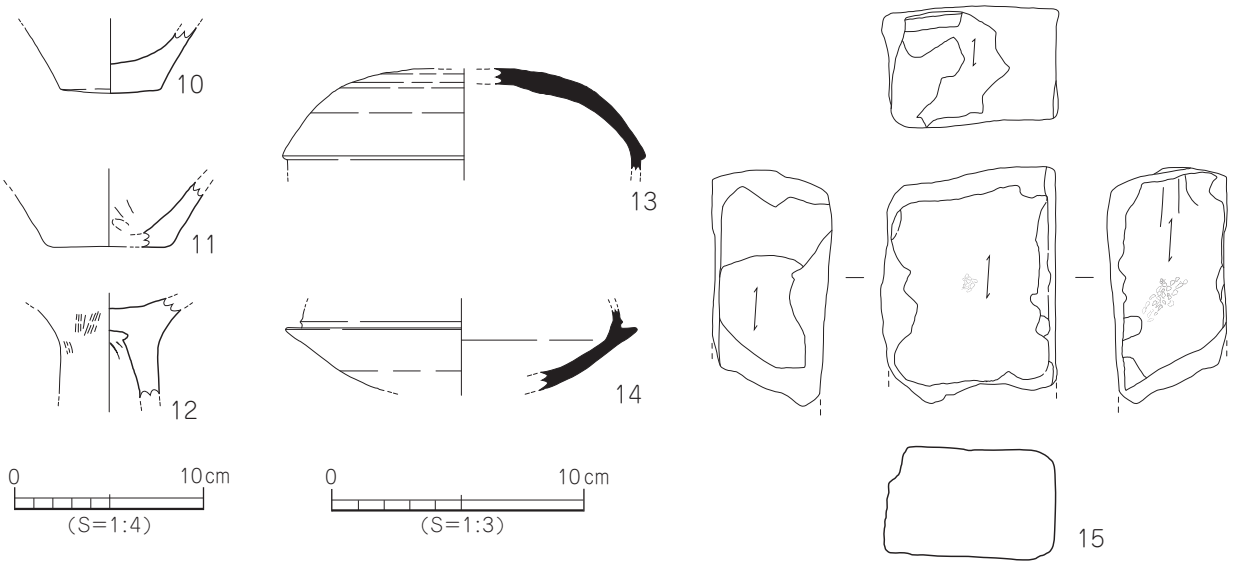



第 27 図　　掘立 4 測量図

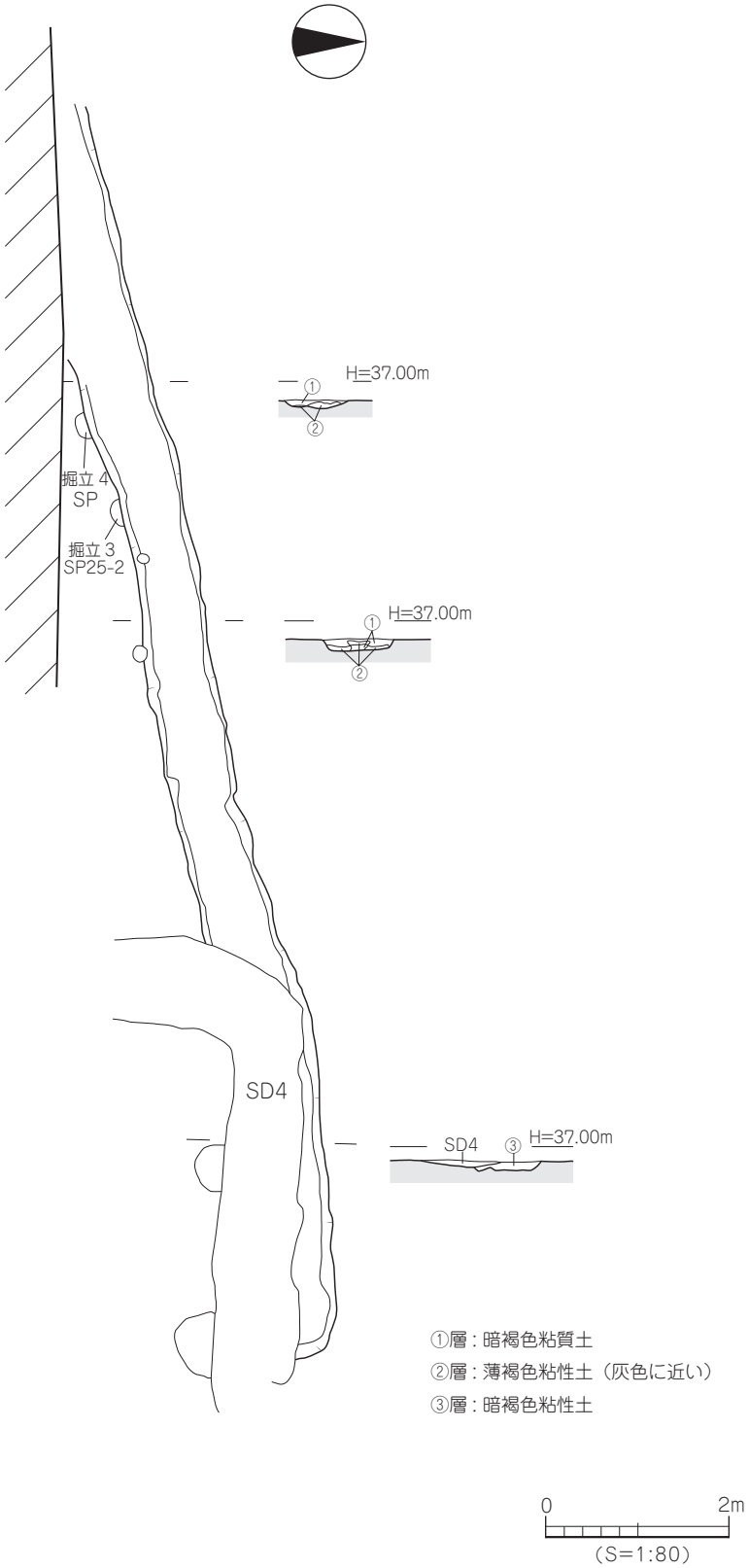
**出土遺物**（10 ～ 15）

10 ～ 12 は弥生土器で、10･11 は甕形土器の底部片、12 は高坏形土器の基部である。13 は須恵器坏蓋、14 は坏身である。13 は断面三角形状の稜を持つ。15 は石英粗面岩の砥石で、３面の砥面を持つ。

**時期**：出土した須恵器の特徴から、ＳＤ７の埋没時期は６世紀前半とする。




第 28 図　　ＳＤ７出土遺物実測図


H=37.00m
①
②
掘立 4
SP
掘立 3
SP25-2
H=37.00m
①
②
SD4
SD4
③
H=37.00m
①層：暗褐色粘質土
②層：薄褐色粘性土（灰色に近い）
③層：暗褐色粘性土
0
2m
（S=1:80）

第 29 図　　ＳＤ７測量図

## （3）近世

### 1）溝（ＳＤ）

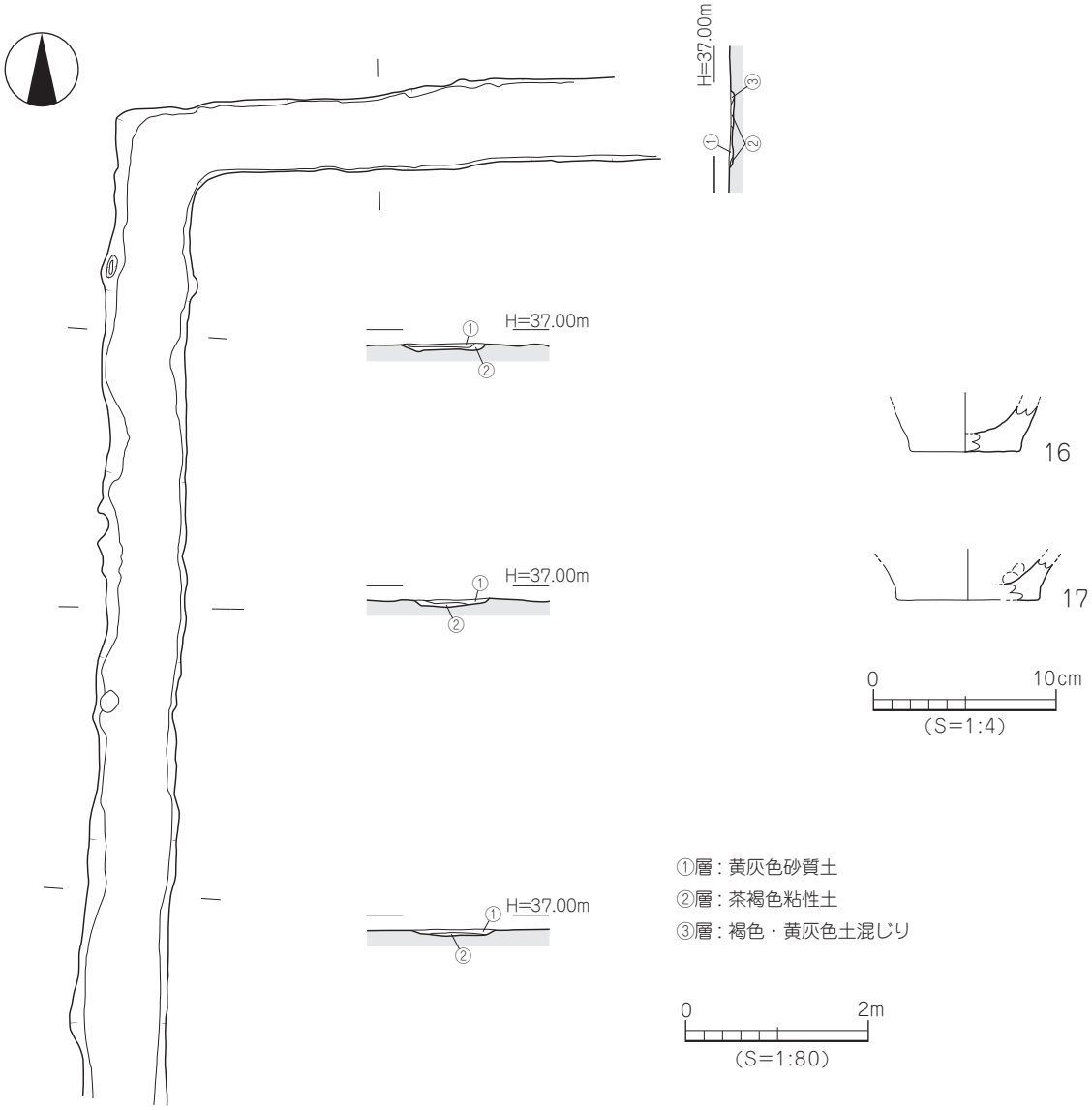
ＳＤ１（第 30 図、写真図版 11）

ＳＤ１は調査区南東部の N3E2 区～ N6E4 区に位置し、「L」字状に曲がる。近世の柱穴に切られ、掘立Ⅰと掘立２の柱穴を切る。規模は検出長 16.0 ｍ、幅 0.82 ｍ、深さ 8㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は３層に分層され、①層 : 黄灰色砂質土、②層 : 茶褐色粘性土、③層 : 褐色・黄灰色土混じりである。出土遺物は弥生土器、須恵器、陶磁器がある。

**出土遺物**（16・17）

16・17 は弥生土器の甕形土器の底部片で、平底をなす。

**時期**：ＳＤ１は検出状況と埋土から、近世の農耕に伴う溝とする。

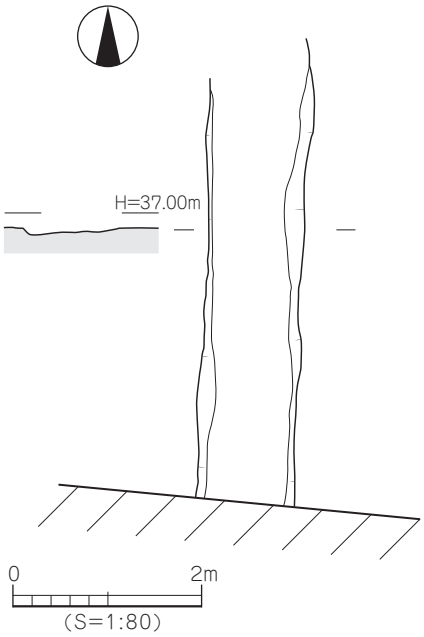



第 30 図　　ＳＤ１測量図・出土遺物実測図

ＳＤ２（第 31 図、写真図版 11）

ＳＤ２は、調査区南東部の N5E3 区～ N6E3 区に位置する。規模は検出長 4.98m、幅 1.01m、深さ 8㎝を測る。断面形態は皿状であり、埋土は不明である。出土遺物は須恵器、陶磁器がある。

**時期**：ＳＤ２は検出状況と出土遺物から、近世の農耕に伴う溝とする。




第 31 図　　ＳＤ２測量図

ＳＤ３（第 32 図、写真図版 11）

ＳＤ３は調査区中央部の N3E4 区～ N4E4 区に位置し、南側は調査区外に続く。近世の柱穴に切られ、掘立１と掘立２を切る。規模は検出長 4.58m、幅 0.81m、深さ 10㎝を測る。断面形態は皿状であり、埋土は不明である。出土遺物は、須恵器と陶磁器がある。

**時期**：ＳＤ３は検出状況と出土遺物から、近世の農耕に伴う溝とする。

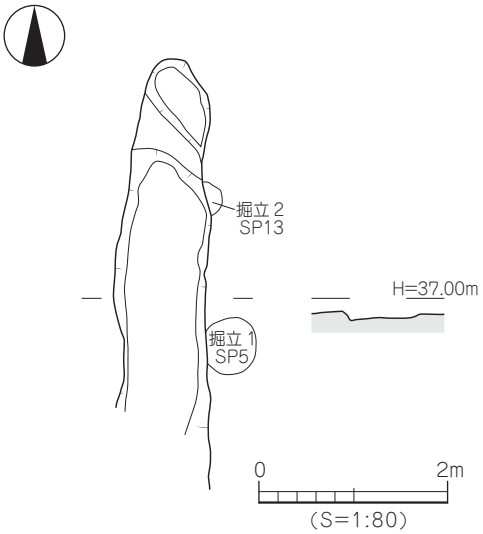
ＳＤ４（第 33 図、写真図版 13）

ＳＤ４は調査区中央部の N2E3 区～ N3E5 区に位置し、ＳＤ７、掘立 1、掘立２を切り、南側は調査区外に続く。規模は検出長 9.31 m、幅 0.96 m、深さ 7cm を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は２層に分層され、①層：黄灰色砂質土、②層：褐色粘質土である。出土遺物は、弥生土器と須恵器がある。

**出土遺物**

18 は弥生土器の甕形土器の底部片で、小さな平底をなす。

**時期**：ＳＤ４は、検出状況と埋土がＳＤ１と酷似することから、近世の農耕に伴う溝とする。




第 32 図　　ＳＤ３測量図

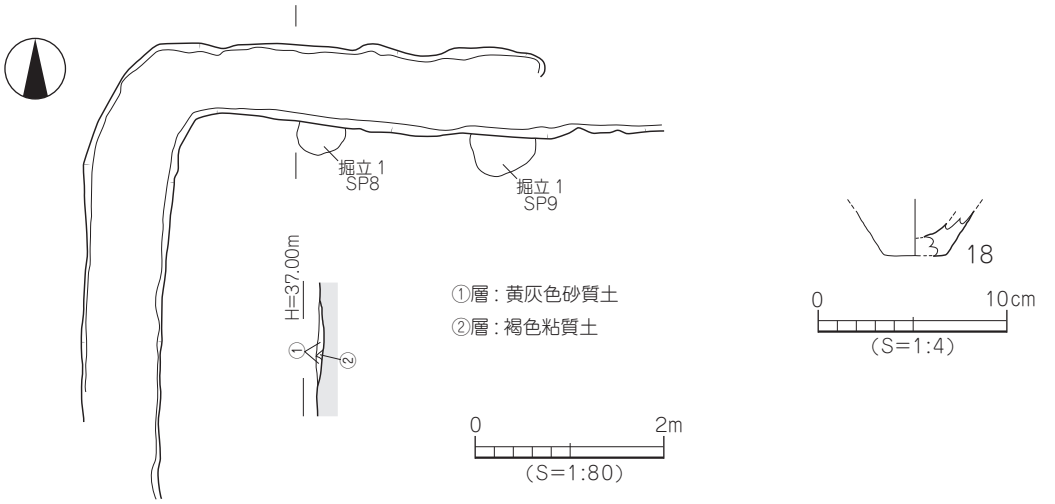
ＳＤ５（第 34 図、写真図版 13）

ＳＤ５は調査区西部の N1E8 区～ N3E8 区に位置し、掘立４、ＳＤ７を切り、南側は調査区外に続く。規模は検出長 4.0 m、幅 0.7 m、深さ 10㎝を測る。断面形態は皿状であり、埋土は不明である。出土遺物は弥生土器、須恵器、陶磁器がある。

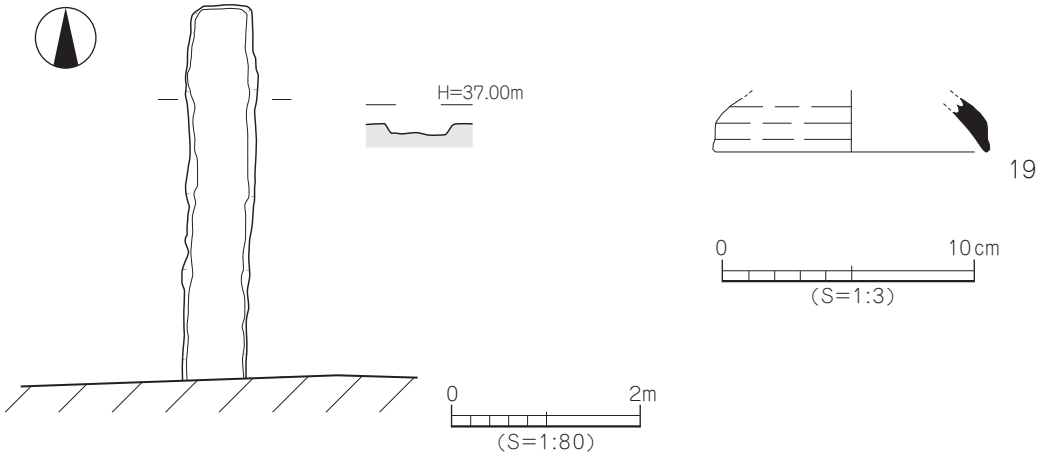
**出土遺物**

19 は須恵器の坏蓋片で、口縁端部は尖り気味に仕上げる。

**時期**：ＳＤ５は出土遺物から、近世の農耕に伴う溝とする。




第 33 図　　ＳＤ４測量図・出土遺物実測図




第 34 図　　ＳＤ５測量図・出土遺物実測図

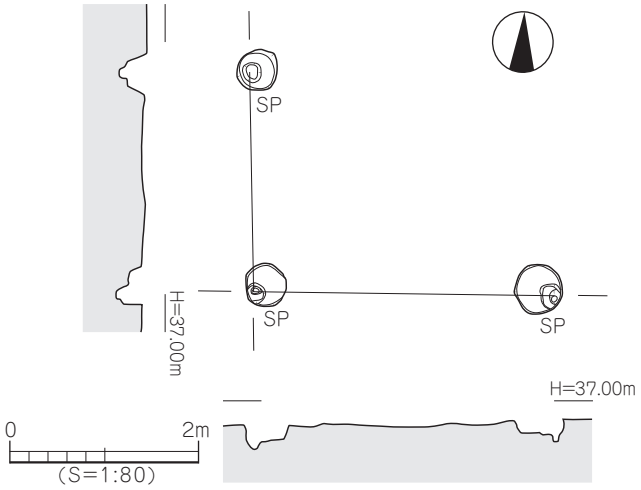
## （４）時期不明遺構と遺物

### １）掘立柱建物（掘立）

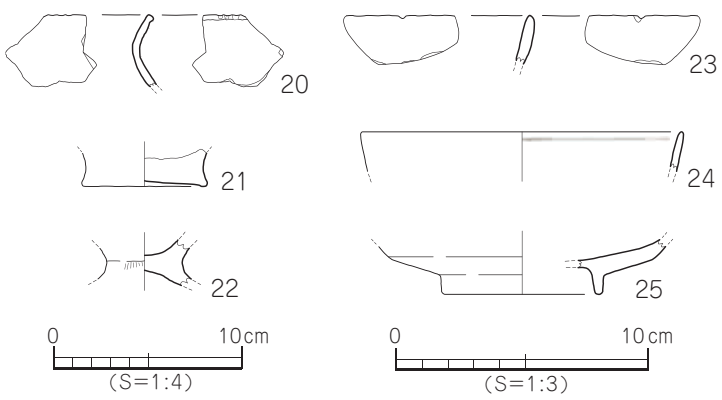
掘立５（第 35 図、写真図版 14）

掘立５は、調査区北部の N1E4 区～ N1E5 区に位置する。１間×１間以上の建物で、規模は東西検出長 3.18m、南北検出長 2.35m を測る。柱穴３基の平面形態は円形で、規模は径 43 ～ 50㎝、深さ 23 ～ 28㎝を測る。柱穴埋土は、不明である。出土遺物はない。

**時期**：出土遺物がないため時期決定は困難である。




第 35 図　　掘立５測量図




第 36 図　　地点不明出土遺物実測図

２）地点不明出土遺物（20 ～ 25）
（第 36 図、写真図版 14）

20 ～ 22 は弥生土器。20 は、甕形土器の口縁部片、21 は底部片。22 は高坏形土器もしくは脚付鉢の基部。23 は土師器の甕形土器の口縁部片。24 は陶磁器碗の口縁部で、口縁部内面に 1 条の圏線が巡る。25 は陶器の高台付碗である。

## 第 4 章　小　結

本調査からは弥生時代、古墳時代、近世の遺構と遺物を検出した。遺構は竪穴建物１棟、土坑３基、掘立柱建物５棟、溝６条、遺物は弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器である。

**弥生時代**　遺構では、竪穴建物１棟（ＳＢ１）と土坑３基がある。ＳＢ１は削平が著しく平面形態は不明瞭な円形状を呈し、立ち上がりも明確でないものである。内部施設では周壁溝も無く、柱穴も浅いことから、報告ではＳＢ１としているが、自然の地形の窪みの可能性も考えられる。

土坑３基は、しっかりとした掘り方をもち、規模は、径 67 ～ 86cm、深さ 23 ～ 36cm を測る。遺物は、弥生時代後期後半期の土器片が出土している。

**古墳時代**　遺構では、掘立柱建物４棟、溝１条である。掘立柱建物は方位より３グループ（グループ①・②・③）に分けられると考えられる。グループ①は建物方位を真北より 10° 余り西に振る、掘立１と掘立３、グループ②は建物方位を真北より 80° 余り西に振る掘立４、グループ③は建物方位を真北より 30° 余り東に振る掘立２である。グループ②は、昭和６３年度に調査が完了した開遺跡で検出した６世紀前半以降の掘立柱建物と方位が同じであり、同時期の建物と考えられる。そのほかの建物も、ほぼ同時期の６世紀後半までの時期と考えられる。このほか、ＳＤ７は出土遺物から掘立柱建物と同じ６世紀代の溝と考えられる。

**近世**　遺構では溝５条がある。溝は方向、埋土と出土遺物から、近世の農耕に伴う溝と考えられる。

本調査からは、弥生時代後期と古墳時代後期の遺構を検出した。調査地周辺の調査では過去に弥生時代の遺物の出土例はあるが、遺構は検出されていない。本調査で検出した竪穴建物と土坑が、初めての検出事例となる。調査から集落に関連する土坑を検出したことにより、弥生時代後期の集落が、本調査地周辺に展開するものと考えられる。

古墳時代の遺構は、調査地の東 500 ｍに位置する開遺跡１次、２次調査から竪穴建物５棟、掘立柱建物６棟を検出している。本調査から、掘立柱建物４棟と溝を検出したことにより、本調査地から開遺跡までの広い範囲に、６世紀代の集落が展開していたことが明らかとなった。

【文献】

「開遺跡１次調査、開遺跡２次調査」『小野川流域の遺跡』　松山市文化財調査報告書５７

## 遺構・遺物一覧　－ 凡例 －

（1） 以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

（2） 遺物観察表の各掲載について

法量欄　（ ）：推定復元値

調整欄　土製品の各部名称を略記した。

例）口→口縁部、底→底部、天→天井部。

胎土・焼成欄　胎土欄では混和剤を略記した。

例）石→石英、長→長石、金→金ウンモ、赤→赤色土粒、密・精→精製土。

（ ）の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例）石・長（1 ～ 4）→「1 ～ 4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良。

表 17　竪穴建物一覧

| 竪穴（ＳＢ） | 地　区 | 平面形 | 規　模 長さ×幅×壁高（m） | 埋　土 | 内部施設 | 出土遺物 | 時　期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | N5E1 ～ N6E1 | 不整形 | (5.06) × 1.73 × 0.18 | 暗褐色土 | 主柱穴 | | 弥生時代後期以降 | |

表 18　掘立柱建物一覧

| 掘立 | 地　区 | 方　位 | 規模（間） | 桁行長（m） | 梁行長（m） | 床面積（㎡） | 柱穴埋土 | 出土遺物 | 時　期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | N2E3 ～ N3E5 | 東西 | 2 × 3 | 5.40 | 4.30 | 23.2 | 不明 | 弥生土器 須恵器 | 6 世紀中葉以降 | ＳＤ１・３・４に切られる。 |
| 2 | N2E3 ～ N3E5 | 北東～南西 | 2 × 2 | 3.90 | 3.70 | 14.4 | 不明 | 須恵器 | 6 世紀中葉以降 | ＳＤ１・３・４に切られる。 |
| 3 | N1E5 ～ N2E7 | 東西 | 1 × 3 | 4.40 | 3.55 | 15.6 | 不明 | | 6 世紀前半以降 | ＳＤ７を切る。 |
| 4 | N2E7 ～ N3E8 | 東西 | 1 × 3 | 5.10 | 2.40 | 12.2 | 不明 | 弥生土器 | 6 世紀前半以降 | ＳＤ7を切り、ＳＤ5に切られる。 |
| 5 | N1E4 ～ N1E5 | 東西 | (1) × (1) | (3.18) | (2.35) | (7.47) | 不明 | | 不明 | |

表 19　土坑一覧

| 土坑（ＳＫ） | 地　区 | 平面形 | 断面形 | 規　模 長さ×幅×深さ（m） | 埋　土 | 出土遺物 | 時　期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Ｎ２Ｅ８ | 円形 | 逆台形状 | 0.82 × 0.75 × 0.33 | 黄色･褐色土(霜降状) 暗褐色粘土・黒色土 | 弥生土器 | 弥生時代後期後半 | |
| 2 | Ｎ１Ｅ８ | 円形 | 逆台形状 | 0.67 × 0.63 × 0.23 | 黄色･褐色土(霜降状) 黒色土・黄褐色土 | 弥生土器 | 弥生時代後期後半 | |
| 3 | Ｎ１Ｅ８ | 楕円形 | 逆台形状 | 0.86 × 0.70 × 0.36 | | 弥生土器 | 弥生時代後期後半 | |

表 20　溝一覧　（1）

| 溝（ＳＤ） | 地　区 | 方　向 | 断面形 | 規　模 長さ×幅×深さ（m） | 埋　土 | 出土遺物 | 時　期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Ｎ３Ｅ２～Ｎ６Ｅ４ | 南東 | 皿状 | 16.0 × 0.82 × 0.08 | 黄灰色砂質土 茶褐色粘性土 褐色･黄灰色土混じり | 弥生土器 須恵器 陶磁器 | 近世 | 掘立１・掘立２を切る。 |
| 2 | Ｎ５Ｅ３～Ｎ６Ｅ３ | 南北 | 皿状 | 4.98 × 1.01 × 0.08 | 不明 | 須恵器 陶磁器 | 近世 | |
| 3 | Ｎ３Ｅ４～Ｎ４Ｅ４ | 南北 | 皿状 | 4.58 × 0.81 × 0.10 | 不明 | 須恵器 陶磁器 | 近世 | 掘立１・掘立２を切る。 |

溝一覧　（2）

| 溝（ＳＤ） | 地　区 | 方 向 | 断面形 | 規　模 長さ×幅×深さ（m） | 埋 土 | 出土遺物 | 時 期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | Ｎ2Ｅ3～Ｎ3Ｅ5 | 南東 | レンズ状 | 9.31 × 0.96 × 0.07 | 黄灰色砂質土<br>褐色粘質土 | 弥生土器<br>須恵器 | 近世 | 掘立１・掘立２を切る。 |
| 5 | Ｎ1Ｅ8～Ｎ3Ｅ8 | 南北 | 皿状 | 4.00 × 0.70 × 0.10 | 不明 | 弥生土器<br>須恵器<br>陶磁器 | 近世 | ＳＤ７、掘立４を切る。 |
| 6 | 欠番 | | | | | | | |
| 7 | Ｎ2Ｅ4～Ｎ3Ｅ8 | 東西 | レンズ状 | 13.83 × 0.78 × 0.13 | 暗褐色粘質土<br>薄褐色粘性土<br>暗褐色粘性土 | 弥生土器<br>須恵器<br>石製品 | 6 世紀前半 | ＳＤ４･5、掘立３･４に切られる。 |

表 21　ＳＢ１出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形 態・施 文 | 調　整 | | 色調（外面）<br>（内面） | 胎 土<br>焼 成 | 備 考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 1 | 甕 | 底径（6.6）<br>残高　3.7 | 平底の底部片。 | ナデ | ナデ（指頭痕） | 黒褐色<br>にぶい黄橙色 | 砂粒<br>◎ | 黒斑 | 14 |

表 22　ＳＫ１ 出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形 態・施 文 | 調　整 | | 色調（外面）<br>（内面） | 胎 土<br>焼 成 | 備 考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 2 | 壺 | 底径（5.2）<br>残高　2.3 | わずかに上げ底の底部片。 | ㊎ ナデ<br>ハケ→ナデ | ナデ | 黄灰色<br>黄灰色 | 石･長（1～2）<br>◎ | | 14 |

表 23　ＳＫ２出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形 態・施 文 | 調　整 | | 色調（外面）<br>（内面） | 胎 土<br>焼 成 | 備 考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 3 | 鉢 | 底径（5.4）<br>残高　3.0 | 上げ底の底部片。 | ナデ（指頭痕） | ナデ（指頭痕） | 灰黄色･暗灰黄色<br>灰黄色 | 石（1）<br>◎ | | 14 |

表 24　ＳＫ３出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形 態・施 文 | 調　整 | | 色調（外面）<br>（内面） | 胎 土<br>焼 成 | 備 考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 4 | 甕 | 残高　2.5 | 外反する口縁部の端部は肥厚され、下方に段を持つ。 | ナデ | ヨコナデ | 橙色<br>橙色 | 石･長（1～2）金<br>◎ | | 14 |

表 25　掘立１出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形 態・施 文 | 調　整 | | 色調（外面）<br>（内面） | 胎 土<br>焼 成 | 備 考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 5 | 甕 | 残高　5.1 | 短く外反する口縁部の端部は丸い。 | マメツ | マメツ | 浅黄橙色<br>浅黄橙色 | 石・長（1）<br>○ | | 14 |
| 6 | 甕 | 底径（7.0）<br>残高　2.5 | 突出する上げ底の底部。 | ナデ（指頭痕） | マメツ | にぶい黄橙色<br>暗灰黄色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | 14 |
| 7 | 坏蓋 | 残高　3.3 | 口縁部片。口縁端部は段を持つ。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 黄灰色<br>黄灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | 14 |
| 8 | 坏蓋 | 残高　2.5 | 口縁部片。口縁端部は内頃する面を持つ。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 密<br>◎ | | 14 |

表 26　掘立２出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形 態・施 文 | 調　整 | | 色調（外面）<br>（内面） | 胎 土<br>焼 成 | 備 考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 9 | 提瓶 | 残高　4.5 | 胴部片。同心円状のカキ目を施す。 | カキ目 | 回転ナデ | 灰黄色<br>灰色 | 密<br>◎ | | 14 |

表 27　ＳＤ７出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 甕 | 底径　(5.2)<br>残高　3.5 | 底部片。僅かに中央部が突出する。 | ナデ | ナデ | 橙色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 11 | 甕 | 底径　(6.0)<br>残高　3.4 | 底部の小片。 | ナデ（指頭痕） | マメツ | にぶい黄橙色<br>にぶい黄橙色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 12 | 高坏 | 残高　5.3 | 柱部と坏部の接合部。 | ハケ→ナデ | ナデ | 橙色<br>橙色 | 石（1）赤<br>◎ | | |
| 13 | 坏蓋 | 残高　4.0 | 丸味を持つ天井部。天井部と口縁部を分ける境に明瞭な稜を持つ。 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 黄灰色<br>灰色 | 密<br>◎ | 自然釉 | |
| 14 | 坏身 | 残高　3.3 | 短く水平に伸びる受部。受部端部は尖り気味に丸い。 | ⑪ 回転ナデ<br>回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 密・長（1）<br>◎ | | |

表 28　ＳＤ７出土遺物観察表　石製品

| 番号 | 器種 | 残存 | 材質 | 法量 長さ(cm) | 法量 幅(cm) | 法量 厚さ(cm) | 法量 重さ(g) | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 砥石 | | 石英粗面岩 | 9.1 | 6.8 | 4.4 | 492.29 | | 14 |

表 29　ＳＤ１出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 甕 | 底径　(5.8)<br>残高　2.5 | 平底の底部の小片。 | マメツ | マメツ | 灰黄色<br>灰黄色 | 石・長（1 ～ 2）<br>○ | | |
| 17 | 甕 | 底径　(7.6)<br>残高　2.2 | 平底の底部の小片。 | ナデ（指頭痕） | ナデ | にぶい橙色<br>灰黄褐色 | 石･長（1 ～ 2）金<br>◎ | | |

表 30　ＳＤ４出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | 甕 | 底径　(3.4)<br>残高　2.4 | 底部の小片。 | ナデ | ナデ | にぶい黄橙色<br>褐灰色 | 石・長（1 ～ 2）<br>◎ | | |

表 31　ＳＤ５出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 坏蓋 | 口径　(10.6)<br>残高　2.1 | 口縁部の小片。端部は丸味を持つ。 | ㊦ ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 密<br>◎ | | |

表 32　地点不明出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 甕 | 残高　3.8 | 口縁部片。器壁は薄い。 | ナデ | ナデ | にぶい橙黄色<br>にぶい橙黄色 | 石（1）<br>◎ | | |
| 21 | 甕 | 底径（6.4）<br>残高　2.0 | 僅かに上げ底の底部片。 | ナデ | 剥離 | にぶい橙色<br>にぶい橙色 | 石（1）<br>◎ | | |
| 22 | 高坏 | 残高　2.4 | 坏部と脚部の接合部。 | ハケ→ナデ | ナデ | 橙色<br>橙色 | 石（1）<br>◎ | | |
| 23 | 甕 | 残高　1.9 | 口縁部片。器壁は薄い。 | マメツ | ナデ | 橙色<br>橙色 | 石（1）<br>○ | | |
| 24 | 碗 | 底径（12.8）<br>残高　1.6 | 口縁部片。口縁部内面に１条の圏線あり。 | 施釉 | 施釉 | (釉) 灰オリーブ色<br>(呉須) 青灰色 | 密<br>◎ | | |
| 25 | 碗 | 底径（5.8）<br>残高　2.2 | 高台付。 | 施釉 | 施釉 | 暗灰褐色<br>にぶい赤褐色 | 密<br>◎ | | |

第Ⅴ章

# 下苅屋遺跡

# 第Ⅴ章　下苅屋遺跡

## 第１節　調査の経過

### （１）調査に至る経緯（第 37 図）

平成７年２月１３日、松山市平井町甲２３８９番、甲２３９０番、甲２３９１番における宅地造成に先立って、当該地が松山市の周知の埋蔵文化財包蔵地「№１５２　平井遺物包含地」内に位置することから、埋蔵文化財確認願及び文化財保護法は第５７条の２第１項の届出書（以下、届出書という）が松山市教育委員会（以下、市教委という）に提出された。これを受け、市教委は平成７年２月２７日に試掘調査を実施し、結果、古墳時代の竪穴建物、溝状遺構、土坑状遺構、柱穴と土師器、須恵器を確認し、当該地の一部において遺跡が展開することを推測するに至った。その後、この結果と届出書を受けた愛媛県教育委員会より発掘調査の指示が下りたため、申請者及び関係者と協議し、発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、国庫補助を受け、市教委文化教育課が主体となり、平成７年６月１９日より着手した。

なお、申請地周辺では、現在までに多くの調査が行われている。申請地の南西から北西には松山市道が建設に先立ち発掘調査が行われ、旧国道１１号より北では東から下苅屋遺跡２次、３次調査、4 次調査、南では平井遺跡３次調査～９次調査が行われ、弥生時代から古代の遺構や遺物が多数検出されている。

### （２）調査の経緯（第 38・40 図）

初めに、調査区の設定を行った。範囲は、東西方向に北側約 14 ｍと南側約 28m、南北方向に約 30m の台形状の調査区を設定した。掘削は、試掘調査の結果より重機を使用して地表下 20㎝まで行った。掘削土は、南部を排土置き場とした。重機による掘削後、遺構検出を行い、竪穴建物、溝、土坑、柱穴を検出した。遺構測量用に 6m グリッドを設置し、平板測量にて 50 分の１の遺構配置図の作成と遺構埋土の土色確認を行った。続いて、調査壁の測量を行なった。遺構の掘削は、竪穴建物より開始した。遺構内からは遺物が出土し、測量と写真撮影を行った。竪穴建物、土坑、溝、柱穴のすべての遺構の掘削が終了後、遺構完掘状況の測量と写真撮影を行い屋外調査を終了する。

## 第２節　層　位（第 39 図）

基本層位は、土色の違いにより４層に分層した。

Ⅰ層：耕作土。

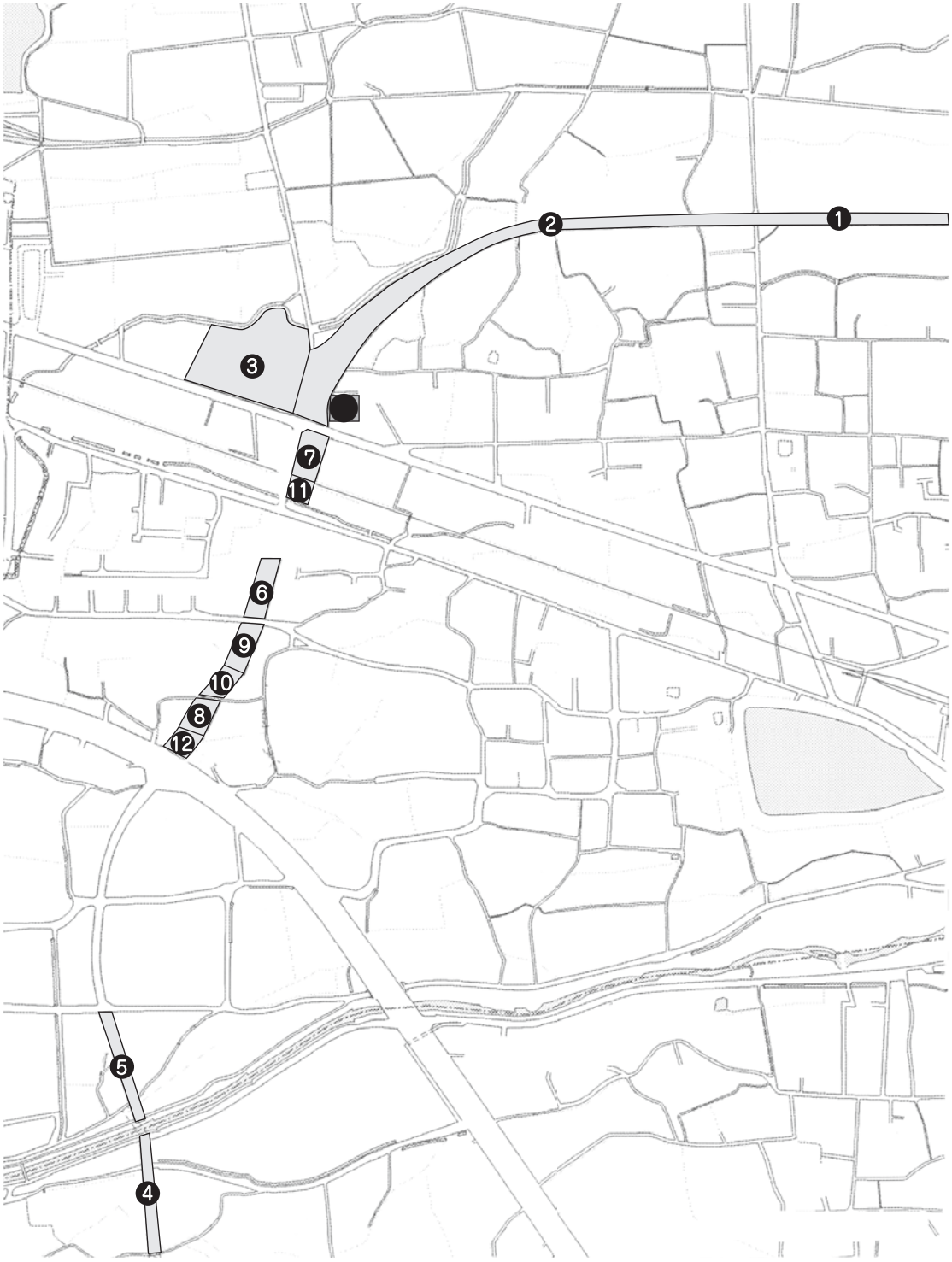
Ⅱ層：床土。

Ⅲ層：淡灰褐色土（遺物包含層）。

Ⅳ層：黄色粘性土（地山）。

グリッド名は、南北方向に北から南に１・２･･･ ５・６、東西方向に東からＡ・B･･･D・Ｅとした。北東隅から西に A1 区、B1 区と呼称する。

遺構は竪穴建物９棟、土坑５基、溝４条、性格不明遺構１基、石組遺構１条、柱穴 186 基を検出し、遺物は弥生土器、須恵器、石製品が出土した。




(S=1:6,000)

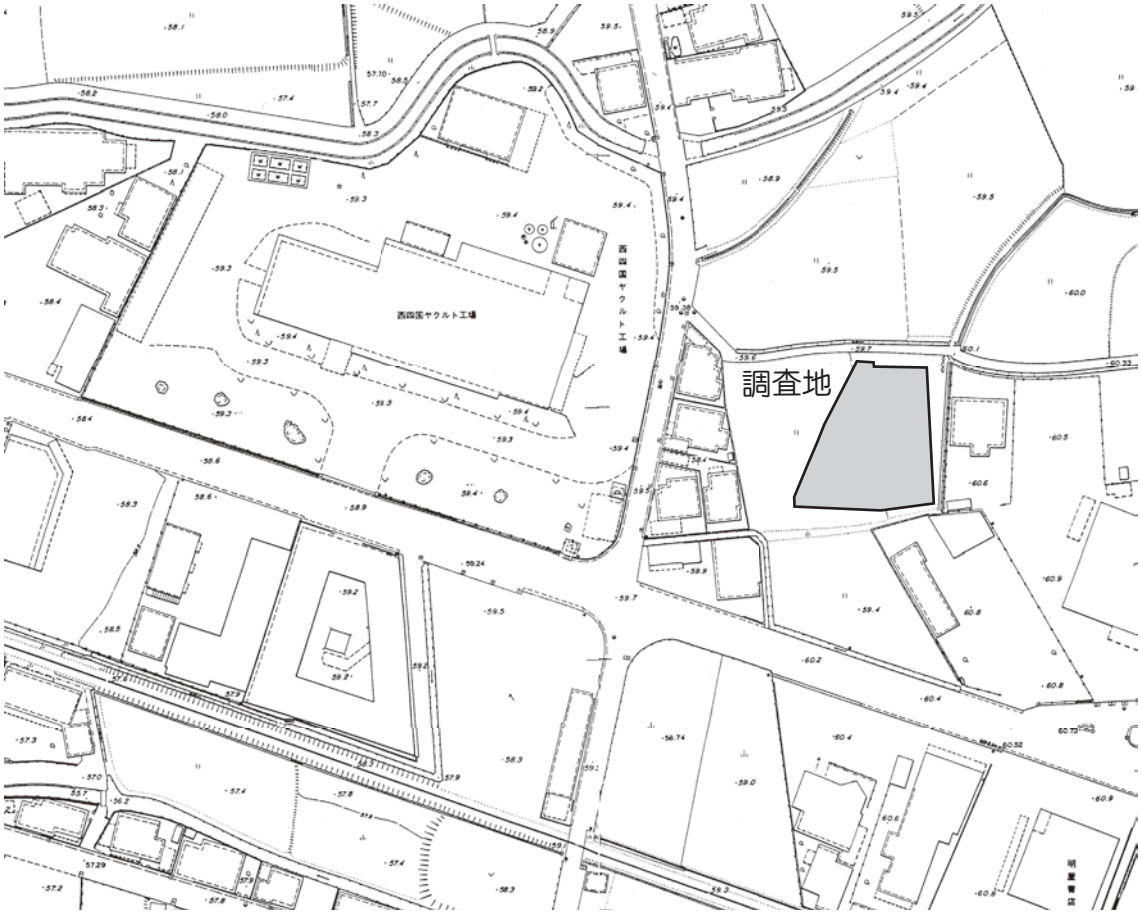
● 下苅屋遺跡

❶ 下苅屋遺跡 2 次調査　❷ 下苅屋遺跡 3 次調査　❸ 下苅屋遺跡 4 次調査　❹ 平井遺跡　❺ 平井遺跡 2 次調査

❻ 平井遺跡 3 次調査　❼ 平井遺跡 4 次調査　❽ 平井遺跡 5 次調査　❾ 平井遺跡 6 次調査　❿ 平井遺跡 7 次調査

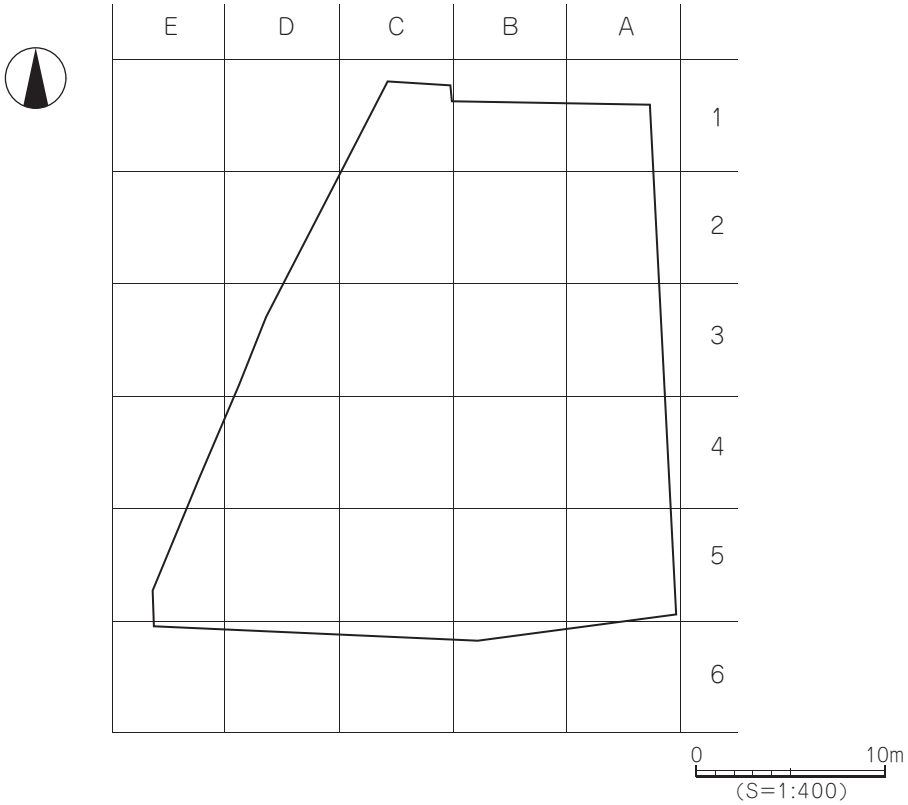
⓫ 平井遺跡 8 次調査　⓬ 平井遺跡 9 次調査

第 37 図　　周辺調査地位置図




(S=1:1,500)

第 38 図　　調査地位置図




第 39 図　　区割図

E
D
C
B
A
1
2
3
4
5
6
SB1
SB4
SB2
SB3
SK3
SP130
SK1
SX1
SP64
SP63
SK4
SK5
SB5③
SB5②
SP72
SD4
SD1
SB5①
SB5④
SD2
SD3
石組遺構
SP109
SK2
SB6
0
10m
(S=1:200)

第 40 図　遺構配置図

# 第３節　遺構と遺物

## （１）古墳時代

検出した遺構は、竪穴建物９棟、土坑５基、溝４条、性格不明遺構１基である。

１）竪穴建物（ＳＢ）

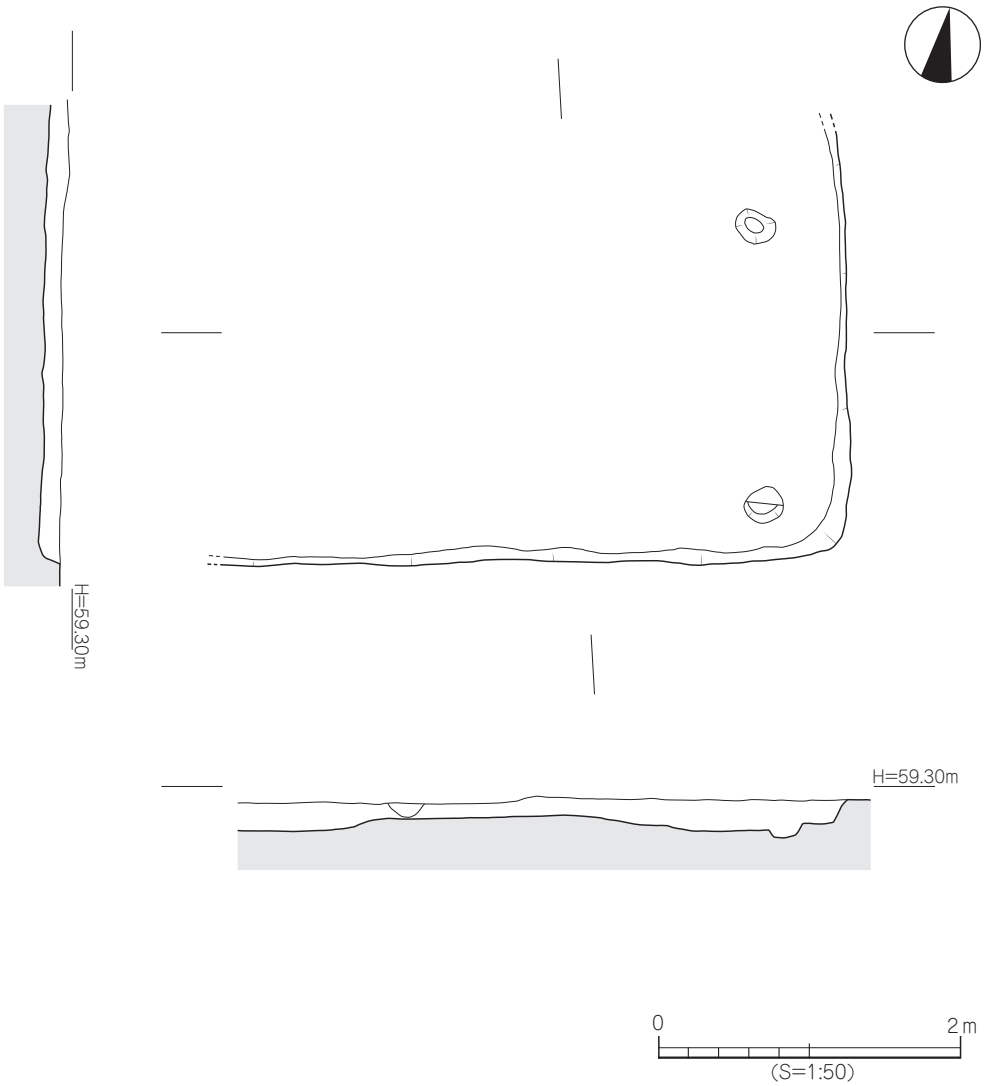
ＳＢ１（第 41・42 図、写真図版 16）

ＳＢ１は調査区北西部のＣ１区に位置し、北側と西側は調査区外に続く。平面形態は１ヶ所のコーナー部を検出したことにより、方形と考えられる。規模は東西検出長 4.05m、南北検出長 3.10 m、壁高 20cm を測る。埋土は、不明（未注記）である。出土遺物は須恵器と土師器がある。

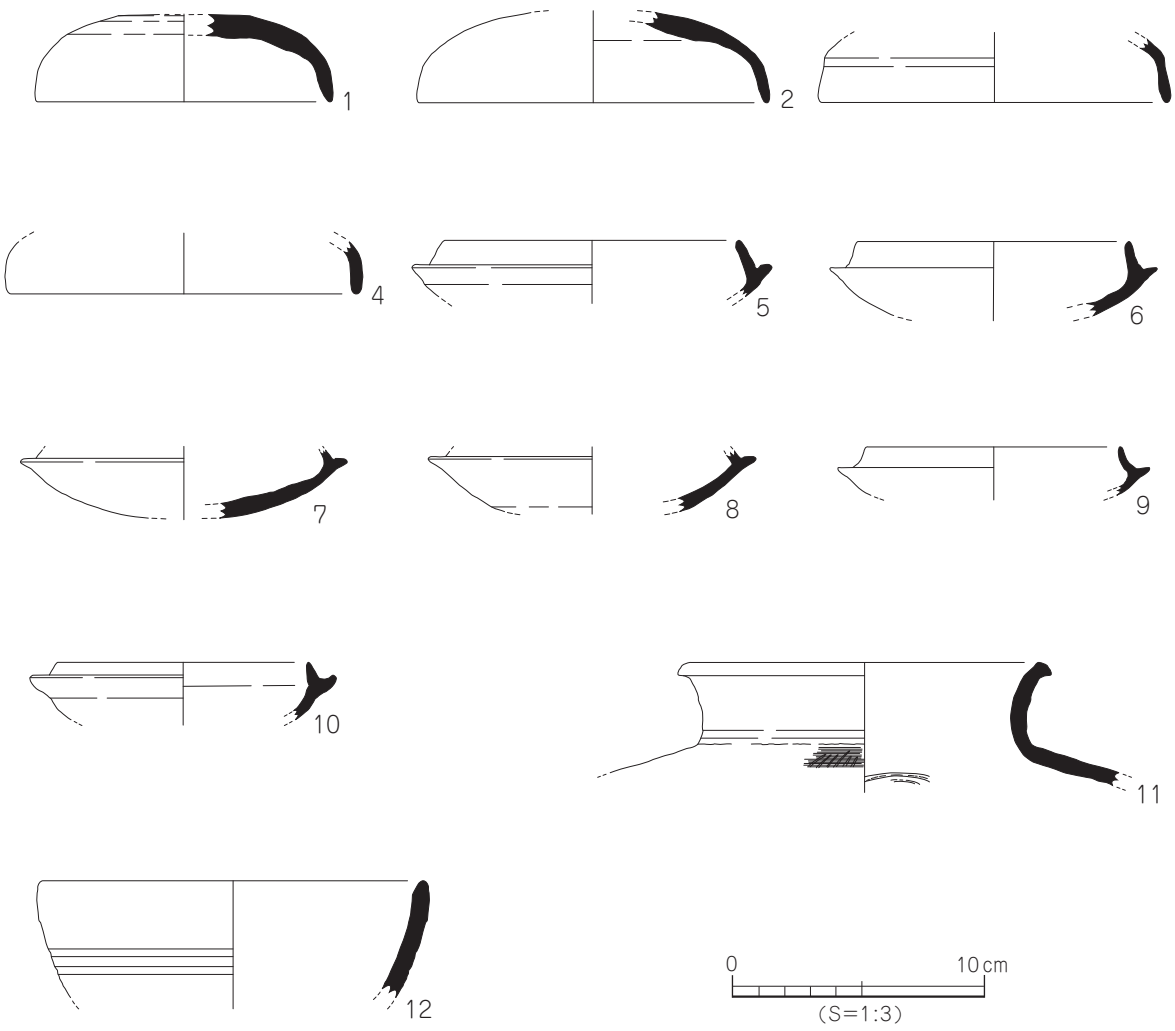
**出土遺物**（1 ～ 12）

１～４は坏蓋。１は、焼け歪み有。２は、口縁端部が尖り気味に丸い。３・４の口縁部は丸い。５～ 10 は坏身。６・７・９は焼け歪み有。11 は甕形土器。口縁部は肥厚され下方に拡張される。12 は埦で、外面に２本の沈線を巡らす。

**時期**：出土した須恵器の形態より、ＳＢ１の廃棄・埋没時期は６世紀末とする。




第 41 図　　ＳＢ1 測量図




第 42 図　　ＳＢ1 出土遺物実測図

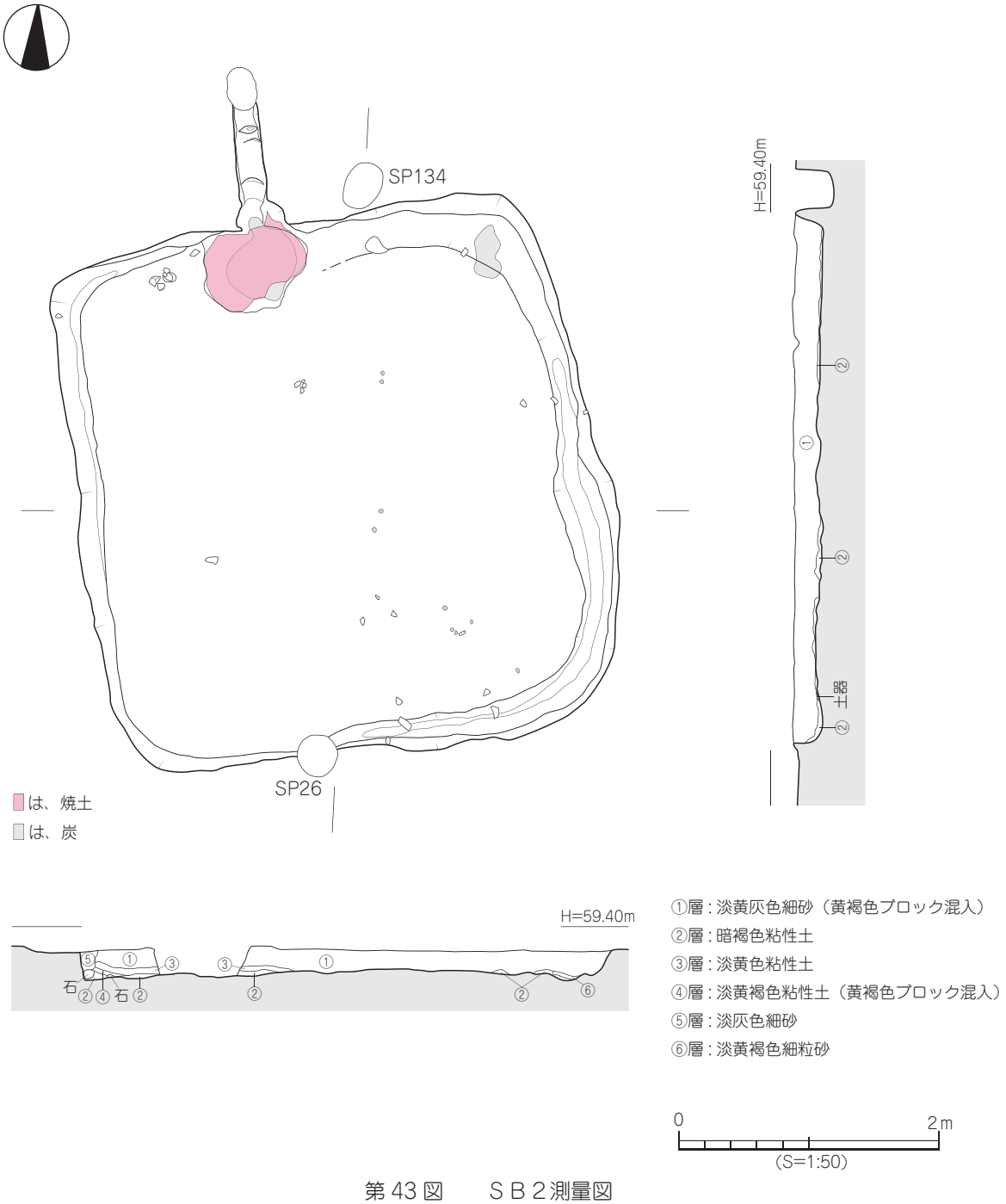
ＳＢ２（第 43 ～ 46 図、写真図版 16・18・19・22・23）

ＳＢ２は調査区北部のＢ・Ｃ２区に位置し、ＳＰ２６に切られ、ＳＢ３を切る。平面形態は方形を呈し、規模は南北長 4.2m、東西長 4.1m、壁高 18cm を測る。建物埋土は、6 層に分層でき、①層 : 淡黄灰色細砂（黄色ブロック混入）、②層 : 暗褐色粘性土、③層 : 淡黄色粘性土、④層 : 淡黄褐色粘性土（黄色ブロック混入）、⑤層 : 淡灰色細砂、⑥層 : 淡黄褐色細粒砂である。内部施設は周壁溝、カマド、煙道がある。周壁溝は、住居の東半部で検出した。規模は幅 20 ～ 46cm、深さ 10cmを測る。カマドは住居北壁中央に位置し、平面形態は馬蹄形である。規模は 1.1 m× 0.74 m、高さ 14cmである。煙道は、カマド中央から住居外に延び北端を柱穴に切られる。規模は長さ 1.25 m、幅 20cm、深さ 7 ～ 14cmを測る。カマドと煙道の埋土は 10 層に細分され、①層 : 淡赤色粘性土、②層 : 暗色粘性土（炭、灰含む）、③層 : 濃赤色粘性土（カマド本体）、④層 : 淡黄色細粒砂層（造り付けカマド本体）、⑤層 : 明黄色粘性土、⑥層 : 明色粘性土、⑦層 : 淡灰色土（灰層）、⑧層 : 淡灰色土（灰層）、⑨層 : 淡灰黄色細粒砂層、⑩層 : 淡黄赤色細粒砂ブロックである。出土遺物は、土師器、須恵器、砥石、焼土、炭がある。

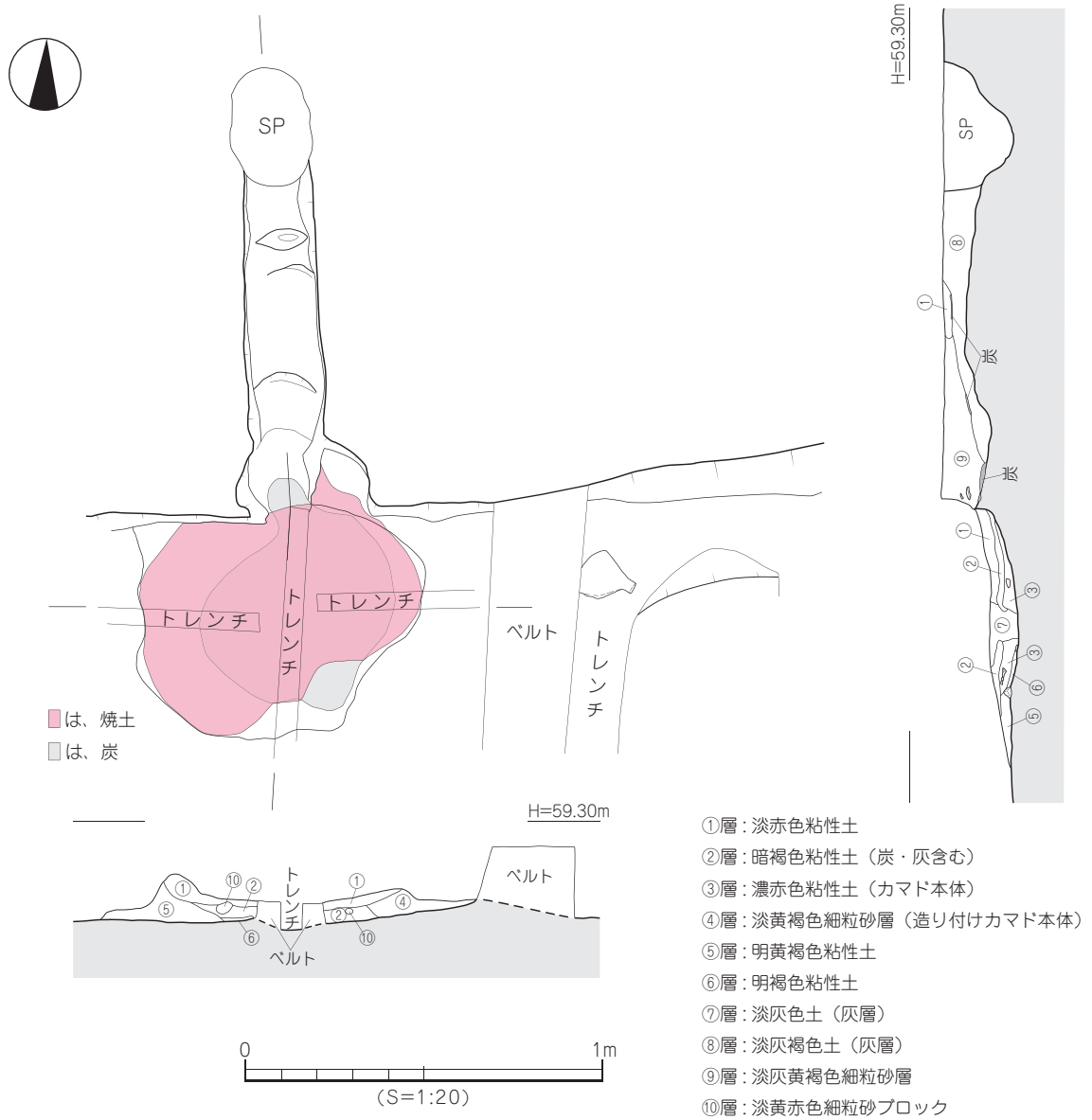
**出土遺物**（13 ～ 25）

13 ～ 17 は坏蓋。13･15･16 の口縁端部は尖り気味に丸い。14･17 の口縁端部は丸い。18･19 は坏身。18 の受部は短く水平に伸びる。19 の受部は外上方に伸びる。20 は坏で、体部外面に 2 本の沈線が巡る。21 は埦。直立する口縁部。22・23 は土師器の甑。22 は口縁部片。23 は把手部。24 は弥生土器の高坏形土器の口縁部片。25 は砥石で、4 面の砥面をもち、よく使い込まれている。

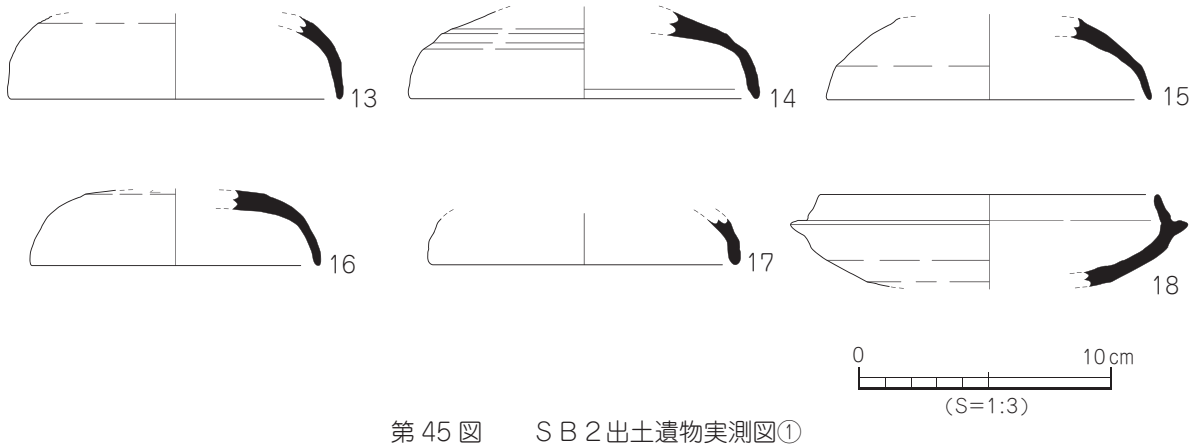
**時期**：出土した須恵器の形態より、ＳＢ２の廃棄・埋没時期は６世紀後半～末とする。



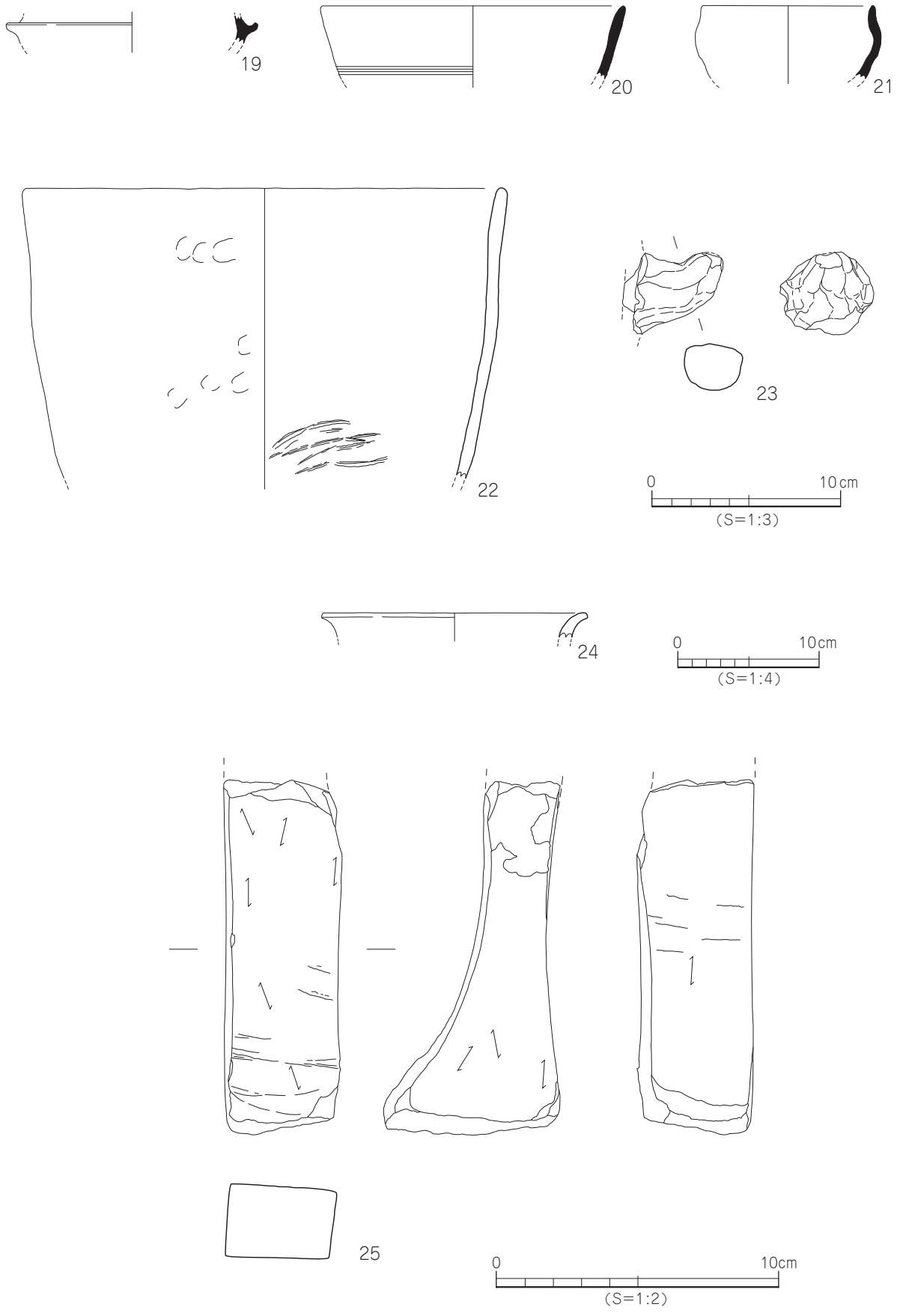

第 43 図　　ＳＢ２測量図




第 44 図　　ＳＢ２カマド測量図




第 45 図　　ＳＢ２出土遺物実測図①




第 46 図　　ＳＢ２出土遺物実測図②

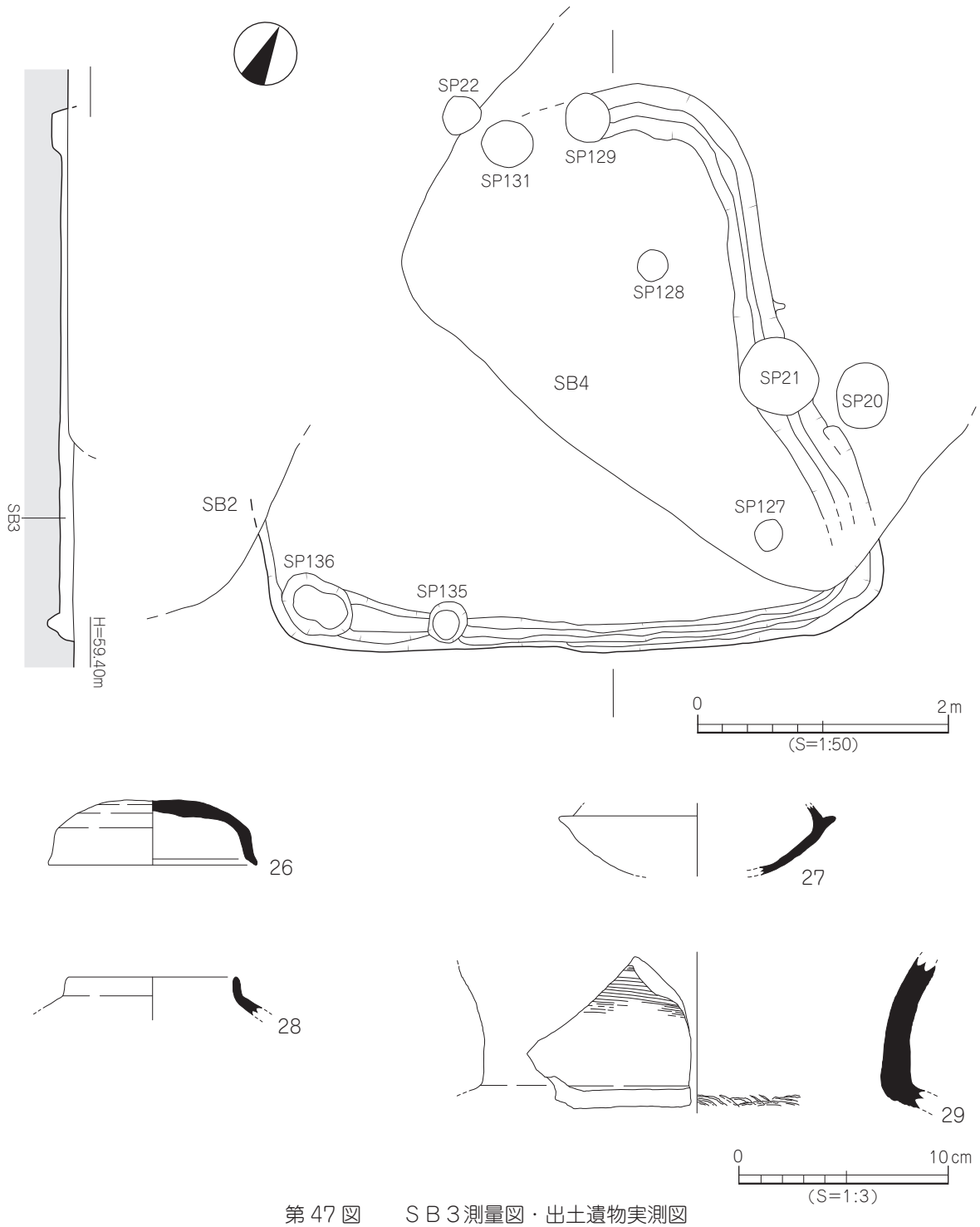
ＳＢ３（第 47 図、写真図版 17・22）

ＳＢ３は調査区北部のＡ・Ｂ２区に位置し、ＳＢ２、ＳＢ４、及び６基の柱穴に切られる。平面形態は方形で、規模は一辺 4.9 ｍ、壁高 14㎝を測る。内部施設は、周壁溝を検出した。周壁溝の規模は、幅 20 ～ 30㎝、深さ 10㎝を測る。建物埋土は不明（未注記）である。出土遺物は須恵器がある。

**出土遺物**（26 ～ 29）

26 は短頸壺の蓋。天井部は平坦で、口縁端部は内傾する面を持つ。27 は坏身。短く水平に伸びる受部。28 は短頸壺。短く直立する口縁部。29 は甕形土器。外反気味の口縁部。

**時期**：出土した須恵器の形態より、ＳＢ３の廃棄・埋没時期は６世紀後半とする。

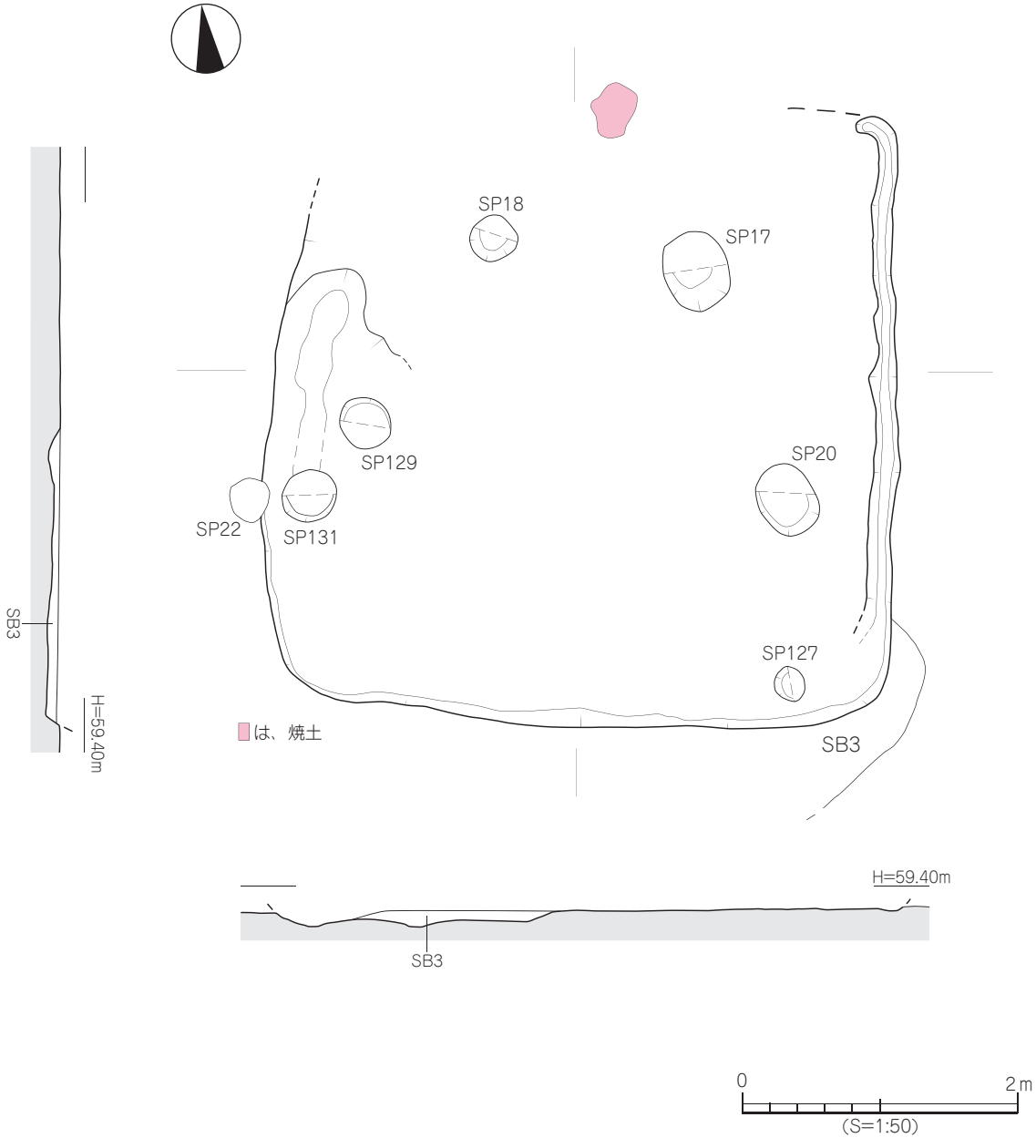



第 47 図　　ＳＢ３測量図・出土遺物実測図

ＳＢ４（第 48 図、写真図版 17・22）

ＳＢ４は調査区北部のＡ１～Ｂ２区に位置し、ＳＢ３を切り、１０基の柱穴に切られる。平面形態は方形で、規模は一辺 4.5m、壁高 4cmを測る。内部施設は、周壁溝を検出した。規模は幅 10 ～ 18cm、深さ 2cmを測る。このほか、住居北側にて焼土を検出した。出土地点から判断すると、焼土はＳＢ４のカマドの一部である可能性が考えられる。建物埋土は不明（未注記）である。出土遺物は須恵器があるが、小片の為に図化出来ない。

**時期**：出土した須恵器の形態とＳＢ３に後出することから、ＳＢ４の廃棄・埋没時期は６世紀末とする。




第 48 図　　ＳＢ４測量図

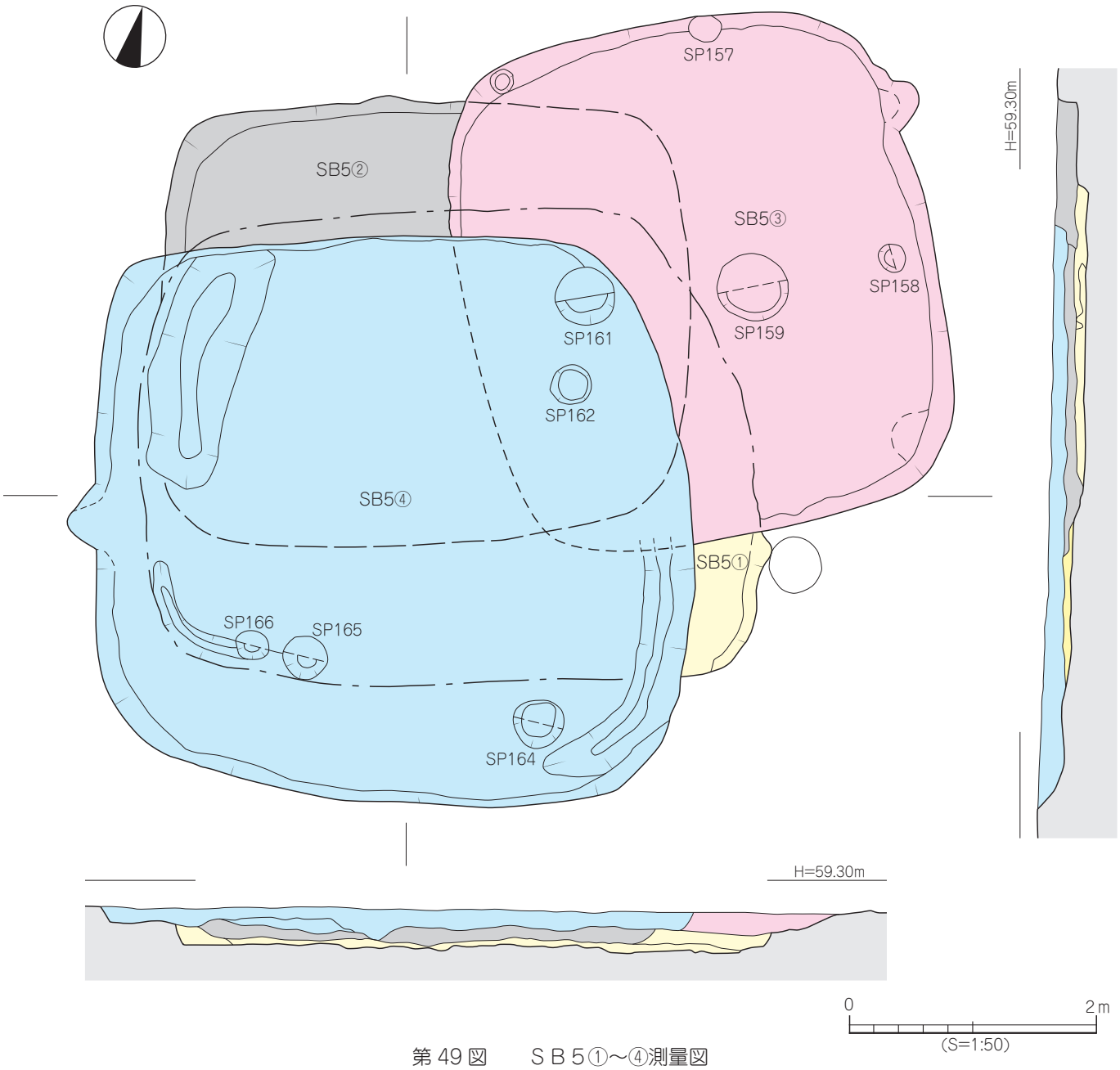
ＳＢ５①（第 49・50 図、写真図版 22・23）

ＳＢ５①は調査区中央西のＣ３～Ｄ４区に位置し、ＳＢ５②、ＳＢ５③、ＳＢ５④、及び４基の柱穴に切られる。平面形態は方形で、規模は長さ 4.95m、幅 3.80m、壁高 30㎝を測る。内部施設は周壁溝を検出した。周壁溝は建物南西部と北西部に位置し、規模は幅 12 ～ 70㎝を測る。建物埋土は不明（未注記）である。出土遺物は須恵器と土師器があるが、図化しうるものはない。

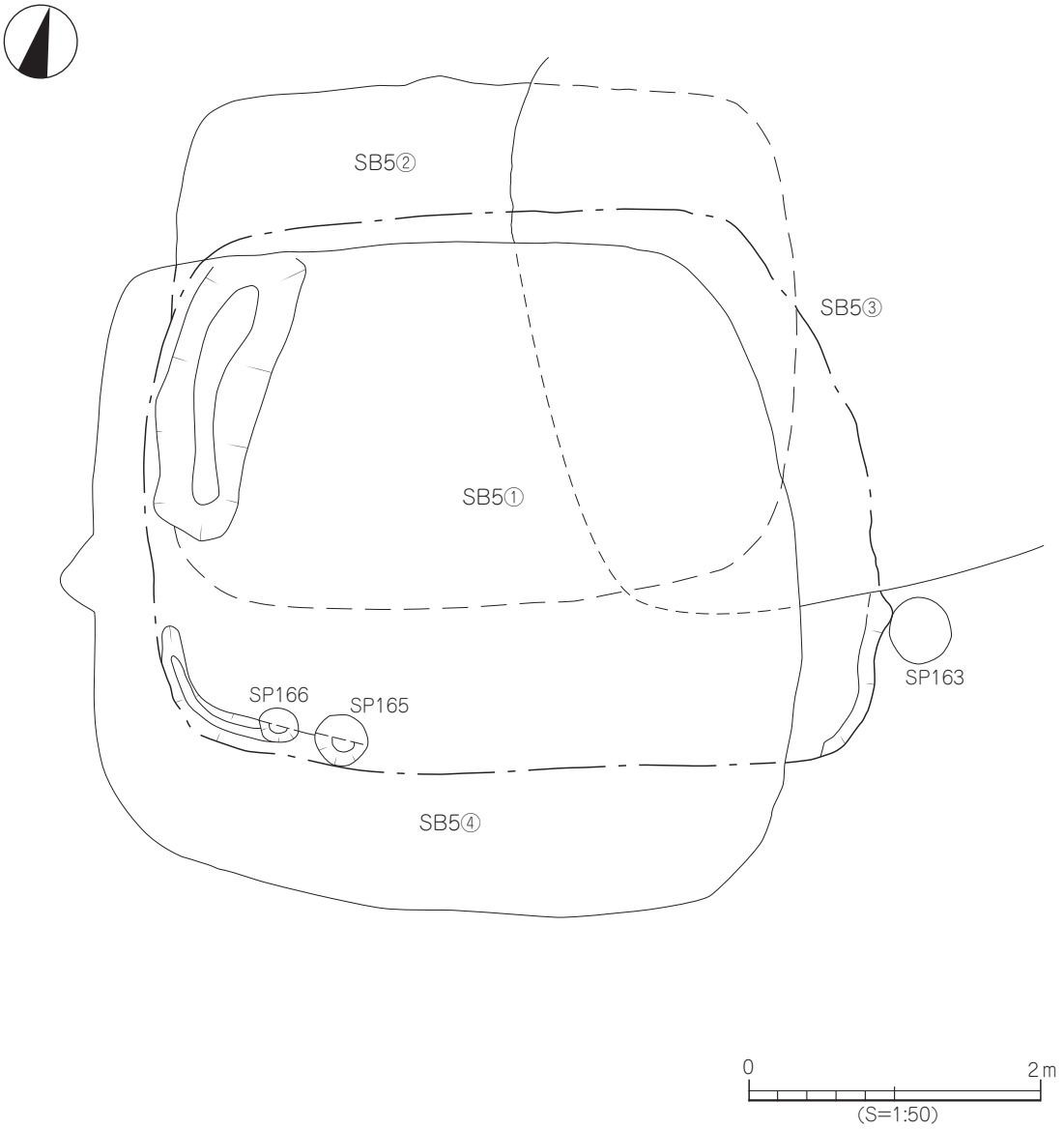
**時期**：出土した須恵器の形態より、ＳＢ５①の廃棄・埋没時期は６世紀後半とする。

**出土遺物**（30 ～ 54）

ＳＢ５の出土遺物はＳＢ５一括で取り上げられており、平面図とレベルとを照らし合わせて出土遺構の分類を行った。その結果、ＳＢ５②３点、ＳＢ５③３点、ＳＢ５④３点の計９点について出土遺構の特定を行った。ＳＢ５②出土と思われる遺物は、30 ～ 32、ＳＢ５③出土と思われる遺物は 33 ～ 36、ＳＢ５④出土と思われる遺物は 37 ～ 39 である。それ以外の遺物は、ＳＢ５一括として報告を行う。




第 49 図　　ＳＢ５①～④測量図




第 50 図　　ＳＢ５①測量図

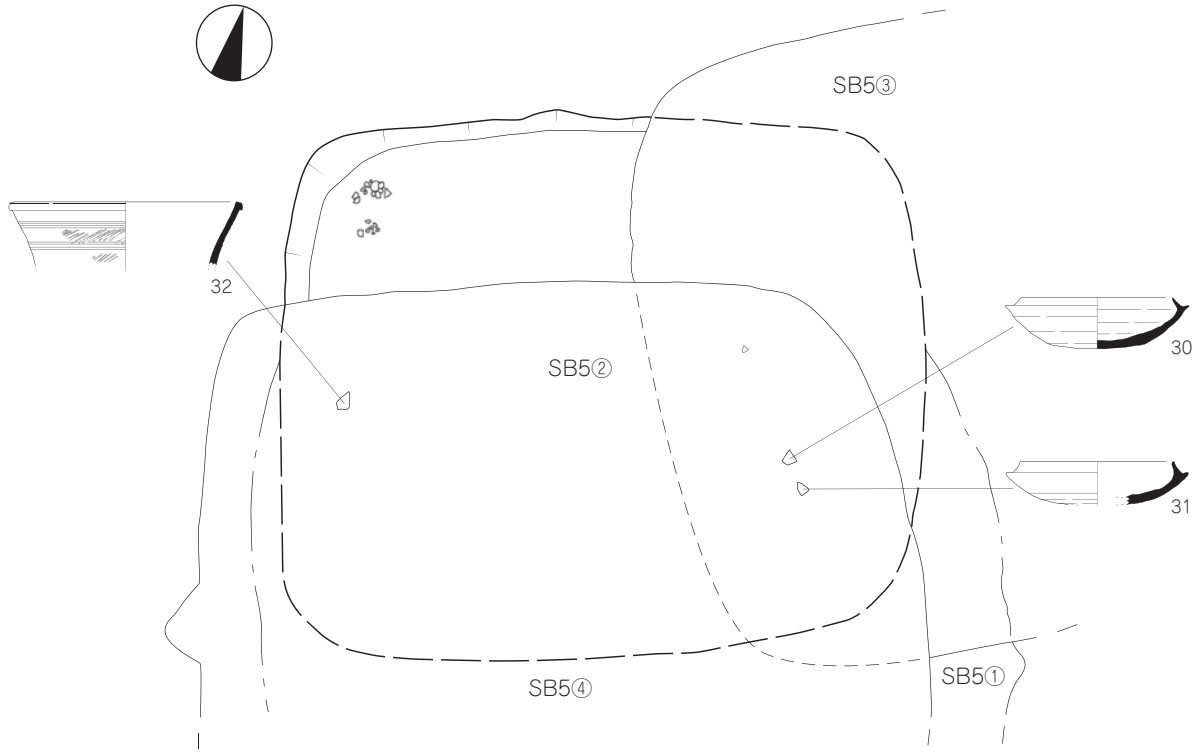
ＳＢ５②（第 49・51・52 図、写真図版 22・23）

ＳＢ５②は調査区中央西のＣ３～Ｄ４区に位置し、ＳＢ５③、ＳＢ５④、ＳＰ１６１、ＳＰ１６２に切られ、ＳＢ５①を切る。平面形態は方形で、規模は長さ 4.35m、幅 3.65m、壁高 18㎝を測る。建物埋土は不明（未注記）である。出土遺物は須恵器がある。

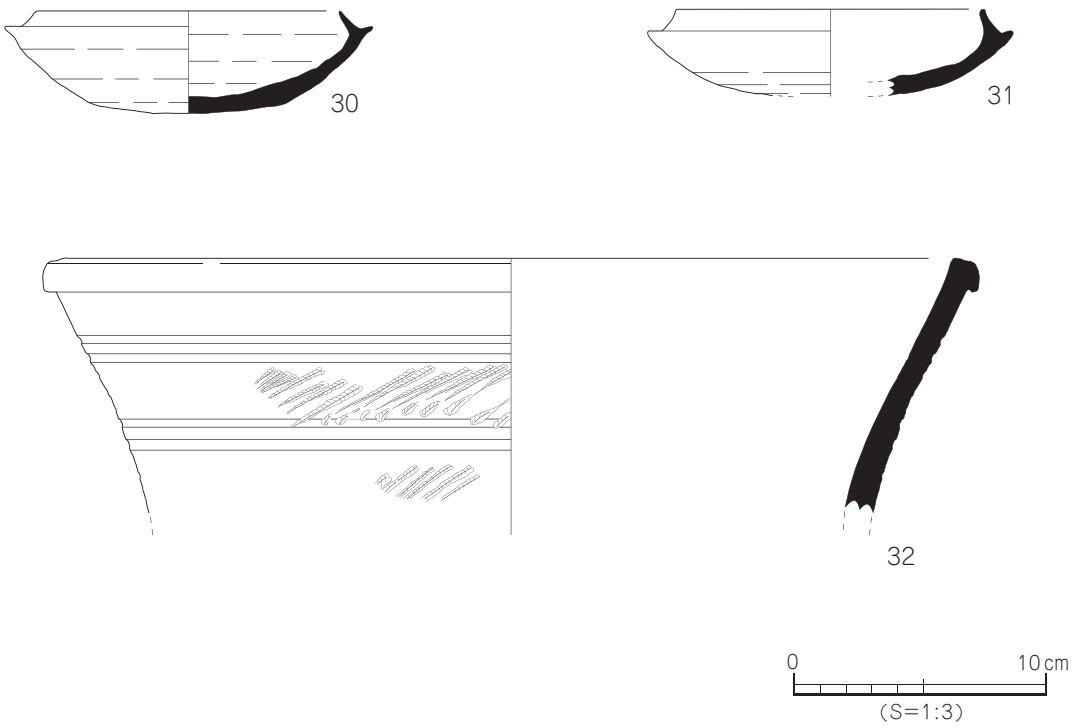
**出土遺物**（30 ～ 32）

30・31 は坏身。30 のたちあがりは内傾し、端部は尖り気味に細い。受部は水平に伸びる。31 は、内傾するたちあがりと、水平に伸びる受部を持つ。32 は甕で、口縁部は肥厚され下方に拡張される。外面に 2 本一組の凹線 2 条と、櫛状工具による刺突文 2 条を巡らす。

**時期**：出土した須恵器の形態より、ＳＢ５②の廃棄・埋没時期は６世紀後半～末とする。




第 51 図　　ＳＢ５②測量図・遺物出土状況図




第 52 図　　ＳＢ５②出土遺物実測図

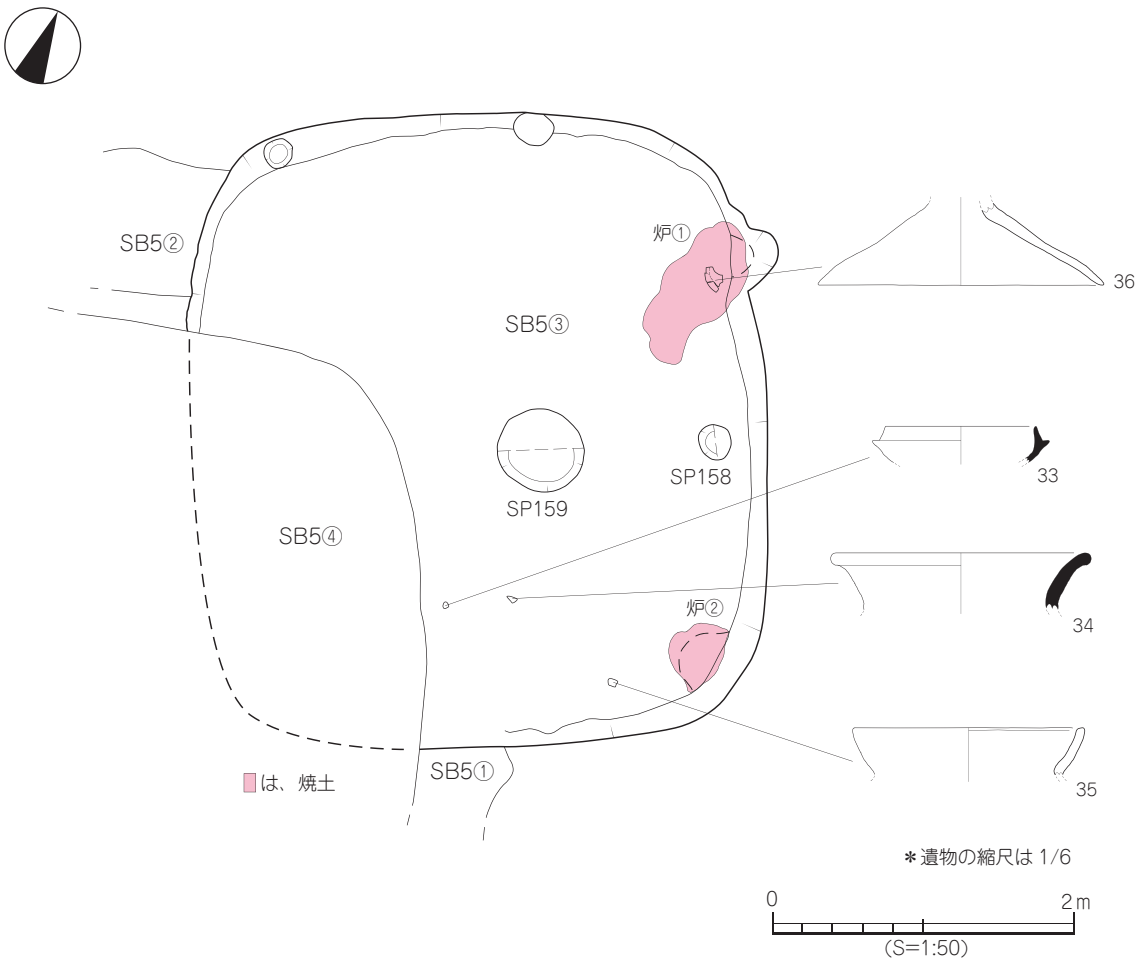
ＳＢ５③（第 49・53 ～ 55 図、写真図版 20・22）

ＳＢ５③は調査区中央西のＣ３～Ｄ４区に位置し、ＳＢ５④、ＳＰ１５８、ＳＰ１５９、ＳＰ１６１、ＳＰ１６２に切られ、ＳＢ５①、ＳＢ５②を切る。平面形態は方形で、規模は一辺 4.25m、壁高 11㎝を測る。建物埋土は不明（未注記）である。内部施設は、炉を２箇所検出した。炉①は建物東壁の北側に位置し、東に張り出す。平面形態は不整形で、規模は長さ 1.07 m、幅 0.68 m、深さ５㎝を測る。埋土は７層に分けられ、①層：淡灰色灰層、②層：淡黄灰色細砂層、③層：暗灰色灰層、④層：淡黄赤色粘性土、⑤層：暗褐色粘性土、⑥層：カーボンブロック、⑦層：淡灰赤色ブロックである。炉②は、建物南東コーナーに位置する。平面形態は楕円形状で、規模は長さ 0.48 m、幅 0.36 mを測る。埋土は４層に分けられ、①層：淡黄赤色層（焼土）、②層：淡黄灰色細砂層（灰層）、③層：淡黄褐色細砂層、④層：淡黄褐色細砂ブロックである。出土遺物は、須恵器と土師器がある。

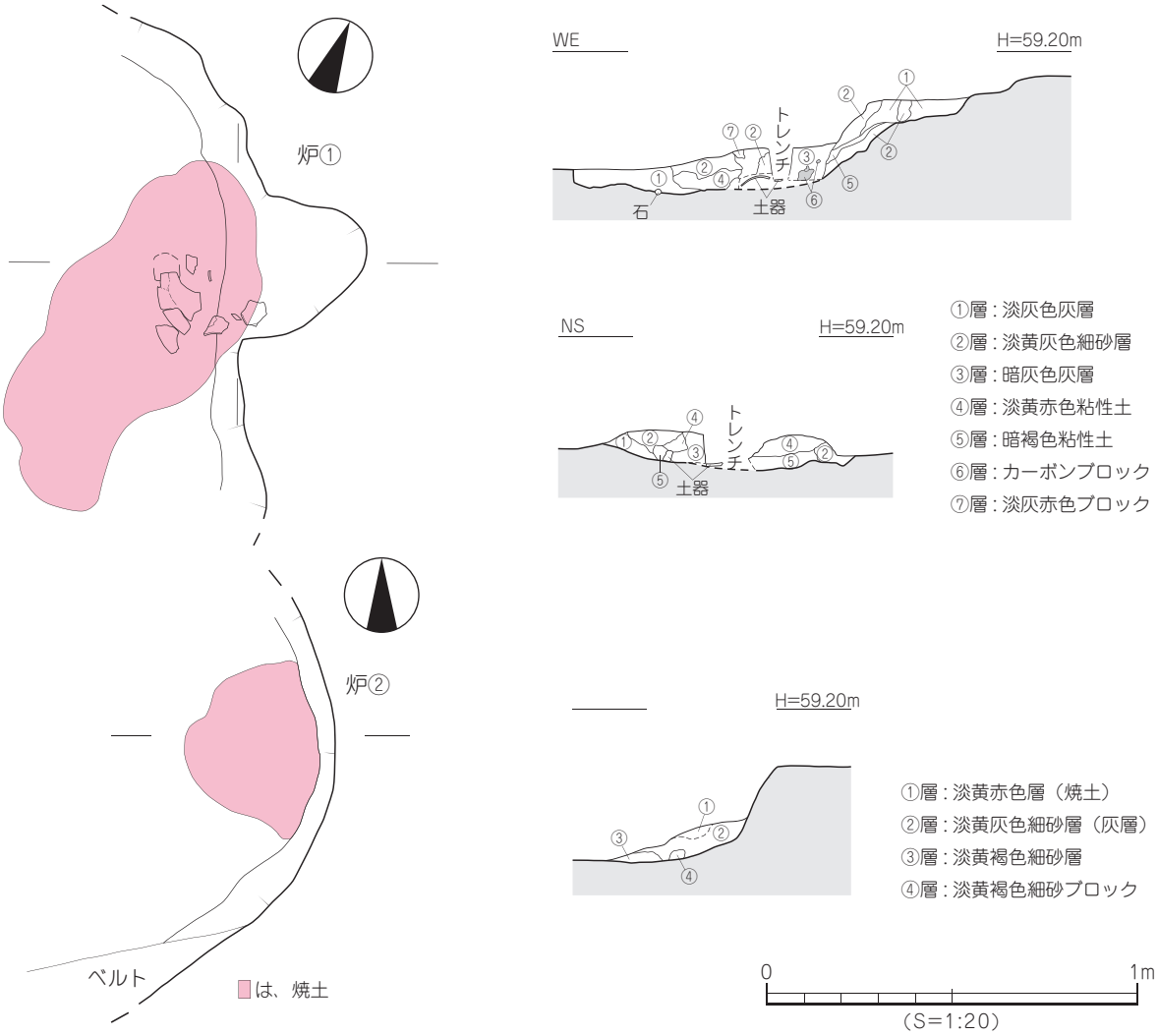
**出土遺物**（33 ～ 36）

33 は坏身。内傾するたちあがりと、短く水平に伸びる受部を持つ。34 は壺で、口縁端部は肥厚され丸い。35 は土師器の甕形土器の口縁部で、口縁端部は内傾する。36 は、土師器の鉢形土器または高坏形土器の脚部片である。

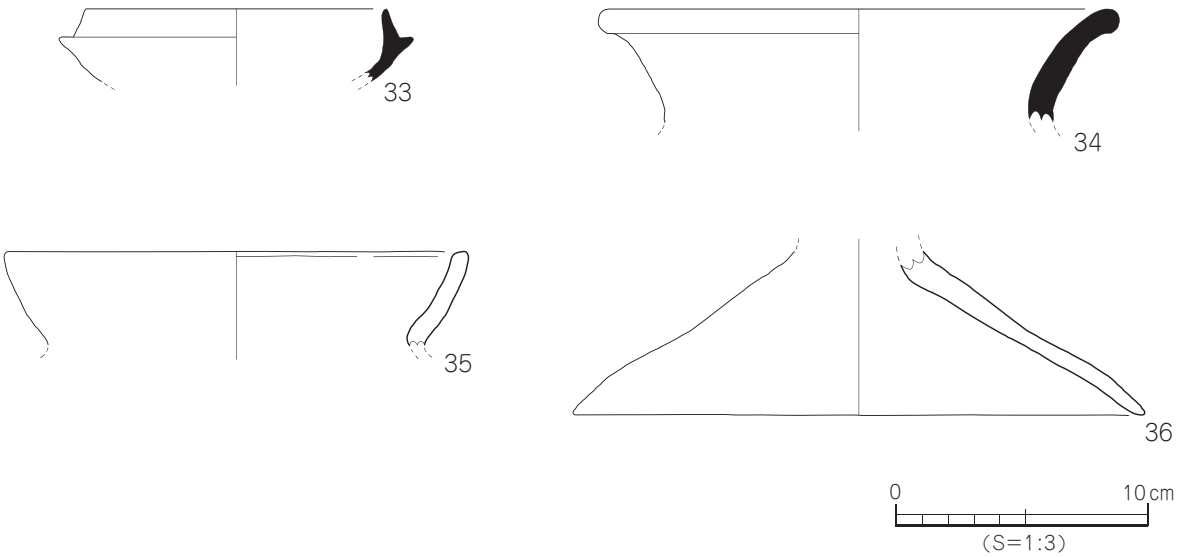
**時期**：出土した須恵器の形態より、ＳＢ５③の廃棄・埋没時期は６世紀末とする。




第 53 図　　ＳＢ５③測量図・遺物出土状況図




第 54 図　　ＳＢ５③炉①・炉②測量図




第 55 図　　ＳＢ５③出土遺物実測図

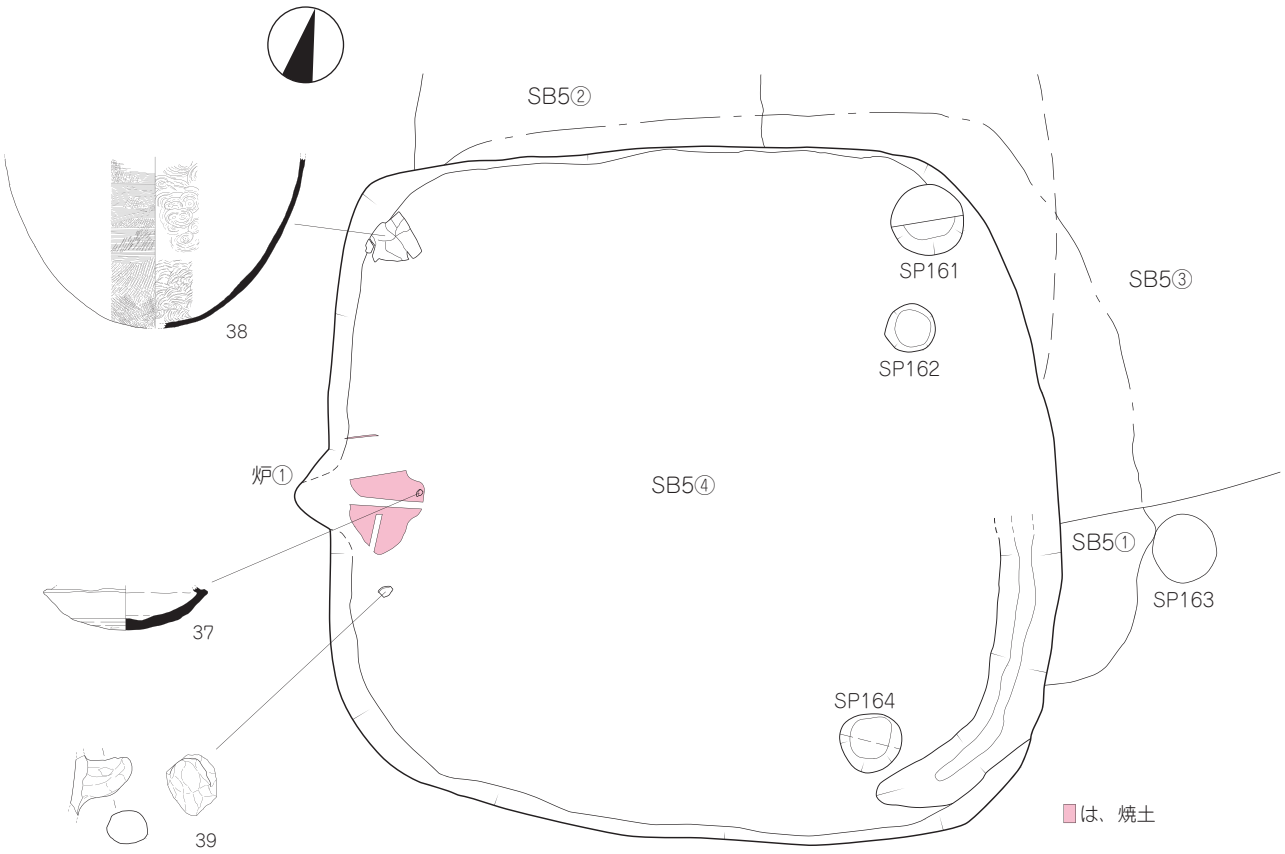
ＳＢ５④（第 49・56 ～ 58 図、写真図版 22・23）

ＳＢ５④は調査区中央西のＣ３～Ｄ４区に位置し、ＳＢ５①、ＳＢ５②、ＳＢ５③を切り、ＳＰ１６１、ＳＰ１６２、ＳＰ１６４～１６６に切られる。平面形態は方形で、規模は長さ 5.1m、幅 4.6m、壁高 15㎝を測る。建物埋土は不明（未注記）である。内部施設には炉がある。炉は建物西壁中央に位置し、西側に張り出す。平面形態は円形状で、規模は長さ 0.94 m、幅 0.88 mを測る。炉埋土は、9 層に分かれ、①層 : 淡黄灰色灰層、②層 : 淡灰褐色混灰層、③層 : 淡黄褐色灰層、④層 : 淡赤色粘性土、⑤層 : 暗褐色粘性土（カーボン含む）、⑥層 : 暗褐色粘性土（カーボンなし）、⑦層 : 濃赤色粘性土、⑧層 : 淡黄赤色粘性土、⑨層 : 暗黄灰色灰層である。出土遺物は、須恵器と土師器がある。

**出土遺物**（37 ～ 39）

37 は坏身。短く水平に伸びる受部。土師質で焼け歪みがある。38 は甕の胴底部片。39 は土師器の甑形土器の把手部。

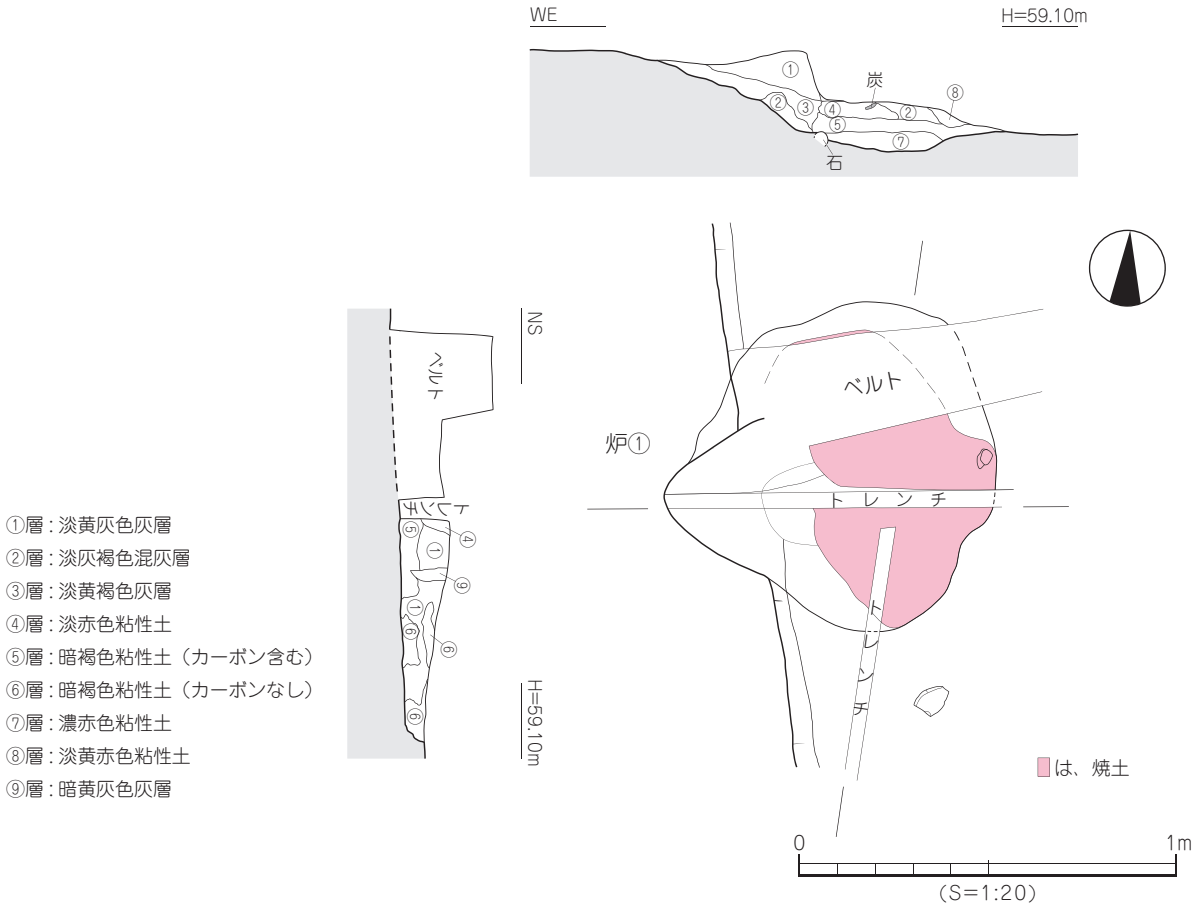
**時期**：出土した須恵器の形態とＳＢ５③に後出することから、ＳＢ５④の廃棄・埋没時期は６世紀末～７世紀初頭とする。



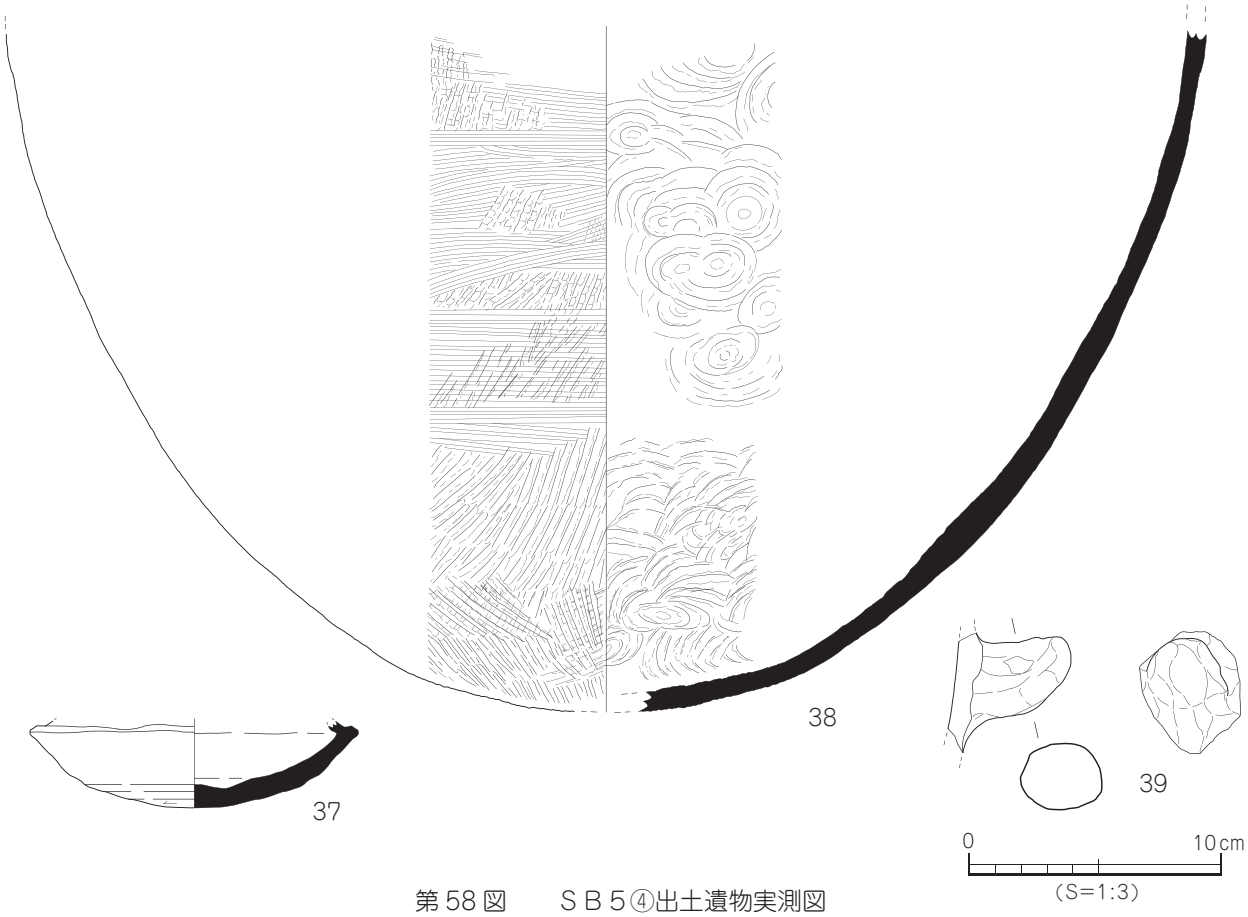

＊遺物の縮尺は、37・39 : 1/6、38 : 1/12

0　2m
(S=1:50)

第 56 図　　ＳＢ５④測量図・遺物出土状況図



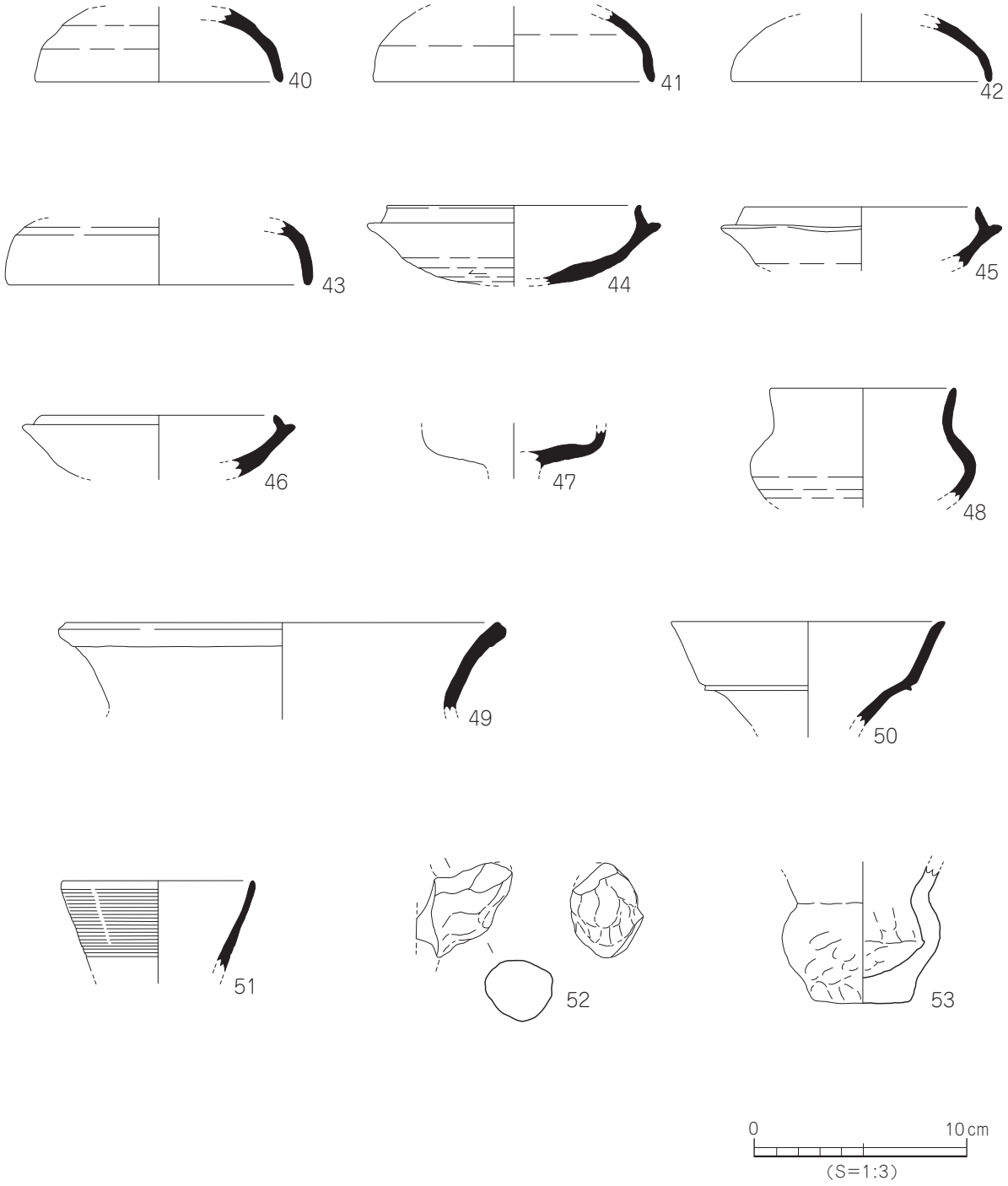

第 57 図　　ＳＢ５④炉①測量図



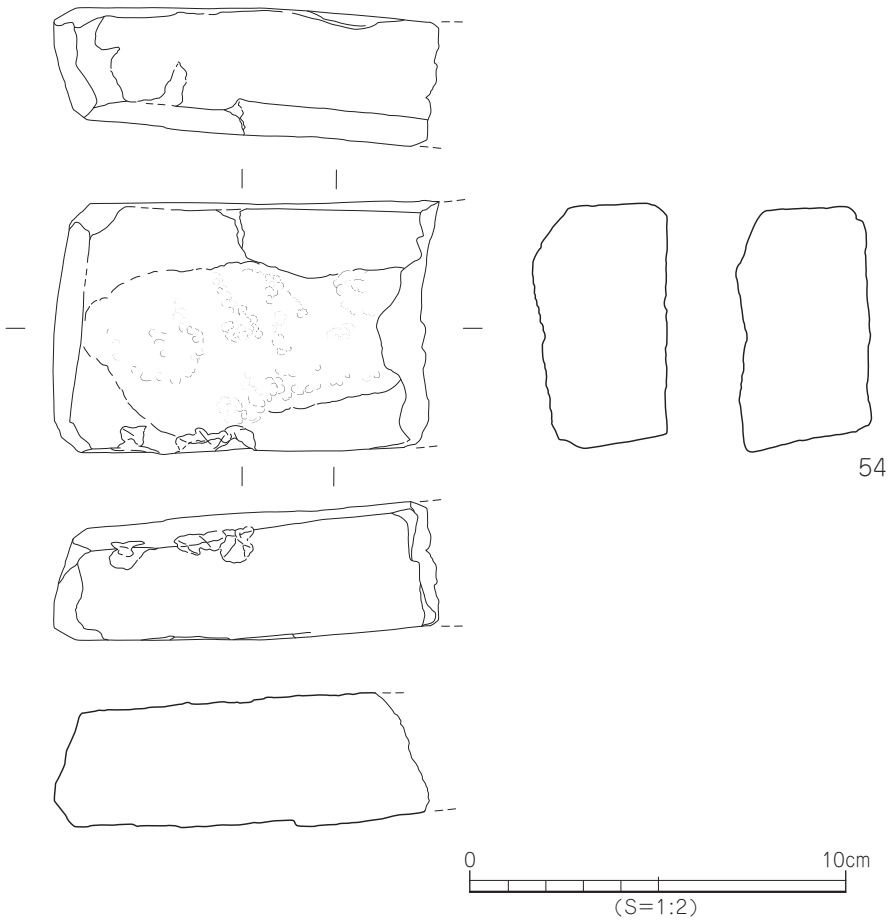

第 58 図　　ＳＢ５④出土遺物実測図

**ＳＢ５一括出土遺物**（40 ～ 54）（第 59・60 図、写真図版 23）

40 ～ 43 は坏蓋。口縁部片で、口縁端部は丸味を持つ。44 ～ 46 は坏身で、短く水平に伸びる受部を持つ。45 は焼け歪みがある。47 は高坏の坏部片。48 は短頸壺で、短く直立気味の口縁部をもつ。49 は広口壺で、口縁部を長方形状に肥厚させる。50 は甕で、口縁部は段を持つ。51 は提瓶の口縁部片で、外面に 2 条の沈線を施す。52・53 は土師器。52 は甑形土器の把手部。53 は小型壺で、平底の底部をもつ。54 は砥石である。3 面に砥面をもち、使用痕が顕著に残る。




第 59 図　　ＳＢ５一括出土遺物実測図①




第 60 図　　ＳＢ５一括出土遺物実測図②

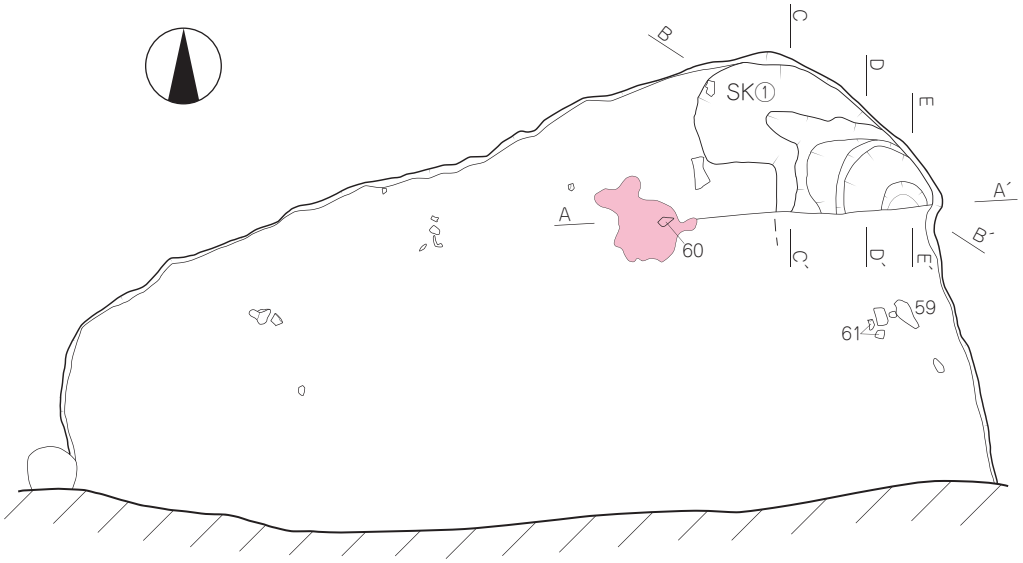
ＳＢ６（第 61 図、写真図版 24）

ＳＢ６は調査区南部のＣ５～Ｄ６区に位置し、ＳＰ 180 に切られ、南側は調査区外に続く。平面形態は二箇所のコーナー部を検出したことにより方形と考えられ、規模は東西長 5.8m、南北検出長 3.0m、深さ 18cm を測る。建物埋土は不明（注記なし）である。内部施設は貯蔵穴（ＳＫ①）を検出した。ＳＫ①は、建物北東隅に位置し、平面形態は楕円形状である。規模は長軸 3.5m、短軸 1.1m、深さ 70㎝を測る。埋土は４層に分層でき、①層 : 暗褐色粘性土、②層 : 黄褐色粘性土、③層 : 黄褐色土（灰混じり）、④層 : 黄褐色砂質土である。出土遺物は、須恵器と土師器がある。

**出土遺物**（55 ～ 60）

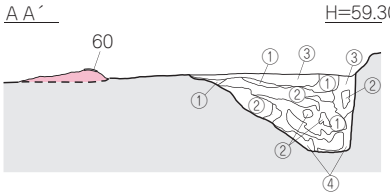
55 ～ 57 は坏蓋。口縁部の小片で、口径 12 ～ 13㎝を測る。58 は坏身で、受部は短く水平に伸びる。59 は須恵器の器種不明土器である。板状で、外面両端部に凸帯を貼り付け、沈線を横方向に２条と縦方向に１条施し、交点に円状の凸帯を貼り付ける。焼け歪みがある。60･61 は土師器の高坏形土器。60 は坏部片、61 は柱部で、61 は中実となる。

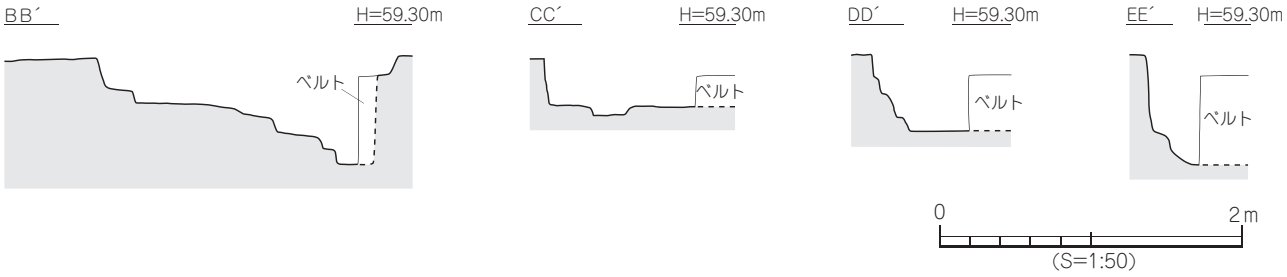
**時期**：出土した須恵器の形態より、ＳＢ６の廃棄・埋没時期は６世紀後半～末とする。

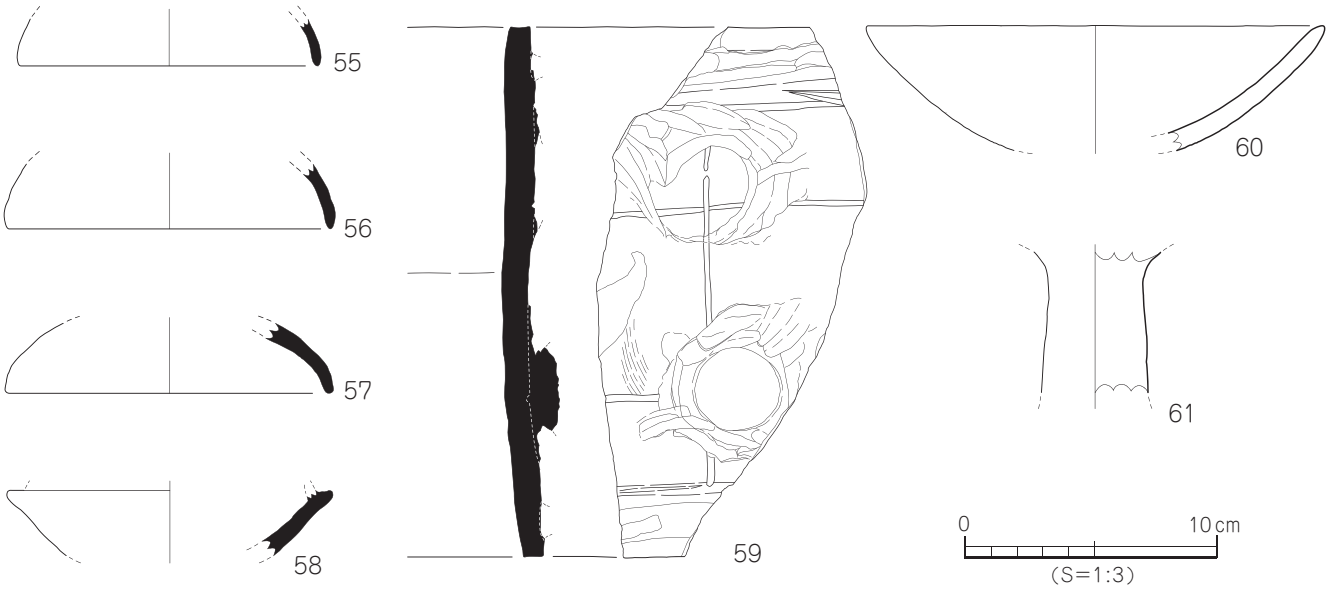



■は、焼土

①層：暗褐色粘性土
②層：黄褐色粘性土
③層：黄褐色土（灰混じり）
④層：黄褐色砂質土




第 61 図　　ＳＢ６測量図・出土遺物実測図

２）土坑（ＳＫ）

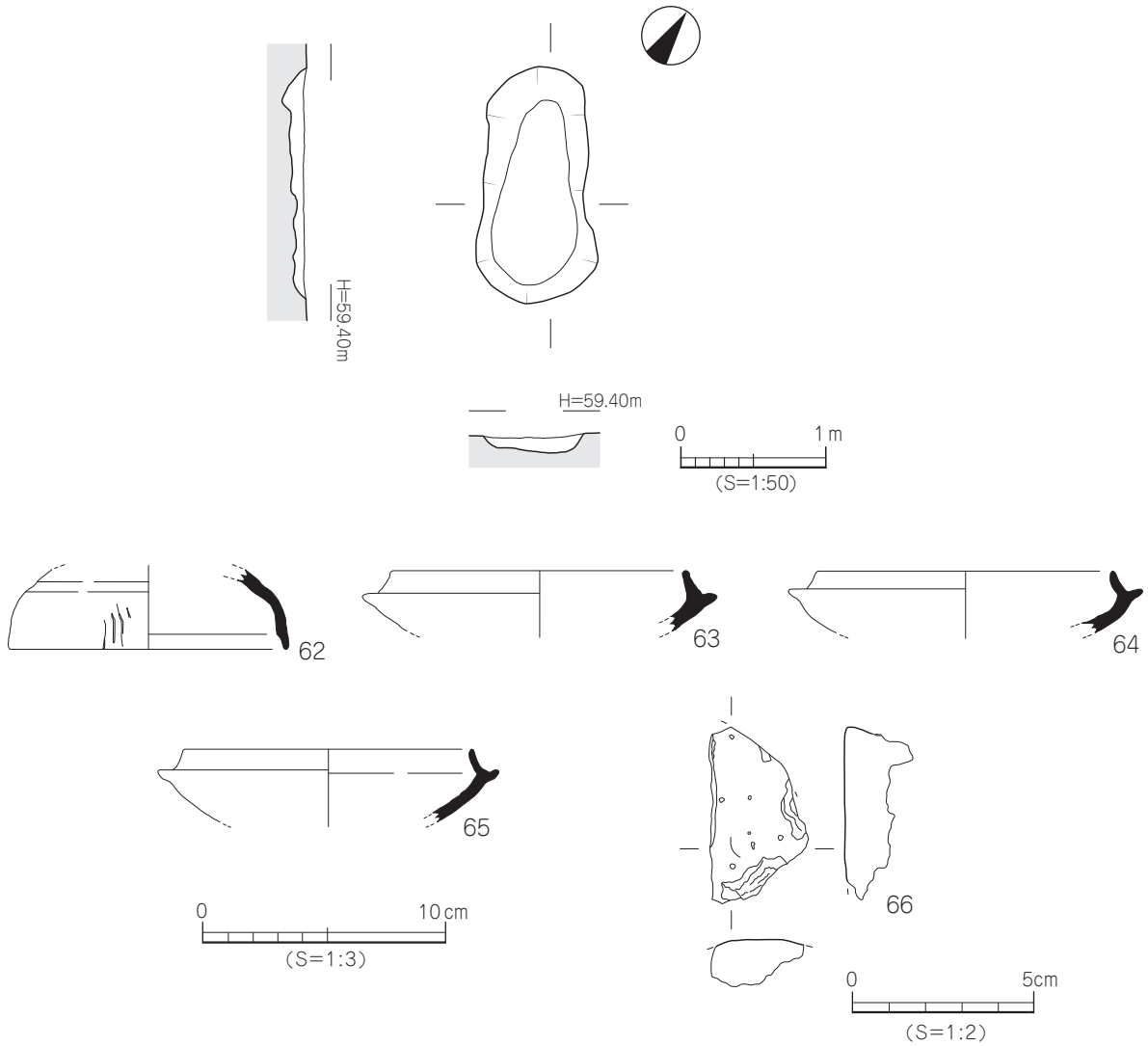
ＳＫ１（第 62 図、写真図版 22）

ＳＫ１は、調査区中央北部のＢ２・３区に位置する。平面形態は楕円形状で、規模は長径 1.6 ｍ、短径 0.7 ｍ、深さ 9㎝を測る。断面形態は皿状で、埋土は不明である。出土遺物は、須恵器と石製品がある。

**出土遺物**（62 ～ 66）

62 は坏蓋片で、口縁部外面に縦方向の 4 本の沈線を施す。63 ～ 65 は坏身。たちあがり径 12㎝を測り、器高は低い。66 は砥石で、２面の砥面を持つ。

**時期**：出土遺物の特徴から、ＳＫ１の埋没時期は６世紀後半～末とする。




第 62 図　　ＳＫ１測量図・出土遺物実測図

ＳＫ２（第 63 図、写真図版 22・23）

ＳＫ２は調査区南部のＢ５区に位置する。平面形態は楕円形で、規模は長径 2.0m、短径 1.4m、深さ 9㎝を測る。断面形態はレンズ状で、埋土は不明である。出土遺物は、土師器と須恵器がある。

**出土遺物**（67 ～ 75）

67 ～ 69 は坏身。67・68 のたちあがりは内傾し、端部は尖り気味である。69 は受部の小片。70 は高坏の脚部片で「ハ」の字状に開く。71 は脚付壺の脚部片で、脚端部は内傾する。72 は壺の底部片で、73 は甕の胴部片である。74 は提瓶の胴部片で、内面に円盤充塡痕をもつ。75 は土師器の高坏形土器の柱部で中実となる。

**時期**：出土遺物の特徴から、ＳＫ２の埋没時期は６世紀末とする。

ＳＫ３（第 64 図、写真図版 22）

ＳＫ３は調査区西部のＤ２区に位置する。平面形態は楕円形状で、規模は長径 1.3m、短径 0.7m、深さ 36㎝を測る。断面形態は逆台形状で、埋土は暗褐色粘性土を基調とし、明黄褐色砂質土がブロック状に少量混入する。出土遺物は、須恵器がある。

**出土遺物**（76）

76 は坏身。たちあがり径 11.2㎝を測り、たちあがり端部は尖り気味に丸い。

**時期**：出土遺物の特徴より、ＳＫ３の埋没時期は６世紀末～７世紀初頭とする。

ＳＫ４（第 65・66 図）

ＳＫ４は調査区東部のＡ２・３区に位置し、東側は調査区外に続く。平面形態は不整形で、規模は 2.6m × 2.2m、深さ 23㎝を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は４層に分層でき、①層：暗灰褐色粘性土、②層：黄褐色粘性土、③層：黄褐色土（褐色土混じり）、④層：黄褐色粘性土（褐色土混じり）である。出土遺物は、須恵器、土師器、弥生土器がある。

**出土遺物**（77 ～ 89）

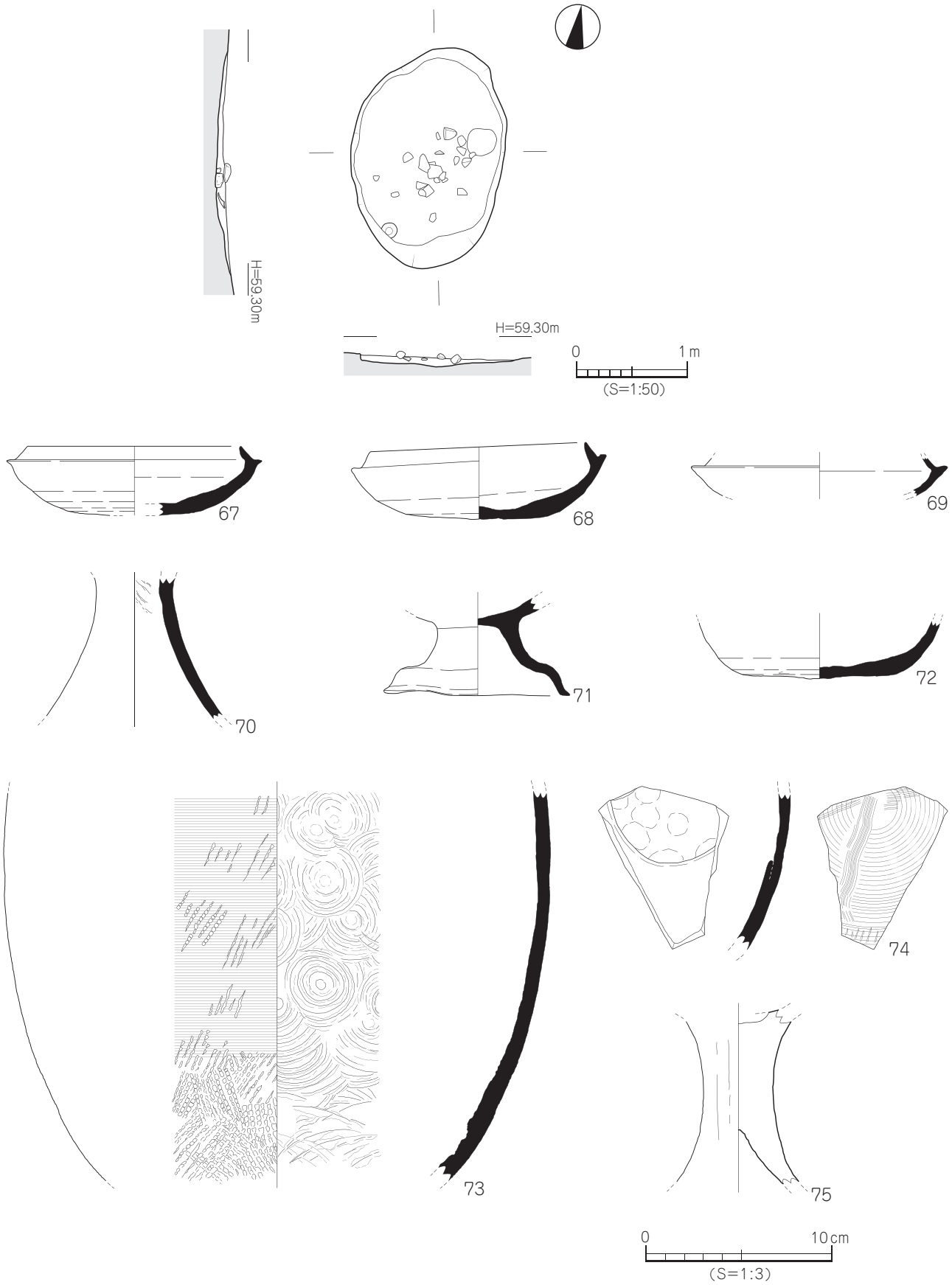
77 ～ 79 は坏蓋。77 は天井部と口縁部の境界に凹線状の凹みが巡る。78・79 は口縁部の小片で、口端部は尖り気味に丸い。80 ～ 84 は坏身。80・81 は内傾するたちあがりをもち、82 は焼け歪み有り。83・84 は短く水平に伸びる受部を持つ。85 は壺で、口縁部は長方形状に肥厚され、外面に沈線が１条巡る。86 は甕の肩部片で、外面に平行叩きを施す。87･88 は土師器。87 は甕形土器の口縁部で、口縁端部は丸味をもつ。88 は高坏形土器の坏部片、89 は弥生土器の甕形土器の底部片で、89 は上げ底をなす。

**時期**：出土遺物の特徴より、ＳＫ４の埋没時期は６世紀後半とする。

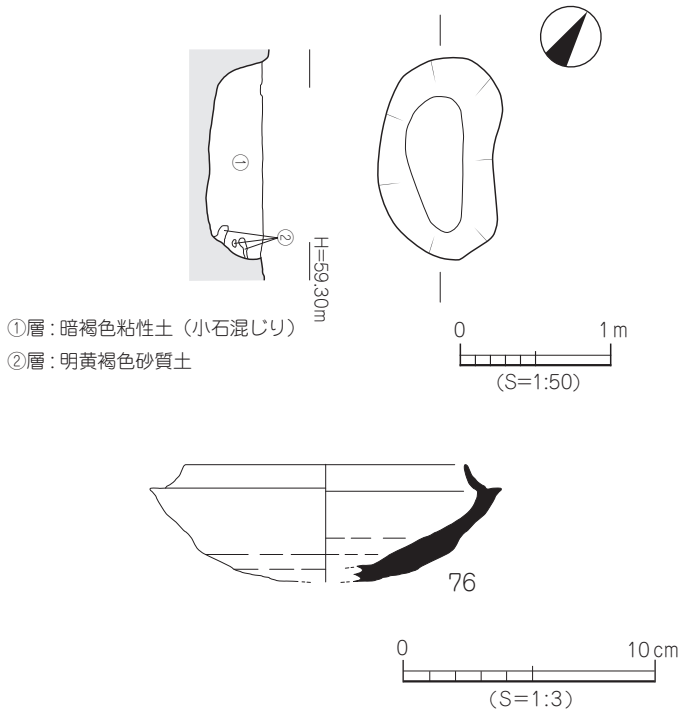
ＳＫ５（第 67 図、写真図版 22・25）

ＳＫ５は調査区中央西部のＣ・Ｄ３区に位置し、ＳＢ５に切られる。平面形態は楕円形状で、規模は長径 2.5m、短径 1.6m、深さ 14㎝を測る。断面形態、埋土とも不明である。出土遺物は須恵器があるが、図化しうるものはない。

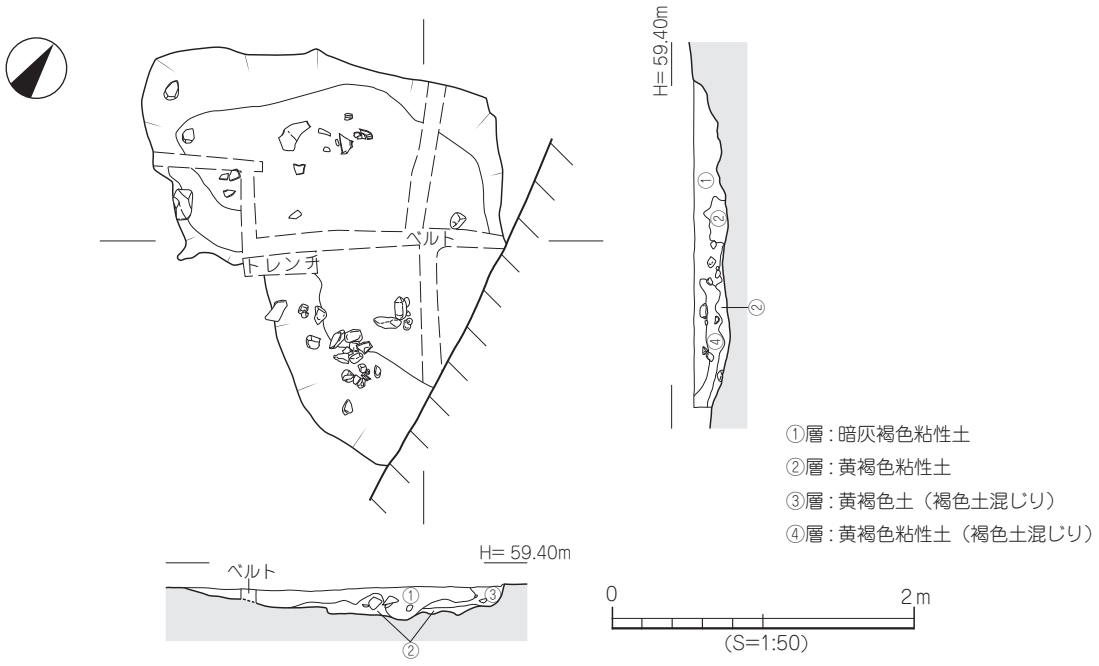
**時期**：出土遺物とＳＢ５に先行することから、ＳＫ５の埋没時期は６世紀後半とする。



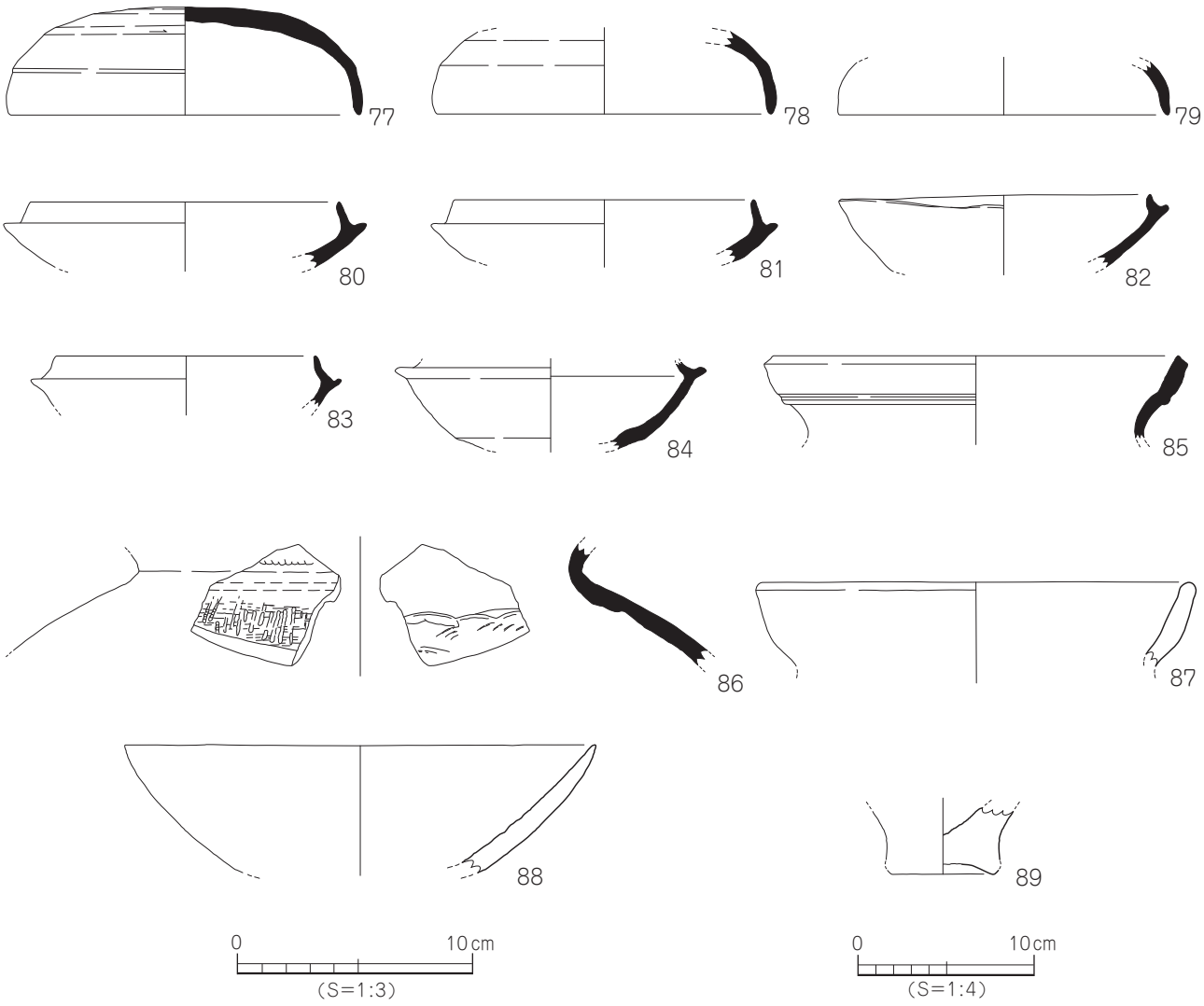

第 63 図　　ＳＫ２測量図・出土遺物実測図



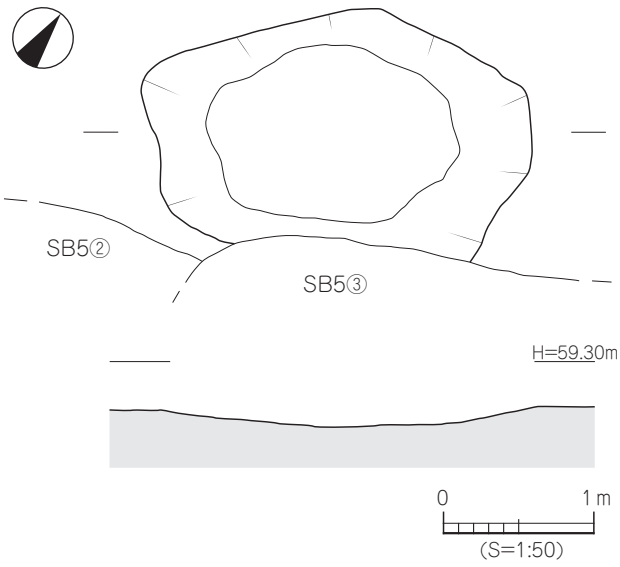

第 64 図　　ＳＫ３測量図・出土遺物実測図




第 65 図　　ＳＫ４測量図




第 66 図　　ＳＫ４出土遺物実測図




第 67 図　　ＳＫ５測量図

３）溝（ＳＤ）

ＳＤ１

（第 68・69 図、写真図版 22）

ＳＤ１は調査区中央のＡ３～Ｃ４区に位置し、ＳＫ４、ＳＰ 93、ＳＰ 150 に切られる。規模は検出長 12.1 ｍ、幅 0.4 ～ 0.7m、深さ 14㎝を測る。断面形態は皿状で、埋土は不明である。出土遺物は、須恵器と土師器がある。

**出土遺物**（90 ～ 100）

90 ～ 92 は坏蓋。90 は口縁端部が内傾する面を持つ。92 は天井部が丸味を持つ。93 ～ 96 は坏身。93・94・96 の受部は短く水平に伸び、95 は外上方に短く伸びる。97 は高坏で、柱部外面に２条の凹線が巡る。98・99 は壺で、98 の口縁部は方形状に肥厚する。99 は肩部に波状文とカキメ調整を施す。100 は、弥生土器の甕形土器の口縁部片である。

**時期**：出土遺物より、ＳＤ１の埋没時期は６世紀末～７世紀初頭とする。

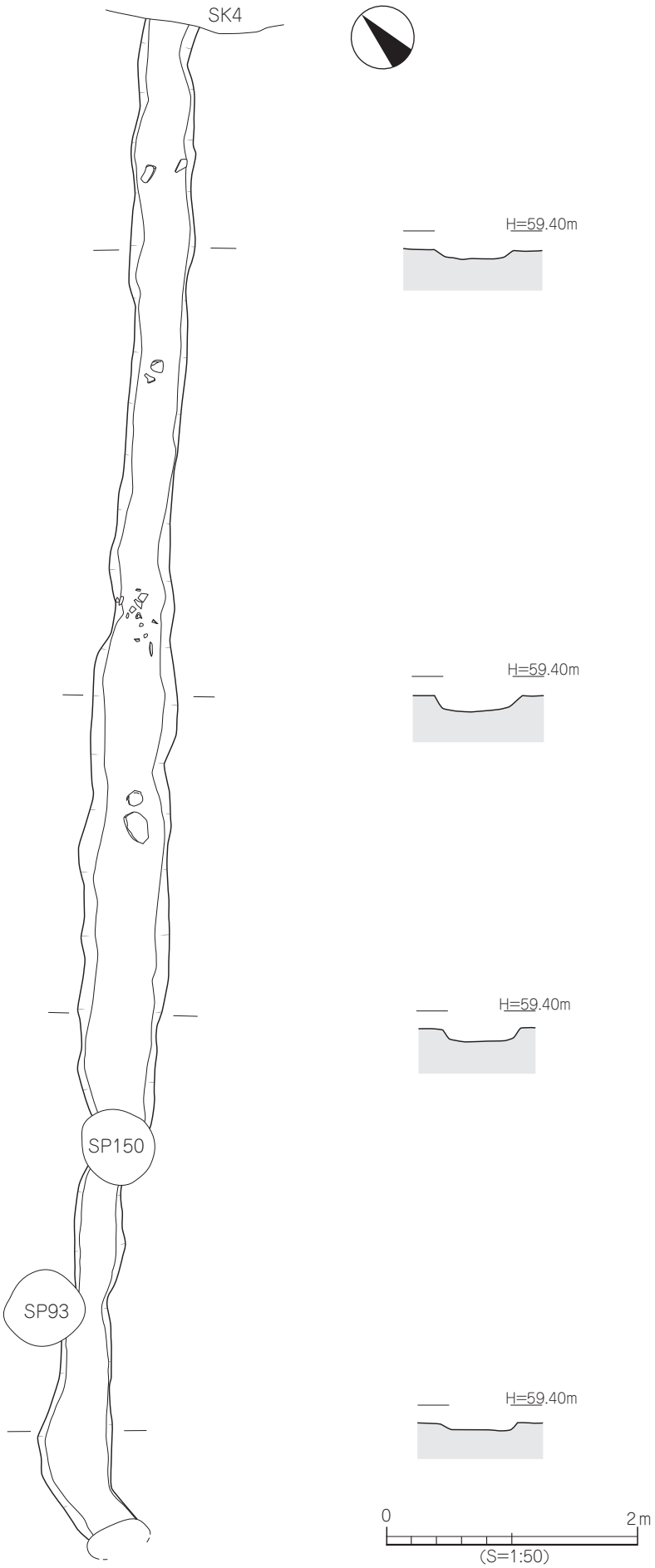
ＳＤ２

（第70～72図、写真図版22･24･25）

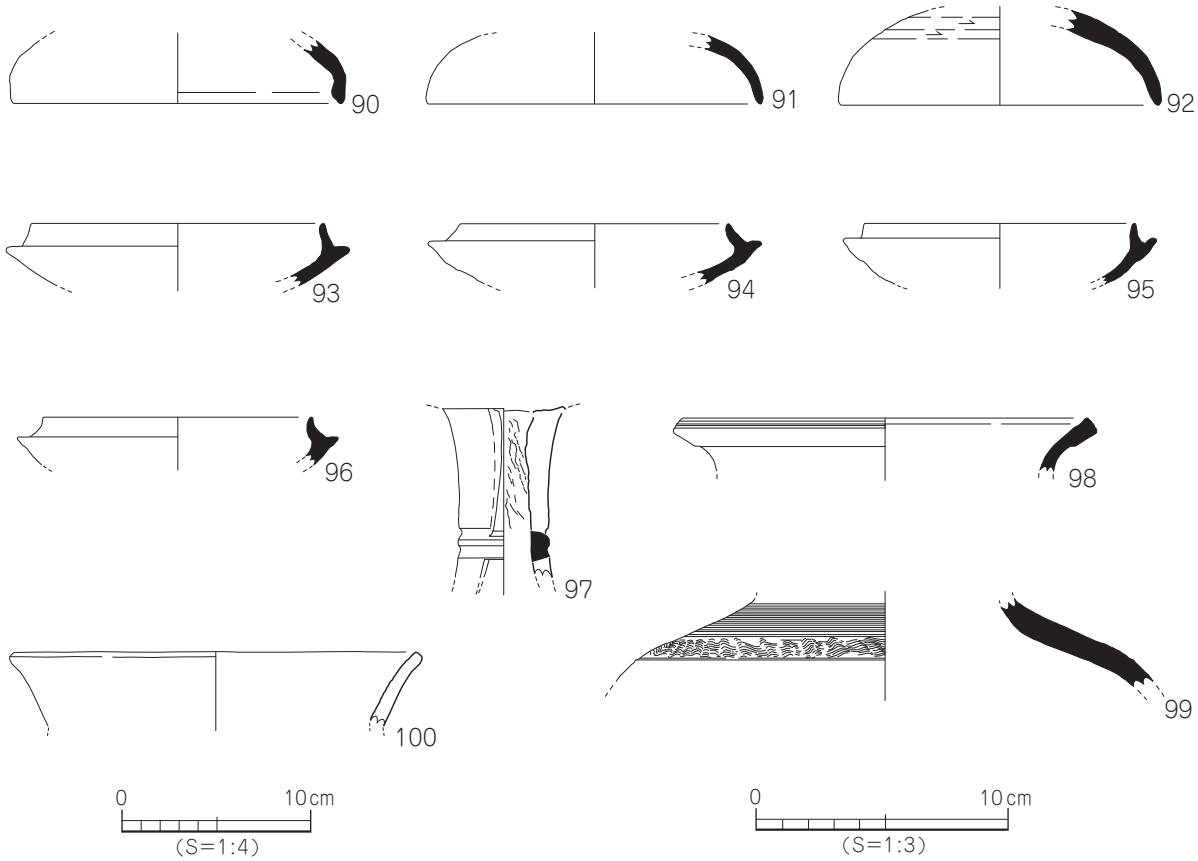
ＳＤ２は調査区南西部のＤ４～５区に位置し、ＳＤ３に切られる。規模は検出長 10.7 ｍ、幅 0.35 ～ 0.6 ｍ、深さ５～ 8㎝を測る。断面形態は皿状で、埋土は不明である。出土遺物は、須恵器と土師器がある。

**出土遺物**（101 ～ 118）

101 は坏蓋で、口縁端部は尖り気味に丸い。102 ～ 105 は坏身。102 の受部は水平に伸び尖り気味である。103 の受部は外上方に伸びる。




第 68 図　　ＳＤ１測量図




第 69 図　　ＳＤ１出土遺物実測図

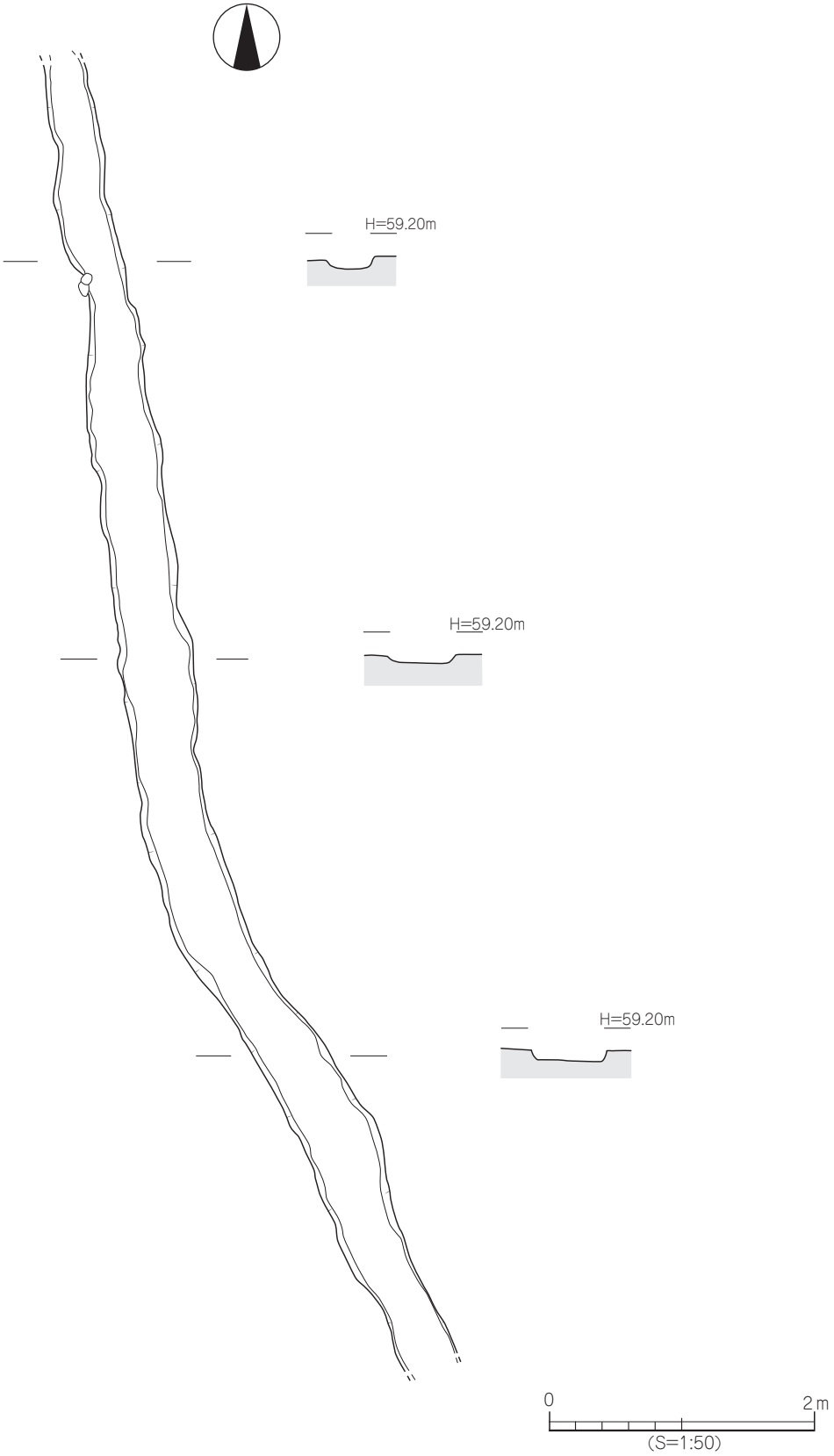
104 の受部は水平に伸びる。105 のたちあがりは短く内傾し、尖り気味である。106 ～ 110 は壺で、106 は外反する口縁部片、107 は直立する口縁部をもち、肩部に火ぶくれが見られる。108 は直立する口縁部に火ぶくれが見られる。109 は平底の底部。110 は丸底の底部片である。111 は甕の頸肩部片で、外面にカキ目調整を施す。112 は鉢で、頸部と胴部に 2 条の沈線、胴部沈線間に刺突文を施す。113 ～ 117 は土師器。113 ～ 116 は高坏形土器。113 は坏部片、114 ～ 116 は柱部片である。117 は甑形土器の把手部で、断面形態は円形状をなす。118 は弥生土器の壺形土器で、口縁部は外反する。

**時期**：出土遺物より、ＳＤ２の埋没時期は６世紀末～７世紀初頭とする。

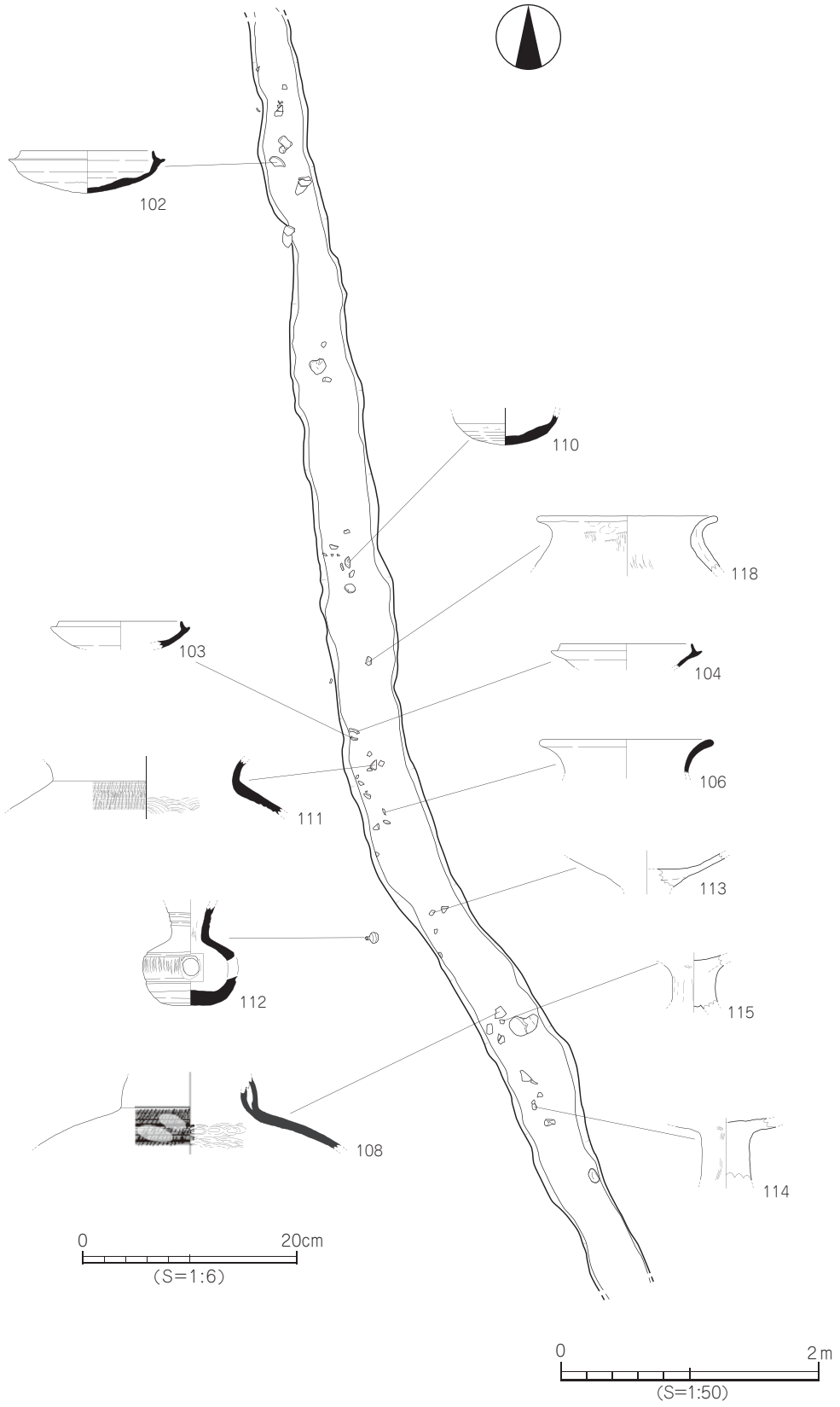
ＳＤ３（第 73 図、写真図版 22）

ＳＤ３は調査区南部のＣ･Ｄ５区に位置し、ＳＤ２を切る。規模は、検出長 5.6 ｍ、幅 0.4 ～ 0.9 ｍ、深さ８～ 10㎝を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、不明である。出土遺物は須恵器があるが、小片の為に図化しえない。

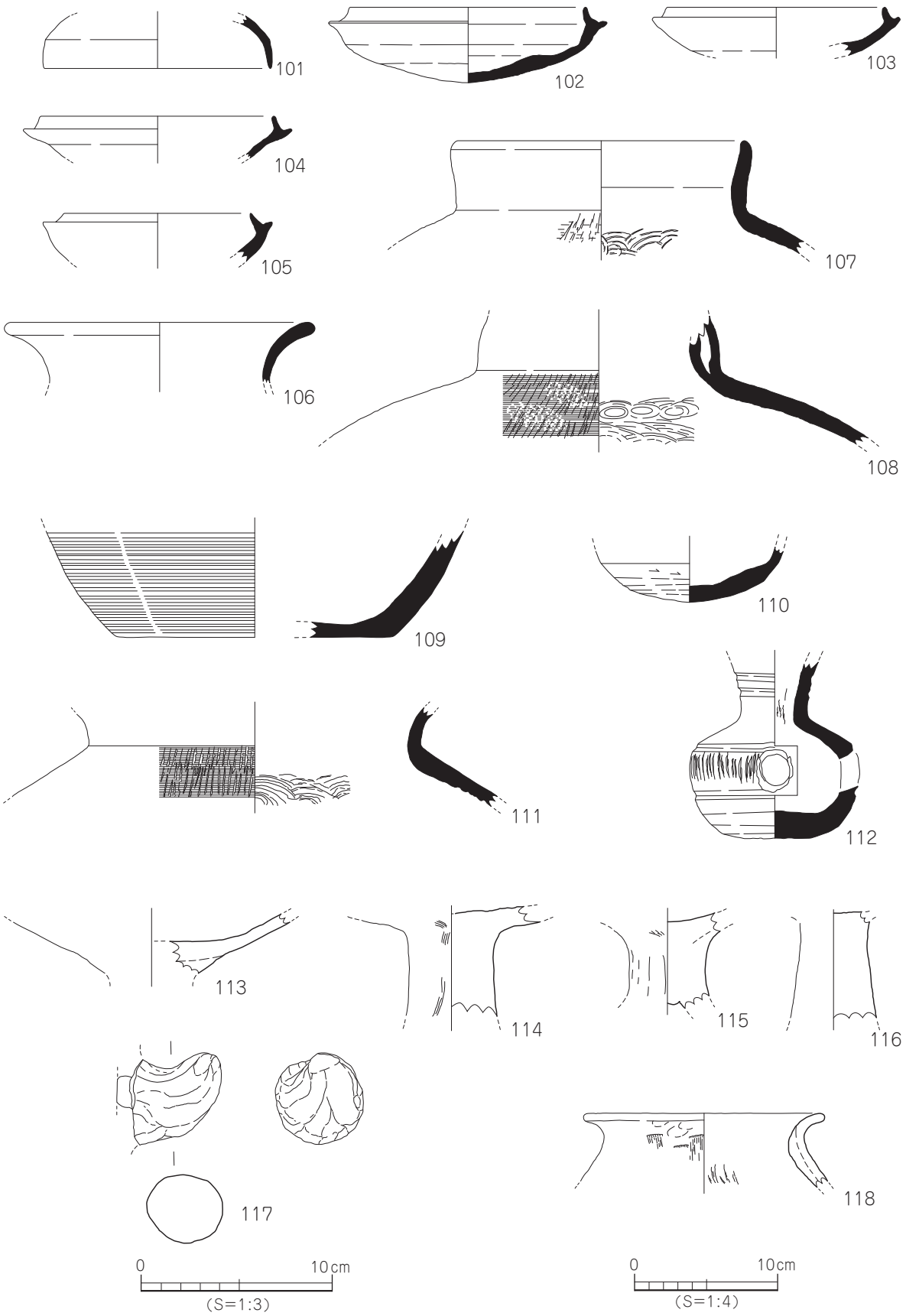
**時期**：出土遺物とＳＤ２に後出することから、ＳＤ３の埋没時期は７世紀初頭以降とする。



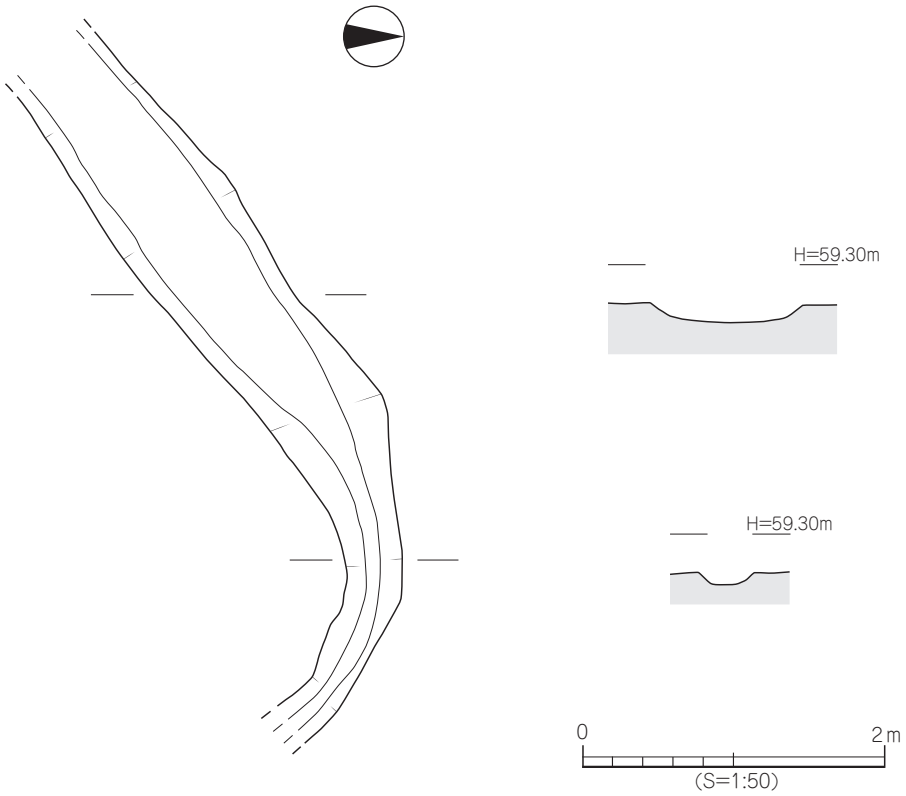

第 70 図　　ＳＤ２測量図




第 71 図　　ＳＤ２遺物出土状況図




第 72 図　　ＳＤ２出土遺物実測図




第73図　　ＳＤ３測量図

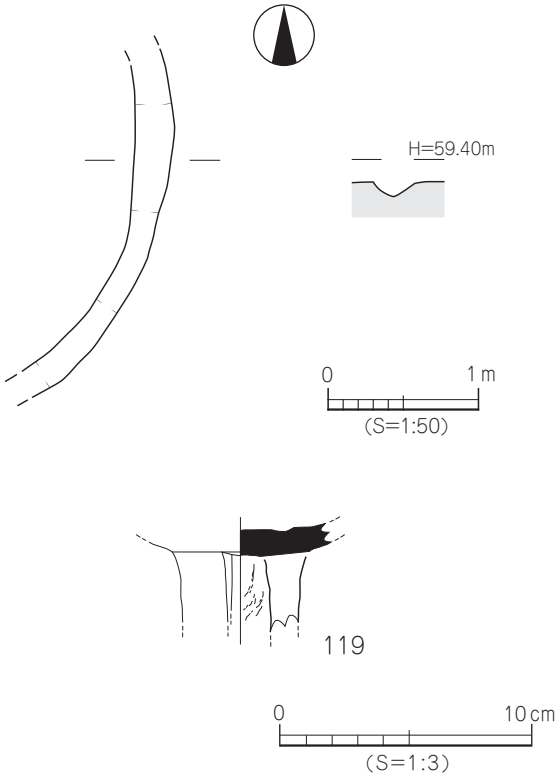
ＳＤ４（第74図、写真図版22）

ＳＤ４は調査区中央部のＢ４区に位置する。規模は検出長2.2ｍ、幅0.25ｍ、深さ9㎝を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は不明である。出土遺物は、須恵器がある。

**出土遺物**（119）

119は高坏の脚部片で、３方向の透かしを施す。

**時期**：出土遺物より、ＳＤ４の埋没時期は６世紀後半とする。




第74図　　ＳＤ４測量図・出土遺物実測図

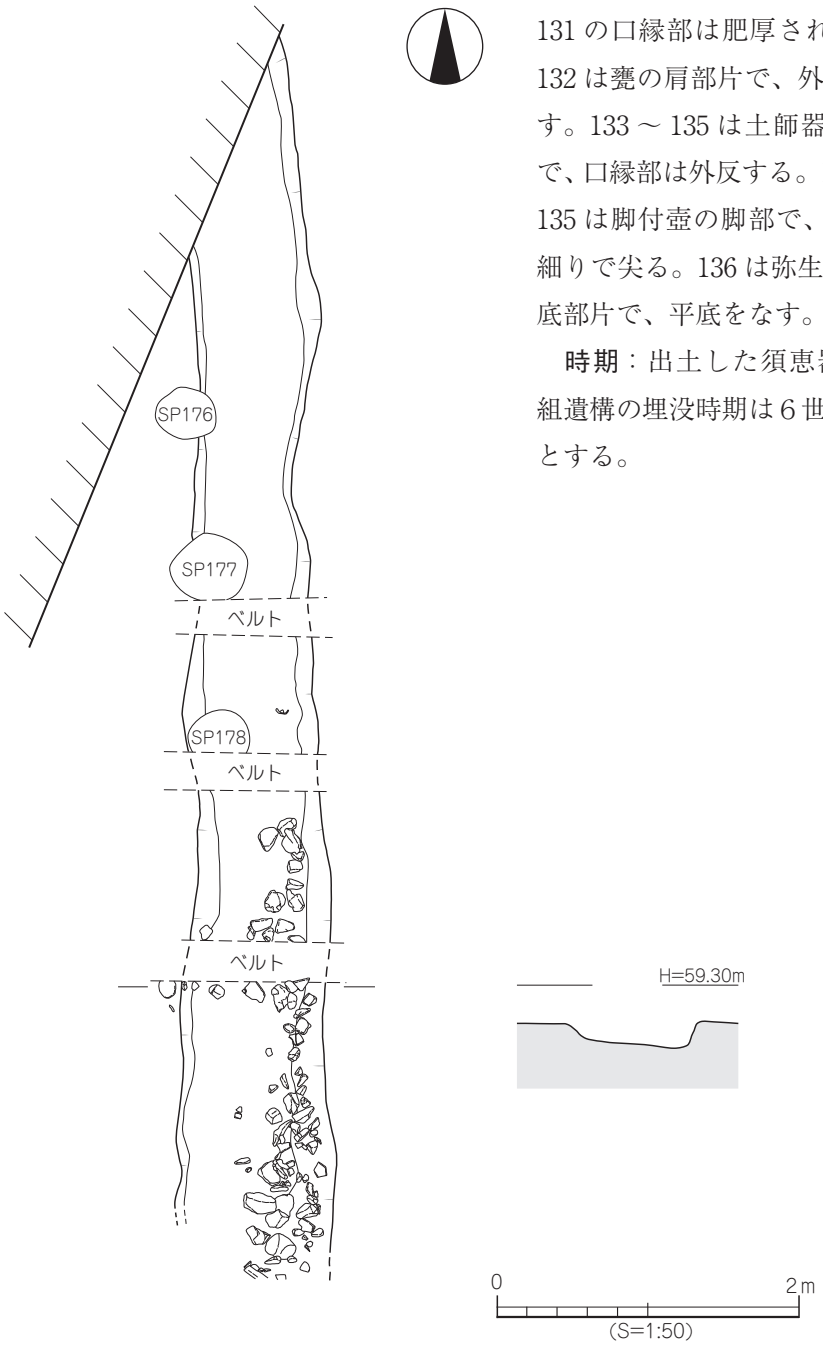
４）石組遺構（第 75・76 図、写真図版 21・22・25）

石組遺構は調査区南西部のＥ４・５区に位置し、３基の柱穴に切られる。北側と南側は調査区外に続く。平面形態は、溝状で溝中にレキを敷いている。規模は検出長 6.7 m、幅 0.7 ～ 0.9 m、深さ 16㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は不明である。出土遺物は、須恵器と土師器がある。

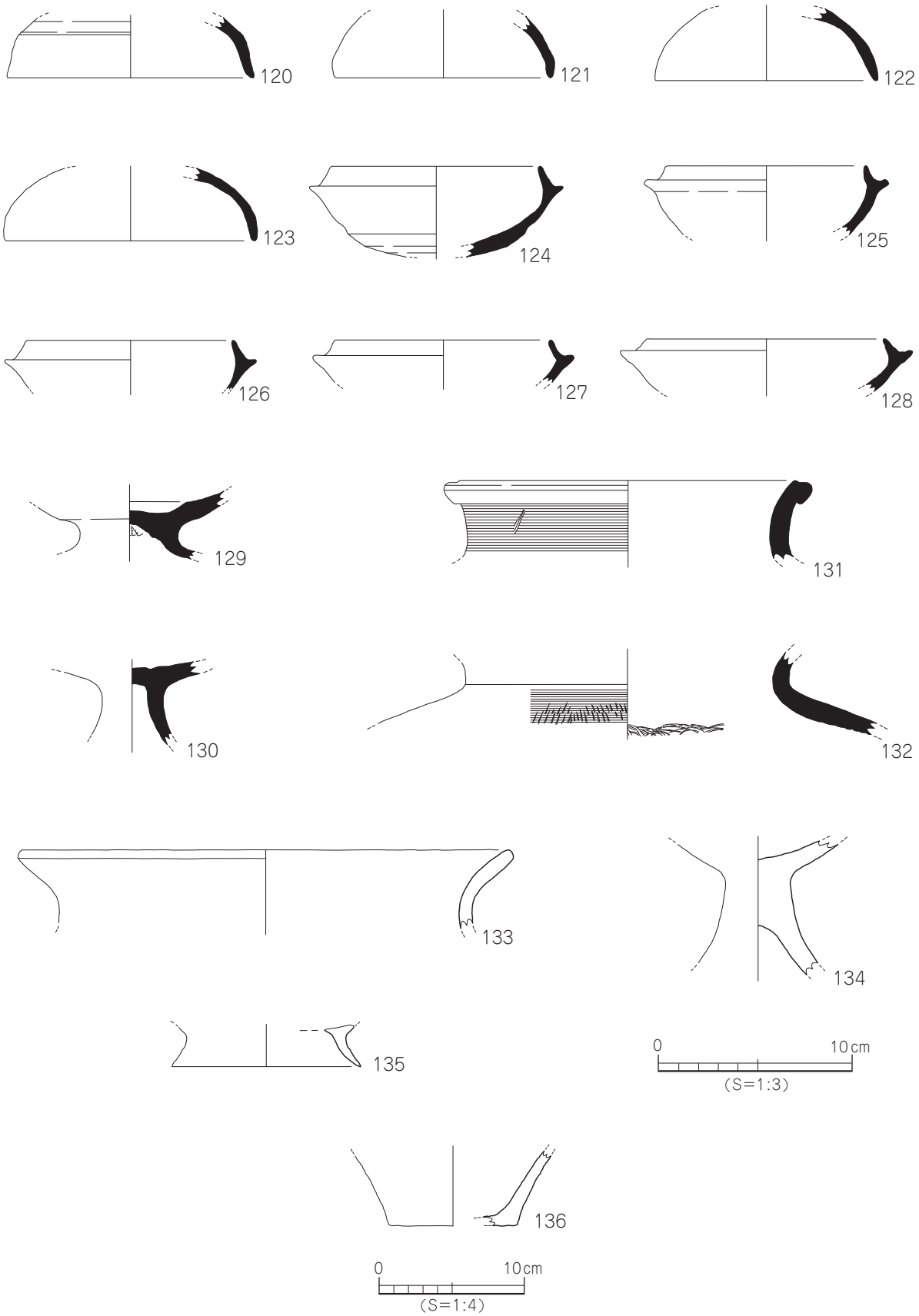
**出土遺物**（120 ～ 136）

120 ～ 123 は坏蓋片、口縁端部は丸い。124 ～ 128 は坏身で、124 はたちあがりは内傾する。125 は土師質で、焼け歪みがある。126・127 の受部は、短く水平に伸び、128 の受部は外上方に伸びる。129・130 は高坏の坏脚部片。131 は壺で、131 の口縁部は肥厚され下方に拡張する。132 は甕の肩部片で、外面に平行叩きを施す。133 ～ 135 は土師器。133 は甕形土器で、口縁部は外反する。134 は高坏形土器、135 は脚付壺の脚部で、135 の脚端部は先細りで尖る。136 は弥生土器の甕形土器の底部片で、平底をなす。

**時期**：出土した須恵器の形態より、石組遺構の埋没時期は６世紀末～７世紀初頭とする。




第 75 図　　石組遺構測量図




第 76 図　　石組遺構出土遺物実測図

５）性格不明遺構（ＳＸ）

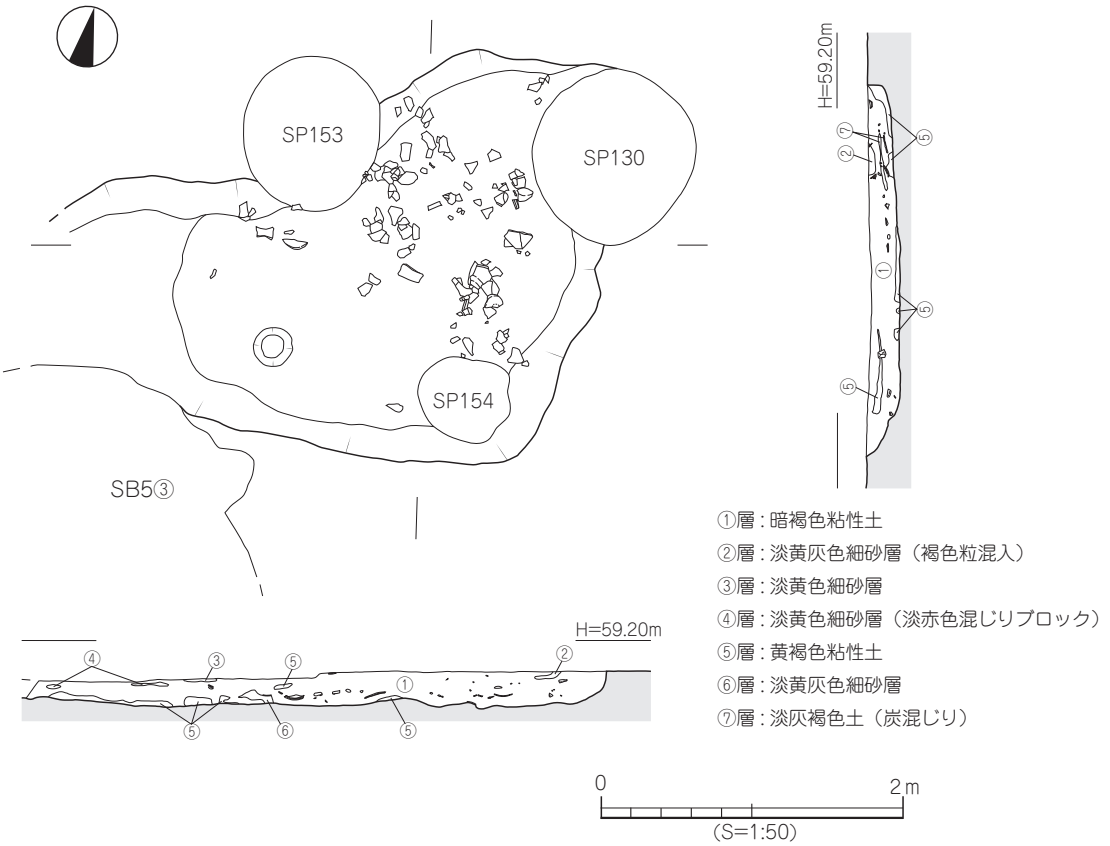
ＳＸ１（第 77・78 図、写真図版 22・25）

ＳＸ１は調査区中央北部のＣ２・３区に位置し、ＳＢ５③、ＳＰ 130、ＳＰ 153 に切られ、西側は削平されている。平面形態は不整形で、規模は 2.7m × 2.6m、深さ 17㎝を測る。基底面はほぼ平坦である。埋土は７層に分層でき、①層：暗褐色粘性土、②層：淡黄灰色細砂層（褐色粒混入）、③層：淡黄色細砂層、④層：淡黄色細砂層（淡赤色混じりブロック）、⑤層：黄褐色粘性土、⑥層：淡黄灰色細砂層、⑦層：淡灰褐色土（炭混じり）である。出土遺物は、須恵器、土師器、石製品がある。

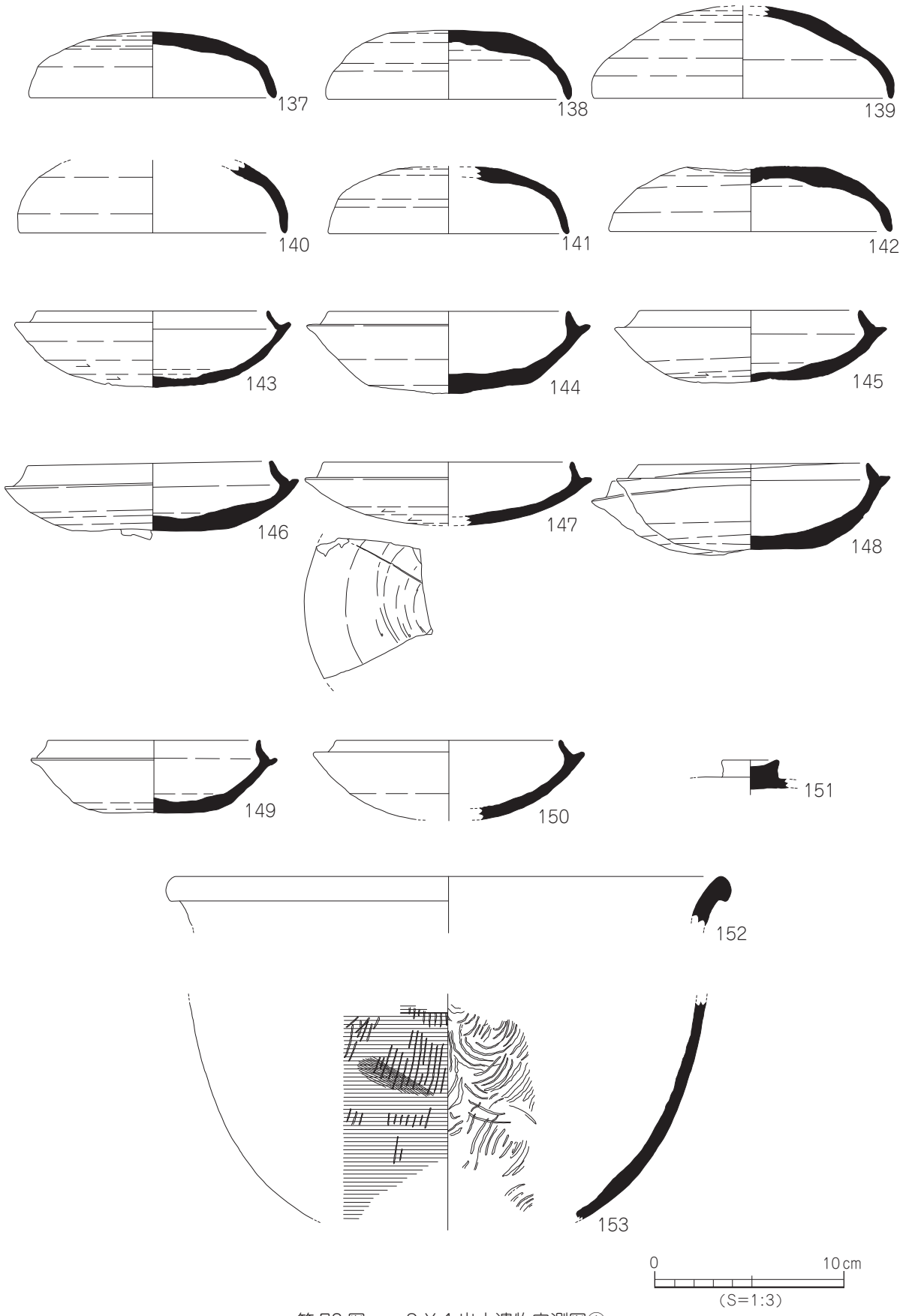
**出土遺物**（137 ～ 165）

137 ～ 142 は坏蓋。137・138 の口縁部は尖り気味に丸く、139・140 の口縁部は直立して接地する。142 の天井部は、焼け歪みがみられる。143 ～ 150 は坏身。143・144 の受部は外上方に短く伸び、145 の受部は水平に短く伸びる。146 は底部に別個体が付着し、147 は、底部外面にヘラ記号を施す。146・148 は焼け歪みが著しい。149 の底部は平底である。151 は高坏の蓋で、中央部が凹む。152・153 は甕で、152 の口縁端部は肥厚され下方に拡張される。153 は胴部片で、外面に平行叩きを施す。154 ～ 164 は土師器。154 ～ 162 は甕形土器で、154 の口縁部は水平な面を持つ。155 の口縁部は、内方に肥厚する。156 は口縁端部が内傾する面をもつ。158 の口縁部は尖り気味に丸く、159・160 の口縁部は、先細りする。163 は高坏の柱部、164 は甑の把手部である。165 は砥石。

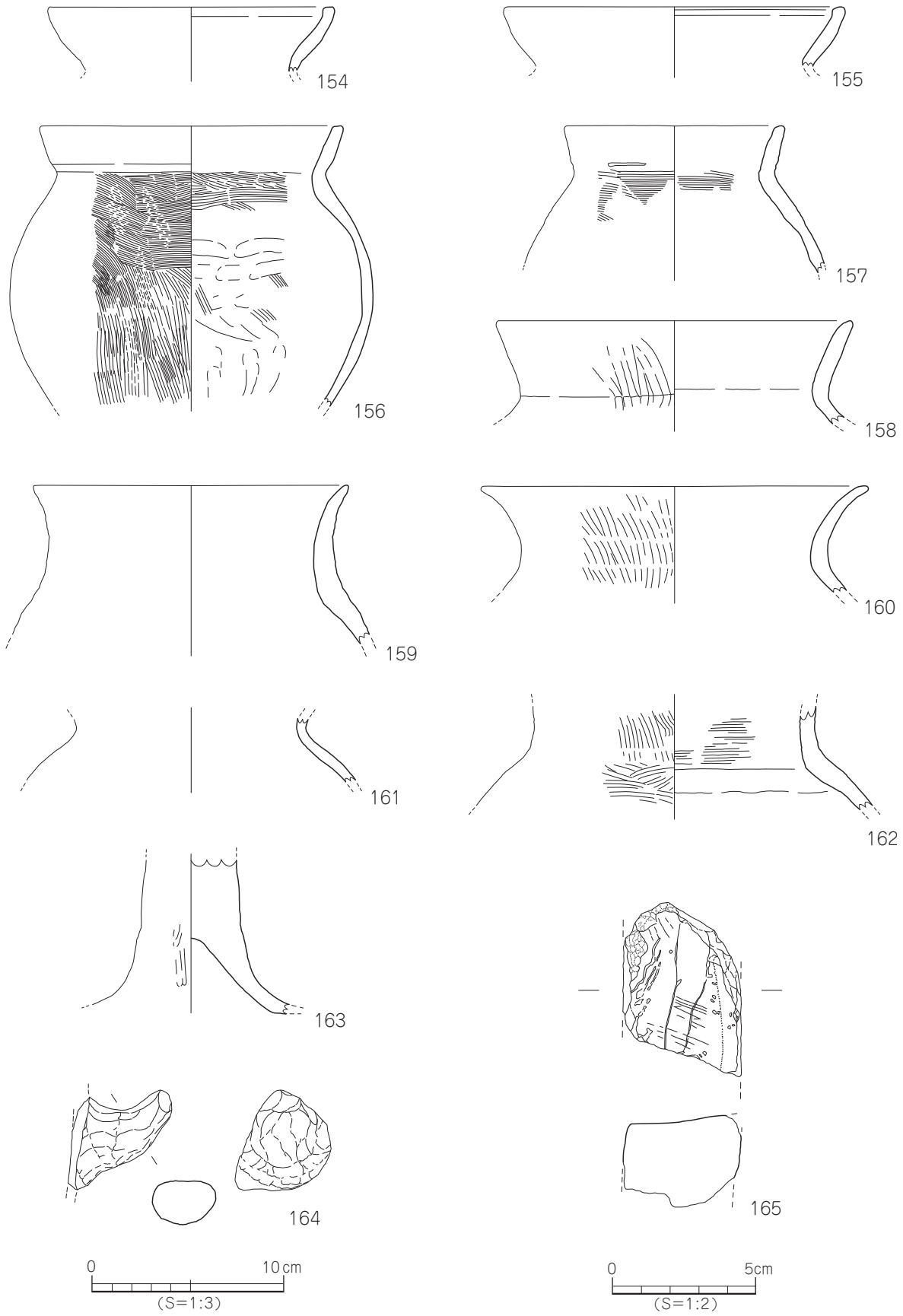
**時期**：出土した土師器と須恵器の特徴より、ＳＸ１の埋没時期は６世紀後半とする。




第 77 図　　ＳＸ１測量図




第 78 図　　ＳＸ１出土遺物実測図①




第 79 図　　ＳＸ１出土遺物実測図②

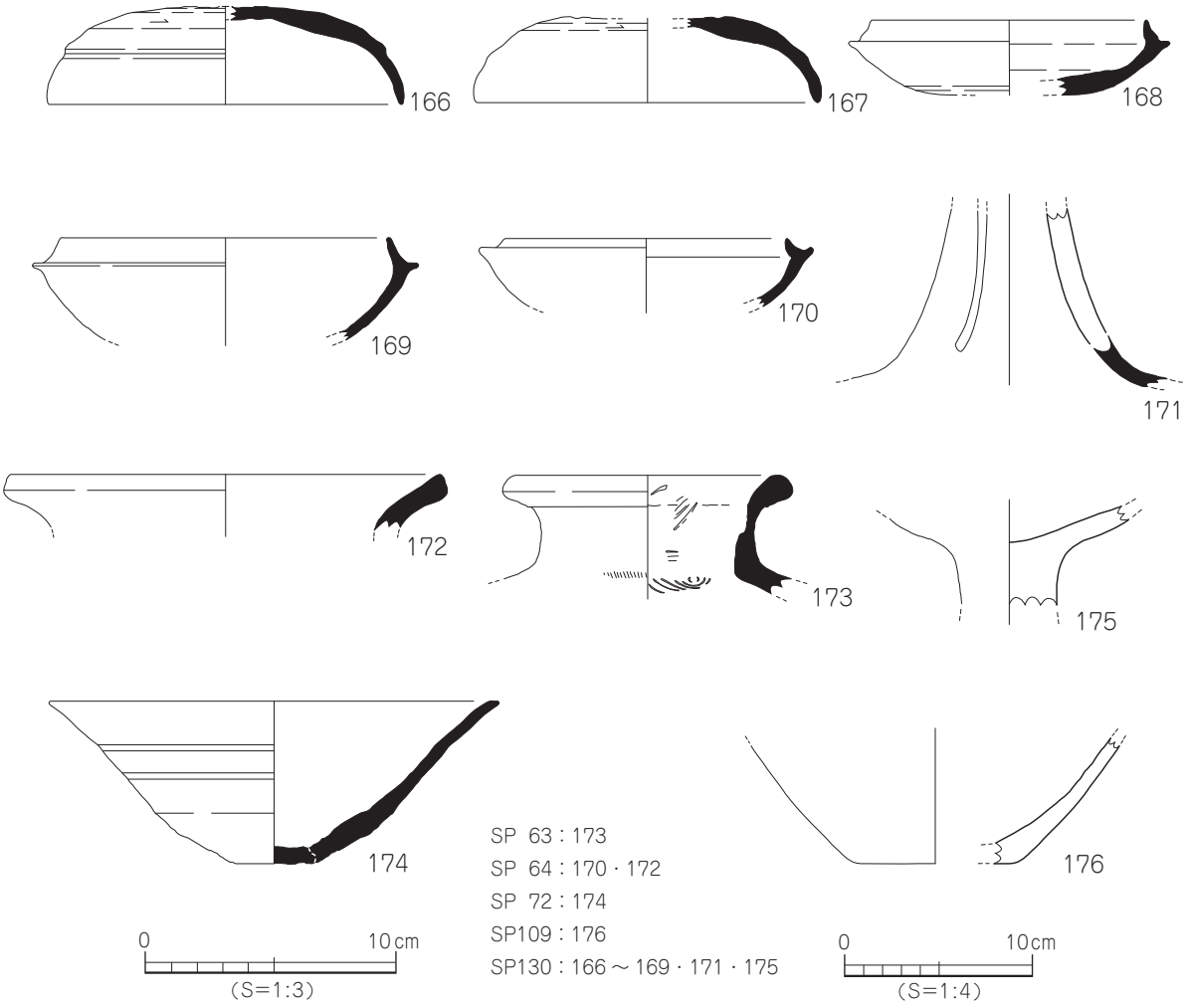
## （2）その他の遺構と遺物

### 1）柱穴（ＳＰ）出土遺物（166 ～ 177）（第 80・81 図、写真図版 22・26）

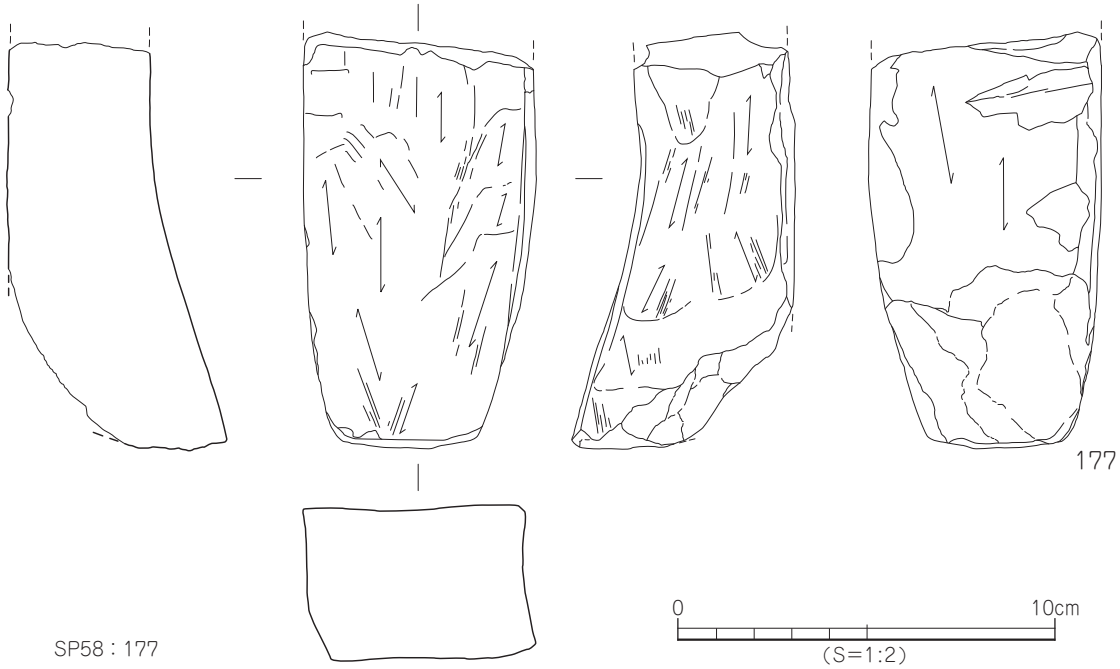
ＳＰ 130 からは、166 ～ 169、171、175 の 6 点が出土している。166・167 は須恵器坏蓋。166 の天井部と口縁部を分ける境界に凹線状の凹みが巡る。167 は平坦な天井部をもつ。168・169 は坏身、171 は高坏、175 は土師器の高坏形土器である。ＳＰ 64 からは、坏身（170）と。壺（172）が出土している。ＳＰ 63 からは、壺（173）、ＳＰ 72 からは、鉢（174）が出土している。ＳＰ 109 からは、弥生土器の甕形土器の底部（176）がＳＰ 58 からは砥石（177）が出土している。

### 2）グリッド出土遺物（178 ～ 190）（第 82 図、写真図版 26）

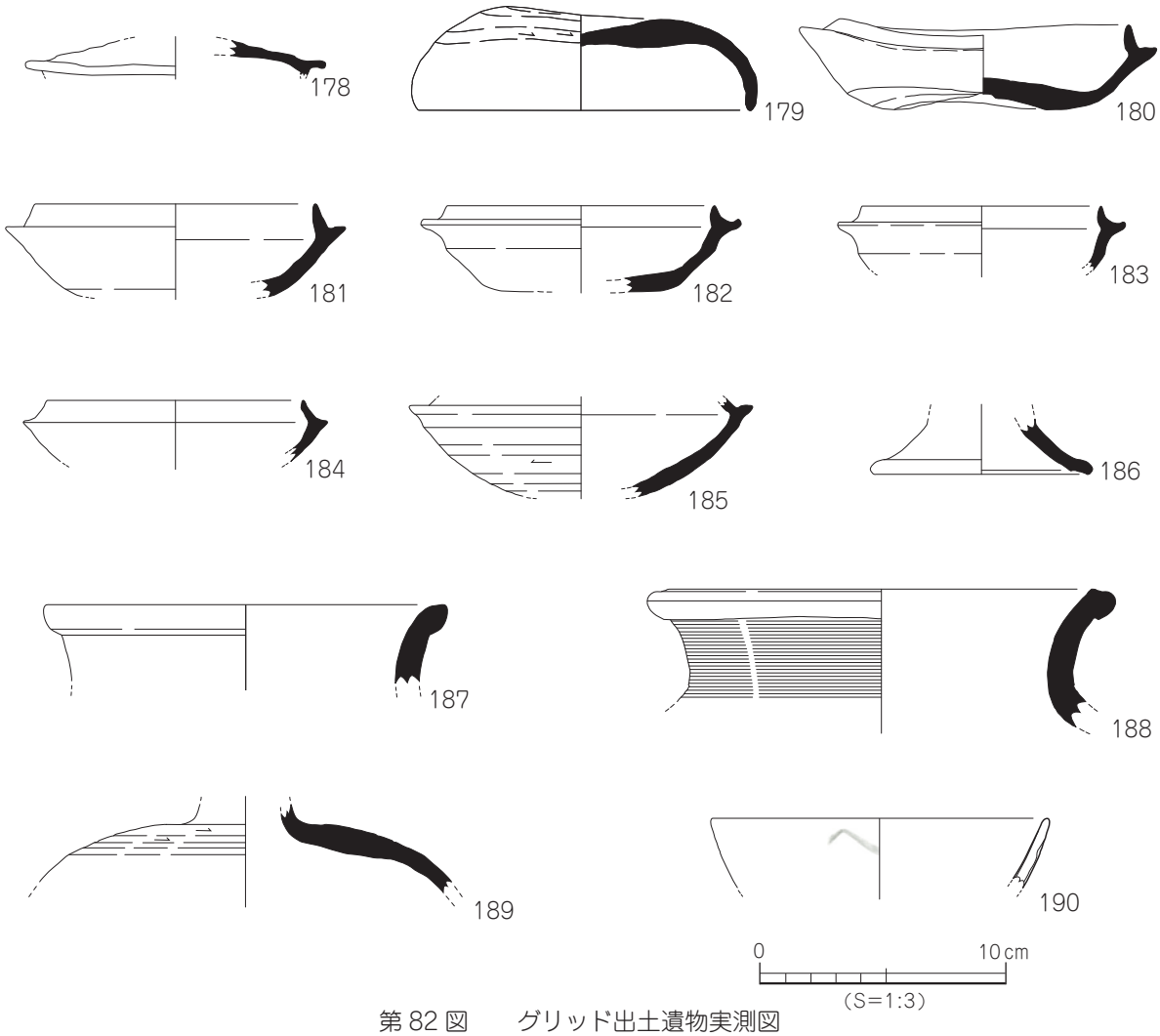
178 は須恵器壺蓋、焼け歪みがみられる。179 は坏蓋、天井部は焼け歪みがみられる。180 ～ 185 は坏身である。180 は焼け歪みが著しい。179 と 180 は重なって出土した。181・184 のたちあがりは内傾し、182・183 のたちあがりは直立する。186 は高坏の脚部で、脚裾部は「ハ」の字状に開く。187・188 は壺で、188 の口縁部は丸く肥厚する。189 は蓋で、中央が中空状である。190 は陶磁器の碗で、胎土は白色で、緑釉が掛けられている外面に蓮弁文が描かれている。




第 80 図　　ＳＰ出土遺物実測図①



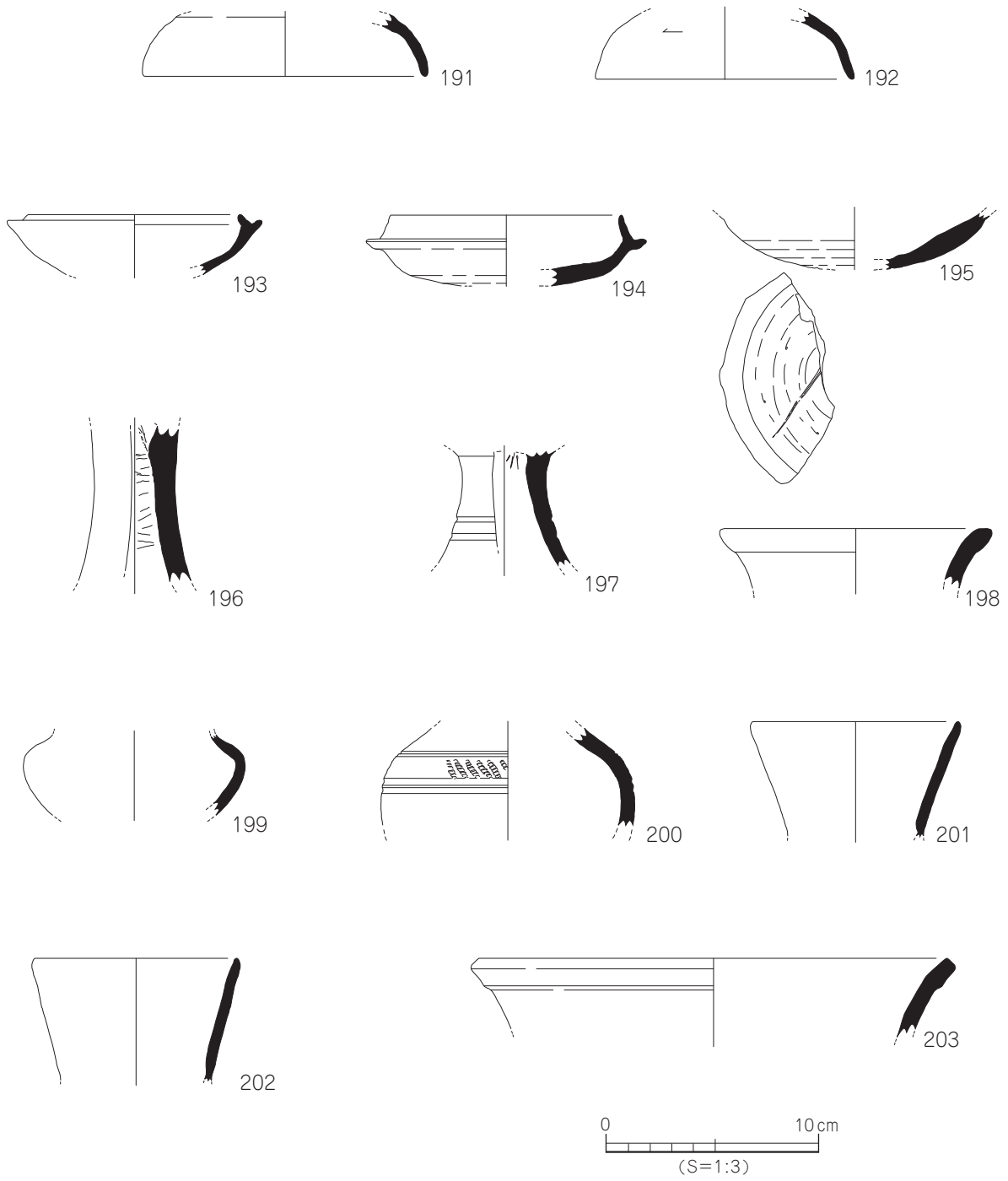

第 81 図　　ＳＰ出土遺物実測図②




第 82 図　　グリッド出土遺物実測図

3）包含層出土遺物（191 ～ 203）（第 83 図、写真図版 26）

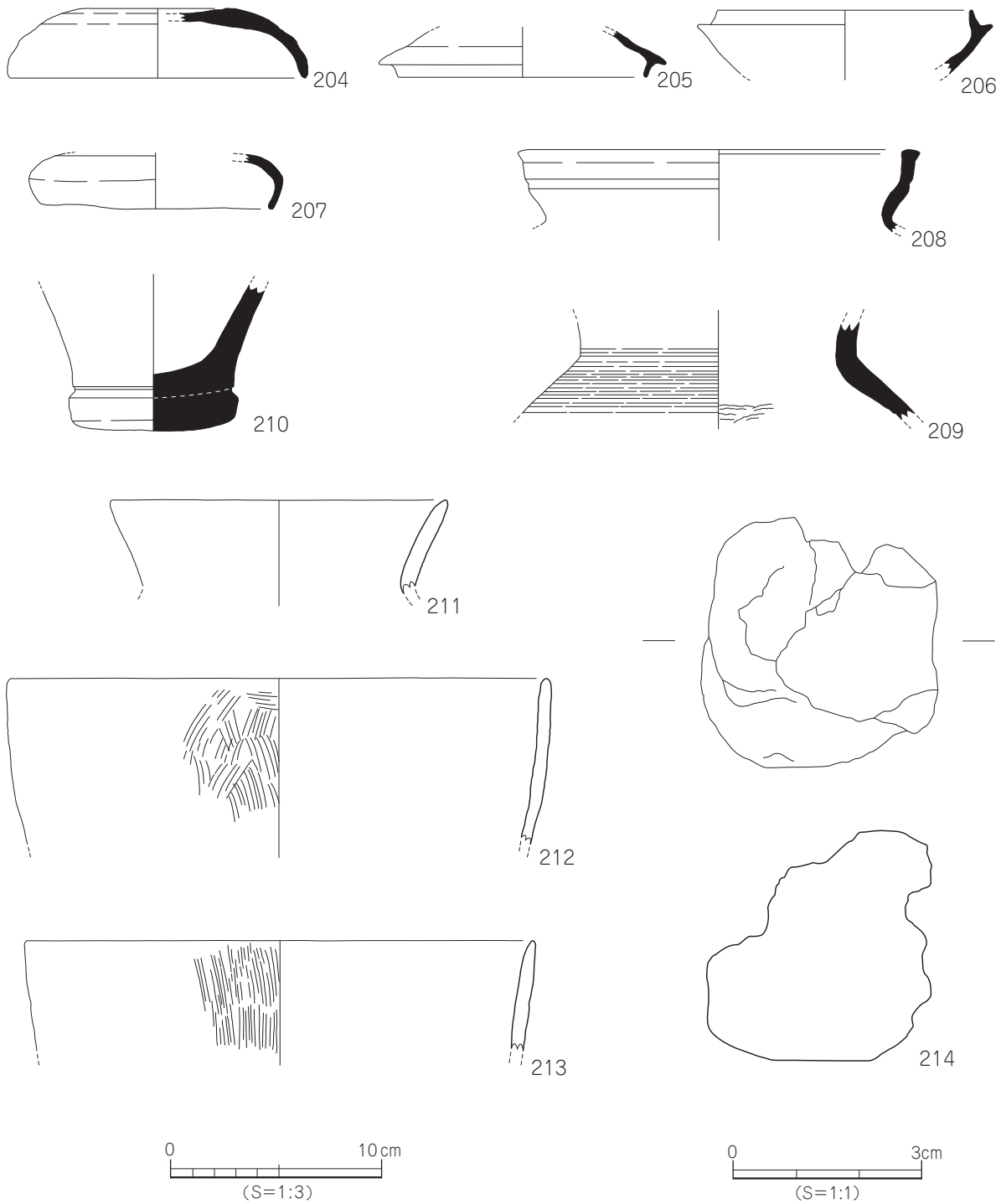
191・192 は須恵器坏蓋。193 ～ 195 は坏身である。195 の底部外面には、ヘラ記号を施す。196・197 は須恵器高坏の脚部片で、長方形状の透かしを施す。198 は広口壺の口縁部片、199 は短頸壺の胴部片である。200 は甕の胴部で、沈線と刺突文を施す。201・202 は平瓶の口縁部片で、口縁端部は先細りする。203 は甕の口縁部片で、口縁端部は長方形状に肥厚する。




第 83 図　　包含層出土遺物実測図

4）地点不明出土遺物（203 ～ 213）（第 84 図、写真図版 26）

204・205 は須恵器坏蓋、204 は天井部が窪む。205 は内傾するかえり部。206 は坏身で、たちあがりは内傾する。207 は短頸壺の蓋で、焼け歪みがみられる。208 は壺の口縁部片で、焼け歪みがみられる。209 は甕で、外面にカキ目調整を施す。210 は擂鉢である。211 ～ 213 は土師器。211 は壺形土器、212・213 は甑形土器の口縁部である。214 は鉄滓で、重量 21.66g を測る。




第 84 図　　地点不明出土遺物実測図

## 第４節　小　結

本調査では、古墳時代後期の竪穴建物９棟、土坑５基、溝４条、性格不明遺構１基を検出した。遺物では弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器、石製品が出土した。

竪穴建物には重複するものや、カマドを持つものがある。竪穴建物９棟は一辺が４～5m の方形を呈し、ＳＢ４以外の８棟は磁北方向に建物軸線を取る。また、ＳＢ２・３・４は重複がみられ、ＳＢ５は４棟が重複しており、長期にわたり集落が展開していたことがわかる。

カマドと炉を持つ建物はＳＢ２、ＳＢ５③、ＳＢ５④、ＳＢ６の４棟がある。ＳＢ２は北壁中央にカマドを持ち、北壁から建物外側に向けて北に 1.2m の煙道が確認できた。松山平野内で建物カマドの明確な煙道が検出された事例はきわめて少なく、これほど長い煙道の検出は初例である。このほか、ＳＸ１からは土師器と須恵器が多量に出土し、土器を廃棄した様相を示している。

遺物では、出土した須恵器の中に焼け歪みや焼成不良品が数多くみられた。また、建物内からは焼成時に出来る不純物の窯壁片が出土している。

調査地の北から北東部の丘陵麓には松山東南部古窯址群と総称される駄馬、駄馬姥ヶ懐、茨谷（ばらだに）、悪社谷、枝朶下池（しだのしたいけ）などの須恵器生産窯があり、６世紀後半～８世紀代の須恵器窯業の一大生産地であることがわかっている。出土遺物から、下苅屋遺跡は窯業生産地から消費地への中継地点と考えられる。近年の調査では隣接する下苅屋遺跡３次調査において、須恵器を多量に出土する集積あるいは廃棄土坑が検出されていることからも、調査地や周辺地域は生産地から消費地の中継点という集落の性格が明らかになってきた。

【文献】

「下苅屋遺跡２次調査・３次調査」　松山市文化財調査報告書７５
「久米窪田古屋敷遺跡」　松山市文化財調査報告書１４８

## 遺構・遺物一覧　－ 凡例 －

（1） 以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

（2） 遺物観察表の各掲載について

法量欄　（ ）：推定復元値

調整欄　土製品の各部名称を略記した。

例）口→口縁部、頸→頸部、胴→胴部、底→底部、天→天井部、坏→坏部、肩→肩部。

胎土・焼成欄　胎土欄では混和剤を略記した。

例）石→石英、長→長石、金→金ウンモ、赤→赤色土粒、黒→黒色土粒、密・精→精製土。

（ ）の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例）石・長（1 ～ 4）→「1 ～ 4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良。

表 33　竪穴建物一覧

| 竪穴（ＳＢ） | 地　区 | 平面形 | 規　模 長さ×幅×壁高（m） | 埋　土 | 内部施設 | 出土遺物 | 時　期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Ｃ１ | 方形 | （4.05）×（3.10）× 0.20 | 不明 | | 土師器 須恵器 | 6 世紀末 | |
| 2 | Ｂ・Ｃ２ | 方形 | 4.20 × 4.10 × 0.18 | 淡黄灰色細砂・暗褐色粘性土・淡黄色粘性土・淡黄褐色粘性土・淡灰色細砂・淡黄褐色細砂粒 | カマド 煙道 | 土師器・須恵器・石製品・焼土・炭 | 6世紀後半～末 | ＳＢ3を切り、ＳＰ26に切られる。 |
| 3 | Ａ・Ｂ２ | 方形 | 4.90 ×（4.60）× 0.14 | 不明 | 周壁溝 | 須恵器 | 6 世紀後半 | ＳＢ２・４、ＳＰ 21・127・128・131・135・136 に切られる。 |
| 4 | Ａ1～Ｂ２ | 方形 | 4.50 ×（4.50）× 0.04 | 不明 | 周壁溝 | 須恵器 | 6 世紀末 | ＳＢ３を切り、ＳＰ 17・18・20 ～ 22・126 ～ 129・131 に切られる。 |
| 5① | Ｃ３～Ｄ４ | 方形 | 4.95 × 3.80 × 0.30 | 不明 | 周壁溝 | 土師器 須恵器 | 6 世紀後半 | ＳＢ５②・③・④、ＳＰ 161・162・165・166 に切られる。 |
| 5② | Ｃ３～Ｄ４ | 方形 | 4.35 × 3.65 × 0.18 | 不明 | | 須恵器 | 6世紀後半～末 | ＳＢ５①を切り、ＳＢ５③・④、ＳＰ 161・162 に切られる。 |
| 5③ | Ｃ３～Ｄ４ | 方形 | 4.25 × 4.25 × 0.11 | 不明 | 炉（２基） | 土師器 須恵器 | 6 世紀末 | ＳＢ５①・②を切り、ＳＢ５④、ＳＰ 158・159・161・162 に切られる。 |
| 5④ | Ｃ３～Ｄ４ | 方形 | 5.10 × 4.60 × 0.15 | 不明 | 炉 | 土師器 須恵器 | 6 世紀末～ 7 世紀初頭 | ＳＢ５①・②・③を切り、ＳＰ 161・162・164 ～ 166 に切られる。 |
| 6 | Ｃ５～Ｄ６ | 方形 | 5.80 × 3.00 × 0.18 | 不明 | 貯蔵穴 | 土師器 須恵器 | 6世紀後半～末 | ＳＰ 180 に切られる。 |

表 34　土坑一覧

| 土坑（ＳＫ） | 地　区 | 平面形 | 断面形 | 規　模 長さ×幅×深さ（m） | 埋　土 | 出土遺物 | 時　期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Ｂ２・３ | 楕円形 | 皿状 | 1.6 × 0.7 × 0.09 | 不明 | 須恵器 石製品 | 6 世紀後半～末 | |
| 2 | Ｂ５ | 楕円形 | レンズ状 | 2.0 × 1.4 × 0.09 | 不明 | 須恵器 土師器 | 6 世紀末 | |
| 3 | Ｄ２ | 楕円形 | 逆台形状 | 1.3 × 0.7 × 0.36 | 暗褐色粘性土（明黄褐色砂質土混） | 須恵器 | 6 世紀末～ 7 世紀初頭 | |
| 4 | Ａ２・３ | 不整形 | レンズ状 | 2.6 × 2.2 × 0.23 | 暗灰褐色粘性土、黄褐色粘性土、黄褐色土（褐色土混じり）、黄褐色粘性土（褐色土混じり） | 須恵器・土師器・弥生土器 | 6 世紀後半 | |
| 5 | Ｃ・Ｄ３ | 楕円形 | 不明 | 2.5 × 1.6 × 0.14 | 不明 | 須恵器 | 6 世紀後半 | ＳＢ５に切られる。 |

表 35　溝一覧

| 溝（ＳＤ） | 地　区 | 方　向 | 断面形 | 規　模<br>長さ×幅×深さ（m） | 埋　土 | 出土遺物 | 時　期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Ａ3～Ｃ4 | 北東～南西 | 皿状 | 12.1 × 0.4 ～ 0.7 × 0.14 | 不明 | 須恵器<br>土師器 | 6 世紀末～<br>7 世紀初頭 | SK4・SP93・150 に切られる。 |
| 2 | Ｄ３～５ | 北～南 | 皿状 | 10.70 × 0.35 ～ 0.60 × 0.05 ～ 0.08 | 不明 | 須恵器<br>土師器 | 6 世紀末～<br>7 世紀初頭 | ＳＤ３に切られる。 |
| 3 | Ｃ・Ｄ５ | 南東～南西 | レンズ状 | 5.60 × 0.40 ～ 0.90 × 0.08 ～ 0.10 | 不明 | 須恵器 | 7 世紀初頭以降 | ＳＤ２を切る。 |
| 4 | Ｂ４ | 北～南 | レンズ状 | 2.20 × 0.25 × 0.09 | 不明 | 須恵器 | 6 世紀後半 | |

表 36　石組遺構一覧

| 石組遺構 | 地　区 | 方　向 | 断面形 | 規　模<br>長さ×幅×深さ（m） | 埋　土 | 出土遺物 | 時　期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Ｅ４～５ | 北～南 | 皿状 | 6.70 × 0.70 ～ 0.90 × 0.16 | 不明 | 須恵器<br>土師器 | 6 世紀末～<br>7 世紀初頭 | SP176・177・178 に切られる。 |

表 37　性格不明遺構一覧

| 性格不明遺構（ＳＸ） | 地　区 | 平面形 | 断面形 | 規　模<br>長さ×幅×深さ（m） | 埋　土 | 出土遺物 | 時　期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Ｃ２・３ | 不整形 | 逆台形状 | 2.70 × 2.60 × 0.17 | 暗褐色粘性土・淡黄灰色細砂（褐色粒混入）・淡黄色細砂・淡黄色細砂層（淡赤色混じりブロック）・黄褐色粘性土・淡黄灰色細砂・淡灰褐色土（炭混じり） | 土師器・須恵器・弥生土器・石製品 | 6 世紀後半 | SP130・153・154 に切られる。 |

表 38　ＳＢ１出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（㎝） | 形態・施文 | 調整 | | 色調（外面）<br>（内面） | 胎土<br>焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外面 | 内面 | | | | |
| 1 | 坏蓋 | 口径　(11.6)<br>残高　3.4 | 厚みのある天井部、口縁端部は尖り気味に丸味を持つ。焼け歪み有。 | ㋐ 回転ヘラケズリ<br>㋑ 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>灰色 | 長（1～3）<br>◎ | | |
| 2 | 坏蓋 | 口径　(13.8)<br>残高　3.5 | 口縁端部は尖り気味に丸い。 | マメツ | マメツ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 3 | 坏蓋 | 口径　(13.6)<br>残高　2.5 | 口縁部の小片。口縁部と天井部の境界は、あまい稜を持つ。口端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 暗灰色<br>灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 4 | 坏蓋 | 口径　(13.7)<br>残高　2.1 | 口縁部の小片。口縁端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 緑灰色<br>緑灰色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 5 | 坏身 | 口径　(11.7)<br>残高　2.3 | たちあがりは内傾し、端部は尖り気味に丸い。受部は水平に伸びる。 | ㋑ 回転ナデ<br>㋺ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 緑灰色<br>緑灰色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 6 | 坏身 | 口径　(10.8)<br>残高　2.9 | たちあがりは内傾し、端部は丸い。受部は水平に短く伸び、尖り気味である。焼け歪み有。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 7 | 坏身 | 残高　2.4 | 短く水平に伸びる受部。焼け歪み有。 | ㋑ 回転ナデ<br>㋺ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 8 | 坏身 | 残高　2.4 | 短く水平に伸びる受部。端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 9 | 坏身 | 口径　(10.0)<br>残高　2.0 | たちあがりは内傾する。端部は直立し、尖り気味に丸い。受部は短く水平に伸びる。焼け歪み有。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 暗青灰色・明青灰色<br>明青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 10 | 坏身 | 口径　(9.9)<br>残高　2.3 | 内傾するたちあがりの端部は尖り気味である。受部は短く伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 11 | 甕 | 口径　(13.8)<br>残高　4.9 | 口縁部は直立気味で、僅かに外反する。口縁端部は肥厚され、下方に拡張する。 | ㋑ 回転ナデ<br>㋥ 平行タタキ→ナデ | ㋑ 回転ナデ<br>㋥ 円弧タタキ | 灰色<br>青灰色 | 長（1）密<br>◎ | | |
| 12 | 埦 | 口径　(15.1)<br>残高　4.6 | 口縁部の小片。口縁端部は丸い。外面に２本の沈線を巡らす。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>灰白色 | 石・長（1～2）<br>◎ | 自然釉 | |

表 39　　ＳＢ２出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | 坏蓋 | 口径 (13.1)<br>残高 3.3 | 口縁部の小片。口縁端部は尖り気味に丸い。 | ㊍ 回転ヘラケズリ<br>㊐ 回転ナデ | 回転ナデ | 緑灰色<br>緑灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 14 | 坏蓋 | 口径 (13.8)<br>残高 3.4 | 天井部は厚みを持つ、口縁端部は丸い。 | ㊍ 回転ヘラケズリ<br>㊐ 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 15 | 坏蓋 | 口径 (12.8)<br>残高 3.2 | 口縁部の小片。口縁端部は尖り気味に丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰色 | 長（微粒）<br>◎ | 灰被り | |
| 16 | 坏蓋 | 口径 (11.4)<br>残高 3.0 | 口縁部の小片。口縁端部は尖り気味に丸い。 | ㊍ 回転ヘラケズリ<br>㊐ 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰色 | 長（1）密<br>◎ | | |
| 17 | 坏蓋 | 口径 (12.0)<br>残高 1.8 | 口縁部の小片。口端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 18 | 坏身 | 口径 (13.4)<br>残高 3.6 | 内傾するたちあがりは短く、水平に伸びる受部。 | ㊐ 回転ナデ<br>㊎ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 灰色<br>褐灰色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 19 | 坏身 | 残高 1.5 | 短く外上方に伸びる受部。 | 回転ナデ | 回転ナデ | にぶい橙色・褐灰色<br>にぶい橙色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 20 | 坏 | 口径 (16.0)<br>残高 2.9 | 口縁部の小片。外傾する口縁端部は丸味を持つ。外面に２本の沈線が巡る。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 21 | 埦 | 口径 (9.0)<br>残高 3.9 | 直立する口縁部。口縁端部は尖り気味に丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 22 | 甑 | 口径 (26.0)<br>残高 15.4 | 直立気味にわずかに外傾する胴部～口縁部。口縁端部は丸い。 | ㊐ ヨコナデ<br>マメツ | マメツ<br>工具痕 | 灰色<br>灰色 | 長（1～4）<br>○ | | |
| 23 | 甑 | 残高 4.3 | 把手部。上部がわずかに凹み、端部は上を向く。 | ナデ | ナデ | 浅黄橙色<br>橙色 | 長（1～2）<br>◎ | | 23 |
| 24 | 高坏 | 口径 (18.5)<br>残高 1.7 | 口縁部の小片。外反する口縁部の端部は丸い。 | ヨコナデ | マメツ | 淡橙色<br>淡橙色 | 石・長（1～5）<br>◎ | | |

表 40　　ＳＢ２出土遺物観察表　石製品

| 番号 | 器種 | 残存 | 材質 | 法量 長さ(cm) | 法量 幅(cm) | 法量 厚さ(cm) | 法量 重さ(g) | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 砥石 | | 石英粗面岩 | 12.5 | 4.1 | 2.4 | 324.69 | | 23 |

表 41　　ＳＢ３出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | 蓋 | 口径 (9.9)<br>器高 3.1 | 天井部は水平な面を持ち、口縁部はナデにより僅かに開き、口端部内面に面を持つ。 | ㊍ 回転ヘラケズリ<br>㊐ 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 27 | 坏身 | 受部径 13.1<br>残高 3.3 | 受部は短く水平に伸び、端部は丸い。たちあがり部は内頃する。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 暗青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 28 | 短頸壺 | 口径 (8.0)<br>残高 1.8 | 短く直立する口縁部。口縁端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 29 | 甕 | 残高 7.3 | 外反気味にわずかに外傾する口頸部。 | カキ目<br>回転ナデ | ㊋ 回転ナデ・ナデ<br>㊌ 同心円タタキ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |

表 42　　ＳＢ５②出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 30 | 坏身 | 口径 (12.0)<br>器高 4.0 | 内頃するたちあがりの端部は尖り気味に細い。受部は短く水平に伸び、端部は尖り気味である。 | 回転ナデ<br>マメツ | 回転ナデ | 淡橙色<br>淡橙色 | 石・長（1）赤<br>○ | | 23 |
| 31 | 坏身 | 口径 (12.2)<br>残高 3.5 | 内傾するたちあがりの端部は丸い。受部は短く水平に伸びる。 | ㊎ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 緑灰色・灰白色<br>灰白色 | 石・長（1～2）<br>◎ | 自然釉 | |
| 32 | 甕 | 口径 (35.2)<br>残高 10.2 | 外頃する口縁部の端部は肥厚され、外面に2本一組の凹線2条と、櫛状工具による刺突文2条を巡らす。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | 23 |

表 43　　ＳＢ５③出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 坏身 | 口径（11.9）<br>残高 2.9 | 僅かに内傾するたちあがり。受部は短く水平に伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | にぶい赤褐色<br>にぶい赤褐色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 34 | 壺 | 口径（20.0）<br>残高 4.5 | 外頃する口縁部の端部は肥厚され、丸い。焼け歪み有。 | 回転ナデ | 回転ナデ | オリーブ灰色<br>明オリーブ灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | 自然釉 | |
| 35 | 甕 | 口径（18.2）<br>残高 3.8 | 外傾し内湾気味に立ち上がる口縁部片。口縁端部は内傾する面を持つ。 | ヨコナデ | ヨコナデ | 橙色<br>にぶい褐色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 36 | 高坏 | 底径（22.4）<br>残高 6.5 | 「ハ」の字状に大きく開く脚部。脚端部は先細りで丸い。 | マメツ | マメツ | 橙色<br>橙色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |

表 44　　ＳＢ５④出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | 坏身 | 残高 3.5 | 内傾するたちあがり。受部は短く丸い。土師質で焼け歪み有。 | ㊇ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 褐灰色<br>灰白色 | 石・長（1）赤<br>○ | | 23 |
| 38 | 甕 | 残高 27.1 | 丸底の底部から胴部片。外面に「ノ」の字状のヘラ記号有。 | 平行タタキ→<br>カキ目 | 同心円タタキ | 青灰色・灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 39 | 甑 | 残高 4.8 | 把手部。断面形態は円形状である。 | ナデ | マメツ | 橙色・淡黄橙色<br>淡黄橙色 | 長（1～2）<br>◎ | | |

表 45　　ＳＢ５一括出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 | 坏蓋 | 口径（11.5）<br>残高 3.5 | 口縁端部は丸味を持つ。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 密<br>◎ | | |
| 41 | 坏蓋 | 口径（13.1）<br>残高 3.3 | 口縁端部は丸味を持つ。 | 回転ナデ | 回転ナデ | にぶい赤褐色<br>青灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 42 | 坏蓋 | 口径（12.0）<br>残高 3.0 | 口縁端部は丸味を持つ。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色・灰白色<br>灰色・灰白色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 43 | 坏蓋 | 口径（14.0）<br>残高 3.0 | 直立気味に接地する口縁端部は丸い。 | ㊎ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 緑灰色<br>緑灰色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 44 | 坏身 | 口径（11.9）<br>残高 3.8 | たちあがりは内傾し端部は直立する。受部は短く水平に伸び、受部端に沈線状の凹みが巡る。 | ㊐ 回転ナデ<br>㊇ 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | 暗青灰色<br>灰白色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 45 | 坏身 | 口径（10.9）<br>残高 2.8 | 内傾するたちあがりの端部は尖り気味である。受部は短く水平に伸びる。焼け歪み有。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 浅黄橙色<br>浅黄橙色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 46 | 坏身 | 口径（11.0）<br>残高 2.9 | 短く内傾するたちあがりの端部は丸い。受部は水平に短く伸び端部は丸い。 | ヨコナデ | ヨコナデ | 淡黄橙色<br>淡黄橙色 | 長（1）・赤<br>○ | | |
| 47 | 高坏 | 残高 1.8 | 坏部片。水平な底部に、直立に立ち上がる口縁部。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 暗灰色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 48 | 壺 | 口径（8.7）<br>残高 5.3 | 口縁部は直立気味で僅かに外頃する。口縁端部は丸味を持つ。 | ㊇ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 49 | 壺 | 口径（20.3）<br>残高 4.1 | 外反する口縁部の端部は断面長方形状に肥厚される。外面に「斜線」のヘラ記号有。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 密<br>◎ | | |
| 50 | 甕 | 口径（12.8）<br>残高 5.0 | 外反する頸部から、ナデによる明瞭な段を持ち、口縁部は外傾し端部は丸味を持つ。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 暗青灰色・灰色<br>灰色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 51 | 提瓶 | 口径（9.0）<br>残高 4.2 | 外傾する口縁部の端部は先細りである。外面に２条の沈線文を施す。 | カキ目<br>回転ナデ | 回転ナデ | 暗青灰色<br>暗青灰色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 52 | 甑 | 残高 4.5 | 把手部。断面は円形状である。 | ナデ | ナデ | 浅黄橙色・橙色<br>褐灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 53 | 小壺 | 底径 4.5<br>残高 6.5 | 平底の底部。器壁は厚い。 | ㊇ ナデ・ヨコナデ<br>ナデ | ナデ | にぶい黄橙色<br>にぶい黄橙色 | 石・長（1～2）<br>◎ | 黒斑 | 23 |

表 46　ＳＢ５一括出土遺物観察表　石製品

| 番号 | 器種 | 残存 | 材質 | 法量 | | | | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | | |
| 54 | 砥石 | 約 1/2 | 砂岩 | 10.2 | 7.6 | 3.05 | 422.75 | | 23 |

表 47　ＳＢ６出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 | | 色調（外面）<br>（内面） | 胎土<br>焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外面 | 内面 | | | | |
| 55 | 坏蓋 | 口径（11.8）<br>残高 1.9 | 口縁部の小片。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 56 | 坏蓋 | 口径（12.8）<br>残高 2.6 | 口縁部の小片。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 57 | 坏蓋 | 口径（12.7）<br>残高 2.8 | 口縁部の小片。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 長（1～2）<br>◎ | | |
| 58 | 坏身 | 残高 2.6 | 受部は短く水平に伸び、端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | オリーブ灰色<br>オリーブ灰色 | 長（1～2）<br>◎ | | |
| 59 | 不明 | 長さ 20.0<br>幅（10.7） | 外面に横方向に２本、縦方向に１本の沈線、交点に円盤状と両端部に凸帯を貼り付ける。 | ナデ・回転ナデ<br>工具によるナデ | 回転ヨコナデ | 灰色<br>灰色 | 密<br>◎ | | 24 |
| 60 | 高坏 | 口径（18.1）<br>残高 4.9 | 土師器の高坏の坏部。口縁端部は尖り気味に丸い。 | マメツ | ナデ | 浅黄橙色・橙色<br>橙色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 61 | 高坏 | 残高 5.6 | 土師器の高坏の柱部。中実。 | マメツ | マメツ | にぶい橙色<br>にぶい橙色 | 石・長（1）<br>◎ | | |

表 48　ＳＫ１出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 | | 色調（外面）<br>（内面） | 胎土<br>焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外面 | 内面 | | | | |
| 62 | 坏蓋 | 口径（11.4）<br>残高 3.3 | 口縁内面はナデにより内傾する面を持つ。口縁外面に縦方向の４本の沈線を施す。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 63 | 坏身 | 口径（12.1）<br>残高 2.5 | 内傾するたちあがり端部は丸い。受部は短く水平に伸び、端部は尖り気味である。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 64 | 坏身 | 口径（12.1）<br>残高 2.6 | 内傾するたちあがり端部は尖り気味である。受部は外上方に伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 65 | 坏身 | 口径（11.8）<br>残高 3.0 | 内傾し僅かに外反するたちあがり。受部は外上方に短く伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉 | |

表 49　ＳＫ１出土遺物観察表　石製品

| 番号 | 器種 | 残存 | 材質 | 法量 | | | | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | | |
| 66 | 砥石 | | 石英粗面岩 | 4.85 | 2.7 | 1.3～1.88 | 20.906 | | |

表 50　ＳＫ２出土遺物観察表　土製品　（1）

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 | | 色調（外面）<br>（内面） | 胎土<br>焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外面 | 内面 | | | | |
| 67 | 坏身 | 口径（11.4）<br>残高 3.8 | 内傾するたちあがりの端部は、尖り気味である。受部は水平に短く伸び、尖り気味である。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 緑灰色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 68 | 坏身 | 口径 11.5<br>器高 4.2 | 内傾するたちあがりの端部は、尖り気味である。受部は短く水平に伸びる。焼け歪み有。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | ㊦ ナデ<br>回転ナデ | 赤褐色<br>赤褐色 | 石・長（1）<br>◎ | | 23 |
| 69 | 坏身 | 受部径 13.8<br>残高 2.1 | 受部の小片。水平に伸びる受部の端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 密<br>◎ | | |
| 70 | 高坏 | 残高 7.6 | 「ハ」の字状に開く脚部。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 71 | 壺 | 底径 10.0<br>残高 5.3 | 脚部片。脚部は屈曲し脚端面は平坦である。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | 自然釉 | 23 |

ＳＫ２出土遺物観察表　土製品　（２）

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 72 | 壺 | 残高　3.1 | 底部片。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 73 | 甕 | 残高　21.0 | 長胴の胴部片。 | 平行タタキ→<br>カキ目(7～9本/cm) | 同心円タタキ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1～5）<br>○ | | |
| 74 | 提瓶 | 残高　8.5 | 胴部片。内面に円盤充塡の接合痕が見られる。 | タタキ→カキ目 | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 75 | 高坏 | 残高　9.4 | 土師器の柱部。中実。 | マメツ | マメツ | 橙色<br>淡橙色 | 石・長（1～2）<br>赤○ | | |

表 51　ＳＫ３出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 76 | 坏身 | 口径　(11.2)<br>器高　4.6 | 内傾するたちあがりは尖り気味に丸い。受部は水平に短く伸び、尖り気味である。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1～3）<br>◎ | | |

表 52　ＳＫ４出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 77 | 坏蓋 | 口径　(14.8)<br>器高　4.6 | 口縁部と天井部の境界に凹線状の凹みが巡る。口縁端部は尖り気味に丸い。 | ㊤ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | ㊤ ナデ<br>回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1～3）<br>◎ | 自然釉 | 24 |
| 78 | 坏蓋 | 口径　(142)<br>残高　3.5 | 口縁部の小片。口縁端部は尖り気味に丸い。 | ㊤ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 79 | 坏蓋 | 口径　(14.0)<br>残高　2.3 | 口縁部の小片。口縁端部は尖り気味に丸い。 | マメツ | マメツ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>○ | | |
| 80 | 坏身 | 口径　(13.1)<br>残高　2.8 | たちあがりは内傾し、端部は尖り気味である。受部は外上方に短く伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>○ | | |
| 81 | 坏身 | 口径　(12.7)<br>残高　2.6 | 内傾するたちあがりの端部は尖り気味である。受部は短く水平に伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>○ | | |
| 82 | 坏身 | 口径　(12.3)<br>残高　3.3 | たちあがりは直立気味で端部は尖る。受部は短く水平に伸び,端部は丸い。焼け歪み有。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色・青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>○ | | |
| 83 | 坏身 | 口径　(11.0)<br>残高　2.2 | 内傾するたちあがりは僅かに屈曲し、端部は先細りする。受部は僅かに水平に伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 84 | 坏身 | 残高　3.7 | 内傾するたちあがり。受部は短く水平に伸びる。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰白色 | 石・長（1～2）<br>◎ | 自然釉 | |
| 85 | 壺 | 口径　(17.2)<br>残高　3.5 | 外反する口縁部は屈曲し、端部は肥厚される。外面に沈線が１条巡る。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1～3）<br>○ | | |
| 86 | 甕 | 残高　5.2 | 頸部から胴部片。 | 頸 ナデ<br>胴 平行タタキ→ナデ | 頸 回転ナデ<br>タタキ→ナデ | 灰色<br>灰色 | 密<br>◎ | | |
| 87 | 甕 | 口径　(18.1)<br>残高　3.6 | 土師器の口縁部、外傾し僅かに内湾する。口縁端部は丸い。 | マメツ | ヨコナデ | 明褐色<br>明褐色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 88 | 高坏 | 口径　(20.0)<br>残高　5.5 | 高坏の坏部片。口縁端部は尖る。 | マメツ | マメツ | 橙色<br>橙色 | 石・長（1～2）<br>赤○ | | |
| 89 | 甕 | 底径　(5.6)<br>残高　3.8 | 弥生土器の底部片。上げ底。 | ナデ | ナデ | 橙色<br>灰褐色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |

表 53　ＳＤ１出土遺物観察表　土製品　（１）

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 90 | 坏蓋 | 口径　(13.0)<br>残高　2.5 | 口縁部は端部手前で屈曲し、直立に接地する。口縁端部は内傾する面を持つ。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 91 | 坏蓋 | 口径　(13.2)<br>残高　2.7 | 口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 暗青灰色<br>明青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |

ＳＤ１出土遺物観察表　土製品　（2）

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 92 | 坏蓋 | 口径（12.6）<br>残高 3.8 | 丸味を持つ天井部、口縁端部は丸味を持つ。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1～3）<br>◎ | | |
| 93 | 坏身 | 口径（11.6）<br>残高 2.5 | 僅かに内傾する口縁部。受部は短く水平に伸び丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | にぶい橙色<br>にぶい橙色 | 長（1）<br>○ | | |
| 94 | 坏身 | 口径（10.6）<br>残高 2.4 | 内傾するたちあがりに短く水平に伸びる受部。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1～3）<br>◎ | | |
| 95 | 坏身 | 口径（10.7）<br>残高 2.4 | 直立するたちあがり。受部は外上方に短く伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 96 | 坏身 | 口径（10.6）<br>残高 1.9 | 内傾するたちあがりの端部は屈曲して直立する。受部は短く水平に伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 明青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 97 | 高坏 | 残高 6.7 | 柱部。外面に２条の凹線を施す。透かしが３方向に２段あり。 | 回転ナデ | ナデ<br>（しぼり痕） | 灰色<br>灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 98 | 壺 | 口径（16.0）<br>残高 2.1 | 外反する口縁部。端部は肥厚される。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰褐色<br>灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 99 | 壺 | 残高 3.5 | 肩部に櫛描きによる 10 本の波状文と頸部下にカキ目を施す。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 100 | 甕 | 口径（21.3）<br>残高 3.9 | 口縁部片。 | ヨコナデ | マメツ | 橙色<br>橙色 | 石・長（1～3）<br>○ | | |

表 54　ＳＤ２出土遺物観察表　土製品　（1）

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 101 | 坏蓋 | 口径（11.8）<br>残高 2.8 | 口縁部は直立気味に接地し、端部は尖り気味である。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 密<br>◎ | | |
| 102 | 坏身 | 口径 12.4<br>器高 4.0 | 内傾するたちあがり。受部は水平に伸び、尖り気味に丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 赤・長（1～2）<br>◎ | | 24 |
| 103 | 坏身 | 口径（11.4）<br>残高 2.5 | 内傾するたちあがりの端部は丸い。受部は短く外上方に伸びる。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰色・灰白色<br>灰白色 | 長（1）<br>○ | | |
| 104 | 坏身 | 口径（12.2）<br>残高 2.2 | 内傾するたちあがりの端部は丸い。受部は水平に伸び、端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 105 | 坏身 | 口径（9.7）<br>残高 2.6 | 内傾するたちあがりの端部は先細りである。受部は水平に短く伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色・灰色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 106 | 壺 | 口径（15.6）<br>残高 3.2 | 外反する口縁端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色・緑灰色<br>灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 107 | 甕 | 口径（14.9）<br>残高 5.9 | 直立する口縁部の端部は丸い。肩部に火ぶくれ有。 | ㊐ 回転ナデ<br>平行タタキ→カキ目 | ㊐ 回転ナデ<br>同心円タタキ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1）黒<br>◎ | 自然釉 | |
| 108 | 壺 | 残高 6.7 | 頸部～口縁部に火ぶくれ有。 | ㊋ 回転ナデ<br>タタキ→カキ目 | ㊐ 回転ナデ<br>同心円タタキ | 灰色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 109 | 壺 | 底径（14.6）<br>残高 5.6 | 平底の底部。外面にカキ目調整を施す。 | カキ目 | ナデ | オリーブ灰色<br>灰白色 | 石・長（1）黒<br>◎ | 自然釉 | |
| 110 | 壺 | 残高 3.0 | 丸底の底部。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰色・灰白色<br>灰色 | 長（1）<br>○ | | |
| 111 | 甕 | 残高 5.2 | 外反する口縁部。胴部外面にカキ目調整を施す。 | ㊋ 回転ナデ<br>タタキ→カキ目 | ㊍ 回転ナデ<br>同心円タタキ | にぶい赤褐色・灰白色<br>灰白色 | 長（1）・赤<br>○ | | |
| 112 | 甑 | 胴部径 8.9<br>残高 9.3 | 頸部と胴部に２条の沈線、胴部沈線間に刺突文を１条巡らす。底部は平坦である。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | ナデ<br>（しぼり痕） | 青灰色・灰色<br>灰色 | 石・長（1～5）<br>◎ | | 24 |
| 113 | 高坏 | 残高 3.2 | 高坏の基部。組み合わせ技法。 | マメツ | ナデ | 橙色<br>にぶい橙色 | 石・長（1～2）赤<br>◎ | | |
| 114 | 高坏 | 残高 5.8 | 基部から柱部。中実 | マメツ | マメツ | 灰白色・橙色<br>灰白色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |

ＳＤ２出土遺物観察表　土製品　（２）

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 115 | 高坏 | 残高　5.0 | 柱部。中実 | ハケ→ナデ | ナデ | にぶい黄橙色<br>浅黄橙色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 116 | 高坏 | 残高　5.5 | 柱部。中実 | マメツ | マメツ | 橙色<br>にぶい黄橙色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 117 | 甑 | 残高　4.8 | 把手部。舌状で断面円形である。 | ナデ | ナデ | 橙色<br>橙色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | 25 |
| 118 | 壺 | 口径（16.2）<br>残高　5.2 | 短く外反する口縁部。口縁端部は丸い。 | ㊐ ナデ<br>ハケ | ㊐ マメツ<br>タタキ | にぶい橙色<br>にぶい橙色 | 長（1～4）赤<br>○ | | |

表 55　ＳＤ４出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 119 | 高坏 | 残高　4.3 | ３方向の透かし。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1～2）<br>○ | | |

表 56　石組遺構出土遺物観察表　土製品　（１）

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 120 | 坏蓋 | 口径（12.7）<br>残高　3.1 | 口縁部片。口端部は丸い。 | ㊎ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 121 | 坏蓋 | 口径（11.1）<br>残高　3.2 | 口縁部は直立して接地し、端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 暗青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 122 | 坏蓋 | 口径（11.4）<br>残高　3.7 | 口縁端部は丸味を持つ。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 123 | 坏蓋 | 口径（12.8）<br>残高　3.8 | 口縁端部は丸い。 | ㊎ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 124 | 坏身 | 口径（10.8）<br>残高　4.7 | 内傾するたちあがりの端部は丸い。受部は短く水平に伸びる。 | ㊍ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>灰白色 | 石・長（1～2）<br>○ | | |
| 125 | 坏身 | 口径（10.2）<br>残高　3.6 | 内傾するたちあがり。受部は短く丸い。土師質で焼け歪み有。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 明緑灰色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 126 | 坏身 | 口径（10.6）<br>残高　2.5 | 内傾するたちあがり。受部は短く水平に伸び、端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 長（1）<br>○ | | |
| 127 | 坏身 | 口径（11.1）<br>残高　2.3 | 内傾するたちあがり。受部は短く水平に伸び、端部は丸い。 | マメツ | マメツ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）<br>○ | | |
| 128 | 坏身 | 口径（12.1）<br>残高　2.8 | 内傾するたちあがりの端部内面に沈線が巡る。受部は外上方に伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>明青灰色 | 長（1～3）<br>○ | | |
| 129 | 高坏 | 残高　3.5 | 基部から大きく開く脚部。 | 回転ナデ | 回転ナデ<br>ケズリ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1～2）<br>○ | | |
| 130 | 高坏 | 残高　4.3 | 細い基部。 | マメツ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1～3）<br>○ | | |
| 131 | 壺 | 口径（17.1）<br>残高　4.1 | 短く外反する口縁部。口縁端部は肥厚され、下方に拡張される。外面に右上がりの線刻あり。 | ナデ<br>カキ目 | ヨコナデ | 青灰色<br>灰白色 | 石・長（1～3）<br>○ | 自然釉 | 25 |
| 132 | 甕 | 残高　4.3 | 頸部から大きく開く胴部片。胴部にカキ目調整を施す。 | ㊏ ヨコナデ<br>平行タタキ→カキ目 | ㊏ ヨコナデ<br>同心円タタキ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）<br>○ | | |
| 133 | 甕 | 口径（25.0）<br>残高　4.1 | 口縁部の小片。土師器。 | マメツ | マメツ | 橙色<br>橙色 | 密<br>○ | | |
| 134 | 高坏 | 残高　6.9 | 坏脚部片。土師器。 | マメツ | マメツ | 橙色<br>橙色 | 密<br>○ | | |
| 135 | 壺 | 底径（9.8）<br>残高　2.2 | 脚付壺。「ハ」の字状の脚部。脚端部は先細りで尖る。土師器。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 浅黄橙色<br>浅黄橙色 | 長（1）<br>○ | | |

石組遺構出土遺物観察表　土製品　（2）

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調 （外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 136 | 甕 | 底径 （8.9）<br>残高 5.2 | 平底の底部片。弥生土器。 | マメツ | マメツ | 明赤灰色<br>赤橙色 | 石・長（1～2）<br>○ | | |

表57　ＳＸ１出土遺物観察表　土製品　（1）

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調 （外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 137 | 坏蓋 | 口径 （12.8）<br>器高 3.5 | 僅かに丸味を持つ天井部。口縁端部は尖り気味に丸い。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）黒<br>◎ | 自然釉 | |
| 138 | 坏蓋 | 口径 （12.8）<br>器高 3.7 | 平坦な天井部。口縁端部は尖り気味に丸い。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）黒<br>◎ | | |
| 139 | 坏蓋 | 口径 （15.8）<br>残高 4.8 | 丸い天井部。口縁部は直立して接地し、口端部は丸い。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石長（1）・赤<br>◎ | | |
| 140 | 坏蓋 | 口径 （14.0）<br>残高 3.7 | 口縁部は直立気味に接地する。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>○ | | |
| 141 | 坏蓋 | 口径 （12.6）<br>残高 3.5 | 口縁端部は丸い。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色・赤灰色<br>灰白色・暗赤灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | 自然釉 | |
| 142 | 坏蓋 | 口径 （14.8）<br>器高 3.5 | 扁平な天井部。口縁端部は尖り気味に丸い。焼け歪み有。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰白色 | 石・長（1）黒<br>◎ | | 25 |
| 143 | 坏身 | 口径 （12.2）<br>器高 4.1 | 内傾するたちあがりの器壁は薄い。受部は外上方に短く伸び、端部は丸い。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 褐灰色<br>灰白色 | 石・長（1）黒<br>◎ | | 25 |
| 144 | 坏身 | 口径 12.7<br>器高 4.4 | 内傾するたちあがり。受部は短く外上方に伸びる。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）赤<br>○ | | |
| 145 | 坏身 | 口径 （11.6）<br>器高 3.9 | 内傾するたちあがり。受部は水平に伸び端部は尖り気味である。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ　ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰白色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | 25 |
| 146 | 坏身 | 口径 （12.8）<br>器高 3.7 | 受部は短く水平に伸びる。底部は扁平で外面に焼成時に別個体片が付着する。焼け歪み有。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）黒<br>◎ | | 25 |
| 147 | 坏身 | 口径 （13.1）<br>残高 3.4 | 内傾するたちあがり。受部は水平に伸びる。底部外面にヘラ状工具による直線状の記号有。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ　静止ナデ | 回転ナデ | 赤灰白色<br>明赤灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | 25 |
| 148 | 坏身 | 口径 （12.1）<br>器高 4.5 | 内傾するたちあがり。受部は水平に短く伸び、端部は尖り気味である。焼け歪み有。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>緑灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | 25 |
| 149 | 坏身 | 口径 （11.2）<br>器高 3.9 | 内傾するたちあがりの端部は直立する。受部は短く外上方に伸びる。底部は平底である。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 150 | 坏身 | 口径 （11.8）<br>残高 4.2 | たちあがりは内傾し、端部は丸い。受部は短く外上方に伸び端部は丸い。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | にぶい橙色<br>にぶい橙色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 151 | 蓋 | つまみ径（2.8）<br>残高 1.6 | 有蓋高坏の蓋のつまみ。中央部が凹む。 | ㊦ ヨコナデ<br>ナデ | ナデ | 灰色<br>灰白色 | 密<br>◎ | 自然釉 | |
| 152 | 甕 | 口径 （28.8）<br>残高 2.6 | 口縁端部は肥厚され下方に拡張される。 | マメツ | マメツ | 灰白色<br>灰白色 | 密<br>○ | | |
| 153 | 甕 | 残高 11.5 | 胴部片。 | 平行タタキ→<br>カキ目 | 同心円タタキ→<br>ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 長（2）密<br>◎ | | |
| 154 | 甕 | 口径 （15.6）<br>残高 14.7 | 外傾する口縁部。口縁端部は内傾する面を持つ。 | ㊐ ヨコナデ<br>ハケ（12本/cm） | ㊥ ハケ<br>ナデ | にぶい橙色<br>にぶい橙色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 155 | 甕 | 口径 （17.5）<br>残高 3.1 | 外傾する口縁部。口縁端部は内傾する面を持ち、内側に肥厚する。 | ヨコナデ | ヨコナデ | 橙色<br>明赤褐色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 156 | 甕 | 口径 （18.4）<br>残高 5.4 | 外傾する口縁部。口縁端部は尖り気味に丸い。 | ㊐ ヨコナデ<br>ハケ（3本/cm） | ヨコナデ | 橙色<br>浅黄橙色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 157 | 甕 | 口径 （14.8）<br>残高 3.4 | 内湾する口縁部。口端部は水平な面を持ち、内側に肥厚する。 | マメツ | ヨコナデ | 明赤褐色<br>明赤褐色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 158 | 高坏 | 残高 8.1 | 柱部～脚部片。中実。 | ミガキ | ヨコナデ | 橙色<br>明赤褐色 | 石・長（1～2）<br>○ | | |

ＳＸ１出土遺物観察表　土製品　(2)

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調 (外面)<br>(内面) | 胎土<br>焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 159 | 甑 | 残高　5.3 | 舌状の把手部。断面は楕円形状。 | ナデ | マメツ | 橙色<br>浅黄橙色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 160 | 甕 | 口径（20.0）<br>残高　5.5 | 外反する口縁部。口縁端部は先細り。 | ㋑ ヨコナデ<br>ハケ(3～4本/cm) | ヨコナデ | 橙色<br>橙色 | 石・長（1～2）<br>◎ | | |
| 161 | 甕 | 口径（16.1）<br>残高　8.3 | 僅かに外反する口縁部。口縁端部は先細り。 | マメツ | ㋑ マメツ<br>ナデ | 淡黄色<br>橙色 | 石・長（1）<br>◎ | 黒斑 | |
| 162 | 甕 | 口径（11.1）<br>残高　7.7 | 僅かに外反する口縁部。口縁端部は丸い。 | ㋑ ヨコナデ<br>ハケ | ㋑ ヨコナデ<br>ハケ（7本/cm） | にぶい橙色<br>橙色 | 石・長（1～3）<br>○ | | |
| 163 | 甕 | 残高　3.4 | 頸部から胴部片。 | マメツ | マメツ | 明赤褐色<br>明赤褐色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 164 | 甕 | 残高　5.5 | 頸部～胴部片。 | ハケ(4～5本/cm)<br>→ナデ | ハケ(7～8本/cm)<br>→ナデ | 橙色・浅黄色<br>浅黄色 | 石・長（1～3）<br>◎ | | |

表 58　ＳＸ１出土遺物観察表　石製品

| 番号 | 器種 | 残存 | 材質 | 法量 長さ(cm) | 法量 幅(cm) | 法量 厚さ(cm) | 法量 重さ(g) | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 165 | 砥石 | | 石英粗面岩 | 6.08 | 4.1 | 3.2 | 91.42 | | |

表 59　ＳＰ出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調 (外面)<br>(内面) | 胎土<br>焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 166 | 坏蓋 | 口径（14.0）<br>器高　4.0 | 天井部と口縁部の境界には凹線状の凹みが巡る。口縁端部は尖り気味である。 | ㋐ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | オリーブ灰色<br>灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | SP130 | 26 |
| 167 | 坏蓋 | 口径（13.6）<br>残高　3.4 | 平坦な天井部。口縁端部は尖り気味に丸い。 | ㋐ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1～3）<br>○ | SP130 | |
| 168 | 坏身 | 口径（10.9）<br>残高　3.0 | 内傾するたちあがりの端部は直立し、尖り気味である。受部は水平に短く伸びる。 | ㋒ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 暗青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | SP130 | |
| 169 | 坏身 | 口径（13.1）<br>残高　4.1 | 内傾するたちあがり。受部は短く水平に伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | オリーブ灰色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | SP130 | |
| 170 | 坏身 | 口径（11.2）<br>残高　2.7 | 短く内傾するたちあがり。受部は外上方に短く伸びる。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉<br>SP64 | |
| 171 | 高坏 | 残高　7.1 | 脚部片。３方向に透かしを施す。 | マメツ | ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 密<br>○ | SP130 | |
| 172 | 壺 | 口径（17.1）<br>残高　2.3 | 外反する口縁部。端部は肥厚される。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>暗青灰色 | 石・長（1）黒<br>◎ | SP64 | |
| 173 | 壺 | 口径（10.4）<br>残高　4.8 | 外反する口縁部。口縁端部は肥厚し丸い。 | ㋓ ナデ<br>ハケ(7～8本/cm) | ㋓ ナデ<br>同心円タタキ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1～5）<br>○ | SP63 | |
| 174 | 鉢 | 口径（17.2）<br>器高　6.6 | 丸味を持つ底部。口縁端部は尖り気味である。外面に沈線が2条巡る。全体に粗雑な作り。 | ナデ | ナデ | 灰白色<br>灰色 | 長（1）密<br>○ | SP72 | 26 |
| 175 | 高坏 | 残高　3.9 | 基部。 | マメツ | マメツ | 浅黄橙色<br>橙色 | 石・長（1）赤<br>◎ | SP130 | |
| 176 | 壺 | 底径（8.5）<br>残高　6.7 | 弥生土器。平底の底部から胴部の残存。 | ナデ | ナデ | にぶい橙色<br>褐灰色 | 石・長（1～2）<br>◎ | SP109 | |

表 60　ＳＰ出土遺物観察表　石製品

| 番号 | 器種 | 残存 | 材質 | 法量 長さ(cm) | 法量 幅(cm) | 法量 厚さ(cm) | 法量 重さ(g) | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 177 | 砥石 | | 石英粗面岩 | 11.0 | 6.1 | 4.7 | 458.66 | | 26 |

表 61　グリッド出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 178 | 坏蓋 | 残高　1.4 | 口縁端部は丸い。焼け歪み有。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）黒<br>◎ | 自然釉<br>D５区 | |
| 179 | 坏蓋 | 口径　13.5<br>器高　4.3 | 内湾気味に接地する口縁部。端部は丸い。焼け歪みが著しい。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）黒<br>◎ | 自然釉<br>C４区 | 26 |
| 180 | 坏身 | 口径　（11.8）<br>器高　3.7 | たちあがりは直立気味で端部は丸い。受部は水平に伸びる。焼け歪みが著しい。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）黒<br>◎ | C４区 | 26 |
| 181 | 坏身 | 口径　（11.4）<br>残高　3.8 | 内傾するたちあがりの端部は尖り気味である。受部は水平に伸びる。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 密<br>◎ | 自然釉<br>D５区 | |
| 182 | 坏身 | 口径　（10.9）<br>残高　3.6 | 直立気味のたちあがりの端部は尖る。受部は外上方に短く伸びる。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | D５区 | |
| 183 | 坏身 | 口径　（9.7）<br>残高　2.6 | 直立気味のたちあがりの端部は尖る。受部は外上方に短く伸び、端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 密<br>◎ | D５区 | |
| 184 | 坏身 | 口径　（10.4）<br>残高　2.5 | 内傾するたちあがりの端部は内面に面を持つ。受部は短く端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 密<br>◎ | D５区 | |
| 185 | 坏身 | 残高　4.0 | 受部は水平に伸び端部は丸い。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 石・長（1 ～ 2）<br>◎ | 自然釉<br>D５区 | |
| 186 | 高坏 | 底径　（8.7）<br>残高　2.3 | 「ハ」の字状に開く脚部の端部は丸い。端部内面にナデによる凹みが巡る。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 暗青灰色<br>暗青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | D５区 | |
| 187 | 壺 | 口径　（16.2）<br>残高　3.2 | 口縁部片。口縁端部は肥厚する。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>○ | D５区 | |
| 188 | 壺 | 口径　（17.1）<br>残高　5.6 | 外反する口縁部。口縁端部は肥厚する。 | ㊐ ヨコナデ<br>カキ目 | ヨコナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1 ～ 2）<br>◎ | 自然釉<br>E５区 | |
| 189 | 蓋 | 残高　3.6 | 天井部中央が径３cmの中空状。 | ㊤ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1 ～ 3）<br>◎ | D５区 | |
| 190 | 碗 | 口径　（13.2）<br>残高　2.9 | 陶磁器。外面に蓮弁文を描く。 | 施釉 | 施釉 | 灰オリーブ色<br>灰オリーブ色 | 密<br>◎ | E５区 | |

表 62　包含層出土遺物観察表　土製品　（1）

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 191 | 坏蓋 | 口径　（13.2）<br>残高　2.9 | 口縁部片。口縁端部は丸い。 | ㊤ 回転ヘラケズリ<br>㊐ 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）赤<br>◎ | | |
| 192 | 坏蓋 | 口径　（12.0）<br>残高　3.2 | 口縁部片。口縁端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 193 | 坏身 | 口径　（9.9）<br>残高　2.9 | 短く内傾するたちあがりの端部は丸い。受部は短く外上方に伸びる。 | ㊐ 回転ナデ<br>マメツ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1 ～ 2）<br>○ | | |
| 194 | 坏身 | 口径　（10.9）<br>残高　3.4 | 内傾する長いたちあがりの端部は先細りである。受部は水平に伸びる。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 黄灰色<br>灰白色 | 石・長（1 ～ 2）<br>◎ | 自然釉 | |
| 195 | 坏身 | 残高　2.6 | 外面にヘラ記号有り。 | ㊦ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉 | 26 |
| 196 | 高坏 | 残高　7.4 | 柱部。２方向の透かし有り。 | 回転ナデ | ヨコナデ<br>（しぼり痕） | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1 ～ 2）<br>○ | | |
| 197 | 高坏 | 残高　5.4 | 柱部。３方向の透かし有り。外面に２条の沈線を施す。 | 回転ナデ | 回転ナデ<br>（しぼり痕） | 灰色<br>灰色 | 長（1）黒<br>◎ | | |
| 198 | 壺 | 口径　（12.0）<br>残高　2.8 | 外反する口縁部。端部は肥厚する。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |
| 199 | 壺 | 残高　3.8 | 肩の張る胴部片。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 青灰色<br>青灰色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 200 | 甕 | 残高　4.0 | 外面に２条一組の沈線文を２箇所に巡らし、沈線間に刺突列点文を１条巡らす。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 明褐色<br>灰色 | 石・長（1）<br>◎ | | |

包含層出土遺物観察表　土製品　（2）

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 201 | 平瓶 | 口径　(9.6)<br>残高　5.4 | 外傾する口縁部。端部は先細りする。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 明褐灰色<br>黄灰色 | 密<br>◎ | 自然釉 | |
| 202 | 平瓶 | 口径　(9.5)<br>残高　5.8 | 外傾する口縁部。端部は先細りする。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 黄灰色・灰オリーブ色<br>褐灰色 | 密<br>◎ | 自然釉 | |
| 203 | 甕 | 口径　(22.0)<br>残高　3.7 | 口縁部片。口縁端部は肥厚する。 | ヨコナデ | ヨコナデ | 灰色<br>灰色 | 長（1）<br>◎ | | |

表 63　地点不明出土遺物観察表　土製品

| 番号 | 器種 | 法量（cm） | 形態・施文 | 調整 外面 | 調整 内面 | 色調（外面）（内面） | 胎土 焼成 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 204 | 坏蓋 | 口径　(14.0)<br>残高　3.3 | 天井部が凹む。口縁端部は尖り気味である。 | ㊄ 回転ヘラケズリ<br>回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1 ～ 3）<br>○ | | |
| 205 | 坏蓋 | 口径　(11.8)<br>残高　2.2 | かえり端部は丸い。 | 回転ナデ | 回転ナデ | オリーブ灰色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 206 | 坏身 | 口径　(12.0)<br>残高　3.1 | 内傾するたちあがり部。受部は水平に伸びる。 | マメツ | マメツ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>○ | | |
| 207 | 蓋 | 口径　(10.8)<br>残高　2.6 | 短頸壺の蓋。焼け歪みが著しい。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰白色 | 石・長（1）<br>◎ | 自然釉 | |
| 208 | 壺 | 底径　(24.0)<br>残高　3.4 | 口縁部片。口縁端部は水平な面を持つ。外面に１条の沈線が巡る。焼け歪み有。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰色<br>灰色 | 長（1 ～ 2）<br>◎ | | |
| 209 | 甕 | 残高　4.6 | 頸部から肩部片。肩部外面にカキ目調整を施す。 | ㊅ ナデ<br>カキ目 | ㊅ 回転ナデ<br>タタキ | 灰白色<br>灰白色 | 長（1）<br>◎ | | |
| 210 | 擂鉢 | 底径　7.2<br>残高　6.9 | 厚みのある底部。 | 回転ナデ | 回転ナデ | 灰白色<br>灰色 | 密・黒<br>◎ | 自然釉 | 26 |
| 211 | 壺 | 口径　(15.8)<br>残高　4.5 | 外傾する口縁部。口縁端部は先細りする。 | マメツ | マメツ | 橙色<br>橙色 | 石・長（1 ～ 2）<br>◎ | | |
| 212 | 甑 | 口径　(25.3)<br>残高　7.9 | 直立する口縁部。口縁端部は丸い。 | ㊐ ヨコナデ<br>ハケ(5～6本/cm) | ハクリ | 橙色<br>明赤褐色 | 石・長（1 ～ 2）<br>◎ | | |
| 213 | 甑 | 口径　(23.9)<br>残高　5.2 | 僅かに外傾する口縁部の端部は先細りである。 | ㊐ ヨコナデ<br>ハケ(6～7本/cm) | マメツ | 橙色<br>明赤褐色 | 石・長（1 ～ 2）<br>○ | | |

表 64　地点不明出土遺物観察表　鉄製品

| 番号 | 器種 | 残存 | 材質 | 法量 長さ(cm) | 法量 幅(cm) | 法量 厚さ(cm) | 法量 重さ(g) | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 214 | 鉄滓 | | 鉄 | 3.97 | 3.75 | 3.65 | 21.66 | 灰付着 | 26 |

# 第Ⅵ章　成果と課題

本報告書では、平成元年と平成７年に国庫補助事業として発掘調査を行った４遺跡について報告を行った。本書で報告を行った４遺跡は、松山平野南東部の久米官衙遺跡群周辺に位置し、今回の報告により弥生時代から古代の遺跡がわずかながら明らかとなった。調査成果を時代ごとに整理する。

**弥生時代**　中ノ子Ⅰ遺跡から竪穴建物１棟（ＳＢ１）と土坑３基（ＳＫ１・２・３）がある。ＳＢ１と土坑は弥生時代後期である。ＳＫ１・２・３は、柱痕と思われる穴を検出していることから、掘立柱建物の可能性がある。調査地周辺の調査では過去に弥生時代の遺物の出土例はあるが、遺構は検出されていない。本調査で検出した竪穴建物と土坑が、初めての検出事例となる。鷹子新畑遺跡からは弥生時代前期末から中期初頭の遺物が包含層内から出土している。本調査の北側に位置する鷹子新畑遺跡２次調査からは、弥生時代前期末から中期初頭の溝と土坑を検出し、遺構内からは甕形土器や壺形土器の完形品が出土していることから、中ノ子Ⅰ遺跡周辺からは、弥生時代後期の集落が、鷹子新畑遺跡周辺からは弥生時代前期末から中期初頭の集落に関連する遺構が、展開するものと考えられる。

弥生時代には来住台地上の集落が東側の新畑遺跡まで広い範囲に広がることが確認でき、小野川を隔てた南側の中ノ子Ⅰ遺跡からは弥生時代後期の遺構と遺物が初めて確認できた。今後は来住台地上の弥生時代集落の変遷を検証していく必要がある。

**古墳時代**　鷹子新畑遺跡からは、６世紀中葉の竪穴建物１棟と溝３条を検出した。調査地の北に位置する２次調査からは、古墳時代の竪穴建物４棟を検出し、その内の１棟は５世紀末の方形の竪穴建物でカマドが付設されている。調査地周辺には、５世紀後半から６世紀中葉にかけての集落が広がっていた事が確認できた。中ノ子Ⅰ遺跡では、掘立柱建物４棟、溝１条を検出した。掘立柱建物は方位より３グループ（グループ①・②・③）に分けられると考えられる。ＳＤ７は出土遺物から掘立柱建物と同じ６世紀代の溝と考えられる。古墳時代の遺構は、調査地の東５００ｍに位置する開遺跡１次、２次調査から竪穴建物５棟、掘立柱建物６棟を検出していることから、本調査地から開遺跡までの広い範囲に、６世紀代の集落が展開していたことが明らかとなった。下苅屋遺跡では、古墳時代後期の竪穴建物９棟、土坑５基、溝４条、性格不明遺構１基を検出した。竪穴建物には重複するものや、カマドを持つものがある。重複する住居ではＳＢ２・３・４に重複がみられ、ＳＢ５は４棟が重複している。カマドと炉を持つ建物は、４棟がある。ＳＢ２は北壁中央にカマドを持ち、北壁から建物外側に向けて北に 1.2m の煙道が確認でき、これほど長い煙道の検出は初例である。遺物では、出土した須恵器の中に焼け歪みや焼成不良品が数多くみられ、とくにＳＸ１からは土師器と須恵器が多量に出土し、土器を廃棄した様相を示している。また、建物内からは焼成時に出来る不純物の窯壁片が出土している。調査地の北から北東部の丘陵麓には松山東南部古窯址群と総称される、６世紀後半～８世紀代の須恵器窯業の一大生産地であることがわかっている。近年の調査では隣接する下苅屋遺跡３次調査において、須恵器を多量に出土する集積あるいは廃棄土坑が検出されていることからも、調査地や周辺地域は生産地から消費地の中継点という集落の性格と、重複する住居を検出したことにより、長期にわたり集落が展開していたことが明らかとなった。今後は、集落の変遷と窯業生産の中継地点である下苅屋遺跡周辺の集落構造と、窯業生産地と集落内出土遺物の科学的な分析を行い、消費地（特に来住廃寺や久米官衙遺跡）の解明を行っていく必要がある。

**古代**　南久米沖台Ｂ遺跡から古代の掘立柱建物１棟（掘立１）と溝１条（ＳＤ４）を検出した。掘立１は柱穴が削平を受け遺存状態は悪いが、柱穴の規模から大型の建物と考えられる。掘立１とＳＤ４の検出で、南久米沖台遺跡には８世紀の集落の一部と集落を区画する溝が存在することが判明した。来住台地北側には沖台遺跡や南久米町遺跡など多数の遺跡があり、近年の調査成果を合わせると、調査地周辺の堀越川北側には、８～10世紀の掘立柱建物が広がることが明らかになった。今後は、８世紀以降の来住廃寺、久米官衙遺跡と堀越川を隔てた遺跡との関係、中ノ子Ⅰ遺跡では検出されなかった来住廃寺の南に位置する、中ノ子廃寺に関連する遺構や遺物の検出をまち、中ノ子廃寺の建物の位置や配置について検証していく必要がある。

【文献】

「開遺跡１次調査、開遺跡２次調査」『小野川流域の遺跡』　松山市文化財調査報告書５７
「下苅屋遺跡２次調査・３次調査」　松山市文化財調査報告書７５
「南久米町遺跡」『来住・久米地区の遺跡Ⅲ』松山市文化財調査報告書７６
「鷹子町遺跡２次調査」『来住・久米地区の遺跡Ⅴ』　松山市文化財調査報告書１０１
「久米才歩行遺跡」『来住・久米地区の遺跡Ⅵ』　松山市文化財調査報告書１０８
「久米窪田古屋敷遺跡」　松山市文化財調査報告書１４８
「鷹子遺跡１次調査」　松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ
「鷹子新畑遺跡２次調査」　松山市埋蔵文化財調査年報Ⅴ
「鷹子新畑遺跡３次調査」　松山市埋蔵文化財調査年報Ⅶ
「鷹子町遺跡２次調査」　松山市埋蔵文化財調査年報Ⅹ
「久米才歩行遺跡５・６次調査」　松山市埋蔵文化財調査年報１２
「鷹子新畑遺跡４次調査」　松山市埋蔵文化財調査年報１８
「南久米町遺跡５次調査」　松山市埋蔵文化財調査年報２０

# 写　真　図　版


南久米沖台B遺跡　写真図版 1 ～ 4
鷹子新畑遺跡　写真図版 5 ～ 10
中ノ子Ⅰ遺跡　写真図版 11 ～ 14
下苅屋遺跡　写真図版 15 ～ 26

# 写真図版データ

1．遺構写真は、撮影機材等は不明である。
南久米沖台Ｂ遺跡については、白黒プリントを複写して使用した。
鷹子新畑遺跡については、35㎜白黒フィルムから焼き付けた。
中ノ子Ｉ遺跡については、35㎜カラーポジフィルムを原稿とした。
下苅屋遺跡については、35㎜カラーネガフィルムよりカラープリントを焼き付けて、原稿とした。

2．遺物は、4 × 5 判で撮影した。すべて白黒フィルムで撮影している。
使用機材：

| | |
|---|---|
| カメラ | トヨビュー 45G |
| レンズ | ジンマーＳ 240㎜Ｆ 5.6 他 |
| ストロボ | コメット /CA32・CB2400 |
| スタンド等 | トヨ無影撮影台・ウエイトスタンド 101 |
| フィルム | ネオパンアクロス |

3．原則として、写真原稿は白黒プリントを等倍で使用できるように焼き付けている。
使用機材：

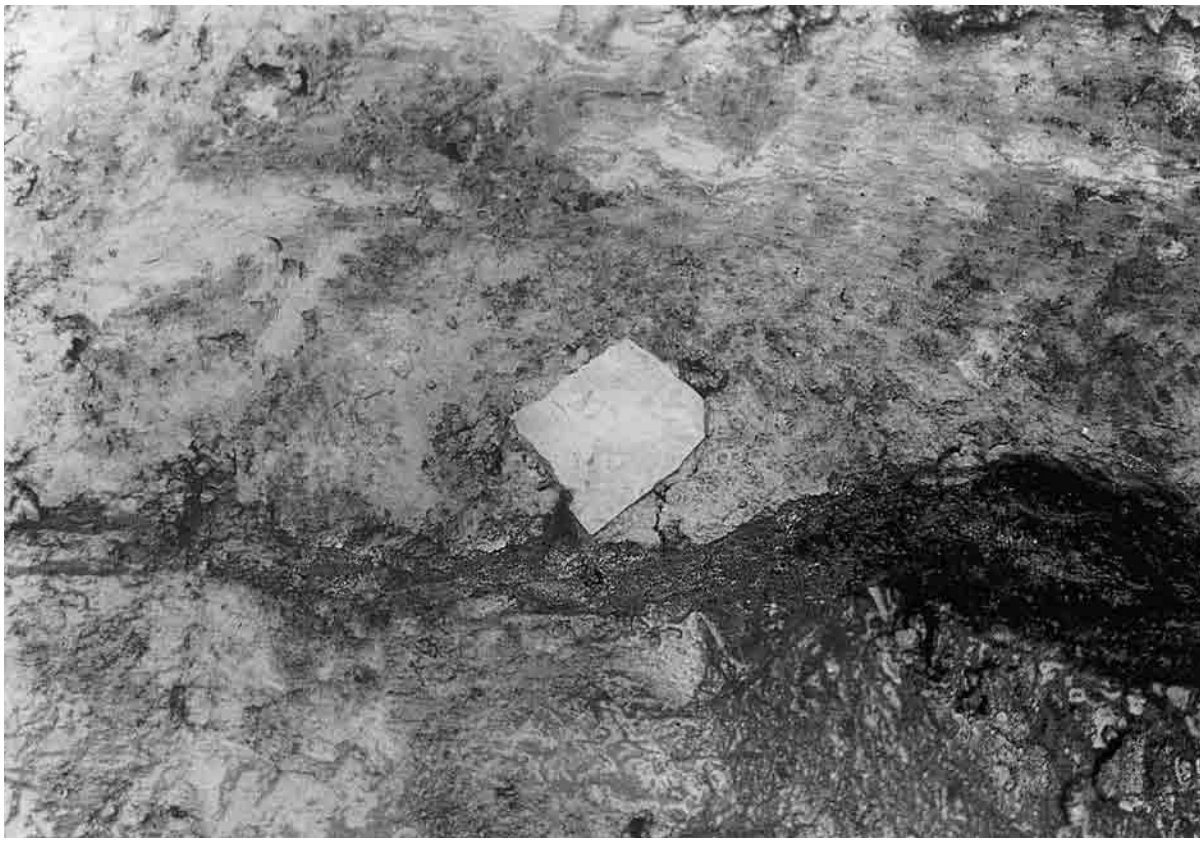
| | |
|---|---|
| 引伸機 | ラッキー 45MD・90MS |
| レンズ | エル・ニッコール 135㎜ F5.6A・50㎜ F2.8N |
| 印画紙 | イルフォードマルチグレードⅣ RC ペーパー |

4．製版　写真図版 175 線
印刷　オフセット印刷
用紙　ニューＶマット　76.5kg

［大西 朋子］

１．掘立１検出状況（東より）

１．　ＳＤ１・ＳＤ２・ＳＤ３・ＳＸ２検出状況（北より）

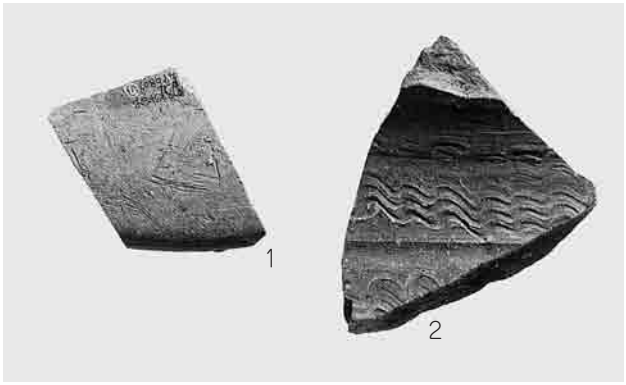


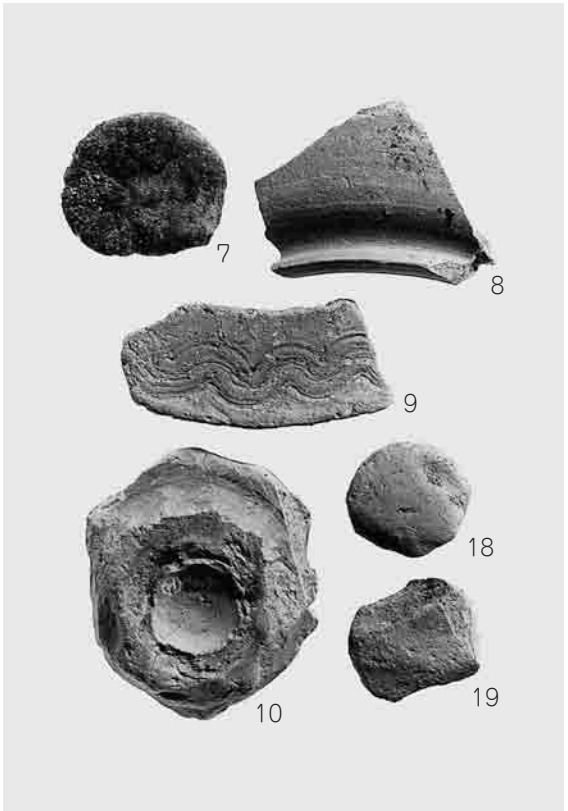
２．　ＳＤ４遺物出土状況①（北より）

１．　ＳＤ４遺物出土状況②（北東より）

２．　ＳＤ４土層堆積状況（北東より）

1．調査風景（西より）



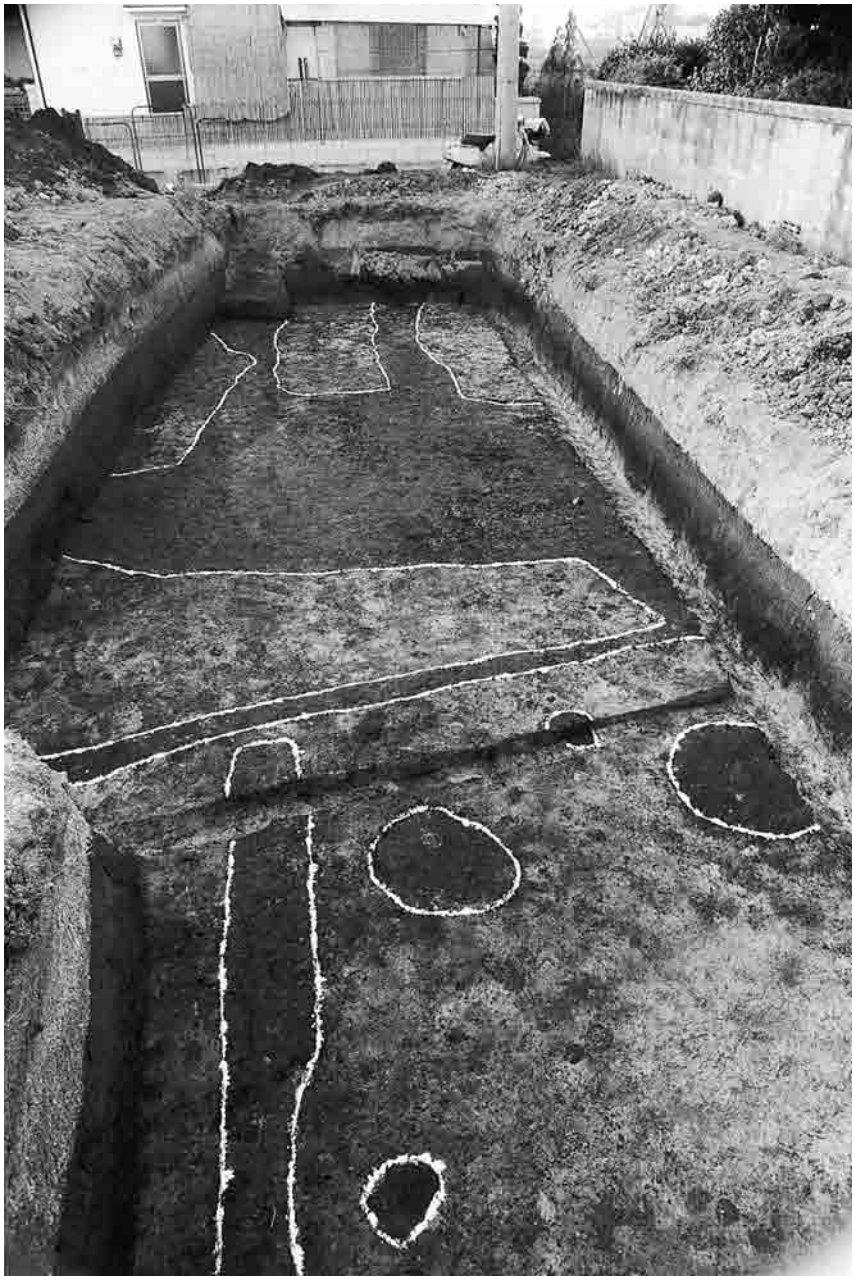



2．出土遺物 (掘立1:1・2、SD4:4、SP135:7、SP7:8、地点不明:9・10・18・19)

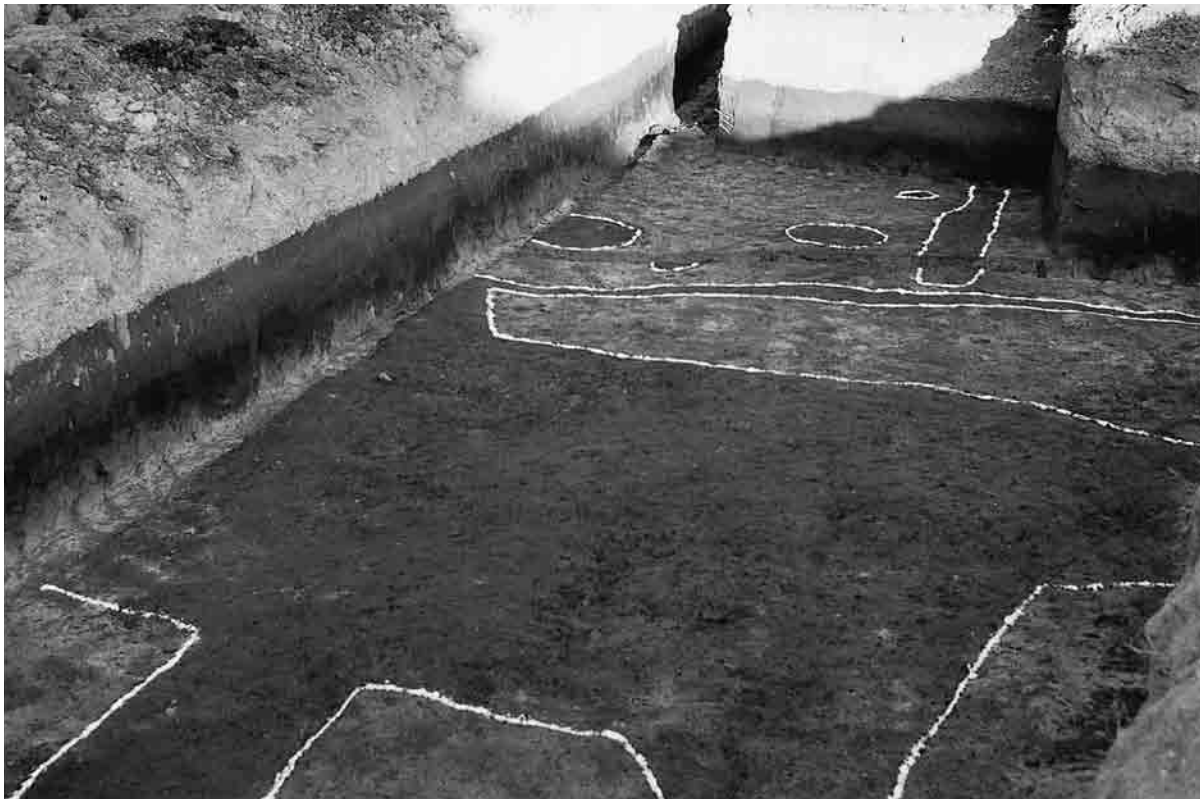
１．調査地遠景（南より）

２．重機による掘削状況（南より）

1．北壁土層（南より）



1．遺構検出状況（東より）



１．ＳＢ１検出状況（西より）

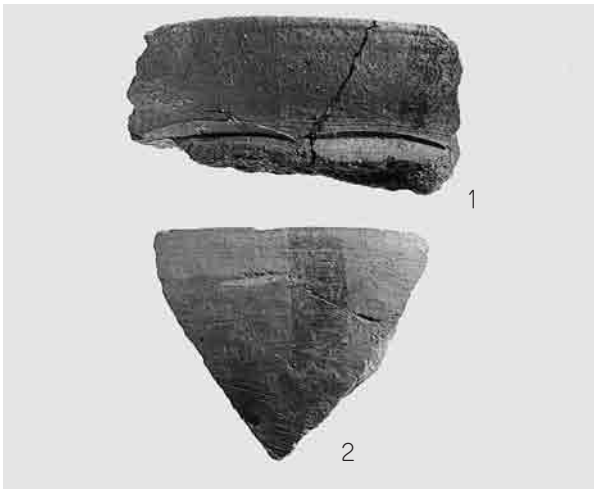
２．ＳＢ１遺物出土状況①（西より）

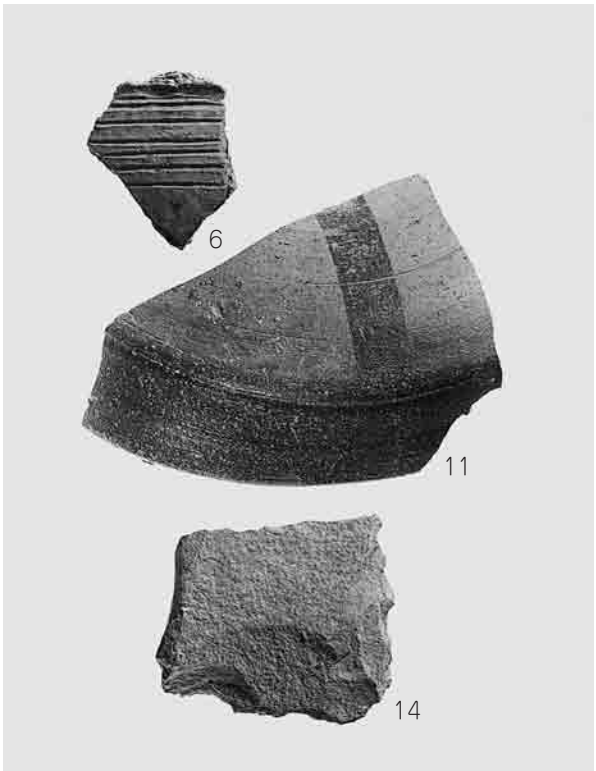
３．ＳＢ１遺物出土状況②（東より）

1．ＳＢ１完掘状況（東より）

2．遺構完掘状況（西より）

1．作業風景（東より）






2．出土遺物 (SB1：1・2・3、地点不明：6・11・14)

1．遺構検出状況（西より）

2．ＳＤ１・ＳＤ２・ＳＤ３完掘状況（南西より）

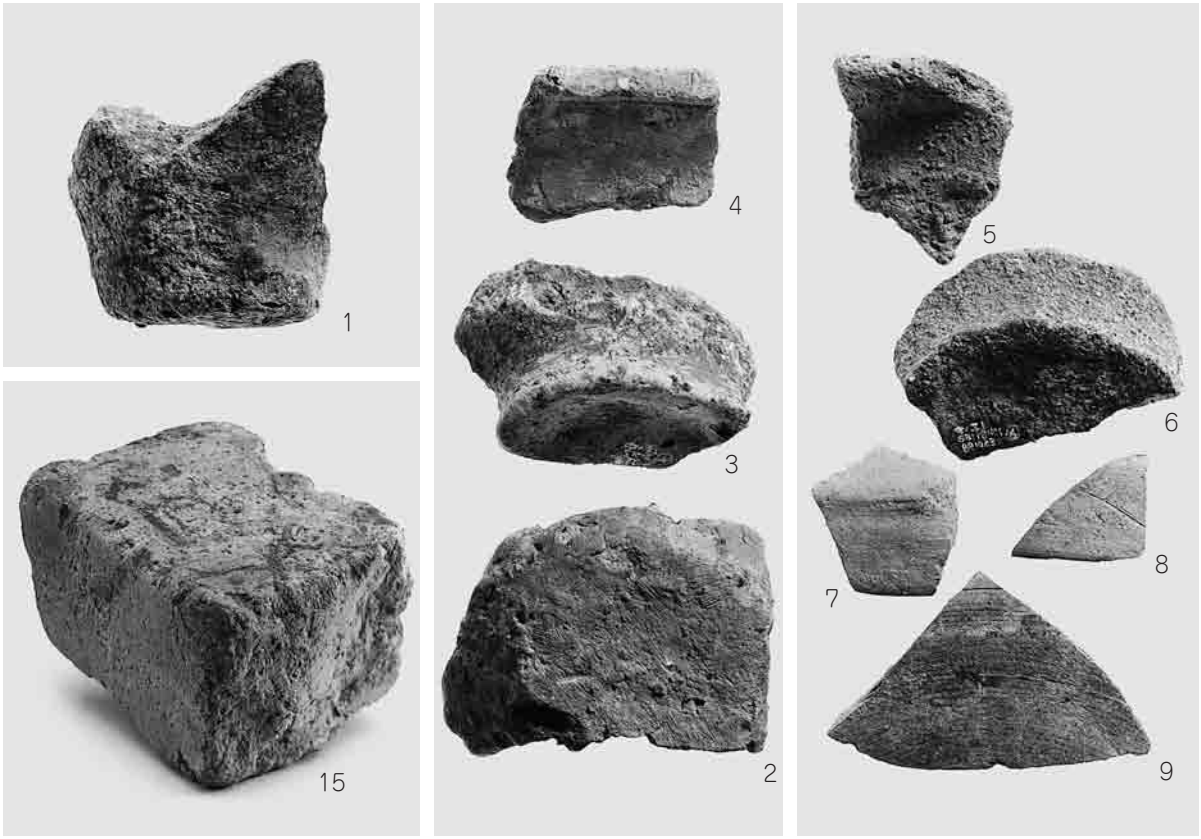
1．掘立1・掘立2完掘状況①（北より）

2．掘立１・掘立２完掘状況②（南西より）

1．掘立３・掘立４・ＳＤ４・ＳＤ５・ＳＤ７完掘状況（北東より）

2．ＳＫ１・ＳＫ２・ＳＫ３完掘状況（西より）

1．調査区より久米中学校を望む（南より）



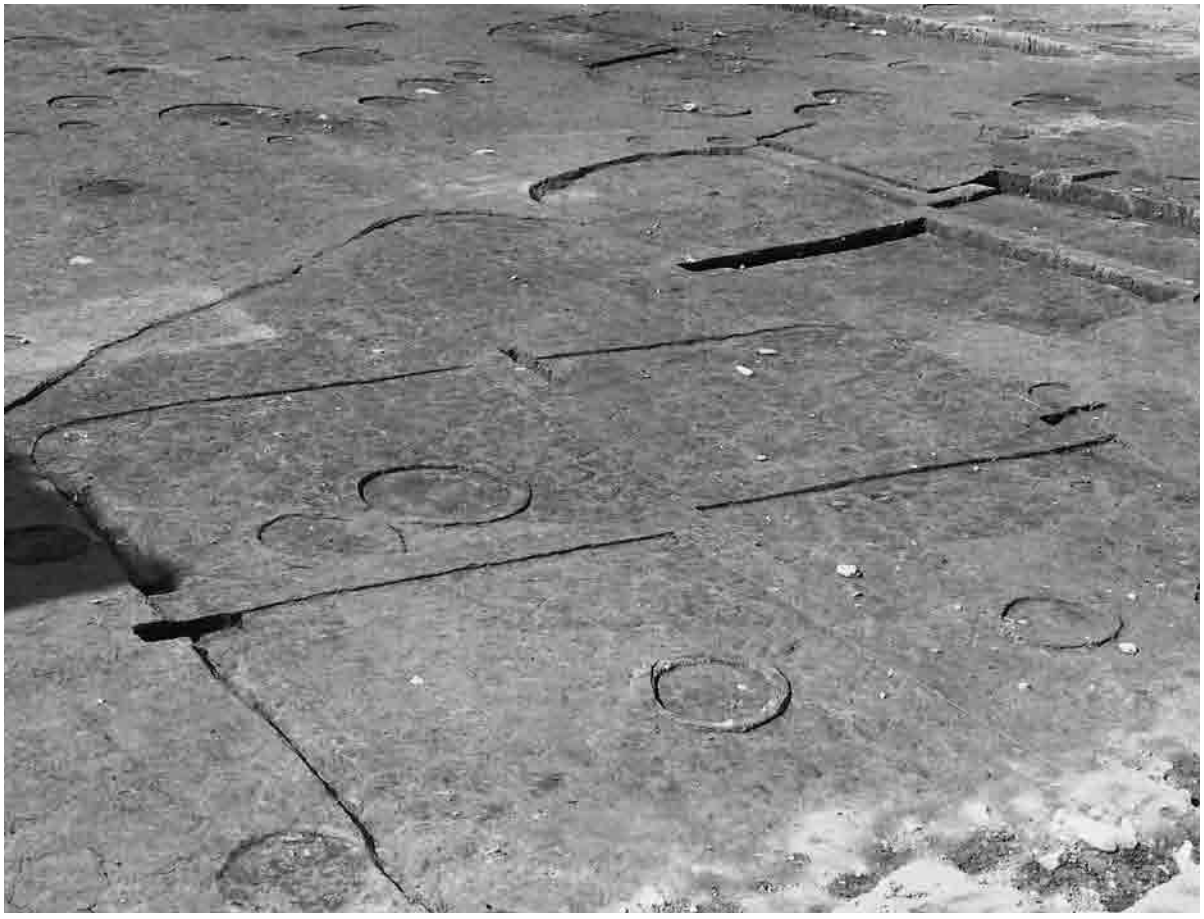

2．出土遺物 (SB1:1、SK1:2、SK2:3、SK3:4、掘立 1:5 ～ 8、掘立 2:9、SD7:15)

1．重機による掘削状況（北より）

2．遺構検出状況（北より）

1．ＳＢ１検出状況（北東より）

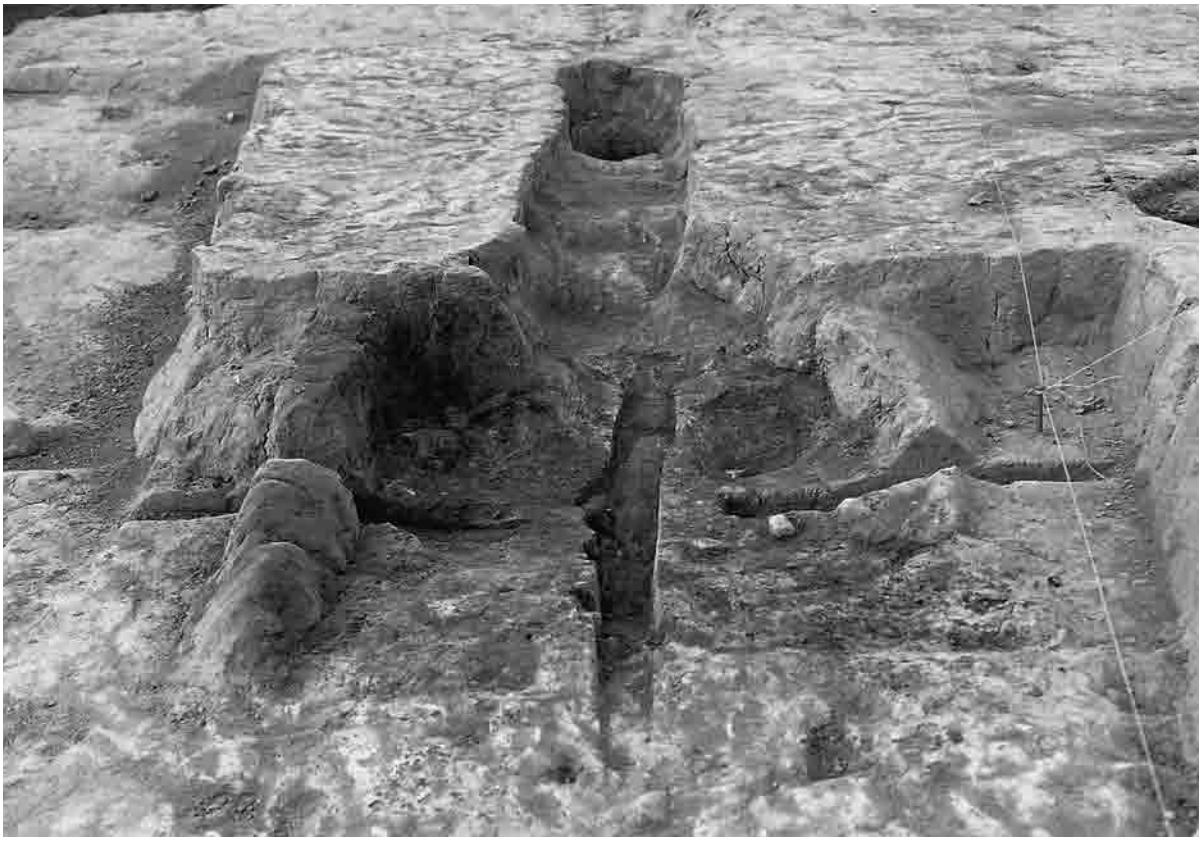
2．ＳＢ２検出状況（北より）



1．ＳＢ３・ＳＢ４検出状況（北東より）

2．ＳＢ３・ＳＢ４完掘状況（南より）

1．　ＳＢ２カマド検出状況（上:南より、下:東より）



1．　ＳＢ２カマド完掘状況（上:南より、下:西より）

1．ＳＢ５③炉①検出状況
（北東より）

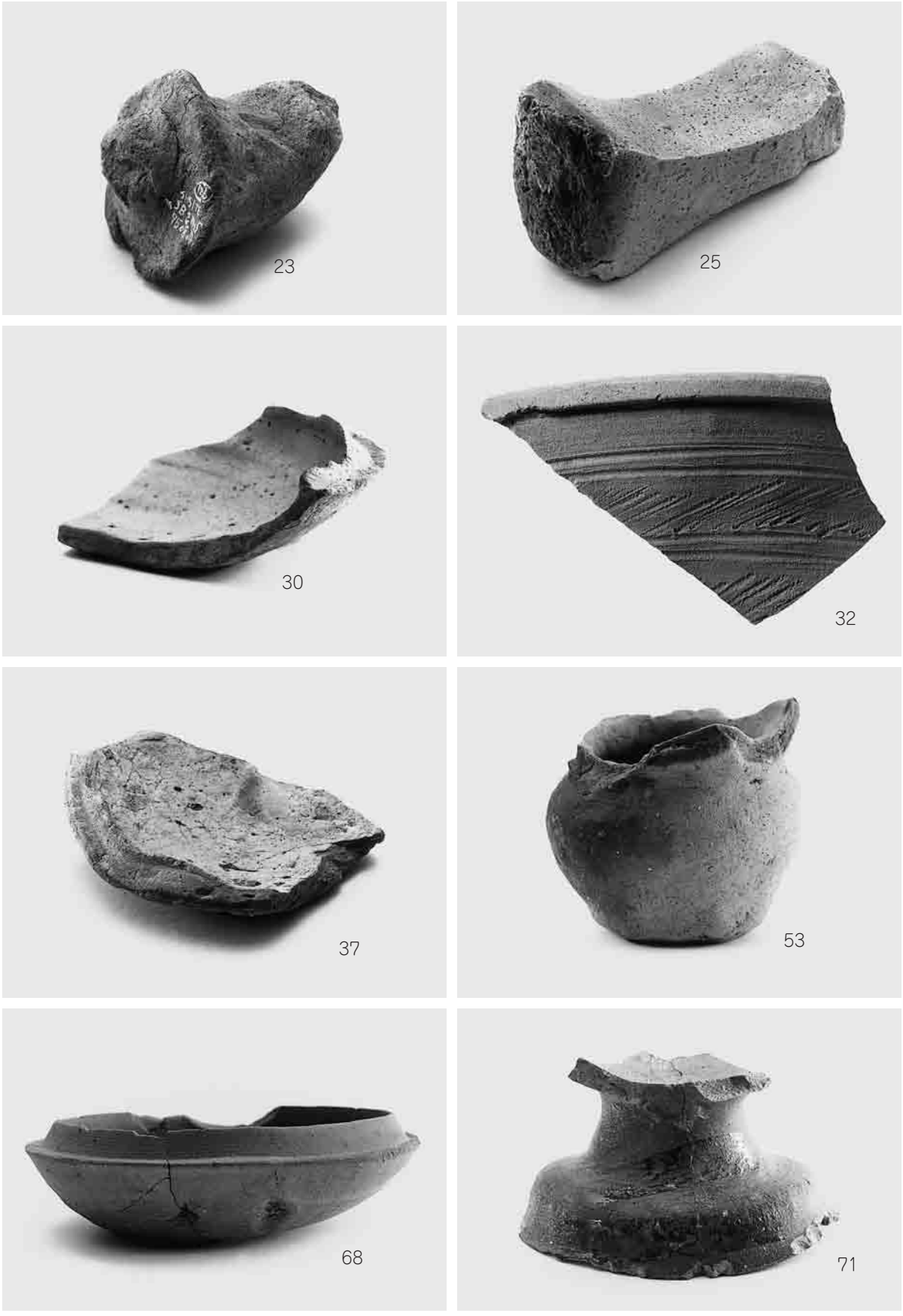
2．ＳＤ２遺物出土状況（北より）

1．石組遺構検出状況
（南より）

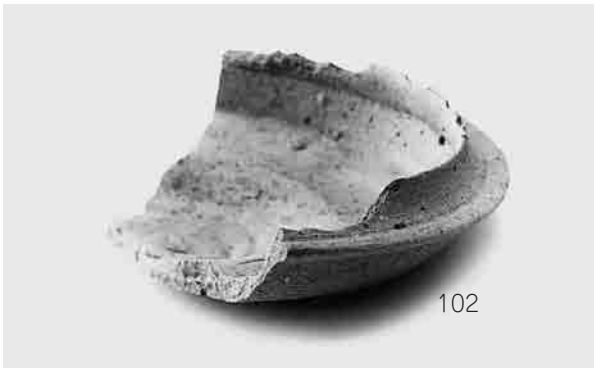
2．現地説明会

1．遺構完掘状況① (南より)

2．遺構完掘状況② (南西より)




1．出土遺物 (SB2:23・25、SB5②:30・32、SB5④:37、SB5一括:53、SK2:68・71)



1．出土遺物 (SB6:59、SK4:77、SD2:102・112)

117

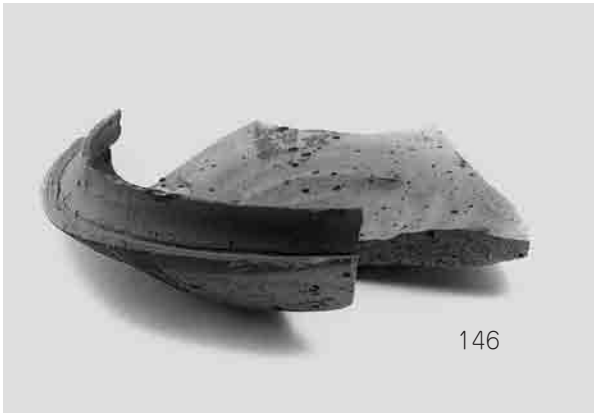
131

142

145

143

147


146

148

1．出土遺物 (SD2:117、石組遺構:131、SX1:142･143･145～148)

166

177

179

210

174

180

195

214

1．出土遺物 (SP130:166、SP72:174、SP58:177、グリッド:179･180、包含層:195、地点不明:210･214)

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | みなみくめおきだいびいいせき・たかのこしんばたいせき・なかのこいちいせき・しもかりやいせき |
| 書名 | 南久米沖台Ｂ遺跡・鷹子新畑遺跡・中ノ子Ｉ遺跡・下苅屋遺跡 |
| 副書名 | 国庫補助市内遺跡発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 松山市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第１５５集 |
| 編著者名 | 髙尾和長・大西朋子 |
| 編集機関 | 財団法人　松山市文化・スポーツ振興財団　埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒791－8032　愛媛県松山市南斎院町乙67番地6　TEL089－923－6363 |
| 発行年月日 | 西暦2012（平成24）年3月13日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>(㎡) | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| みなみくめおきだいびい<br>南久米沖台Ｂ遺跡 | まつやましみなみくめまち<br>松山市南久米町 | 38201 | | 33°48′54″ | 132°48′02″ | 19890802<br>～<br>19890906 | 230.48 | 個人住宅の建設<br>国庫補助事業 |
| たかのこしんばた<br>鷹子新畑遺跡 | まつやましたかのこまち<br>松山市鷹子町 | 38201 | | 33°48′43″ | 132°48′49″ | 19891004<br>～<br>19891016 | 44.5 | 個人住宅の建設<br>国庫補助事業 |
| なかのこいち<br>中ノ子Ｉ遺跡 | まつやましみなみどいまち<br>松山市南土居町 | 38201 | | 33°47′59″ | 132°48′00″ | 19891004<br>～<br>19891026 | 426.58 | 個人住宅の建設<br>国庫補助事業 |
| しもかりや<br>下苅屋遺跡 | まつやましひらいまち<br>松山市平井町 | 38201 | | 33°48′40″ | 132°49′22″ | 19950619<br>～<br>19950927 | 1,065.06 | 宅地造成<br>国庫補助事業 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 南久米沖台Ｂ遺跡 | 集落 | 古代 | 掘立柱建物・溝 | 須恵器・土師器 | |
| 鷹子新畑遺跡 | 集落 | 古墳 | 竪穴建物・溝 | 須恵器・土師器 | |
| 中ノ子Ｉ遺跡 | 集落 | 弥生<br>古墳 | 竪穴建物・土坑<br>掘立柱建物・溝 | 弥生土器<br>須恵器 | |
| 下苅屋遺跡 | 集落 | 古墳 | 竪穴建物・土坑・性格不明遺構 | 土師器・須恵器・砥石 | 焼け歪みの須恵器が多数出土。 |


| 要約 | 調査からは古墳時代から古代にかけての、集落に関連する遺構と遺物を検出した。南久米沖台Ｂ遺跡からは、 来住廃寺の北側に広がる集落の一部を検出した。鷹子新畑遺跡からは、古墳時代後期の竪穴建物を検出した。中ノ子Ｉ遺跡からは古墳時代後期の、掘立柱建物群を検出した。下苅屋遺跡からは古墳時代後期後半から末にかけての、須恵器の生産地から消費地との中継地点と思われる遺構と遺物を検出した。 |
|---|---|

松山市文化財調査報告書　　第１５５集

# 南久米沖台Ｂ遺跡
# 鷹子新畑遺跡
# 中ノ子Ⅰ遺跡
# 下苅屋遺跡

## 国庫補助市内遺跡発掘調査報告書

平成 24 年 3 月 13 日　発行

編　集　財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター
〒 791 － 8032　松山市南斎院町乙 67 番地６
TEL（089）923 － 6363

発　行　松山市教育委員会
〒 790 － 0003　松山市三番町六丁目６番地１
TEL（089）948 － 6605

印　刷　平和印刷工業株式会社
〒 790 － 0921　松山市福音寺町 728 番地
TEL（089）947 － 9155㈹